

# 第40回県政世論調査結果報告書

平成29年7月実施

岐阜県



# 目 次

I	調査概要.....	1
1. 1	調査の目的.....	1
1. 2	調査の経緯.....	1
1. 3	調査項目.....	1
1. 4	調査の設計.....	1
1. 5	回収結果.....	1
1. 6	標本誤差.....	2
1. 7	報告書の見方.....	2
1. 8	対象者の属性.....	3
II	調査結果.....	8
2. 1	暮らしについて.....	8
問1	くらしの前年比較.....	8
問1-2	くらしが苦しくなったと感じる理由.....	13
問2	くらしの満足度.....	19
問3	生活面での不安.....	24
問4	今後のくらしの中で重視していきたいこと.....	33
問5	生活に必要な情報の入手媒体.....	42
問6	現在住んでいる地域は住みやすいか.....	49
問6-2	住んでいる地域が住みやすいと感じる点.....	53
問6-3	住んでいる地域が住みにくいと感じる点.....	60
問7	今後も岐阜県に住み続けたいか.....	67
2. 2	県の取り組み全般について.....	71
問8	施策や事業についての情報の入手方法.....	71
問9	県事業への関心の有無.....	78
問9-2	県事業に関心がない理由.....	83
問10	県の取り組みでよくやっていると思う分野、 努力が足りないと思う分野.....	87
問11	重点的に進めるべきだと思う分野.....	99
問11-2	国の内外に誇れるもの.....	105
問12	「清流の国ぎふ」の認知度.....	108

2. 3	生活を取り巻くさまざまな課題について.....	111
問13	「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス.....	111
問13-2	不足している「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス.....	117
問14	地域全体で子育てを支える環境の整備.....	125
問15	過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無.....	128
問16	不審な電話による勧誘被害の対策.....	132
問17	社会貢献活動への参加.....	135
問18	在住外国人との共生.....	138
問19	農産物購入時の「県内産」の意識.....	141
問20	「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度.....	144
問21	災害や緊急時の備え.....	147
問22	防災対策や避難行動の情報源.....	150
問23	避難情報に対する行動.....	157
問24	災害や緊急時の現在できている備え.....	161

# I 調査概要

## 1. 1 調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政の各施策に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

## 1. 2 調査の経緯

昭和42年から実施、今回40回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施 昭和63年～平成18年：隔年実施 平成20年～：毎年実施

## 1. 3 調査項目

- (1) 暮らしについて
- (2) 県の取り組み全般について
- (3) 生活を取り巻くさまざまな課題について

## 1. 4 調査の設計

- (1) 調査地域 岐阜県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成29年6月29日～7月18日
- (7) 調査実施機関 株式会社 中部タイム・エージェント

## 1. 5 回収結果

	調査時期	標本数 (A)	回収数 (B)	有効回答数 (C)	回収率 (B/A)	有効回答率 (C/A)
第40回 (平成29年度)	平成29年 7月	3,000	1,522	1,522	50.7%	50.7%
第39回 (平成28年度)	平成28年 7月	3,000	1,533	1,533	51.1%	51.1%
第38回 (平成27年度)	平成27年 7月	3,000	1,512	1,507	50.4%	50.2%

## 1. 6 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P : \text{回答比率} \quad n : \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数 ( $n$ ) 及び②回答比率 ( $P$ ) によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P (回答比率 %)									
		5 又 は 95	10 又 は 90	15 又 は 85	20 又 は 80	25 又 は 75	30 又 は 70	35 又 は 65	40 又 は 60	45 又 は 55	50
n (回答者数 人)											
総数	1,522	1.1	1.5	1.8	2.0	2.2	2.3	2.4	2.5	2.5	2.5

(注) 1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,522 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.5%である。」

## 1. 7 報告書の見方

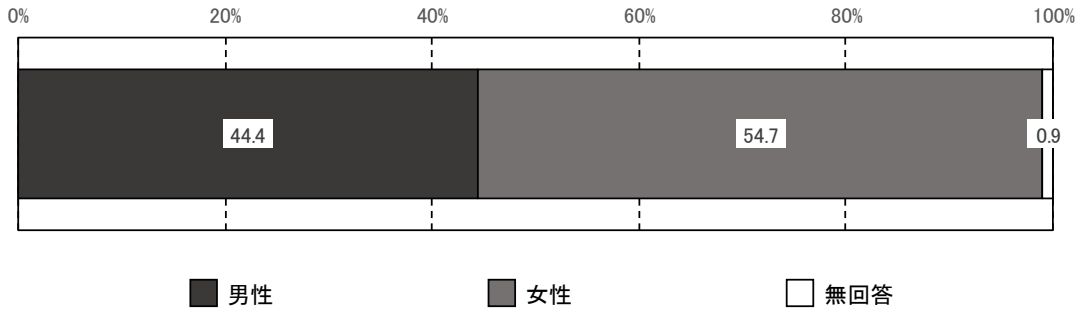
- (1) 第 39 回の調査から対象者の年齢を 18 歳以上に引き下げているため、20 歳以上を対象としていた第 38 回までの調査との単純な比較には注意を要する。
- (2) 比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
- (3) 基数となるべき実数は「n」(件数)として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。
- (4) 複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
- (5) 本報告書中の表、グラフ、及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (6) クロス集計において、年代別の 18~19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことからグラフへの表示及び分析を行っていない。

# 1. 8 対象者の属性

## F-1 性別

図 F-1 性別

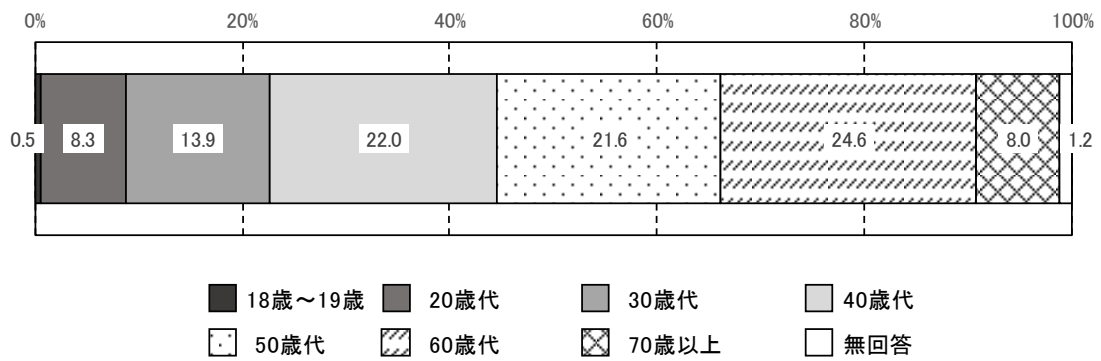
回答者数 (n = 1,522)



## F-2 年代

図 F-2 年代

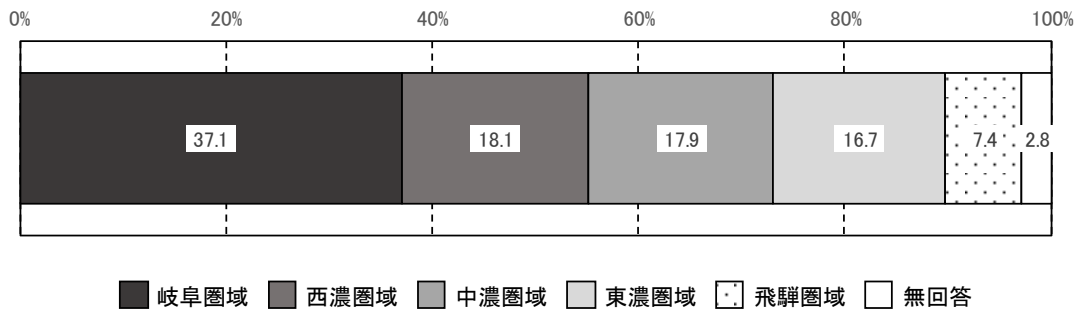
回答者数 (n = 1,522)



### F-3 居住圏域（5分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数 (n = 1,522)

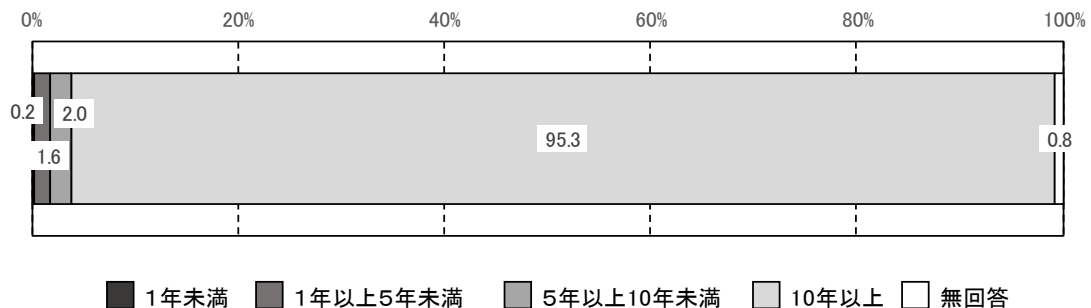


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）  
 西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・  
 揖斐川町・大野町・池田町）  
 中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・  
 八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）  
 東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）  
 飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

### F-4 居住年数

図 F-4 居住年数

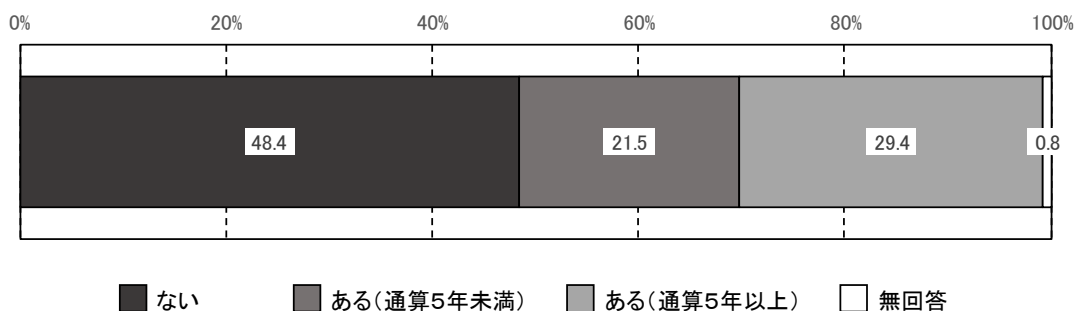
回答者数 (n = 1,522)



### F-5 県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

回答者数 (n = 1,522)

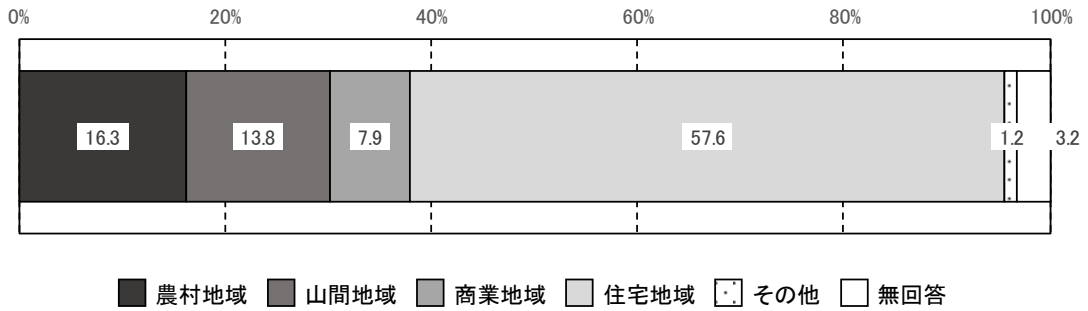




F-6 居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

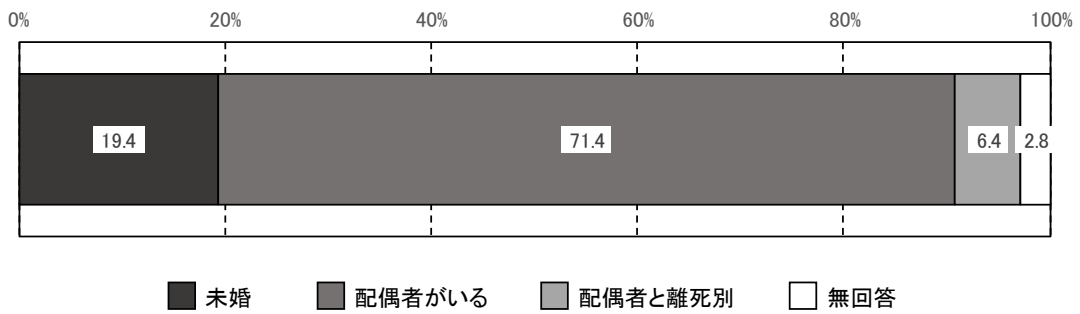
回答者数 (n = 1,522)



F-7 配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

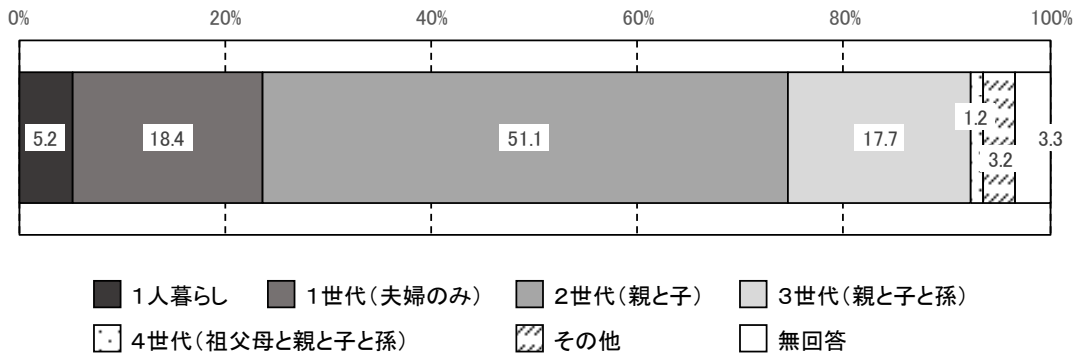
回答者数 (n = 1,522)



F-8 家族形態

図 F-8 家族形態

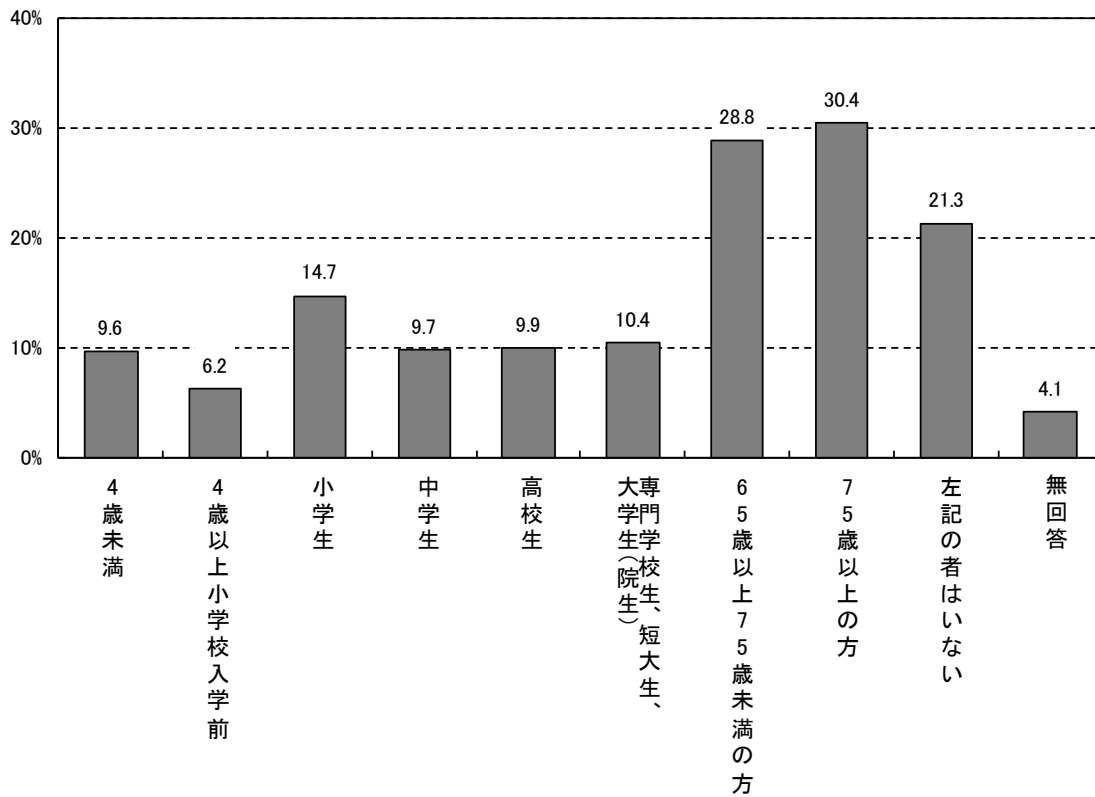
回答者数 (n = 1,522)



F-9 家族構成

図 F-9 家族構成

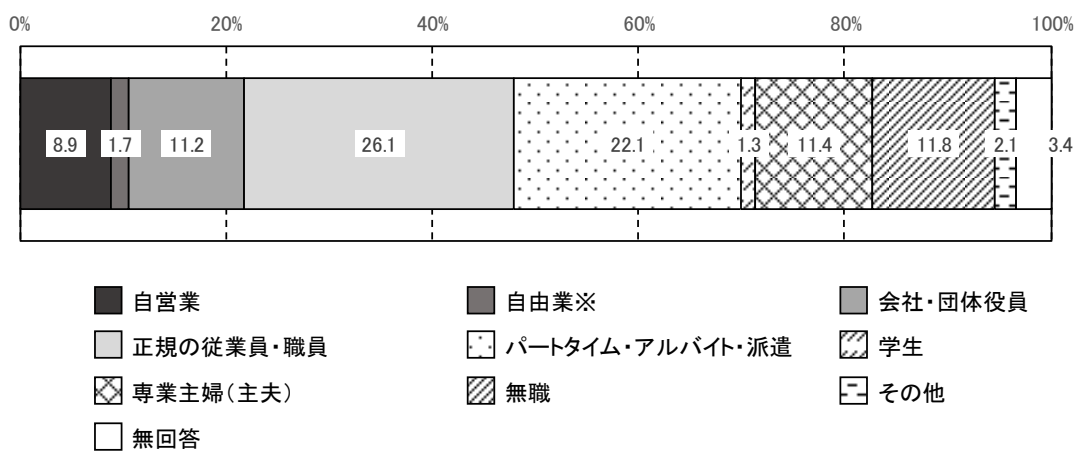
回答者数 (n = 1,522)  
 総回答数 (N = 2,207)



F-10 職業

図 F-10 職業

回答者数 (n = 1,522)

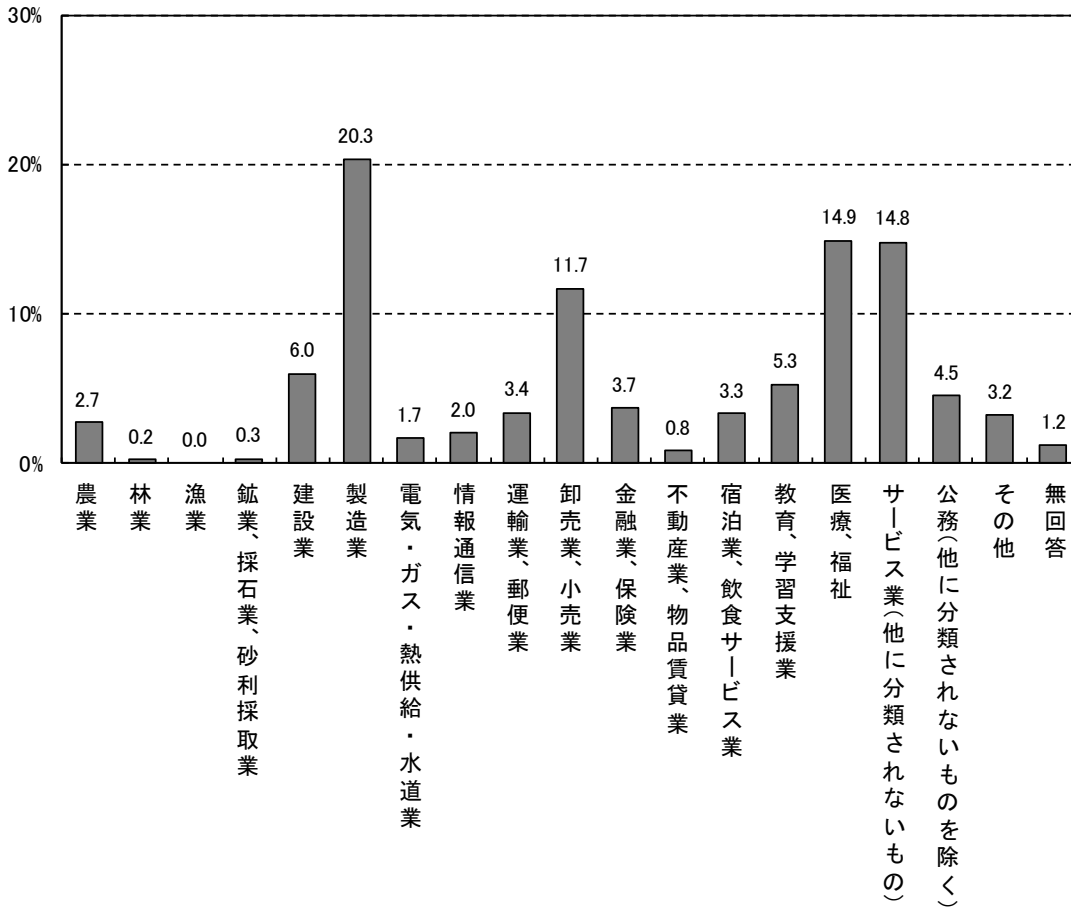


※ 自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

F-11 業種

図 F-11 業種

回答者数 (n = 1,065) ※

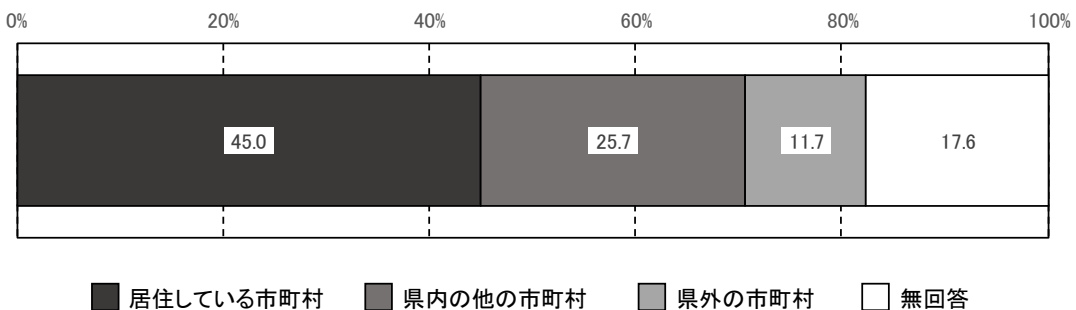


※ 「F10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

F-12 通勤、通学先

図 F-12 通勤、通学先

回答者数 (n = 1,085) ※



※ 「F10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

## Ⅱ 調査結果

### 2. 1 暮らしについて

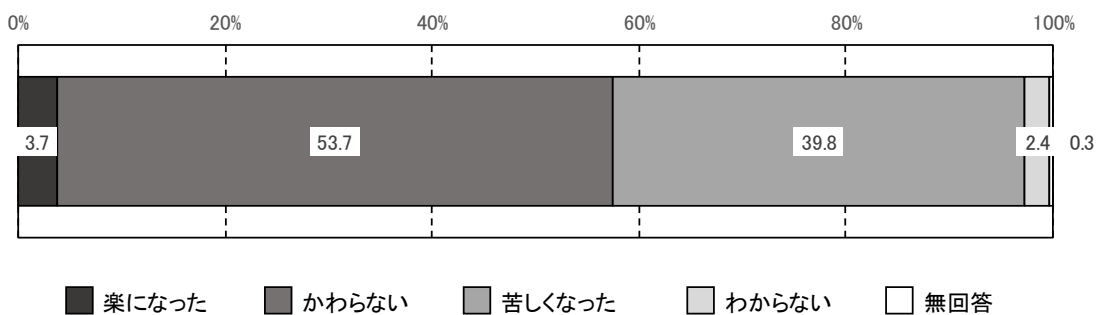
#### 問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向き(家計など)は、去年の今頃と比べてどうですか。(1つだけ)

全体(図1-1)で見ると、「かわらない」が53.7%と最も高く、次いで「苦しくなった」(39.8%)、「楽になった」(3.7%)の順となっている。

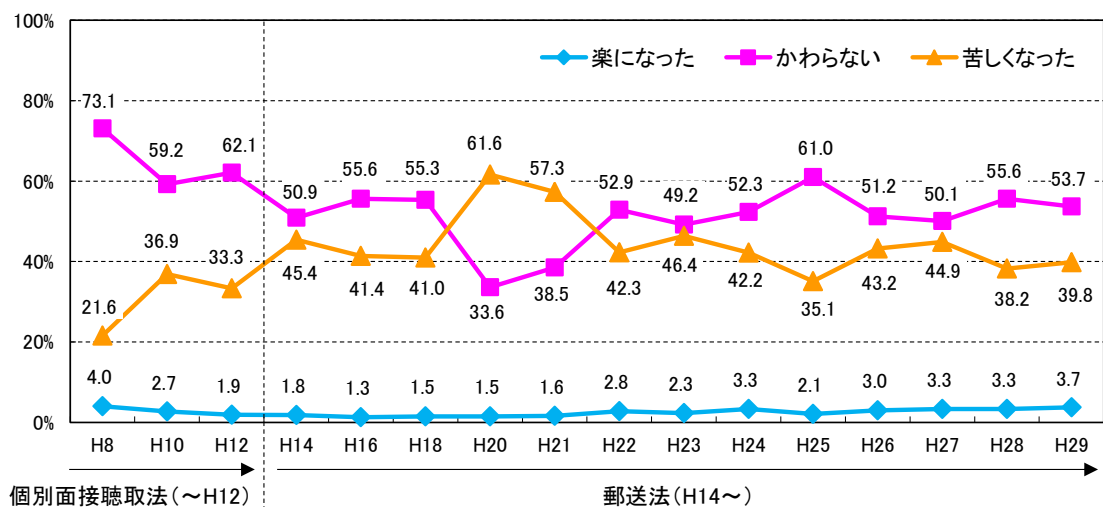
図1-1 暮らしの前年比較

回答者数(n=1,522)



経年変化(図1-2)で見ると、平成18年までは、「かわらない」が最も高くなっている。平成20年から平成21年では「苦しくなった」が最も高くなっており、平成22年からは再び「かわらない」が最も高くなっている。平成29年は、平成28年より「楽になった」が0.4ポイント高くなっており、また「苦しくなった」が1.6ポイント高くなっている。

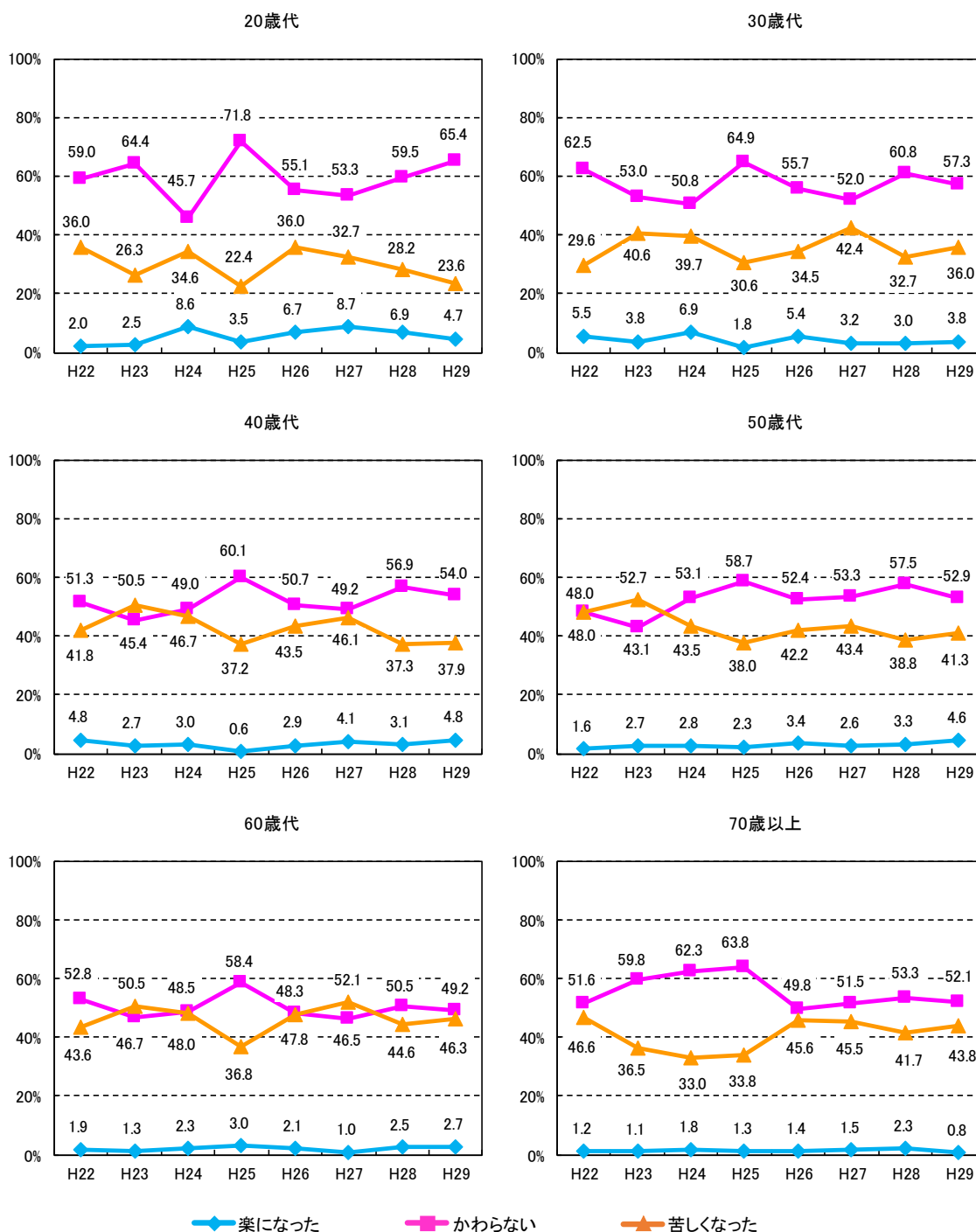
図1-2【経年変化】暮らしの前年比較



※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

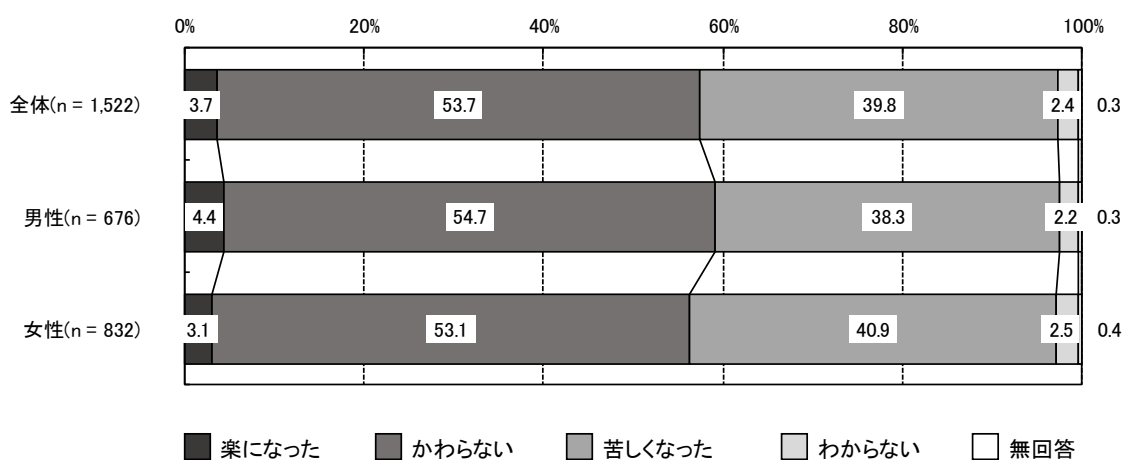
年代別の経年変化（図 1-3）で見ると、平成 29 年では平成 28 年に比べ、20 歳代以外の年代で「かわらない」のポイントが低くなり、「苦しくなった」のポイントが高くなっている。30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代では「楽になった」のポイントが高くなっている。

図 1-3 【経年変化(年代別)】くらしの前年比較



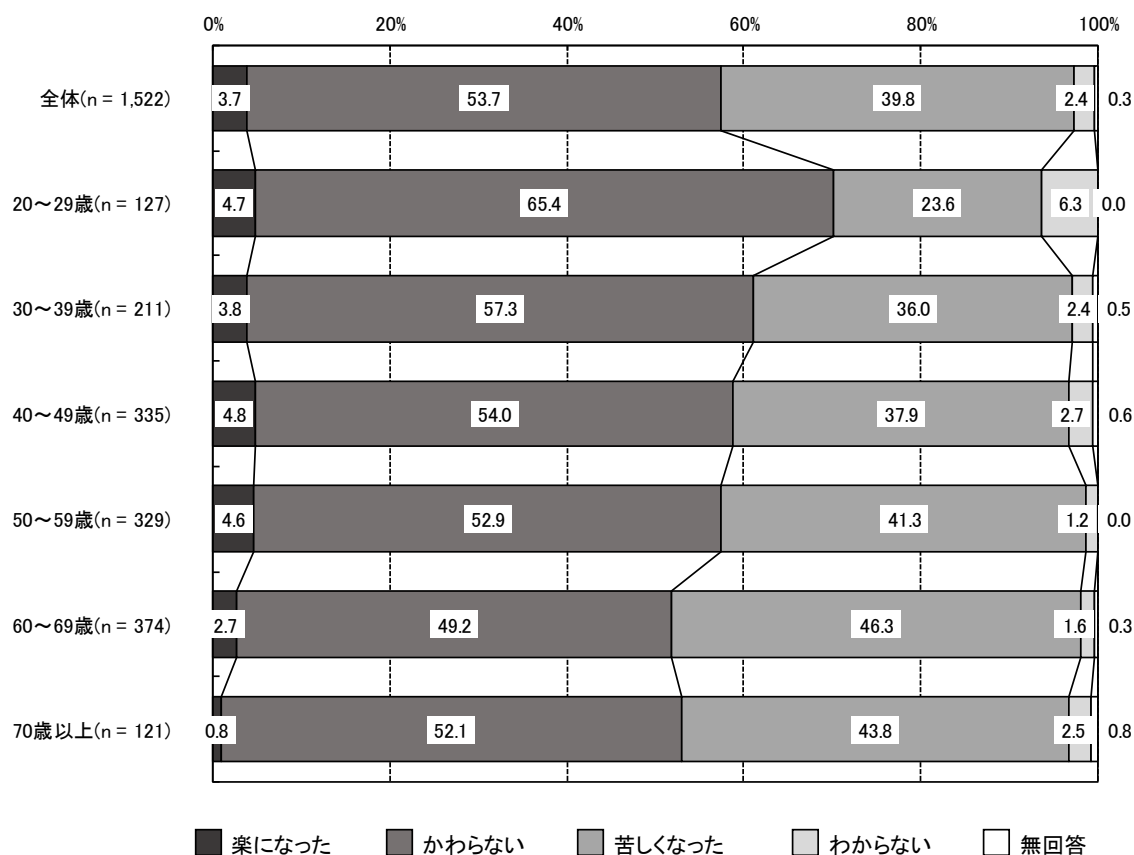
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 54.7%、女性が 53.1%と、男性が女性より 1.6 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



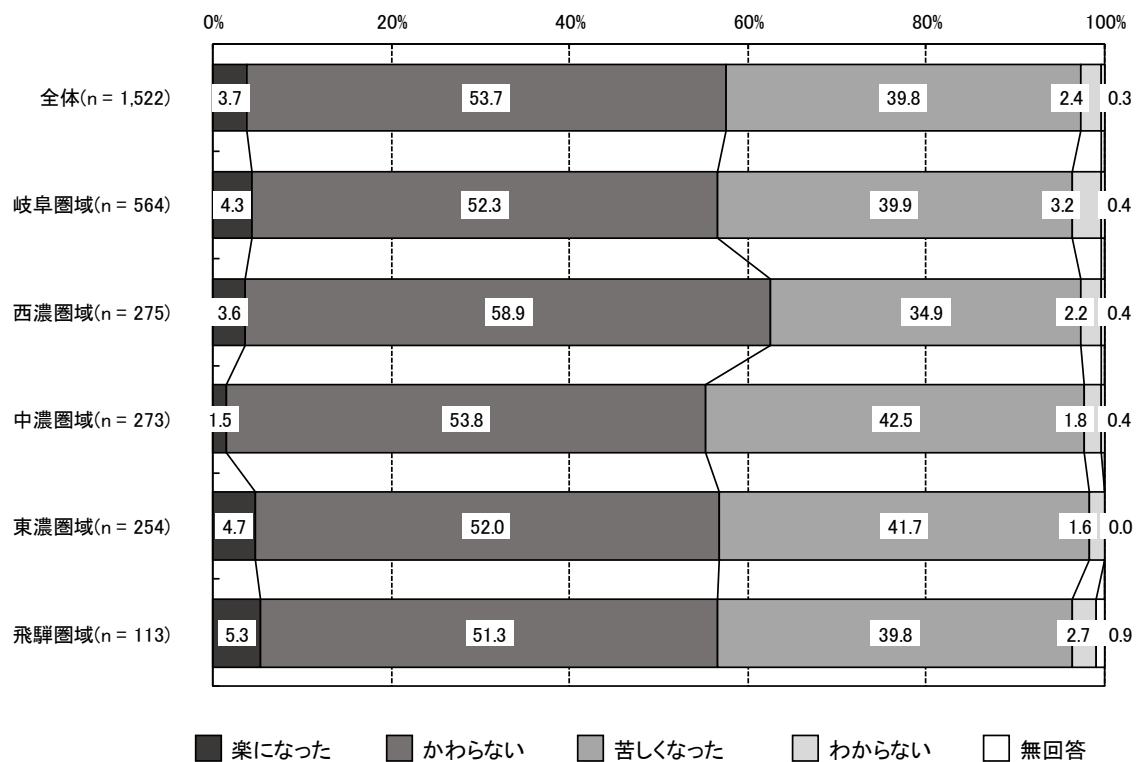
年代別（図 1-5）で見ると、「かわらない」は 20 歳代が 65.4%と最も高く、次いで 30 歳代（57.3%）、40 歳代（54.0%）の順となっている。また、「苦しくなった」は、60 歳代が 46.3%と最も高く、次いで 70 歳以上（43.8%）、50 歳代（41.3%）の順となっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



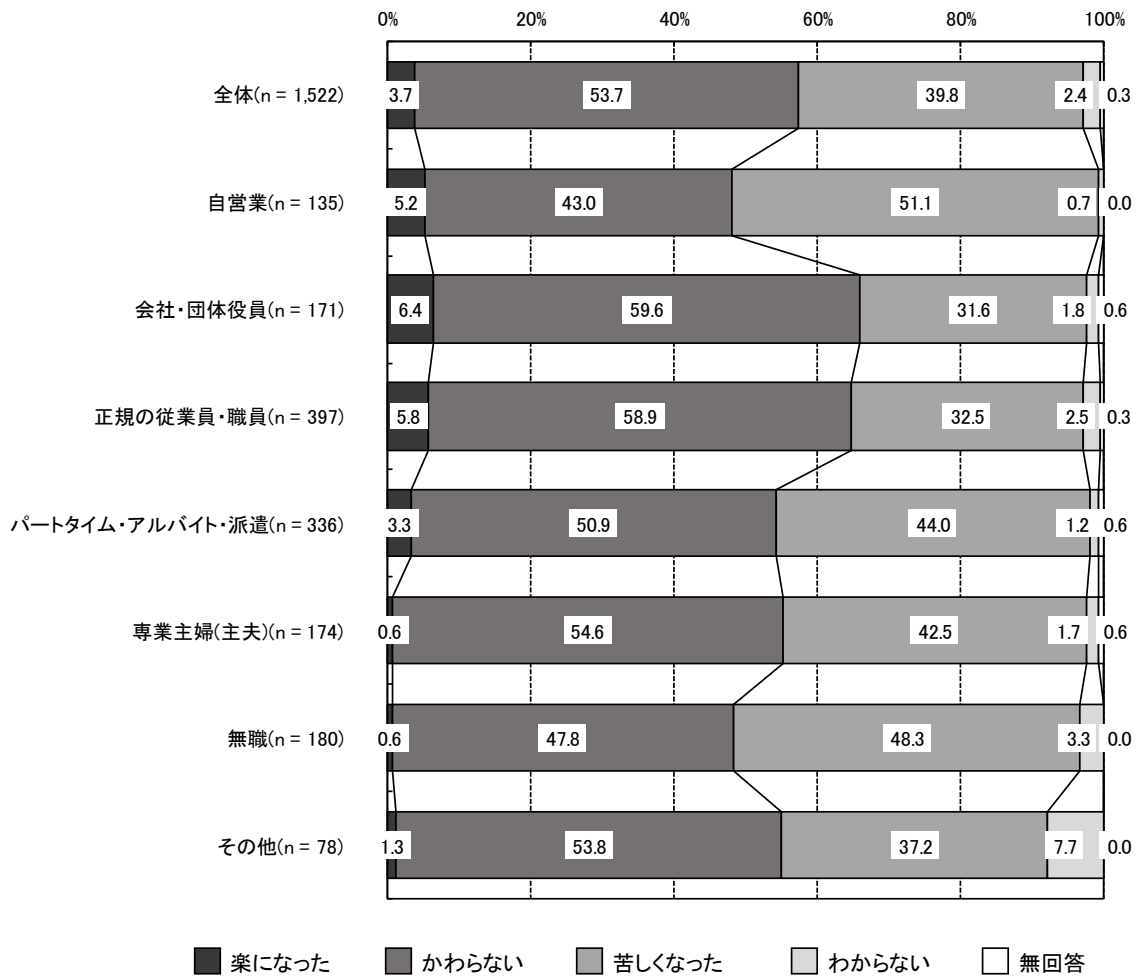
居住圏域別（図 1-6）でみると、「かわらない」は西濃圏域が 58.9%と最も高く、次いで中濃圏域（53.8%）、岐阜圏域（52.3%）の順となっている。「苦しくなった」では中濃圏域が 42.5%と最も高く、次いで東濃圏域（41.7%）、岐阜圏域（39.9%）の順となっている。

図 1-6 【居住圏域別】 暮らしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、「かわらない」は会社・団体役員が 59.6%と最も高く、次いで正規の従業員・職員（58.9%）、専業主婦（主夫）（54.6%）の順となっている。「苦しくなった」では自営業が 51.1%と最も高く、次いで無職（48.3%）、パートタイム・アルバイト・派遣（44.0%）の順となっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む

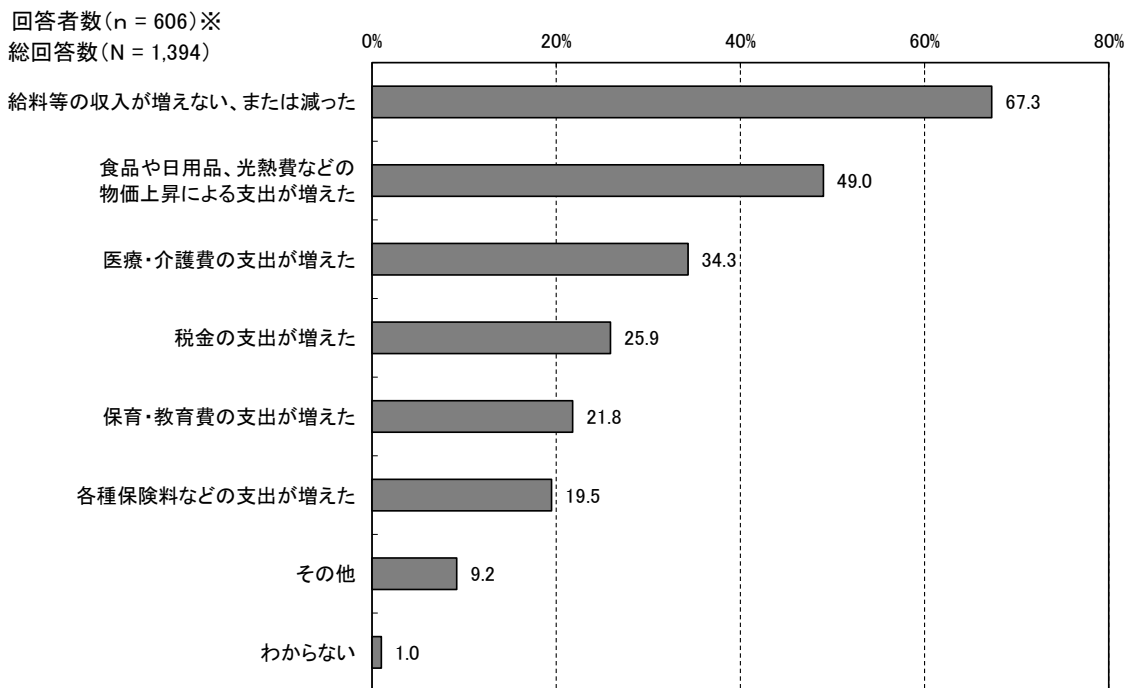


## 問1-2 暮らしが苦しくなったと感じる理由

問1-2 「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。  
あなたが、暮らしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。  
(3つまで)

全体(図1-2-1)で見ると、「給料等の収入が増えない、または減った」が67.3%と最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」(49.0%)、「医療・介護費の支出が増えた」(34.3%)の順となっている。

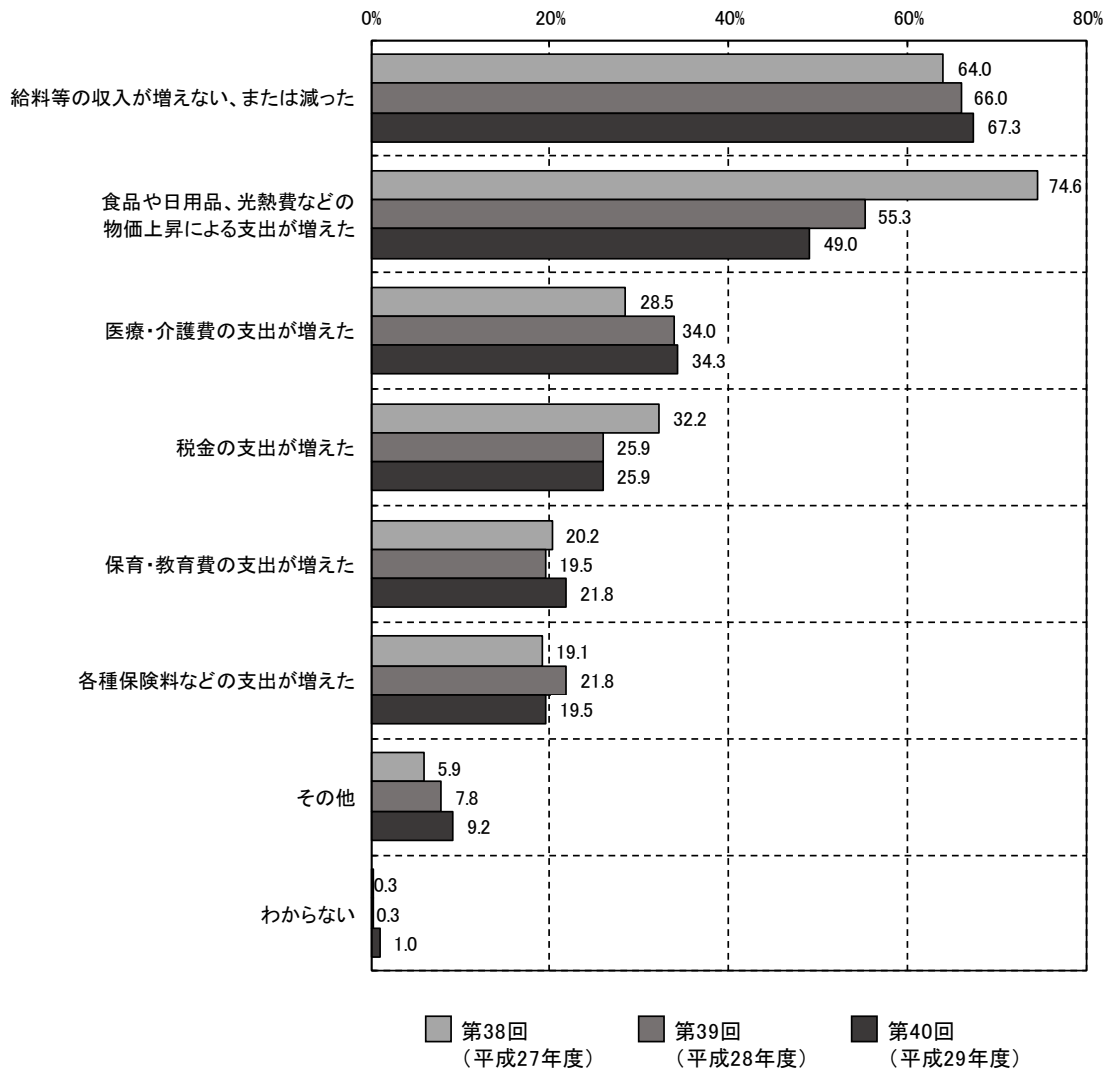
図1-2-1 暮らしが苦しくなったと感じる理由



※ 問1で「苦しくなった」と答えた方のみ

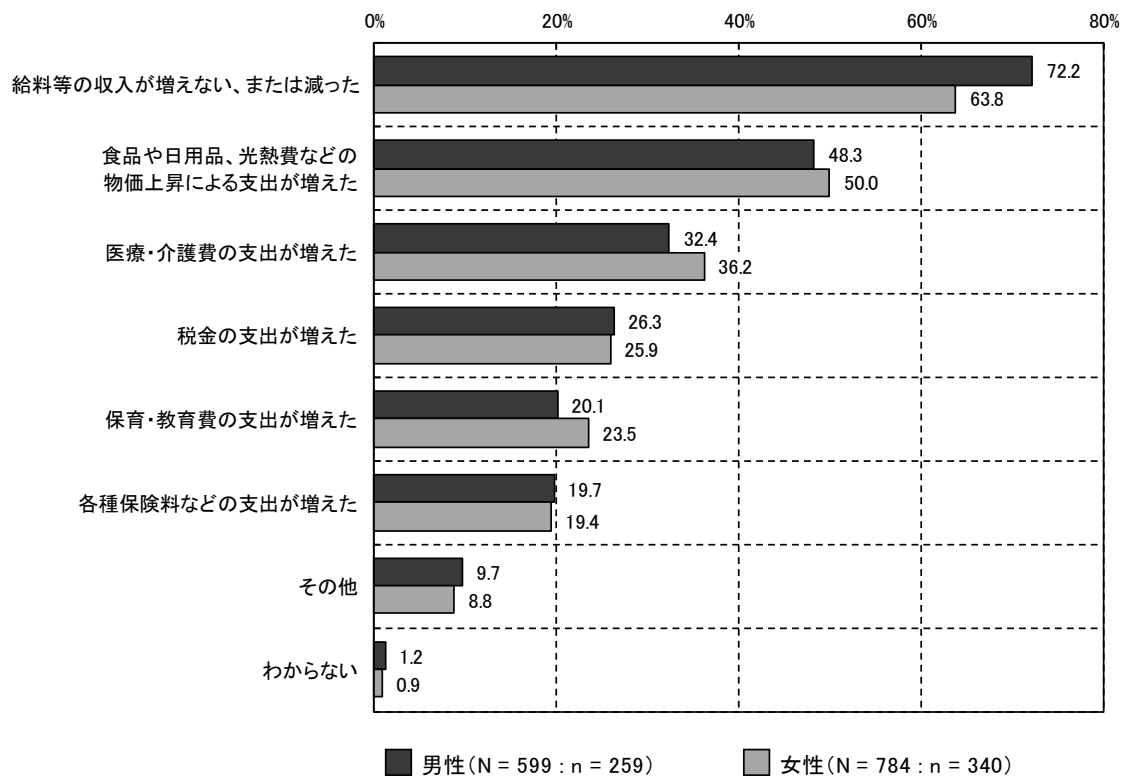
前々回・前回比較（図 1-2-2）で見ると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」は年々低くなっており、前回と比べても 6.3 ポイント減少している。「給料等の収入が増えない、または減った」は年々低くなっており、前回と比べても 6.3 ポイント減少している。「給料等の収入が増えない、または減った」は前回に比べて 1.3 ポイント増加している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】 暮らしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）で見ると、男女ともに「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高くなっており、男性が女性より 8.4 ポイント高くなっている。

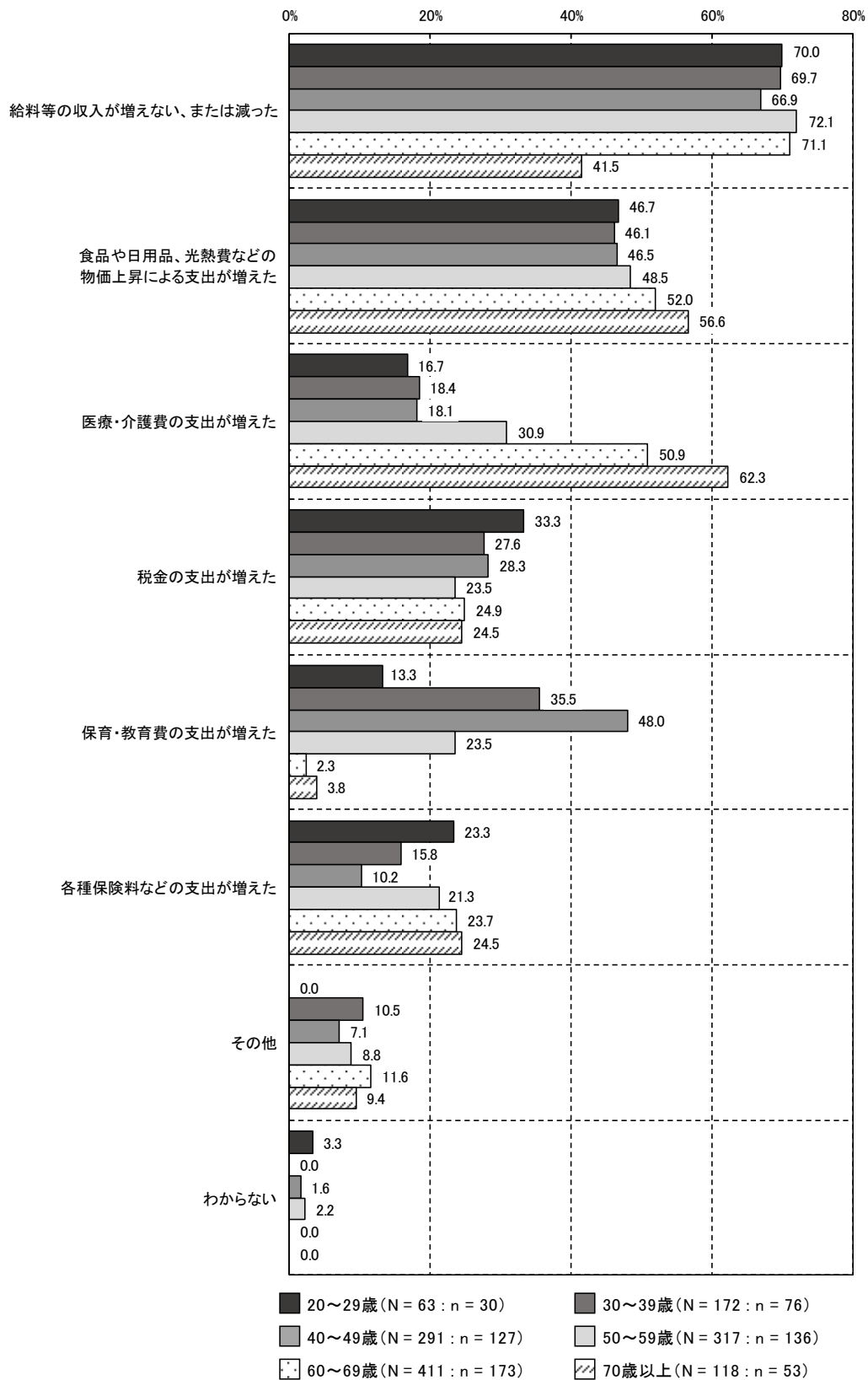
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち 50 歳代が 72.1%と最も高くなっている。70 歳以上では「医療・介護費の支出が増えた」が 62.3%と最も高くなっている。

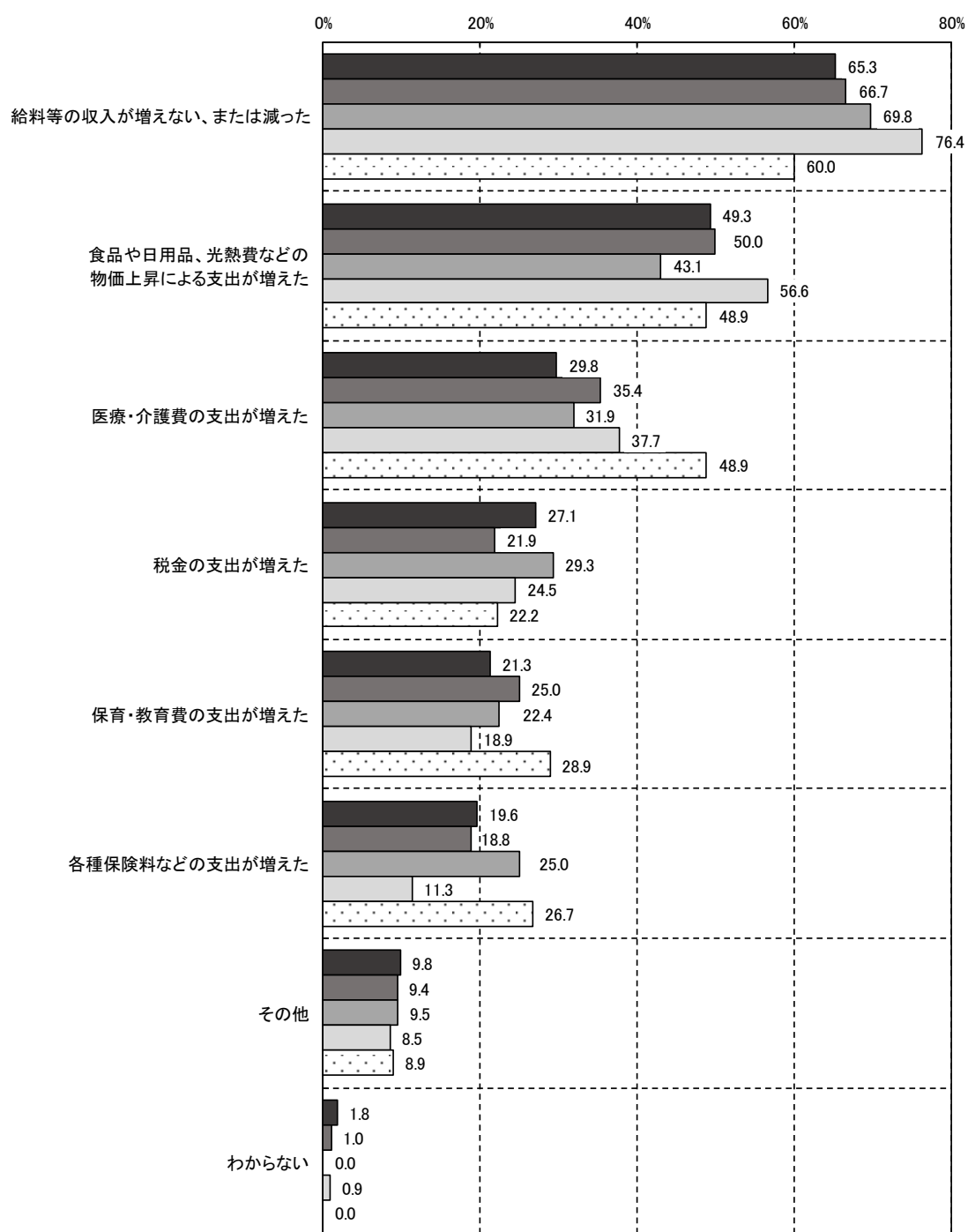
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち東濃圏域が 76.4%と最も高くなっている。

図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由

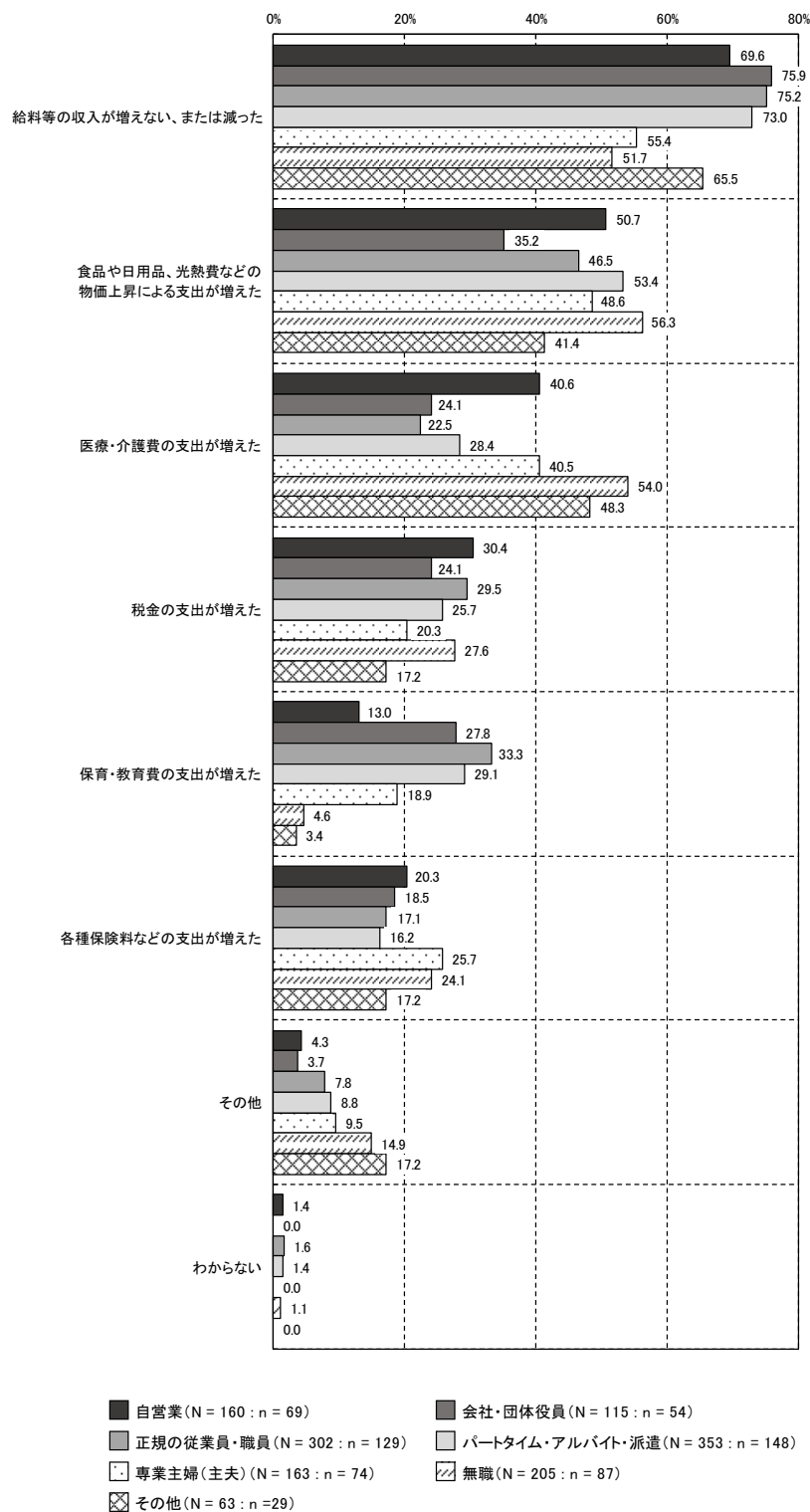


■ 岐阜圏域 (N = 508 : n = 225)      ■ 西濃圏域 (N = 221 : n = 96)  
 ■ 中濃圏域 (N = 270 : n = 116)      ■ 東濃圏域 (N = 250 : n = 106)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 110 : n = 45)

※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、無職を除くいずれの職業においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち会社・団体役員が 75.9%と最も高くなっている。無職では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が 56.3%と最も高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ その他には、自由業、学生を含む  
 ※ N=総回答数 n=回答者数

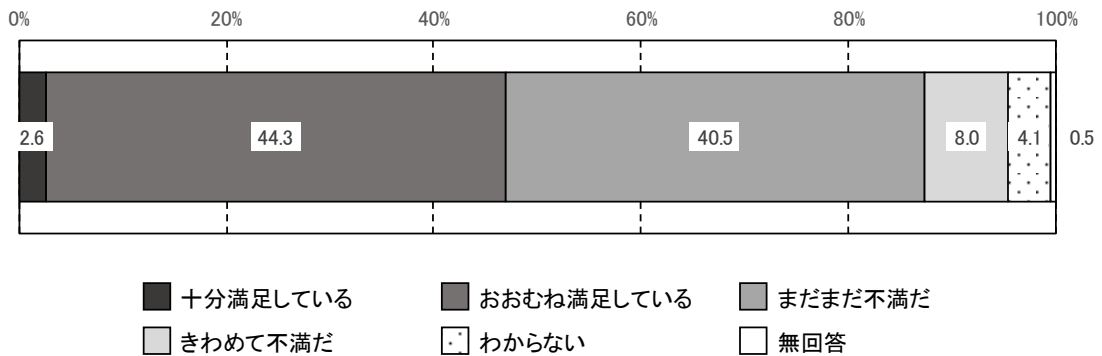
## 問2 暮らしの満足度

問2 あなたは、現在の暮らし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図2-1）で見ると、「おおむね満足している」が44.3%と最も高く、次いで、「まだまだ不満だ」（40.5%）、「きわめて不満だ」（8.0%）の順となっている。

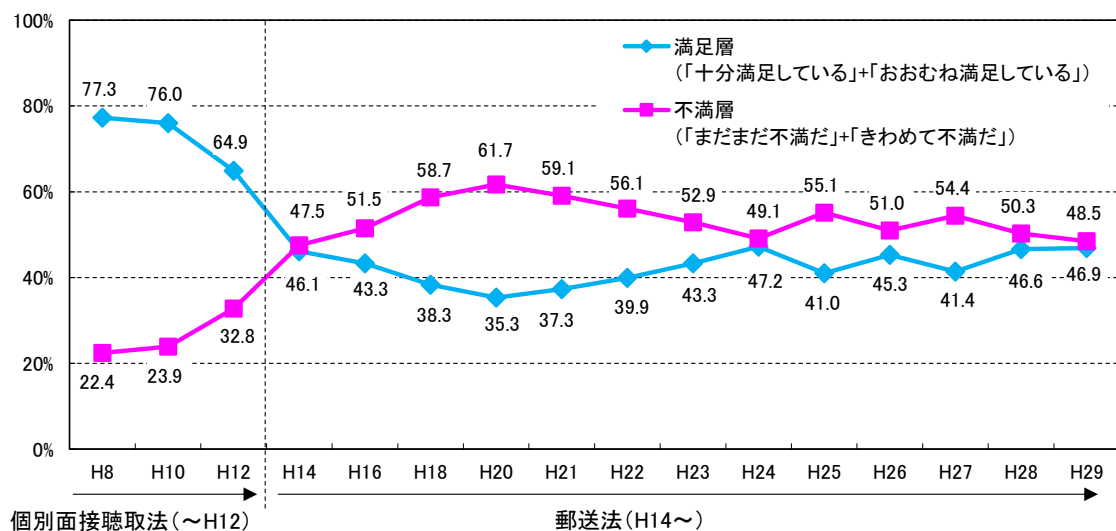
図2-1 暮らしの満足度

回答者数(n = 1,522)



経年変化（図2-2）で見ると、平成14年から「不満層」（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）が「満足層」（「十分満足している」+「おおむね満足している」）を逆転しており、平成24年以降は接近した状態となっている。平成29年は、前年に比べて「満足層」が0.3ポイント増加し、「不満層」は1.8ポイント減少している。

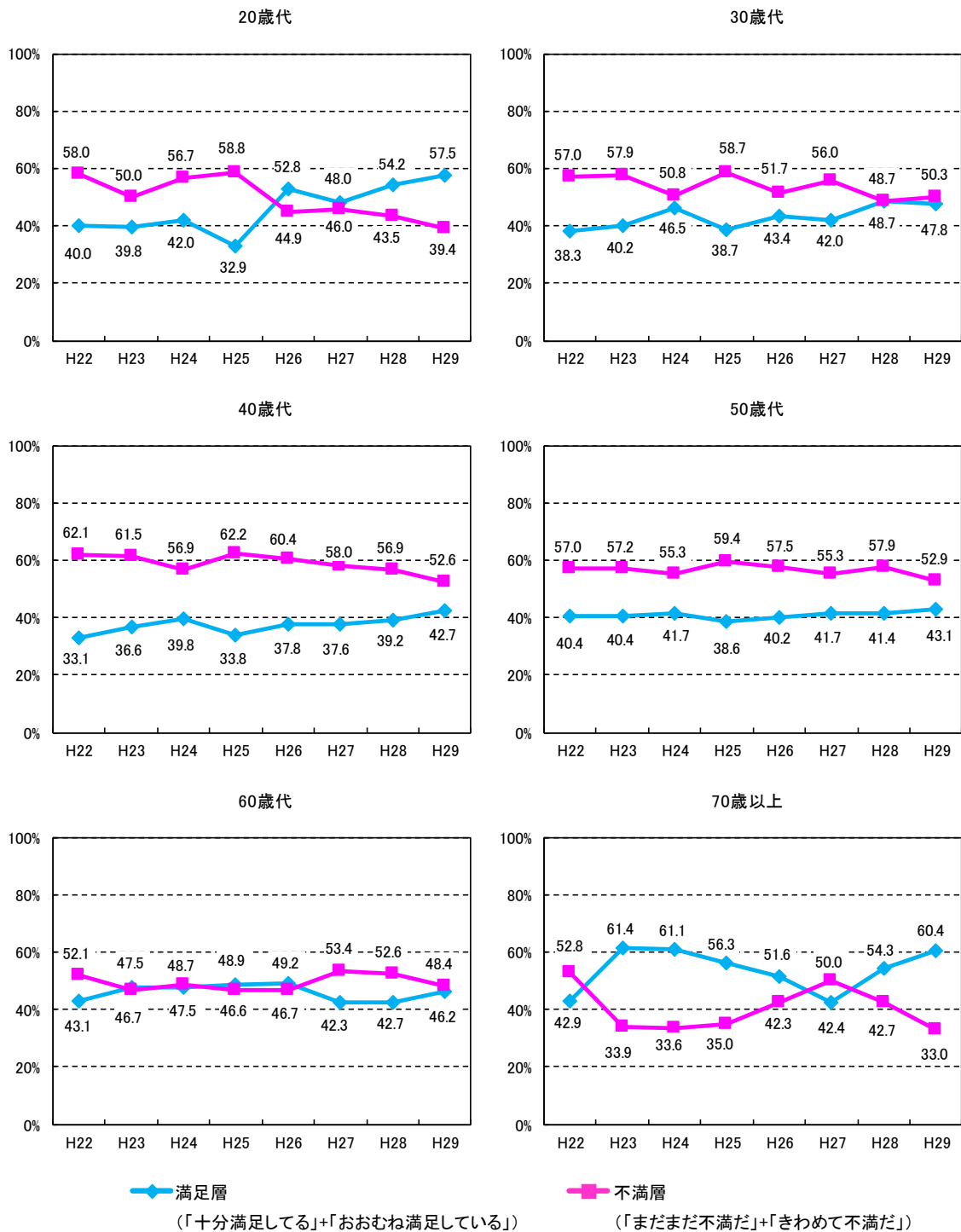
図2-2 【経年変化】 暮らしの満足度



※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

年代別の経年変化（図 2-3）で見ると、30 歳代を除くいずれの年代においても「満足層」が増加しており、そのうち 70 歳以上が 6.1 ポイント増加している。

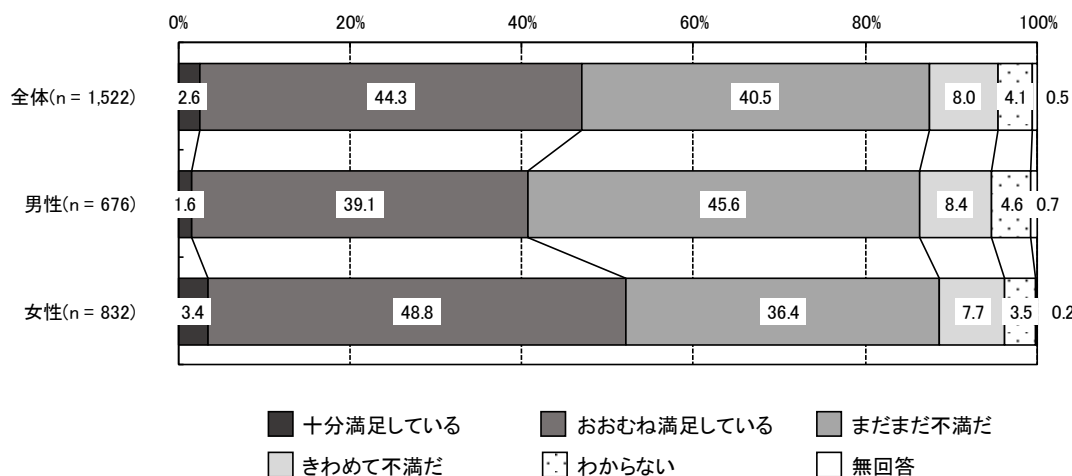
図 2-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの満足度





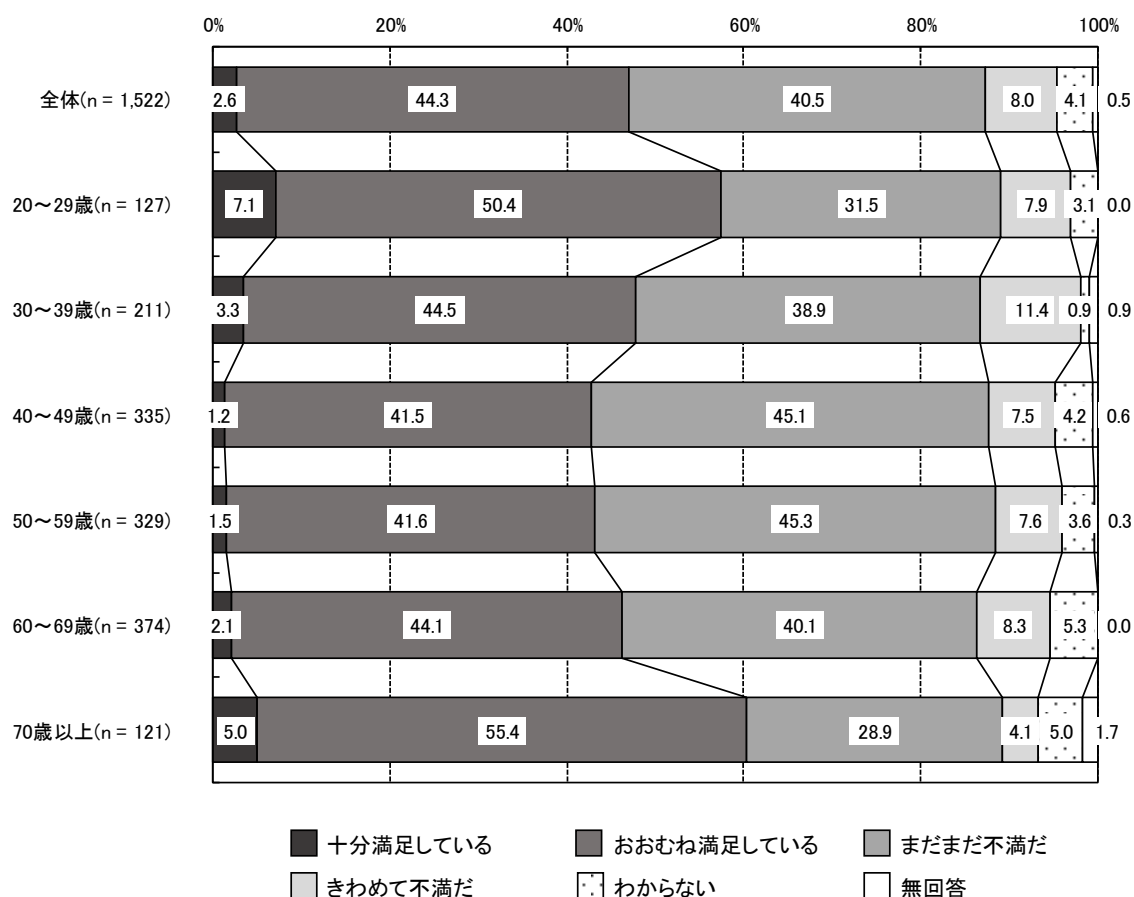
性別（図 2-4）で見ると、男性は「まだまだ不満だ」が 45.6%と最も高く、女性は「おおむね満足している」が 48.8%と最も高くなっている。

図 2-4 【性別】くらしの満足度



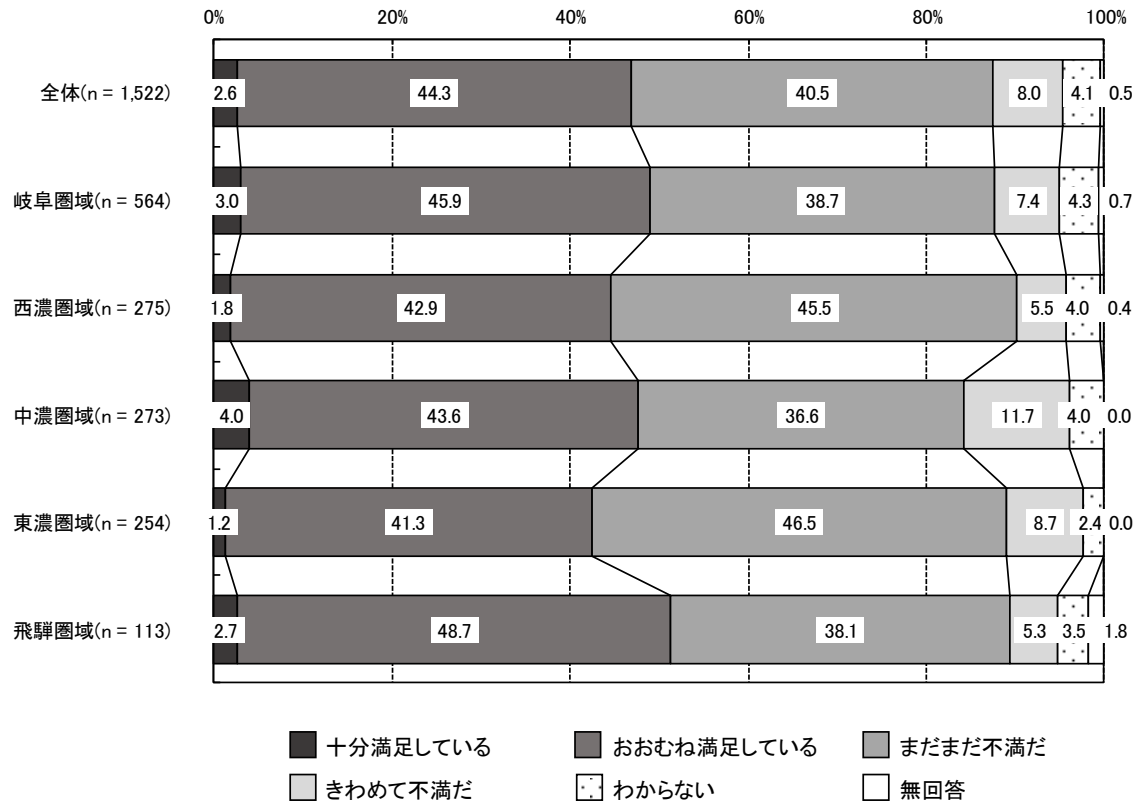
年代別（図 2-5）で見ると、20 歳代、30 歳代、60 歳代、70 歳以上で「おおむね満足している」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 55.4%と最も高くなっている。40 歳代、50 歳代では「まだまだ不満だ」が最も高く、そのうち 50 歳代が 45.3%と最も高くなっている。

図 2-5 【年代別】くらしの満足度



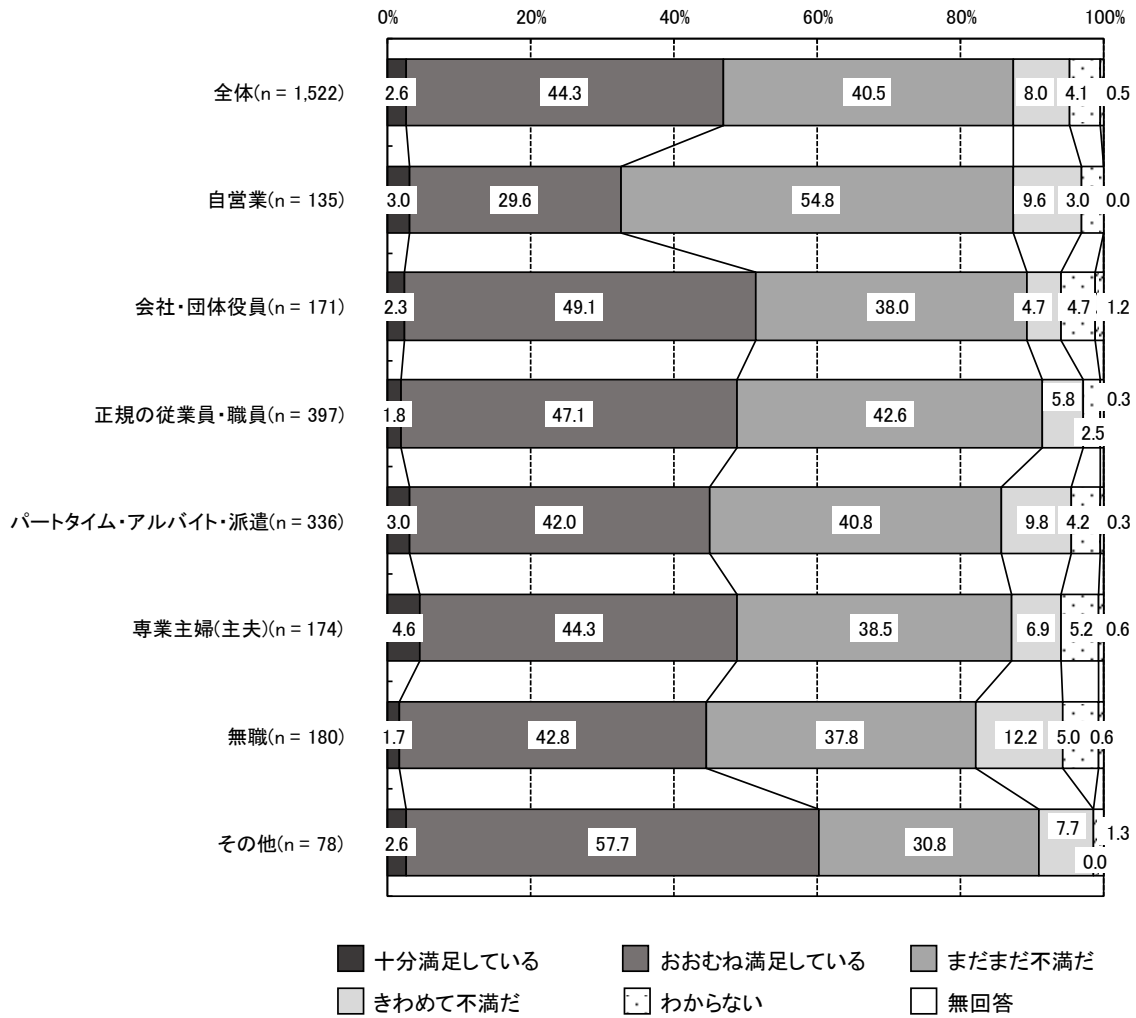
居住圏域別（図 2-6）で見ると、岐阜圏域、中濃圏域、飛騨圏域は「おおむね満足している」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 48.7%と最も高くなっている。西濃圏域、東濃圏域では「まだまだ不満だ」が最も高く、そのうち東濃圏域が 46.5%と最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】 暮らしの満足度



職業別（図 2-7）で見ると、自営業を除くいずれの職業においても「おおむね満足している」が最も高くなっている。自営業では「まだまだ不満だ」が 54.8%と最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】 暮らしの満足度



※ その他には、自由業、学生を含む

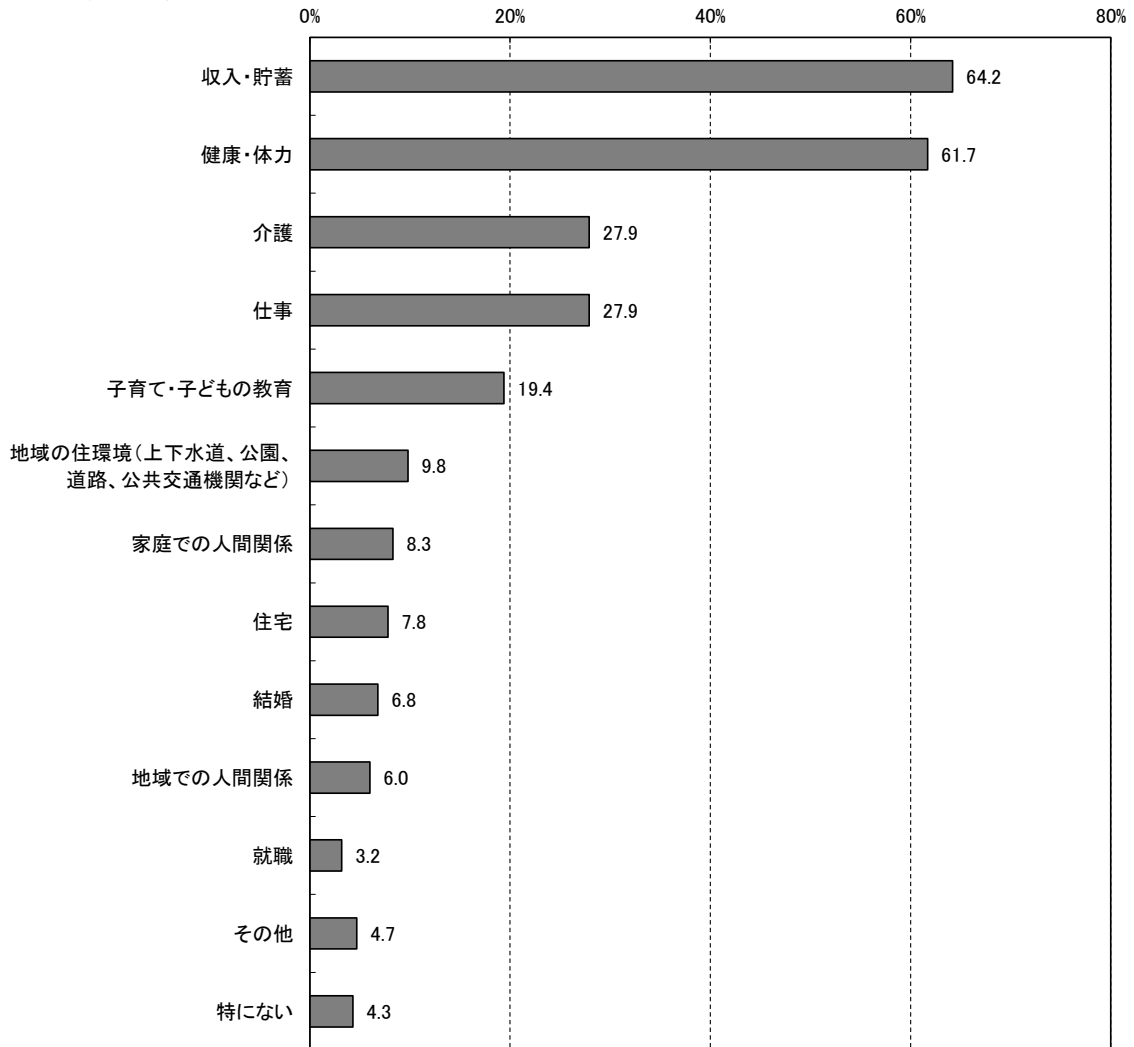
### 問3 生活面での不安

問3 あなたは、日頃の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。  
(3つまで)

全体(図3-1)で見ると、「収入・貯蓄」が64.2%と最も高く、次いで「健康・体力」(61.7%)、「介護」、「仕事」(27.9%)の順となっている。

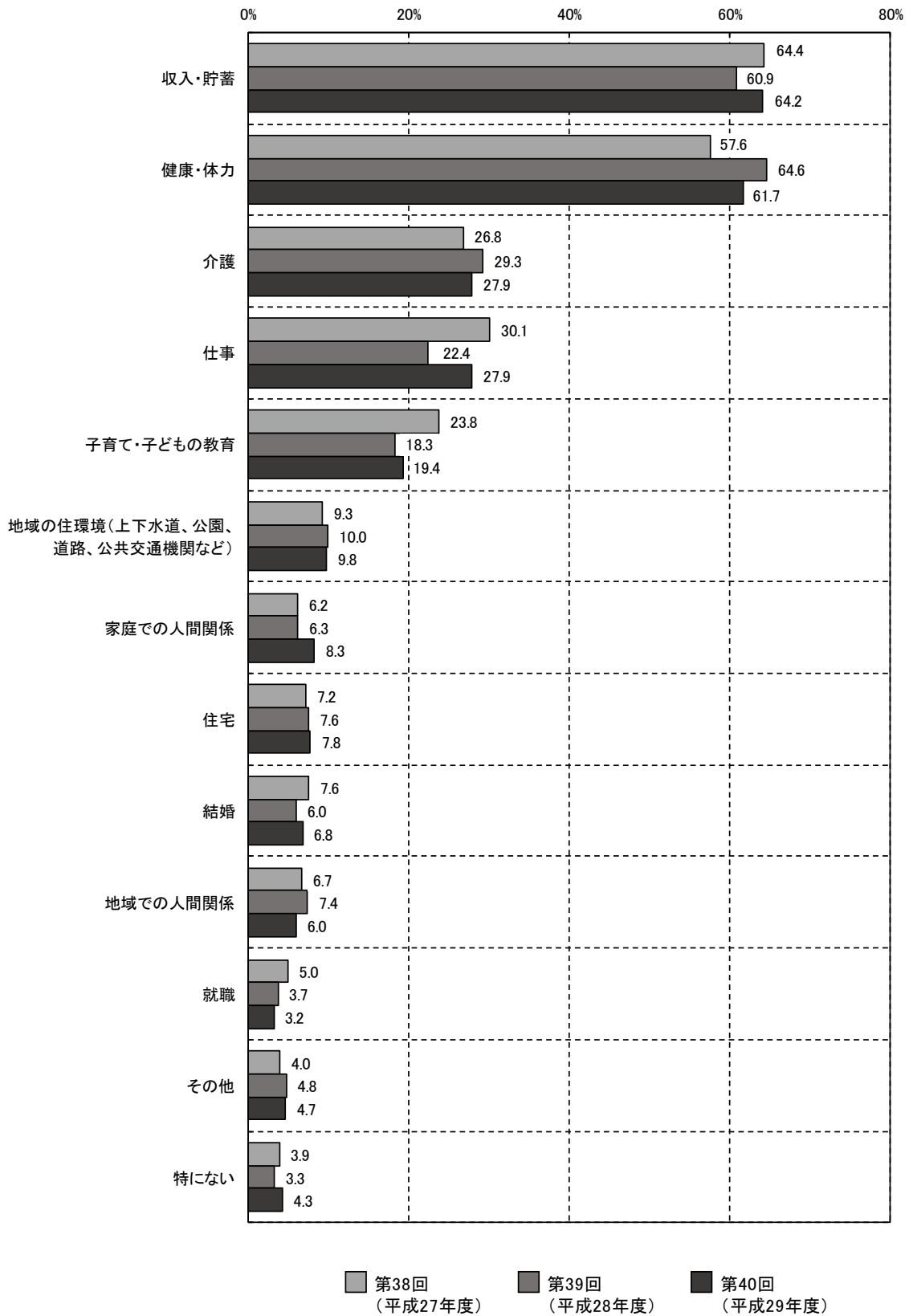
図3-1 生活面での不安

回答者数(n = 1,522)  
総回答数(N = 3,857)



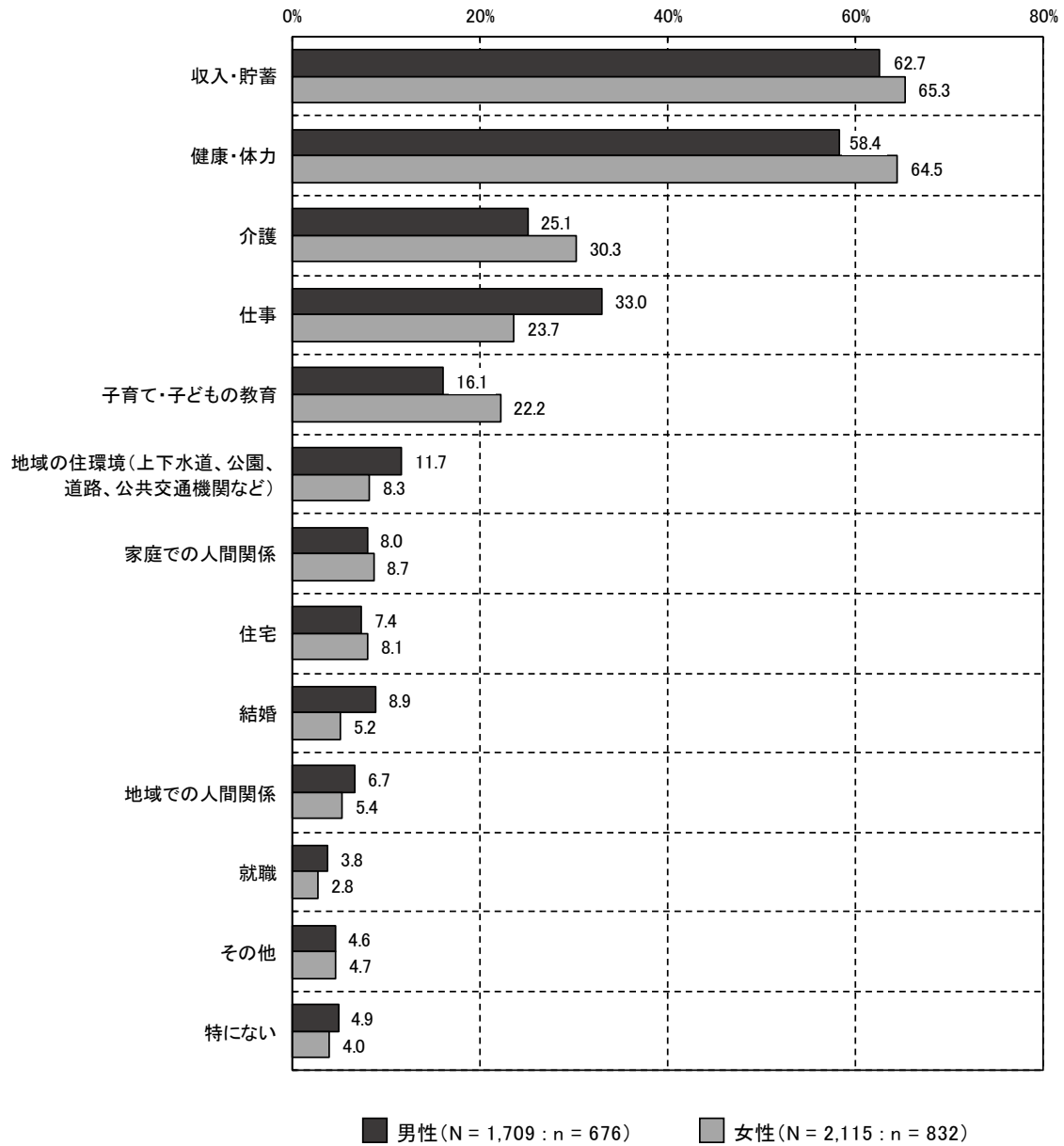
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、「収入・貯蓄」は前回に比べて 3.3 ポイント増加している。「健康・体力」は前回に比べて 2.9 ポイント減少している。「仕事」は前回に比べて 5.5 ポイント増加している。

図 3-2 【前々回・前回比較】生活面での不安



性別（図 3-3）で見ると、男女ともに「収入・貯蓄」が最も高くなっている。「健康・体力」、「子育て・子どもの教育」では女性が男性よりそれぞれ 6.1 ポイント、「仕事」では男性が女性より 9.3 ポイント高くなっている。

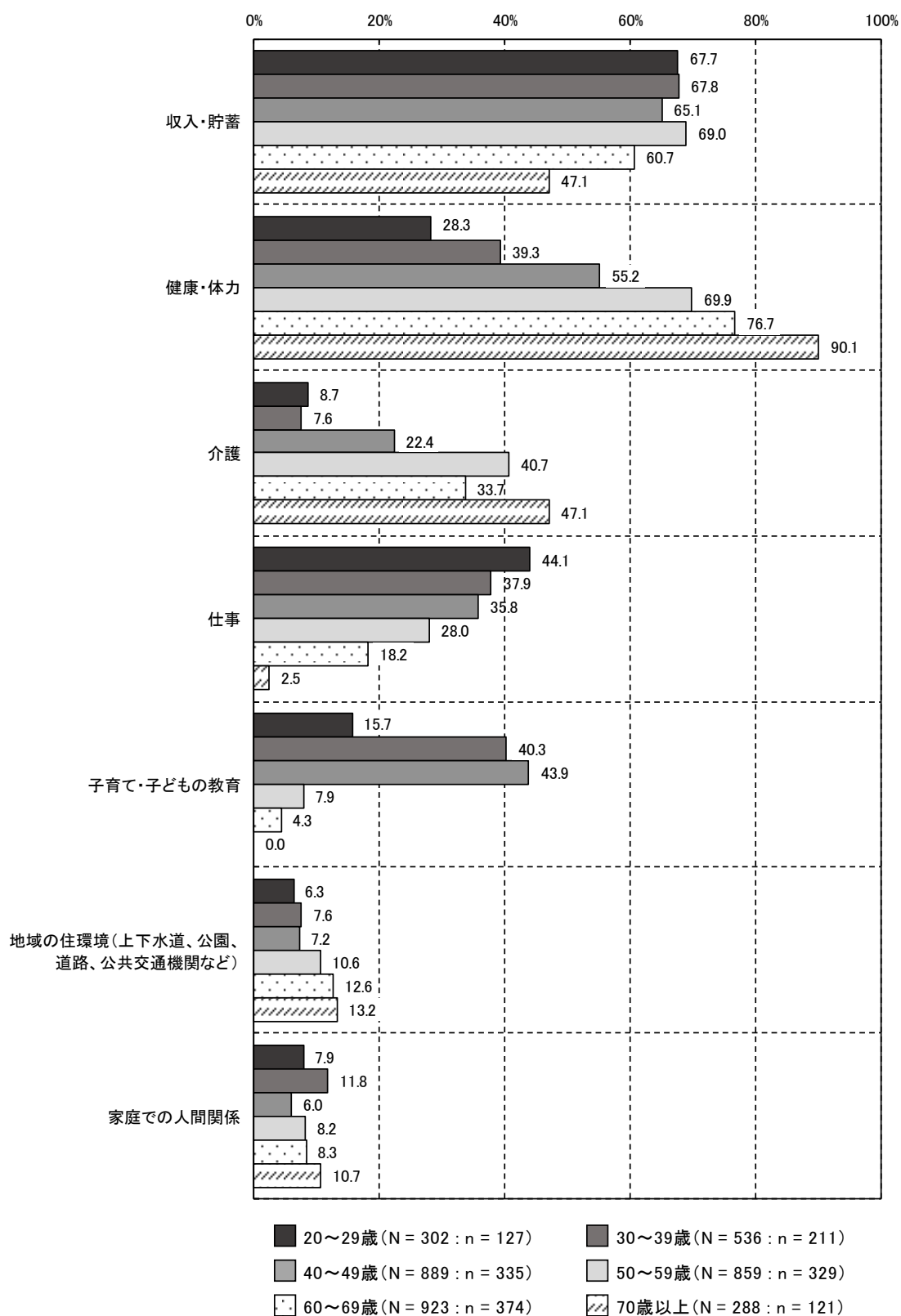
図 3-3 【性別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

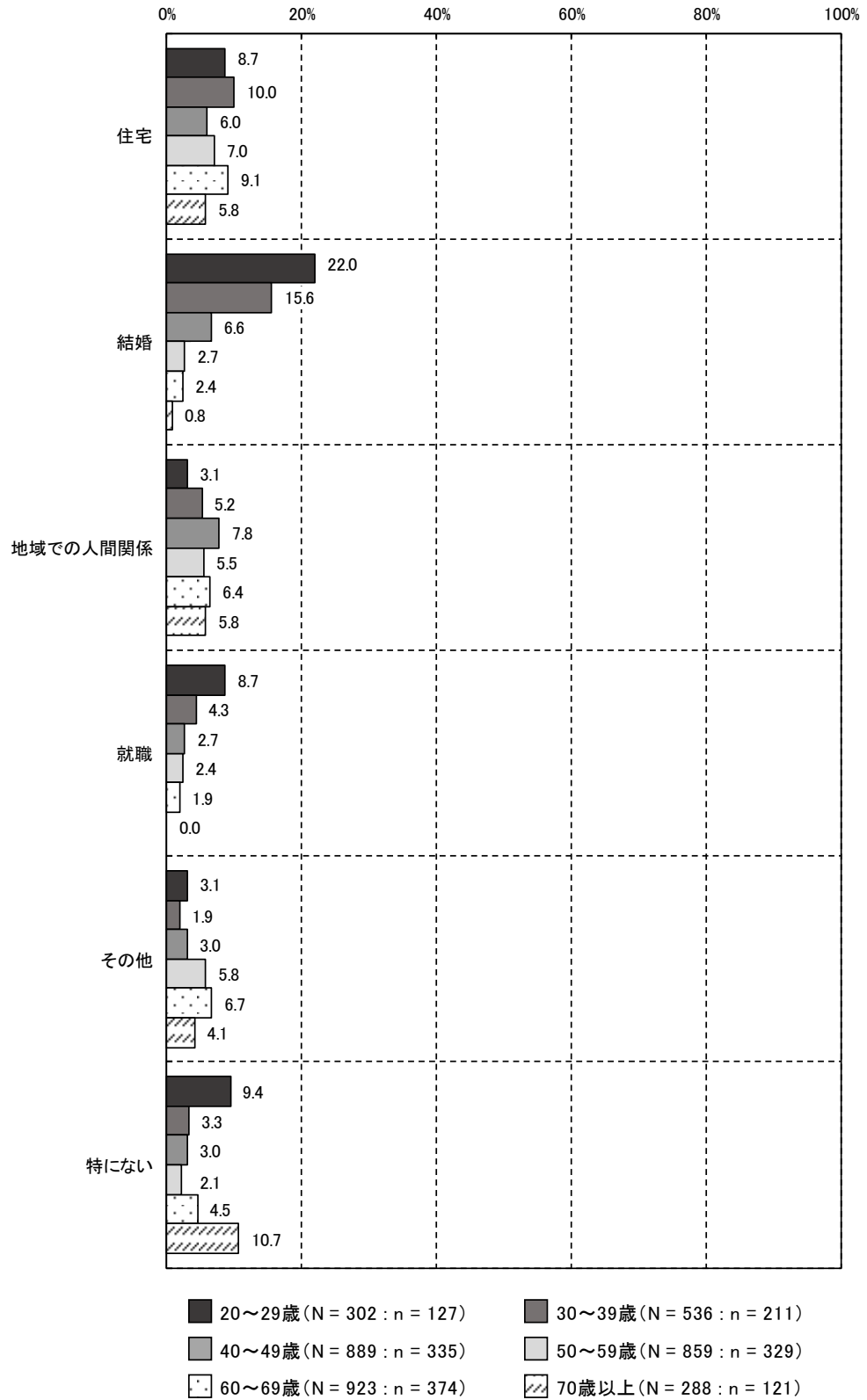
年代別（図 3-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「収入・貯蓄」が最も高く、そのうち 30 歳代が 67.8%と最も高くなっている。50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 90.1%と最も高くなっている。

図 3-4 【年代別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-4 【年代別】生活面での不安（続き）

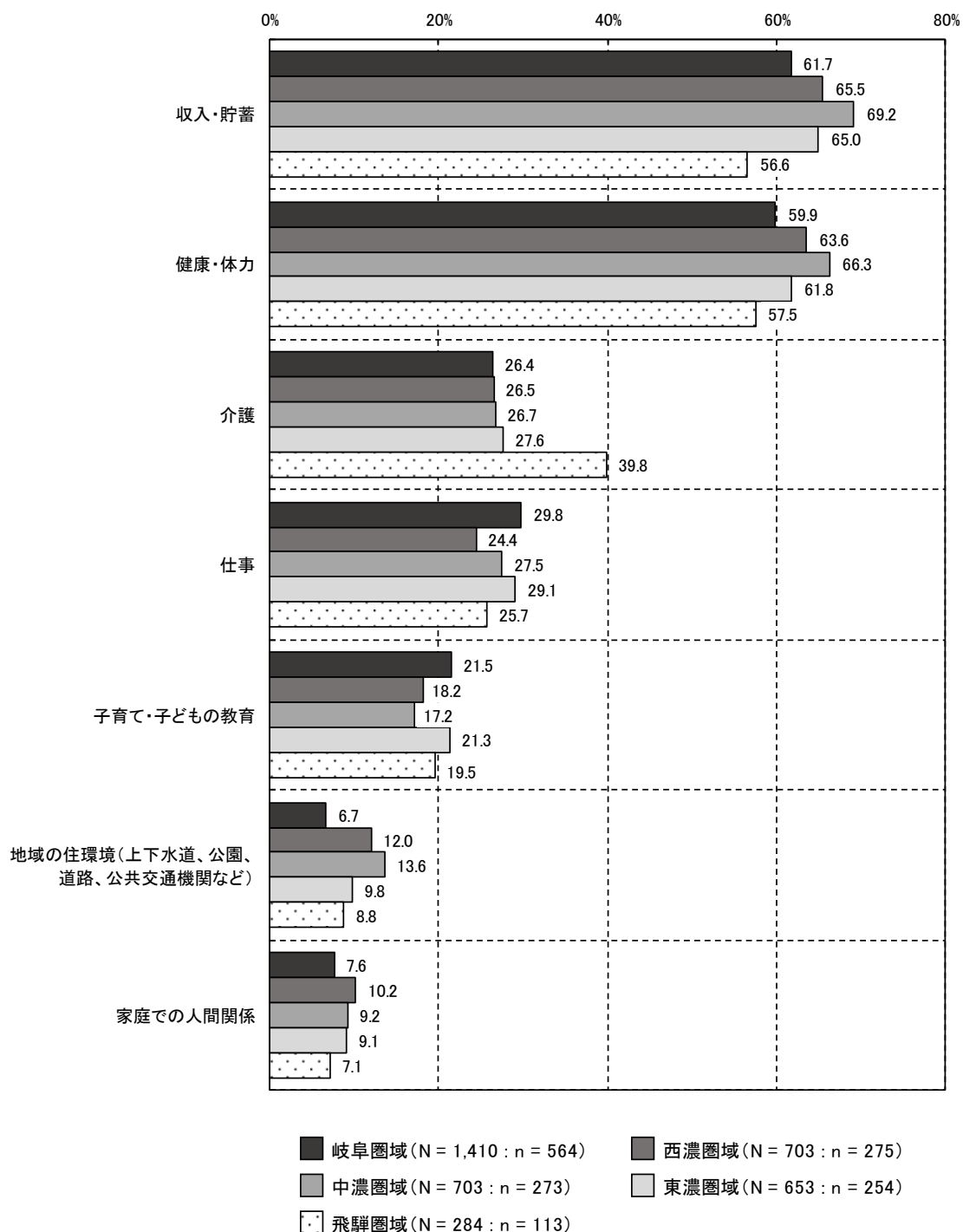


※ N=総回答数 n=回答者数



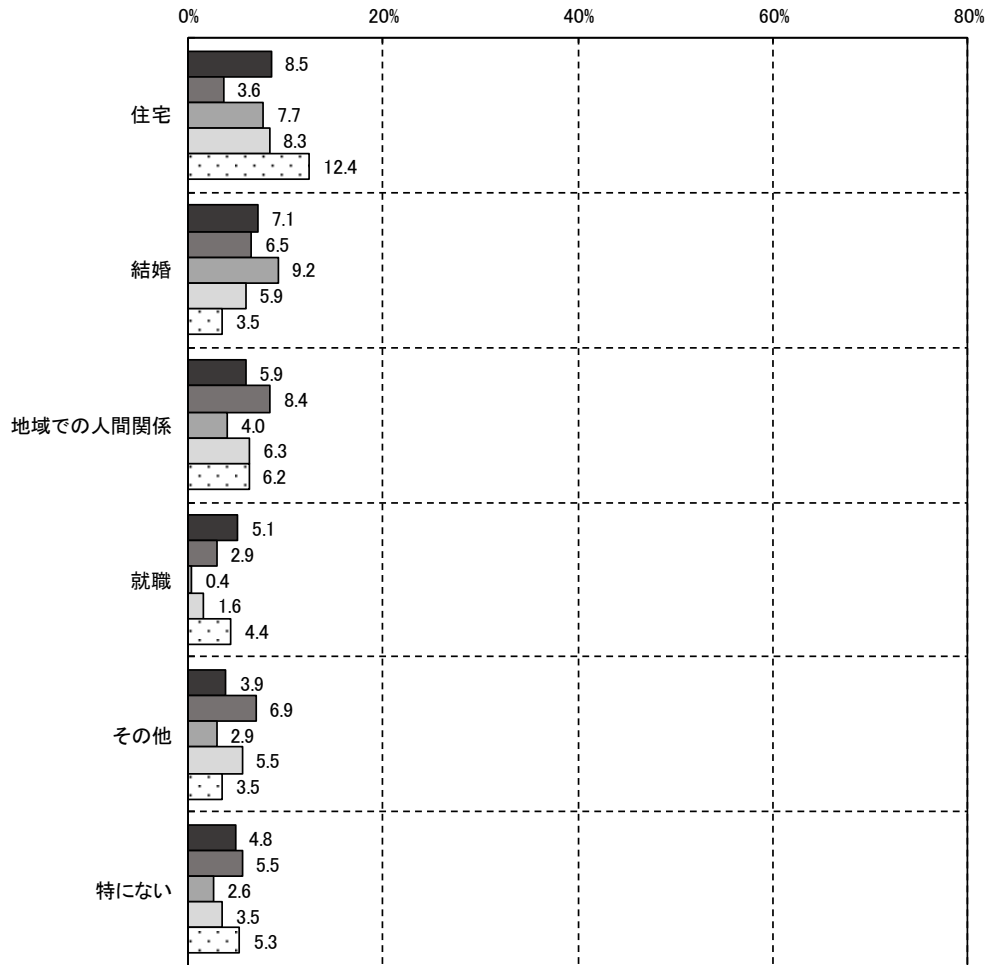
居住圏域別（図 3-5）でみると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「収入・貯蓄」が最も高く、そのうち中濃圏域が 69.2%と最も高くなっている。飛騨圏域では「健康・体力」が 57.5%と最も高く、「介護」でも 39.8%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安（続き）

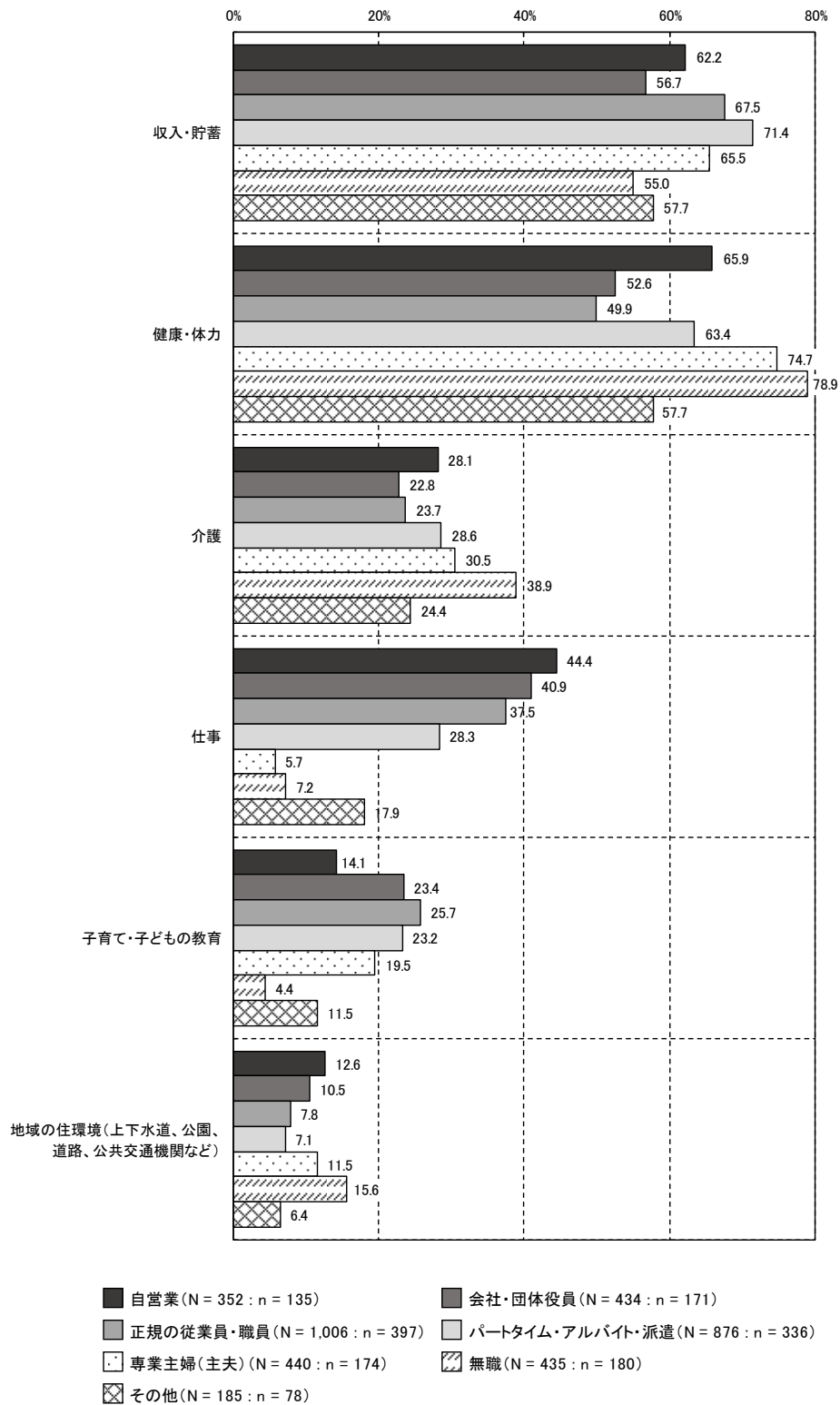


■ 岐阜圏域 (N = 1,410 : n = 564)      ■ 西濃圏域 (N = 703 : n = 275)  
 ■ 中濃圏域 (N = 703 : n = 273)      ■ 東濃圏域 (N = 653 : n = 254)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 284 : n = 113)

※ N=総回答数 n=回答者数

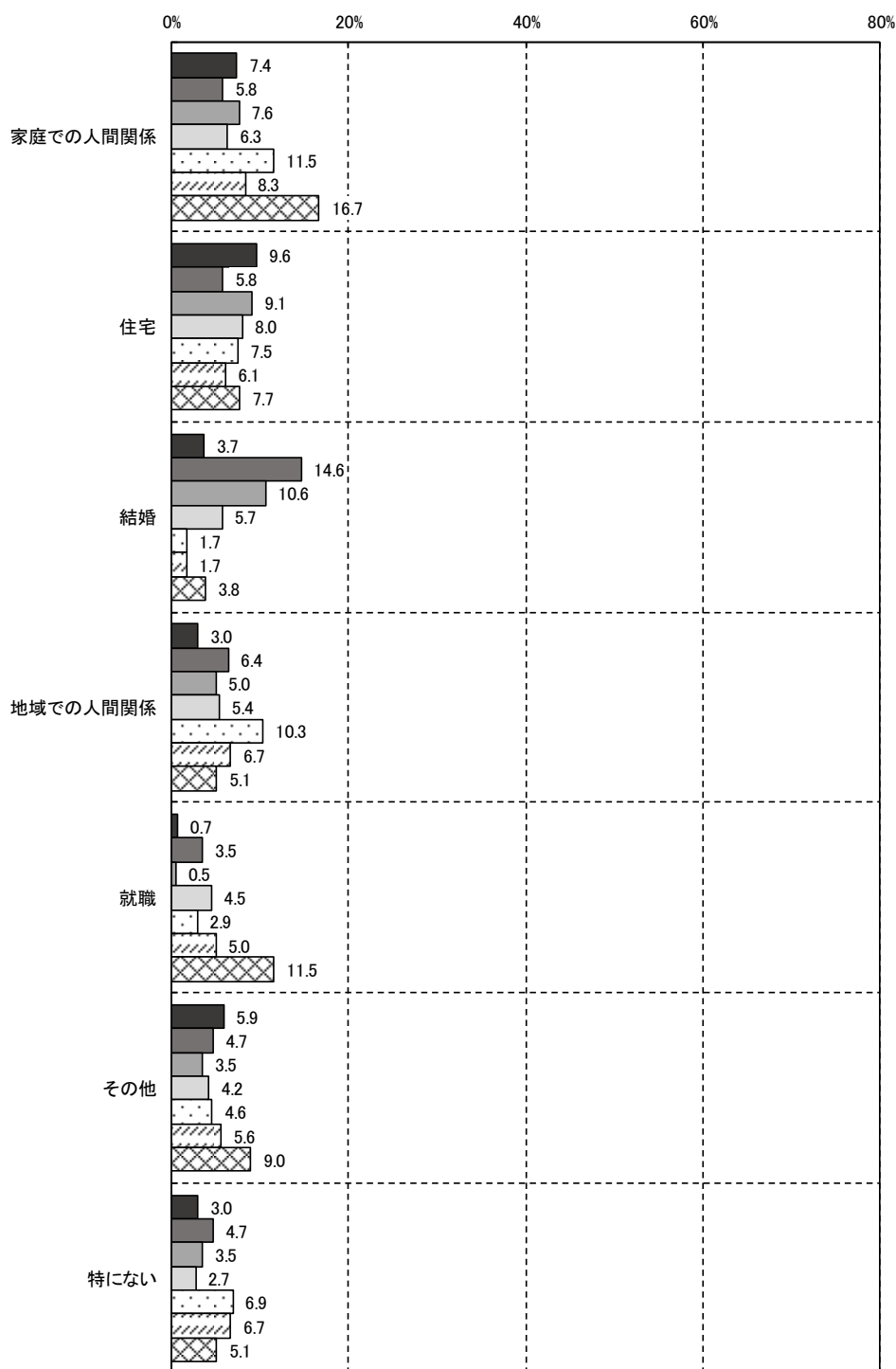
職業別（図3-6）で見ると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣は「収入・貯蓄」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が71.4%と最も高くなっている。自営業、専業主婦（主夫）、無職では「健康・体力」が最も高く、特に無職が78.9%と最も高くなっている。

図3-6 【職業別】生活面での不安



※ その他には、自由業、学生を含む  
 ※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-6 【職業別】生活面での不安（続き）



- 自営業(N = 352 : n = 135)
- 会社・団体役員(N = 434 : n = 171)
- 正規の従業員・職員(N = 1,006 : n = 397)
- パートタイム・アルバイト・派遣(N = 876 : n = 336)
- 専業主婦(主夫)(N = 440 : n = 174)
- 無職(N = 435 : n = 180)
- その他(N = 185 : n = 78)

※ その他には、自由業、学生を含む  
 ※ N=総回答数 n=回答者数

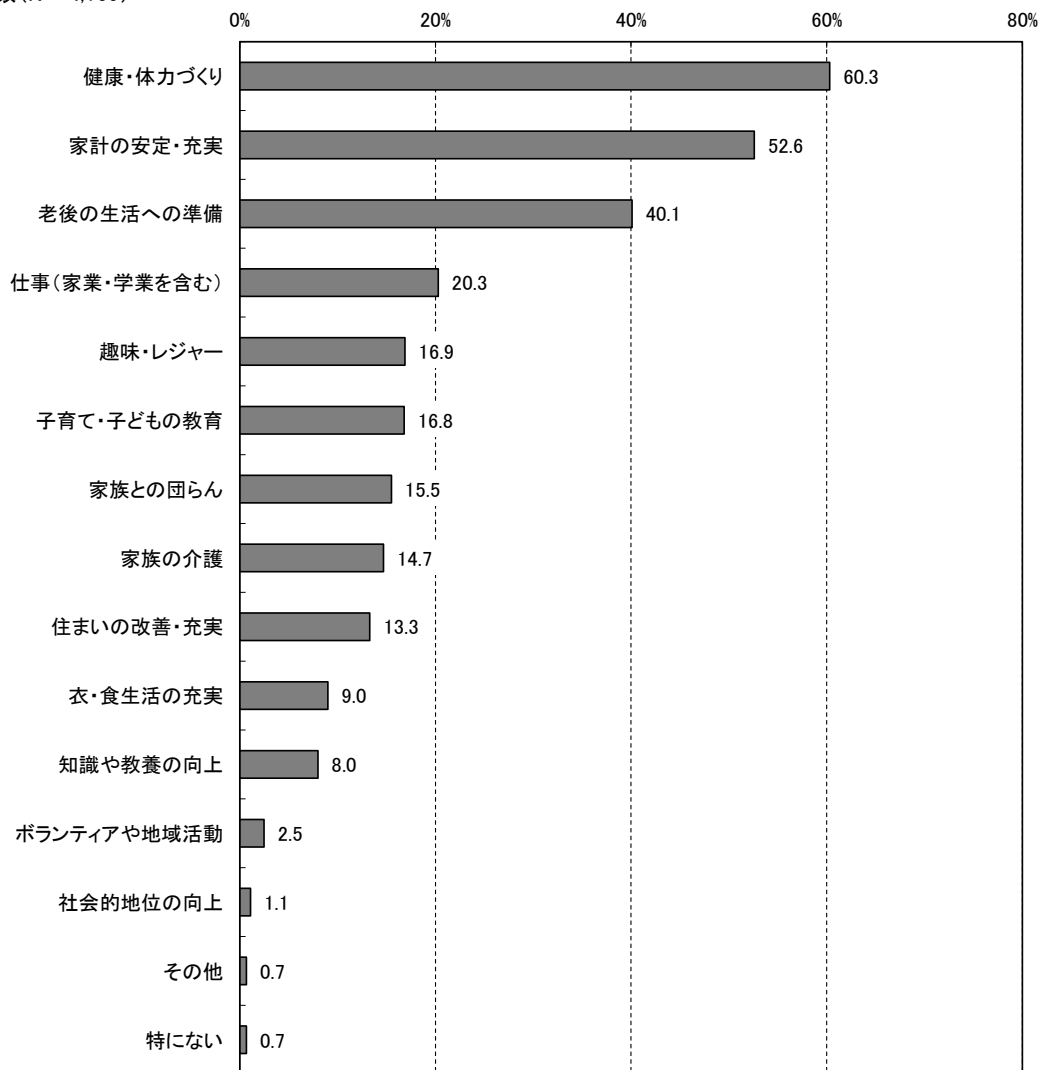
#### 問4 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

問4 あなたが、今後の暮らしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。  
(3つまで)

全体（図 4-1）でみると、「健康・体力づくり」が 60.3%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」（52.6%）、「老後の生活への準備」（40.1%）の順となっている。

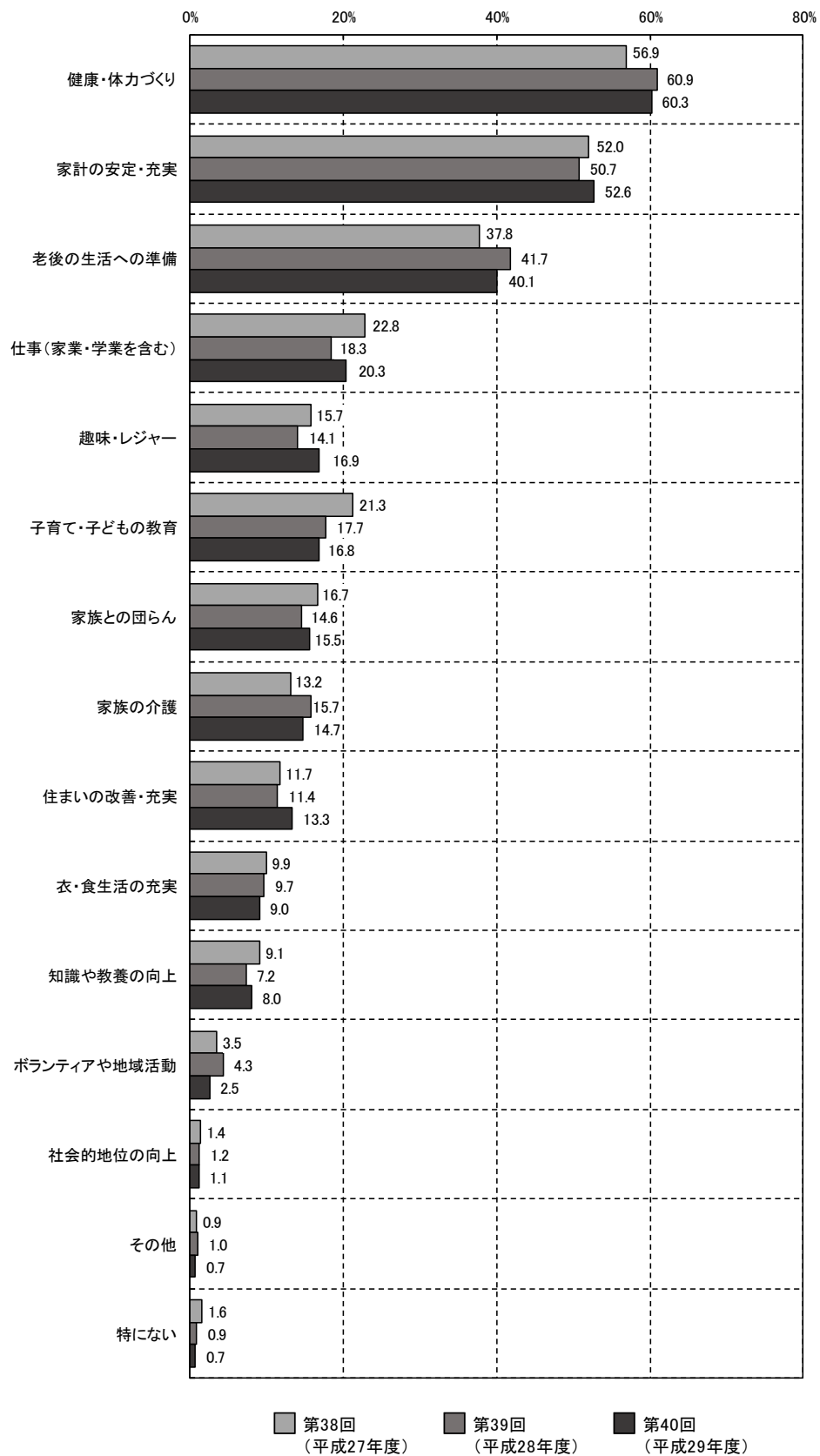
図 4-1 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

回答者数 (n = 1,522)  
総回答数 (N = 4,169)



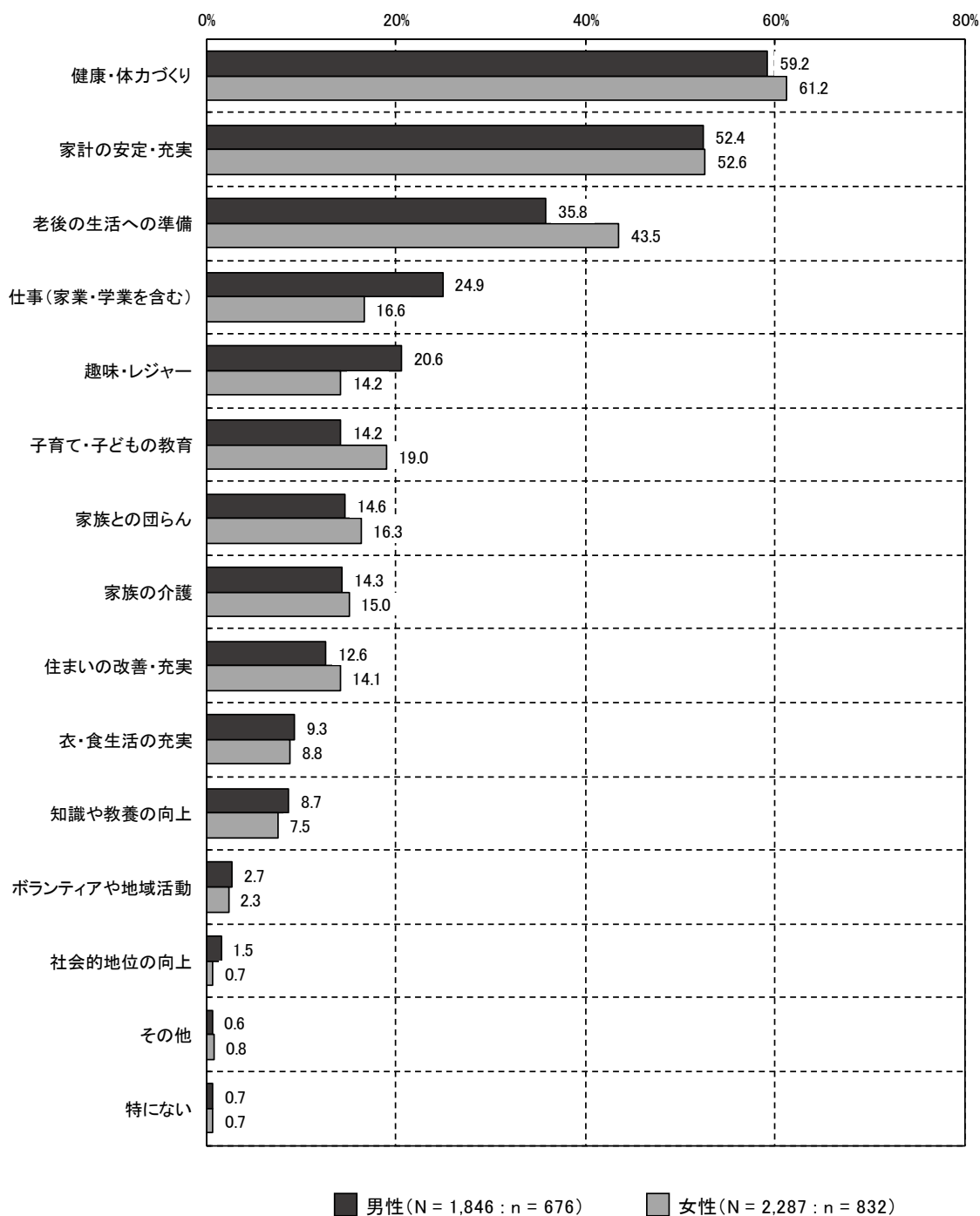
前々回・前回比較（図 4-2）で見ると、前々回・前回と同様に「健康・体力づくり」が最も高くなっているが、前回から 0.6 ポイント減少している。次いで「家計の安定・充実」が高く、前回から 1.9 ポイント増加している。

図 4-2 【前々回・前回比較】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



性別（図4-3）で見ると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、男性が59.2%、女性が61.2%となっている。「老後の生活への準備」では女性が男性より7.7ポイント、「仕事（家業・学業を含む）」では男性が女性より8.3ポイント、それぞれ高くなっている。

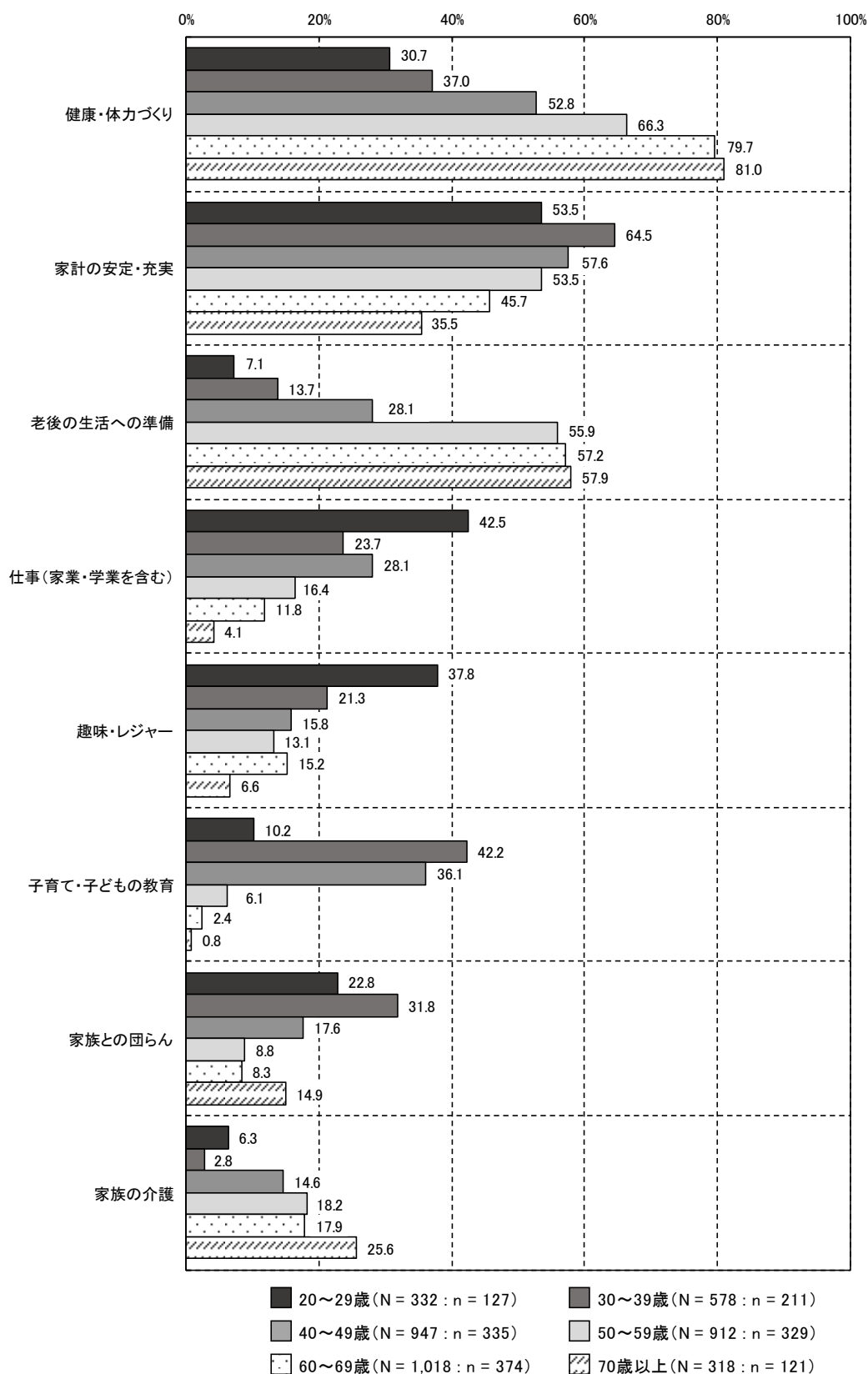
図4-3 【性別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 4-4）で見ると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上において「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 81.0%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代、40 歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、そのうち 30 歳代が 64.5%と最も高くなっている。

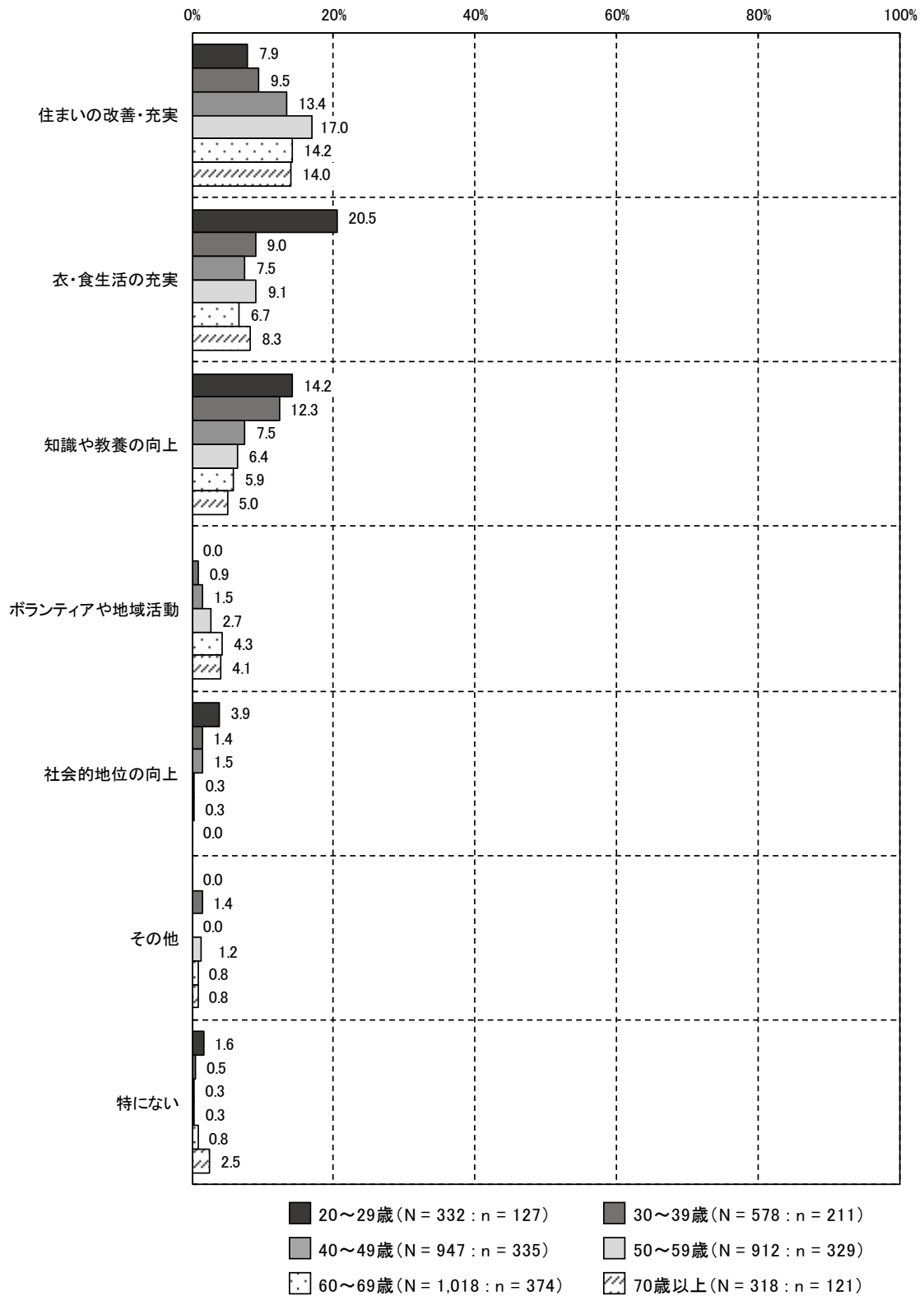
図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数



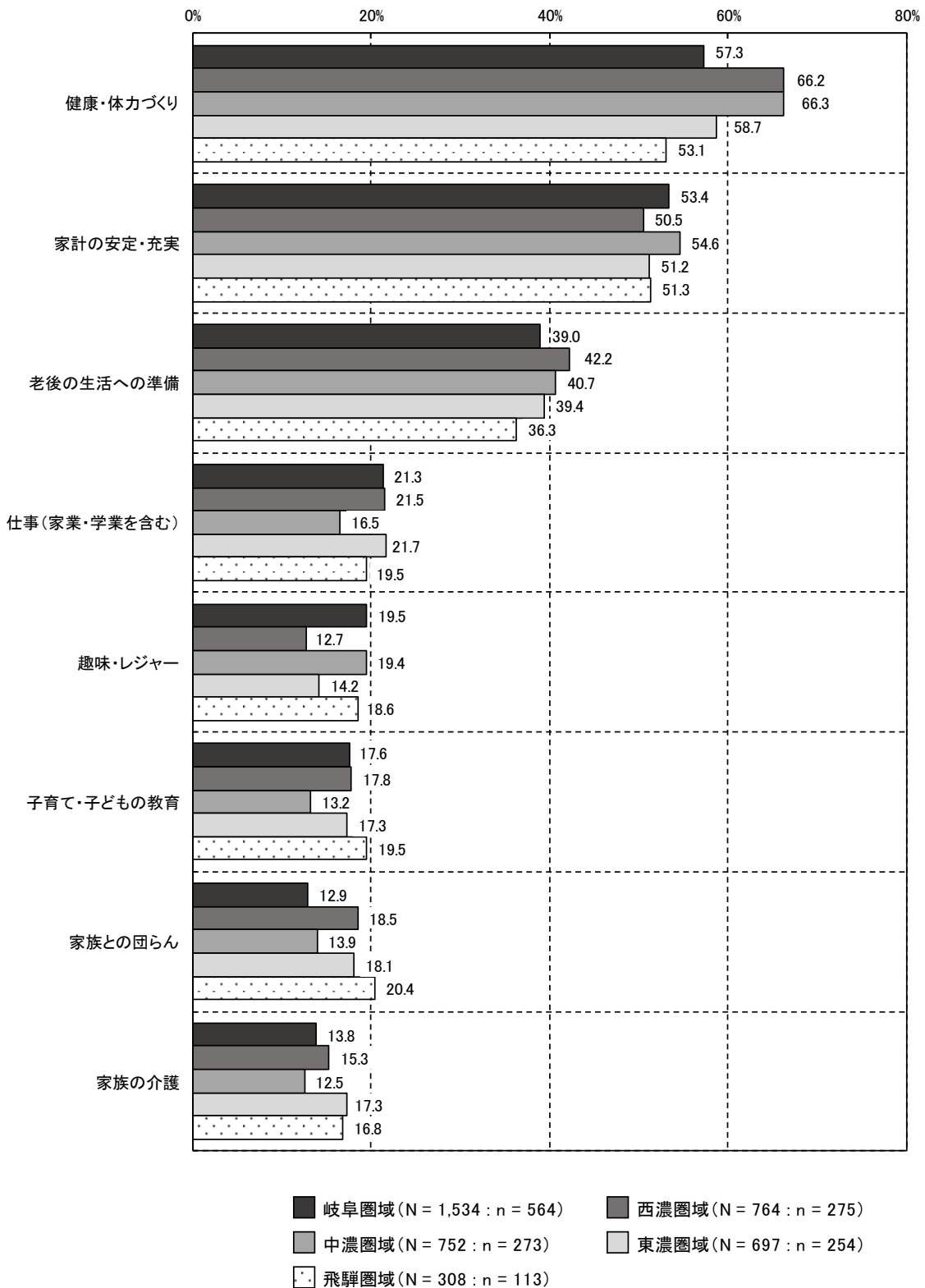
図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

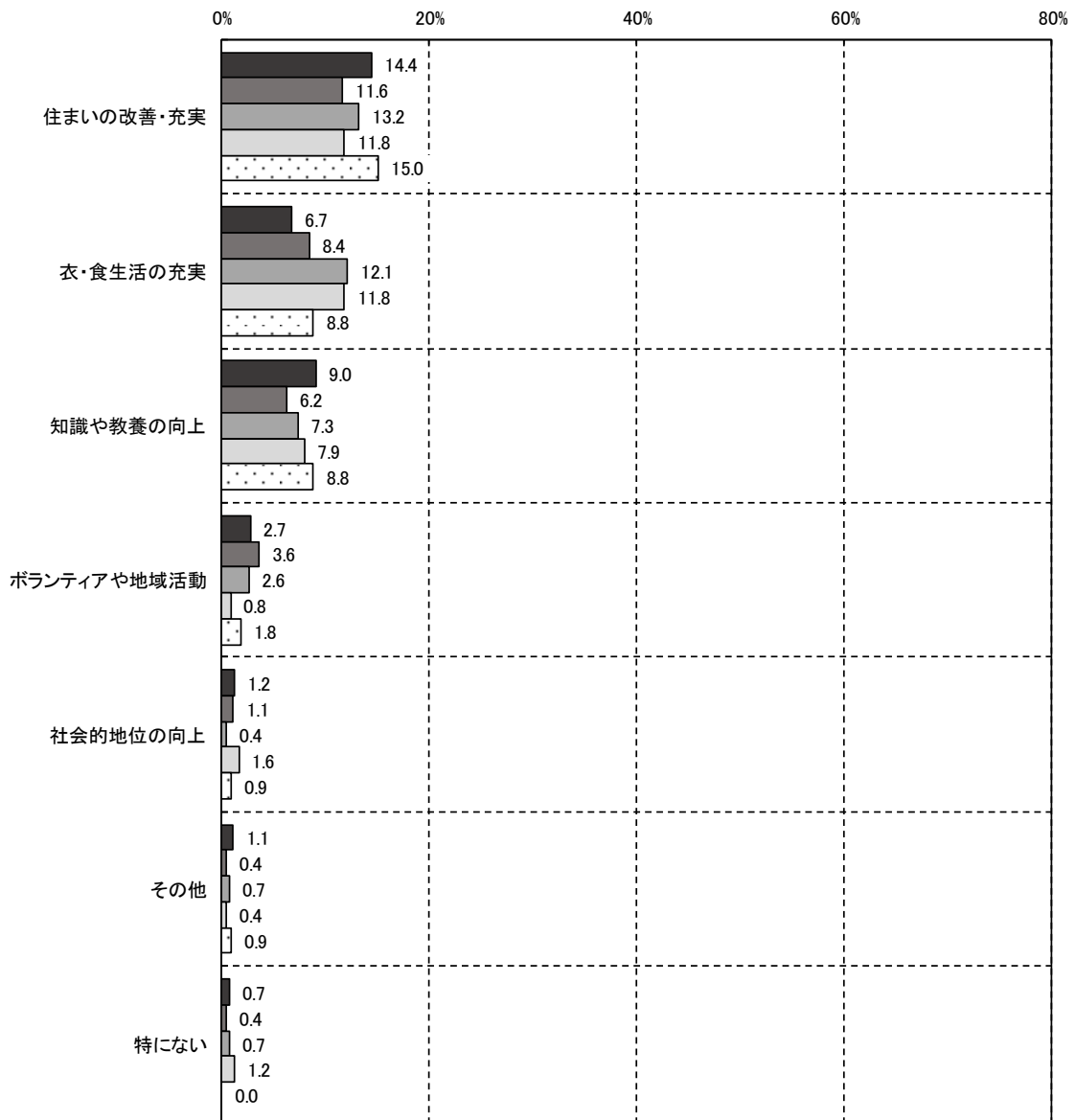
居住圏域別（図 4-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち中濃圏域が 66.3%と最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）

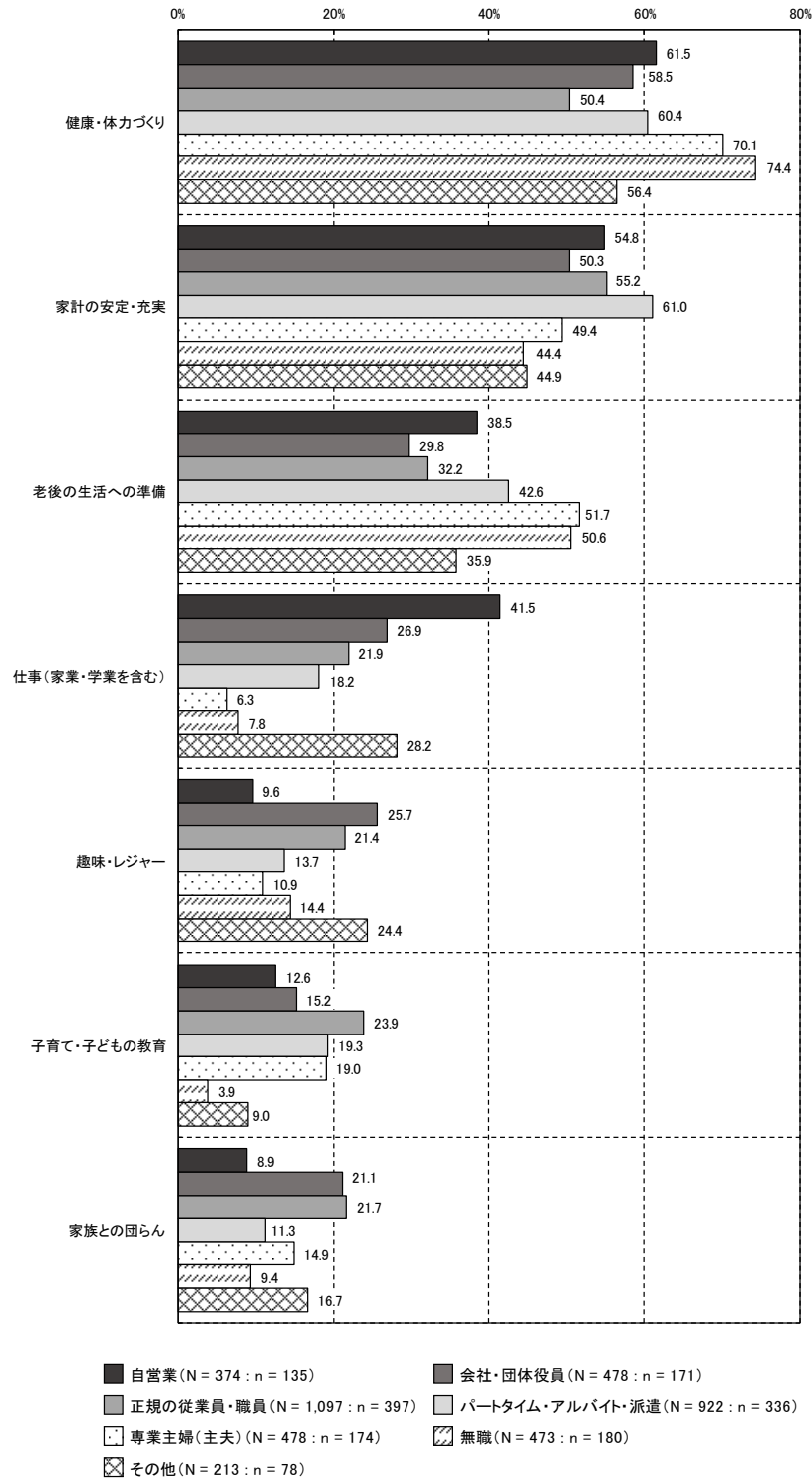


■ 岐阜圏域 (N = 1,534 : n = 564)      ■ 西濃圏域 (N = 764 : n = 275)  
 ■ 中濃圏域 (N = 752 : n = 273)      ■ 東濃圏域 (N = 697 : n = 254)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 308 : n = 113)

※ N=総回答数 n=回答者数

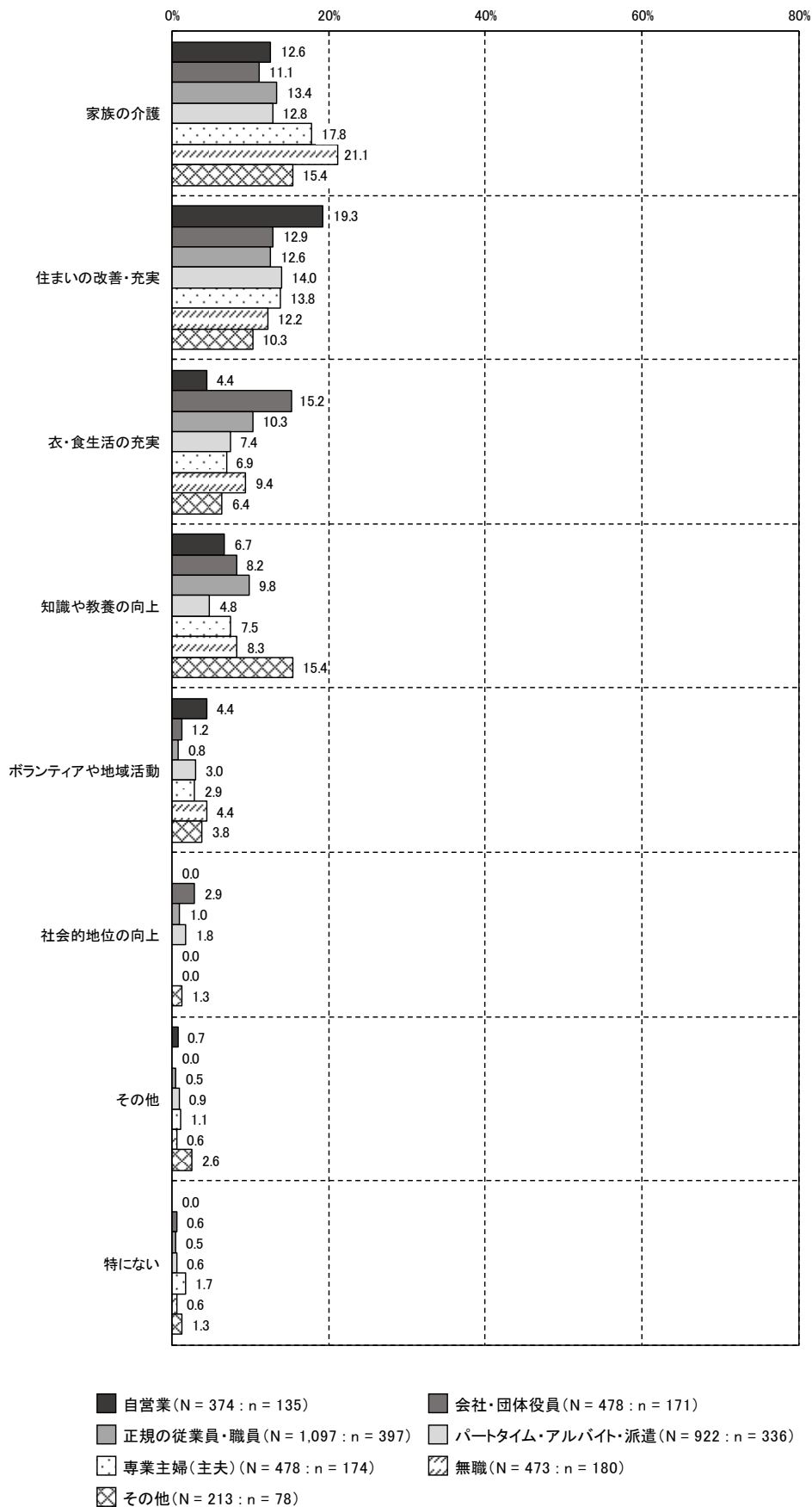
職業別（図4-6）でみると、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣を除くいずれの職業においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち無職が74.4%と最も高くなっている。正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「家計の安定・充実」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が61.0%と最も高くなっている。

図4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ その他には、自由業、学生を含む  
 ※ N=総回答数 n=回答者数

図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N=総回答数 n=回答者数

## 問5 生活に必要な情報の入手媒体

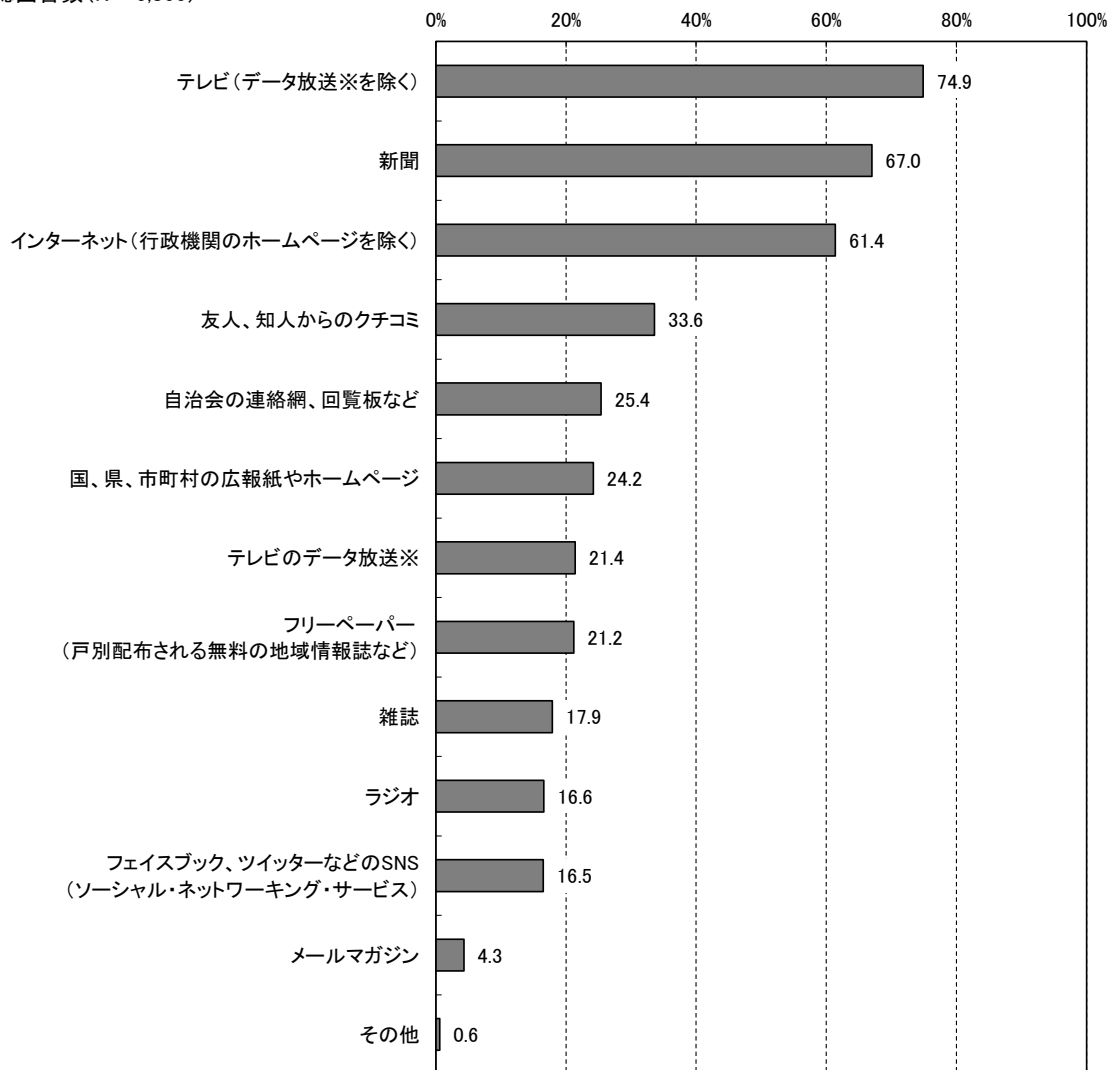
問5 あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。(いくつでも)

全体(図5-1)で見ると、「テレビ(データ放送を除く)」が74.9%と最も高く、次いで「新聞」(67.0%)、「インターネット(行政機関のホームページを除く)」(61.4%)の順となっている。

図5-1 生活に必要な情報の入手媒体

回答者数(n = 1,522)

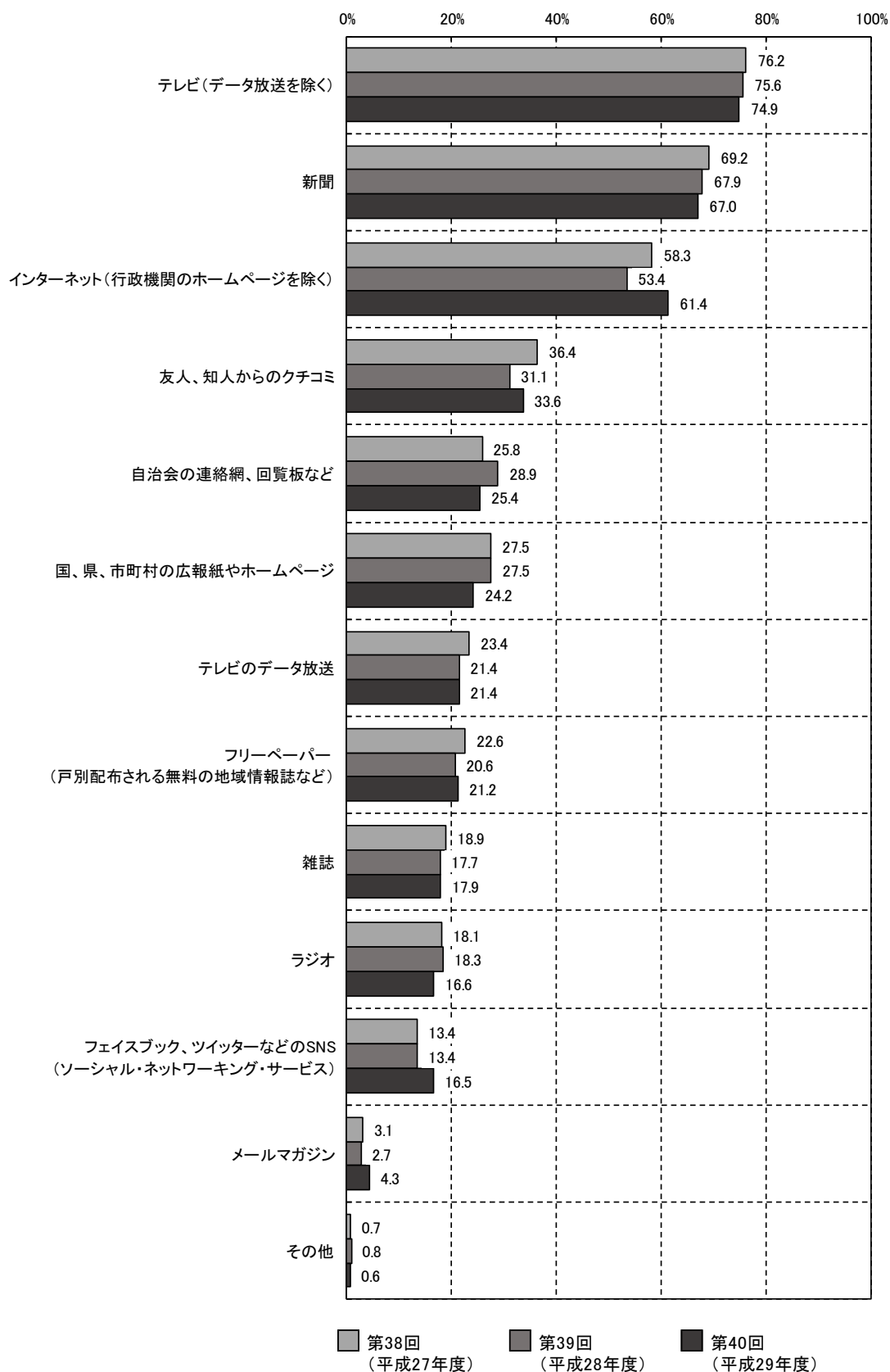
総回答数(N = 5,866)



※ データ放送:リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

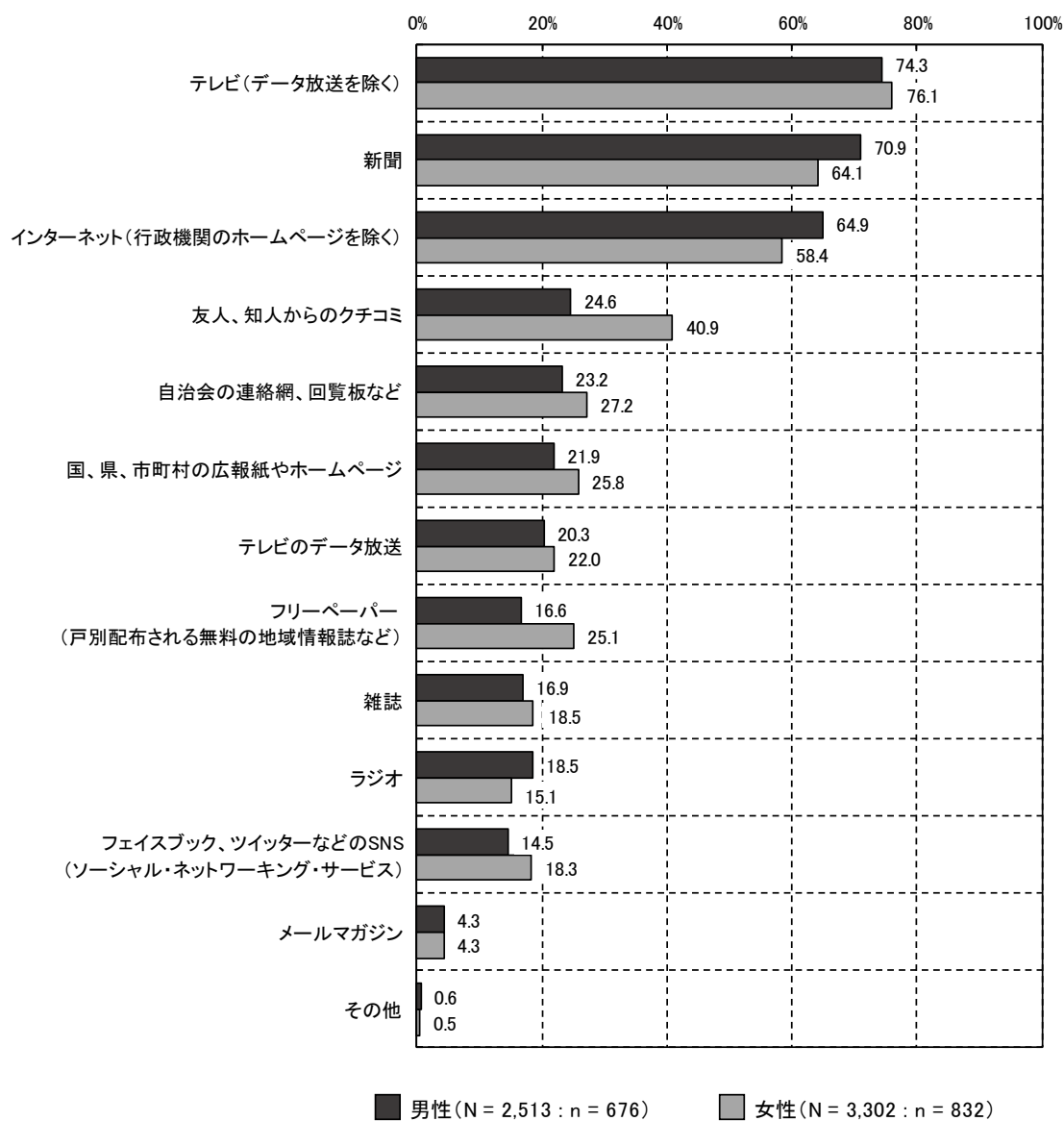
前々回・前回比較（図 5-2）で見ると、前々回・前回と同様に「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。「インターネット（行政機関のホームページを除く）」は、前回から 8.0 ポイント増加している。

図 5-2 【前々回・前回比較】生活に必要な情報の入手媒体



性別（図 5-3）で見ると、男女ともに「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。差が最も大きいのは「友人、知人からのクチコミ」で、女性が男性より 16.3 ポイント高くなっている。

図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体

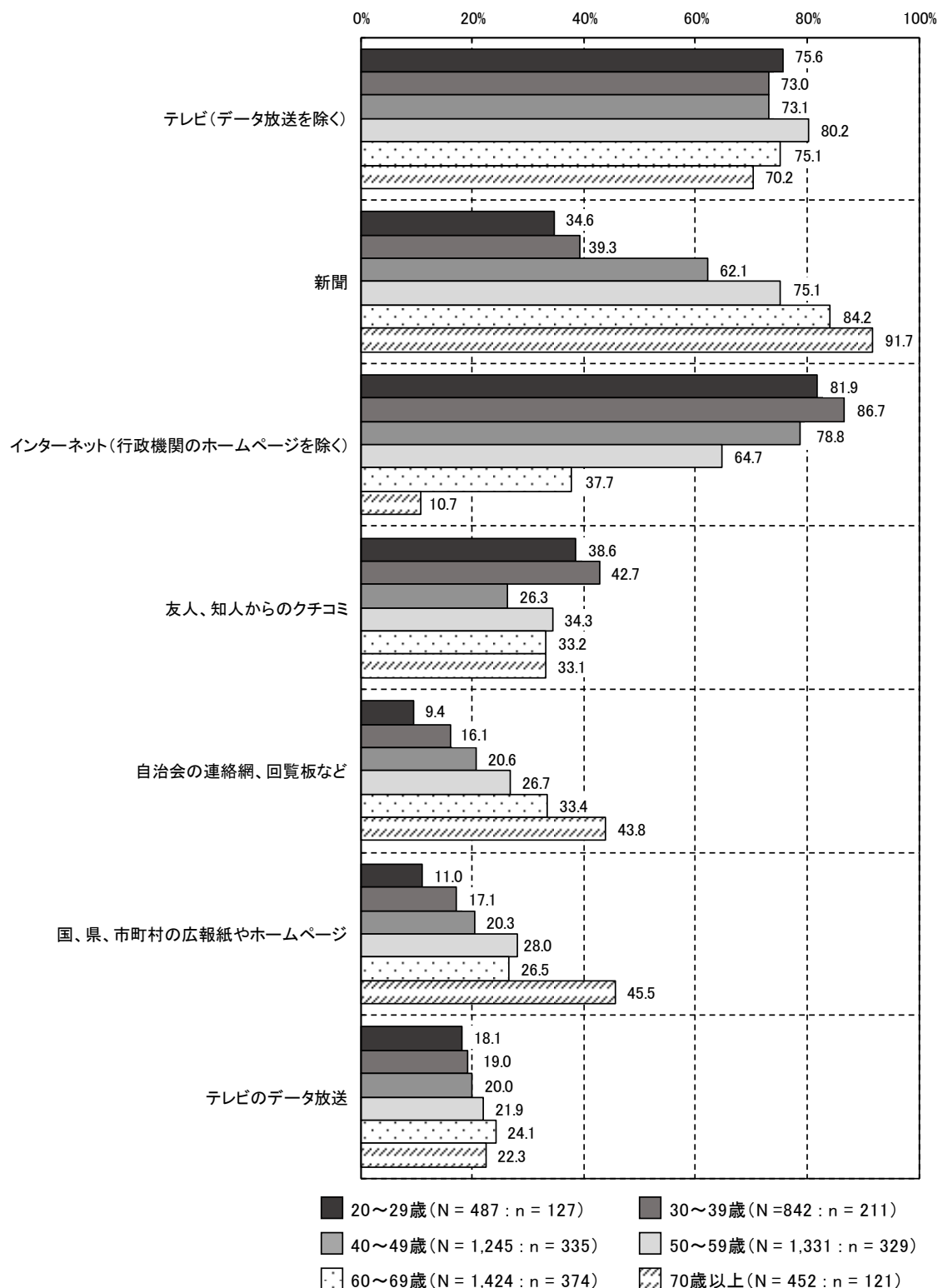


※ N=総回答数 n=回答者数



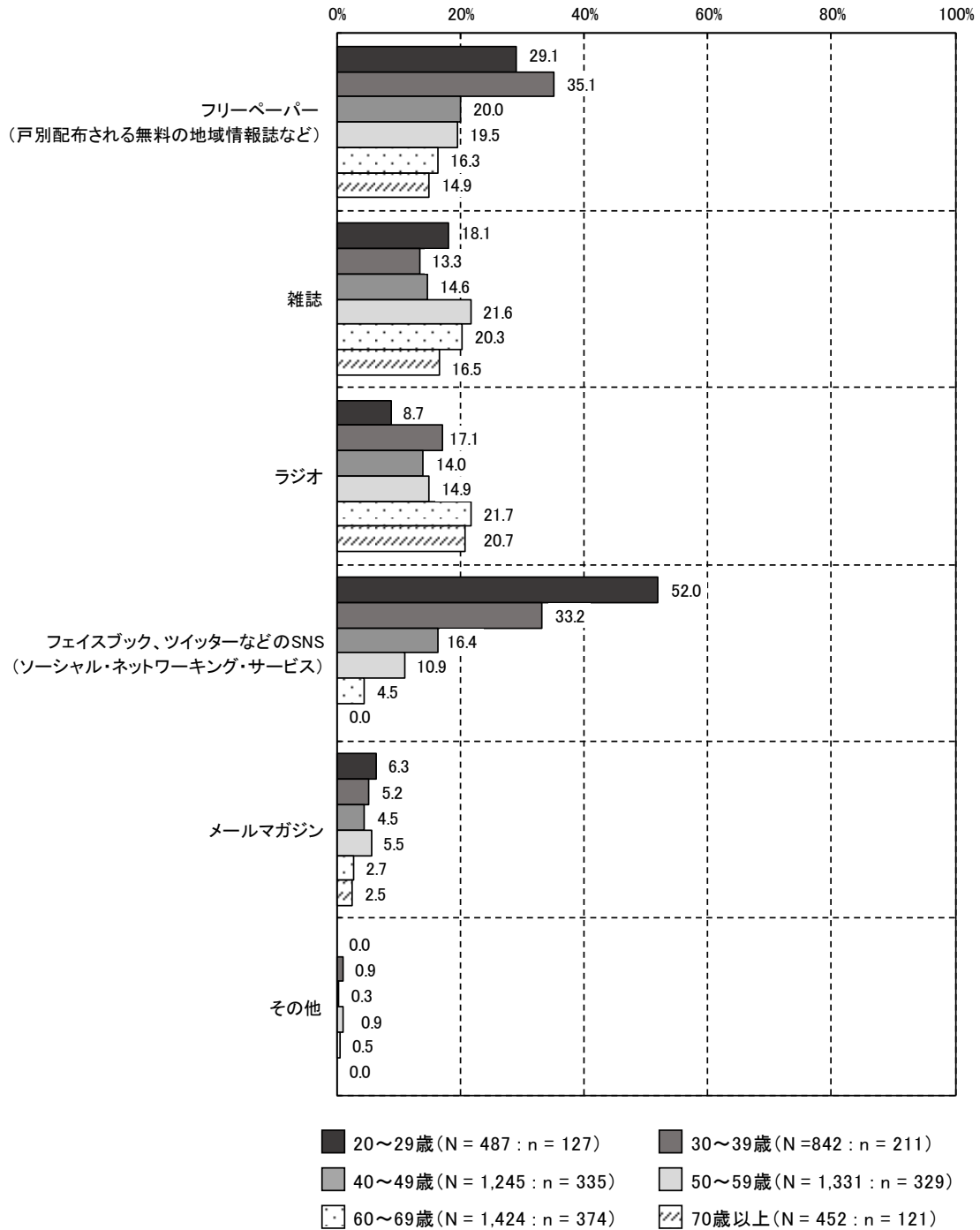
年代別（図 5-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代においては「インターネット（行政機関のホームページを除く）」が最も高く、そのうち 30 歳代が 86.7%と最も高くなっている。50 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」（80.2%）、60 歳代、70 歳以上では「新聞」がそれぞれ最も高く、そのうち 70 歳以上が 91.7%と最も高くなっている。

図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

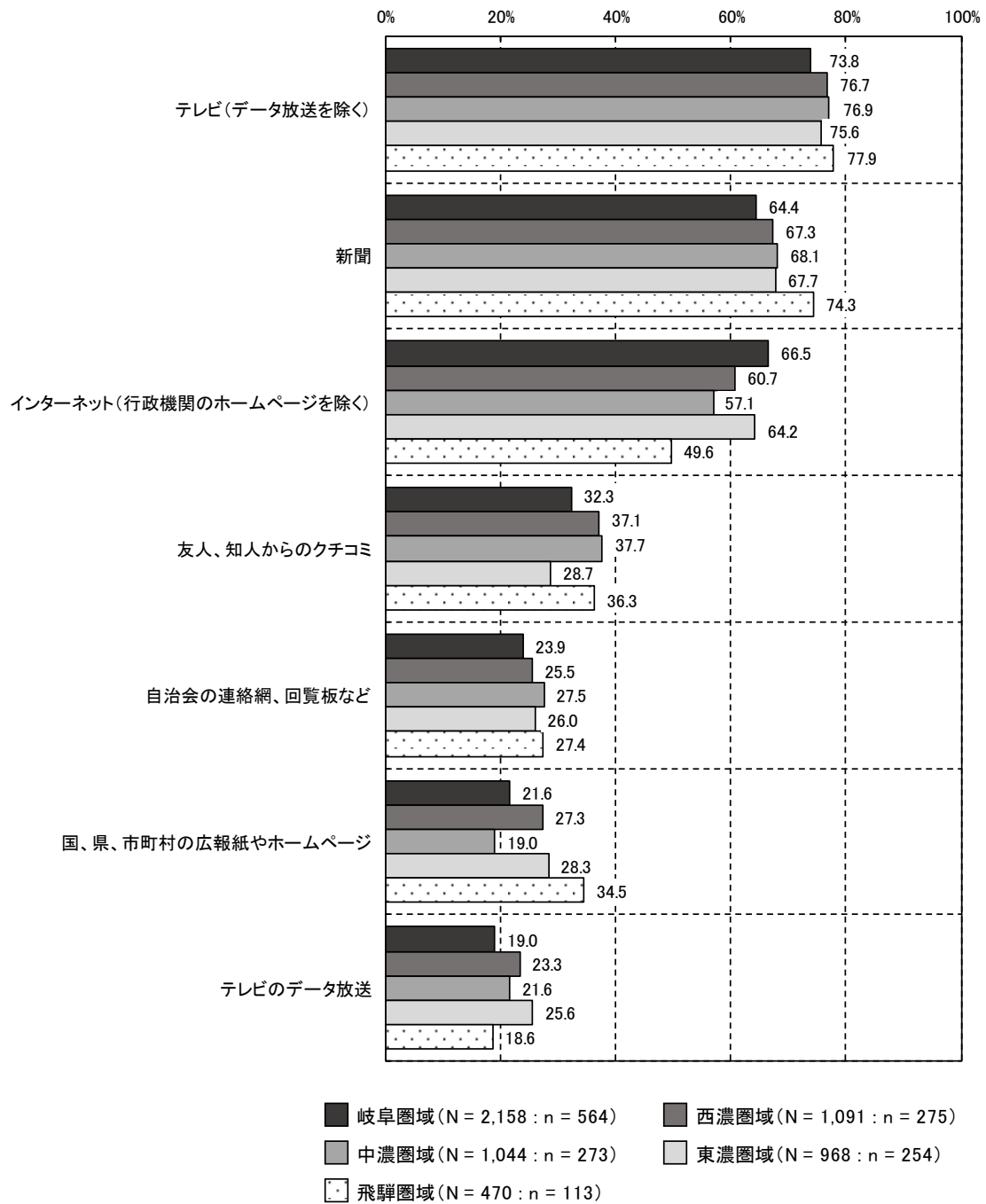
図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

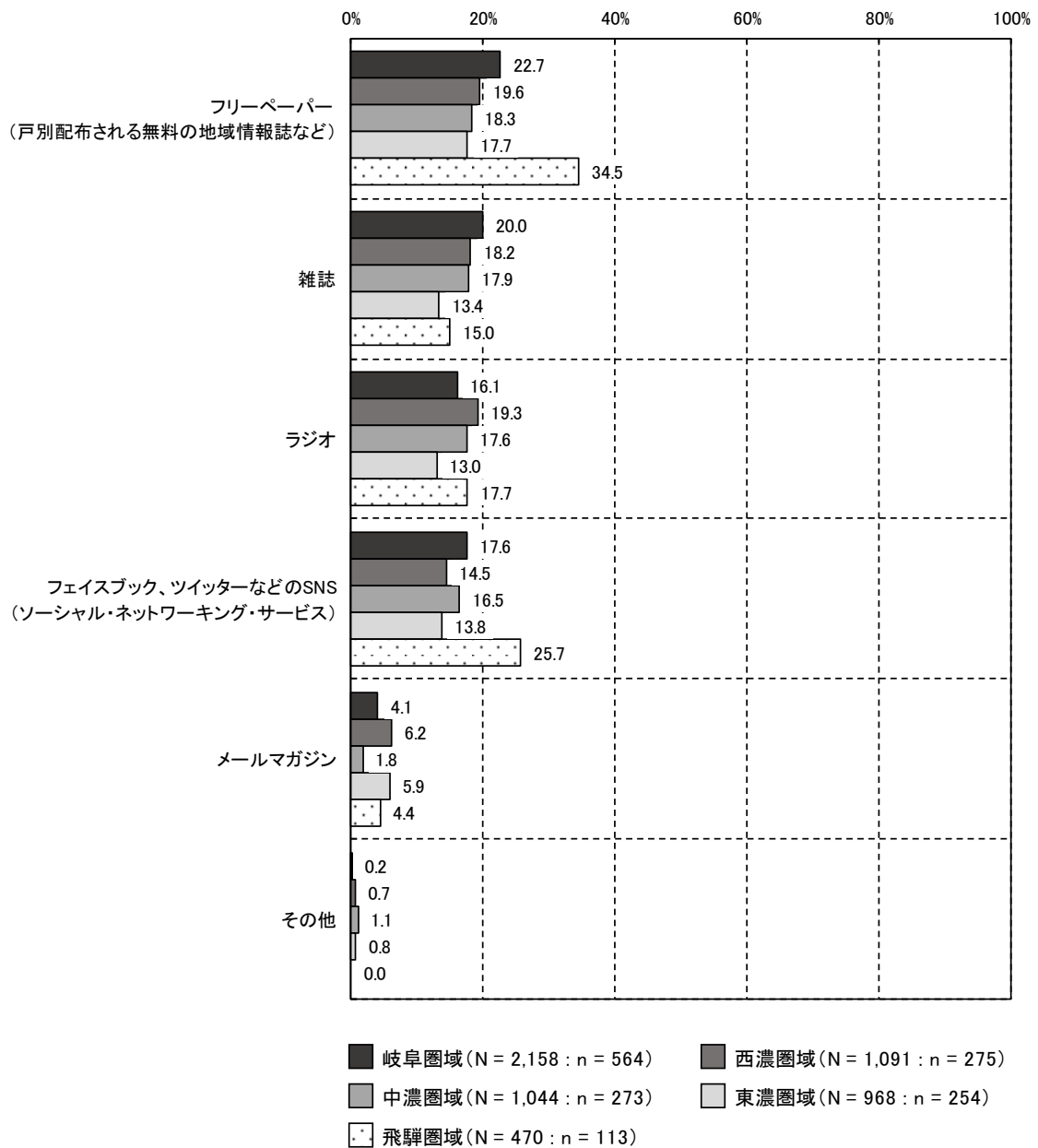
居住圏域別（図 5-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 77.9%と最も高くなっている。

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

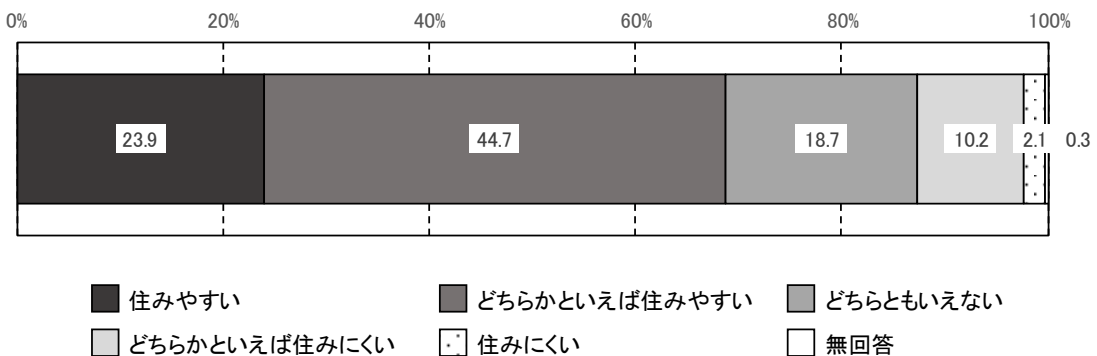
## 問6 現在住んでいる地域は住みやすいか

問6 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。(1つだけ)

全体(図6-1)で見ると、「どちらかといえば住みやすい」が44.7%と最も高くなっている。次いで、「住みやすい」(23.9%)、「どちらともいえない」(18.7%)の順となっている。

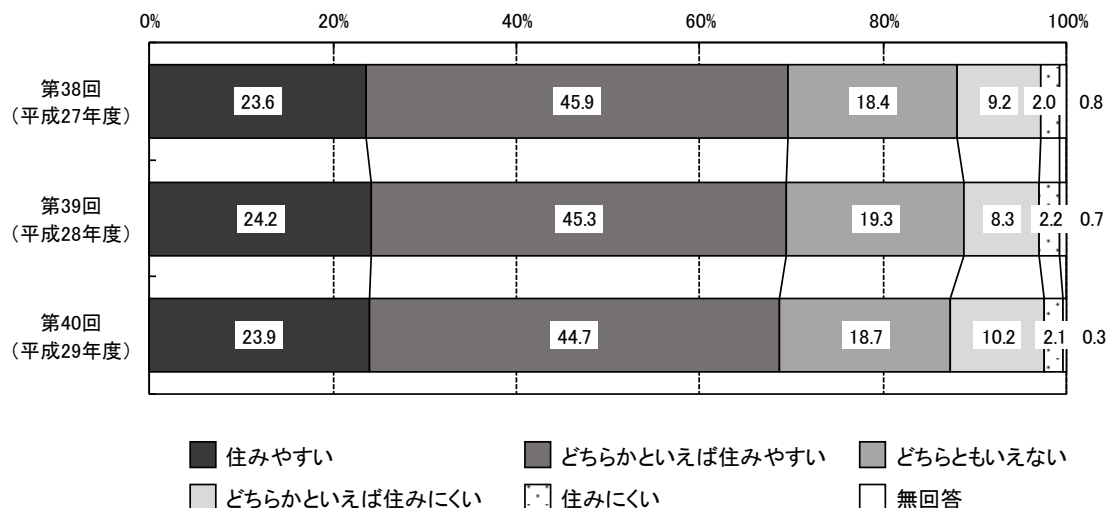
図6-1 現在住んでいる地域は住みやすいか

回答者数(n = 1,522)



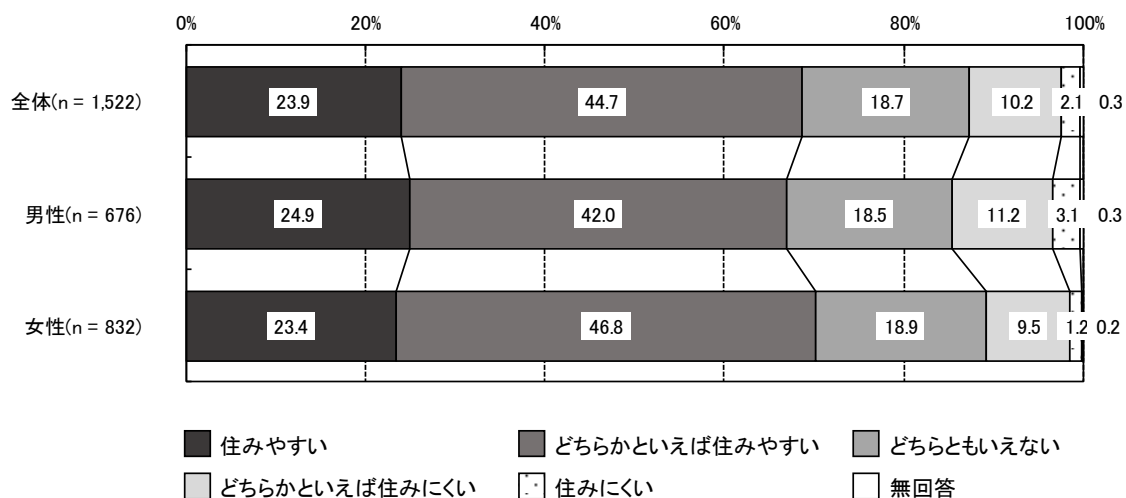
前々回・前回比較(図6-2)で見ると、「住みやすい」は前回に比べて0.3ポイント減少している。「どちらかといえば住みにくい」は前回に比べて1.9ポイント増加している。

図6-2【前々回・前回比較】現在住んでいる地域は住みやすいか



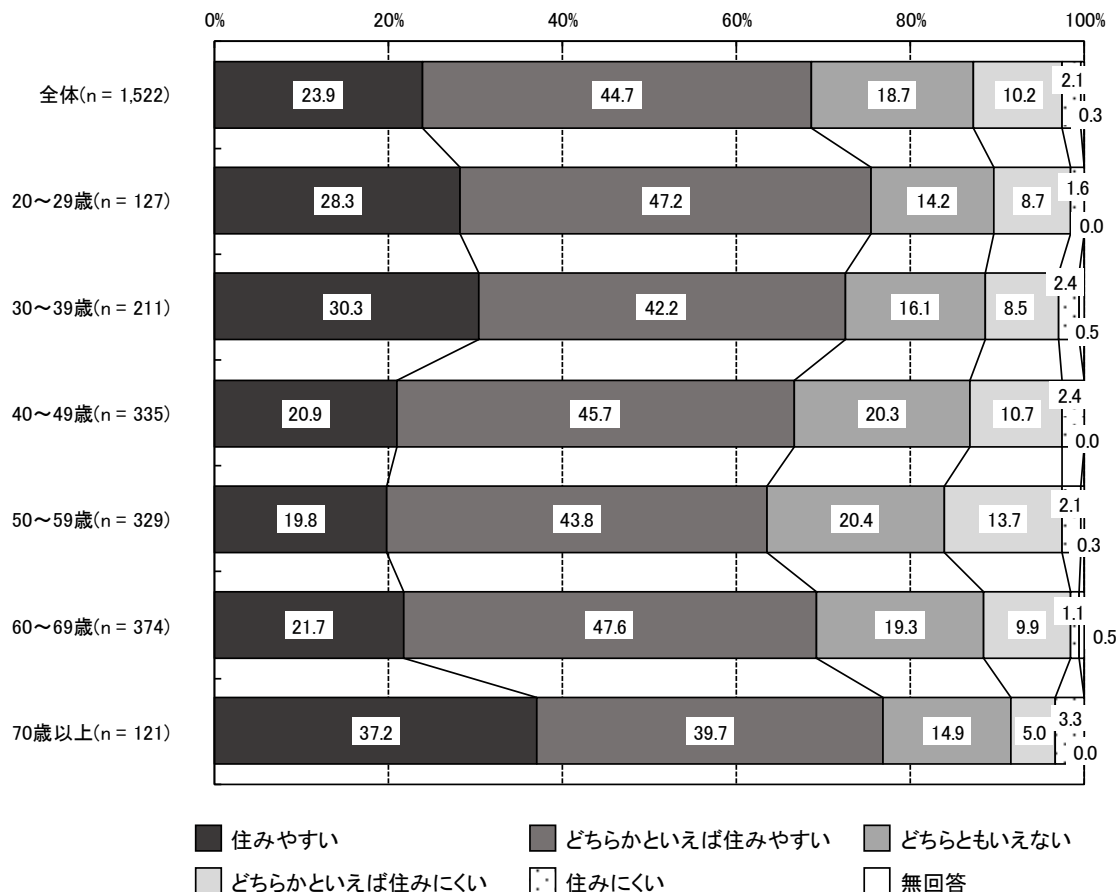
性別（図 6-3）で見ると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 42.0%、女性は 46.8%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



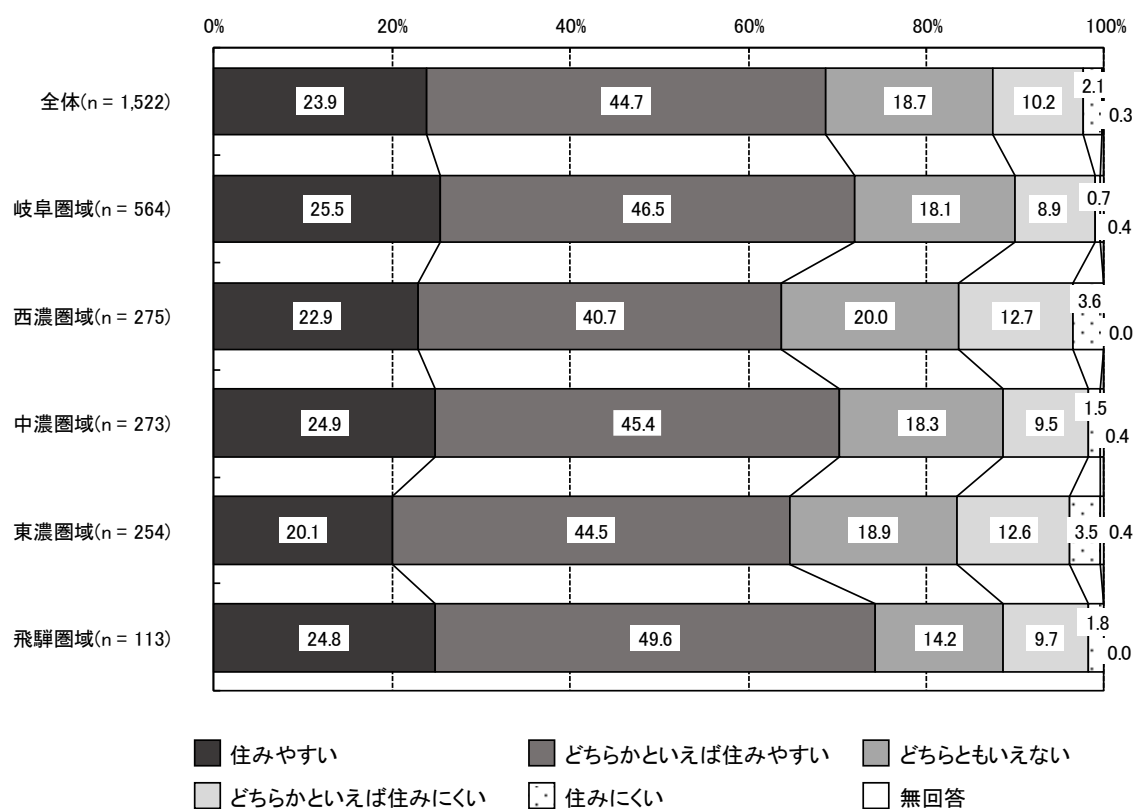
年代別（図 6-4）で見ると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち 60 歳代が 47.6%と最も高くなっている。70 歳以上では「住みやすい」が 37.2%と、他の年代と比較して高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



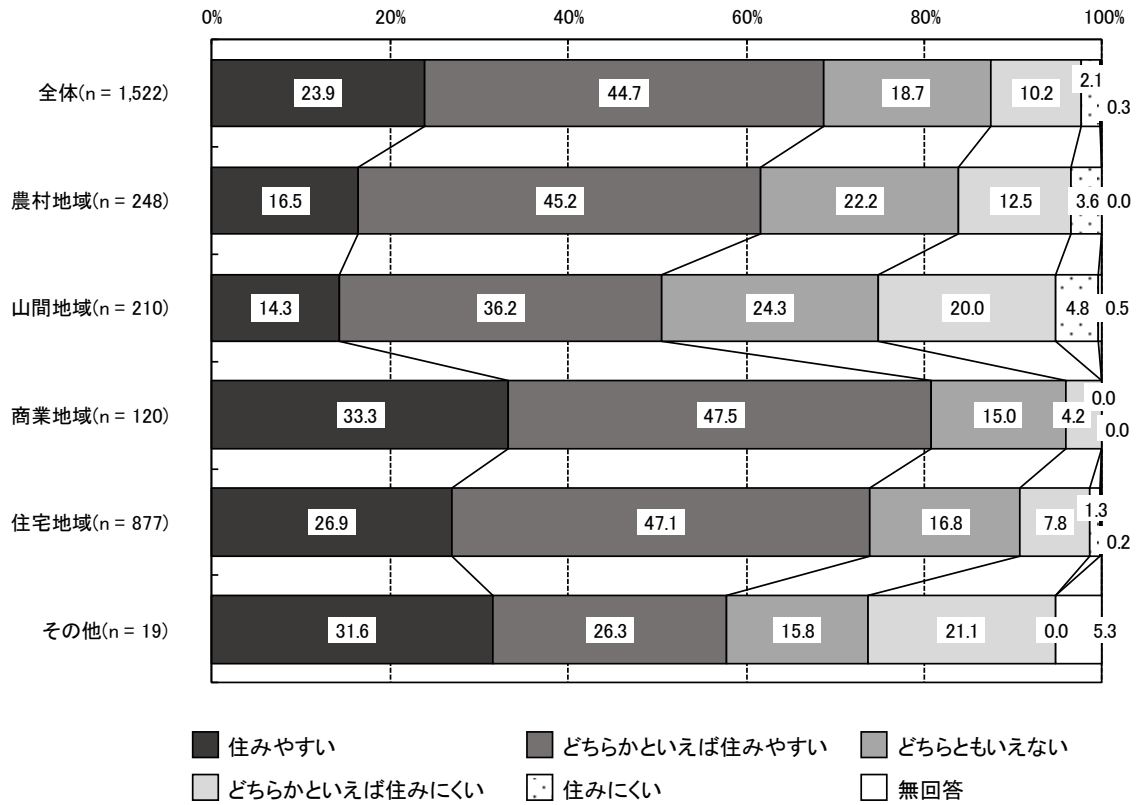
居住圏域別（図 6-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 49.6%と最も高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）で見ると、その他を除くいずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち商業地域が 47.5%と最も高くなっている。「住みやすい」でも 33.3%と、他の居住環境と比べて高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか





## 問6-2 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

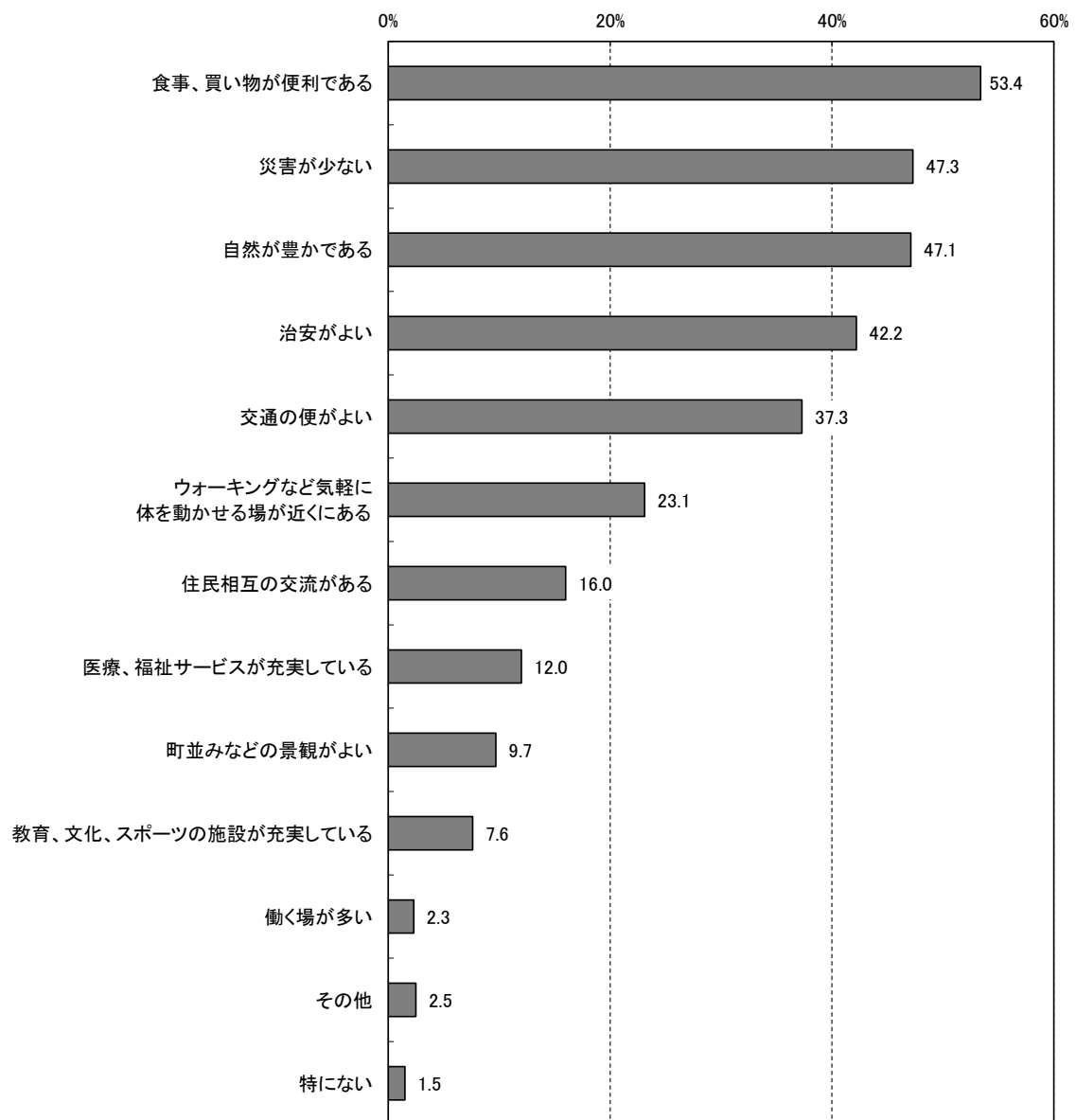
問6-2 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。  
 現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。  
 (いくつでも)

全体(図6-2-1)で見ると、「食事、買い物が便利である」が53.4%と最も高く、次いで「災害が少ない」(47.3%)、「自然が豊かである」(47.1%)、「治安がよい」(42.2%)、「交通の便がよい」(37.3%)の順となっている。

図6-2-1 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

回答者数(n = 1,045)※

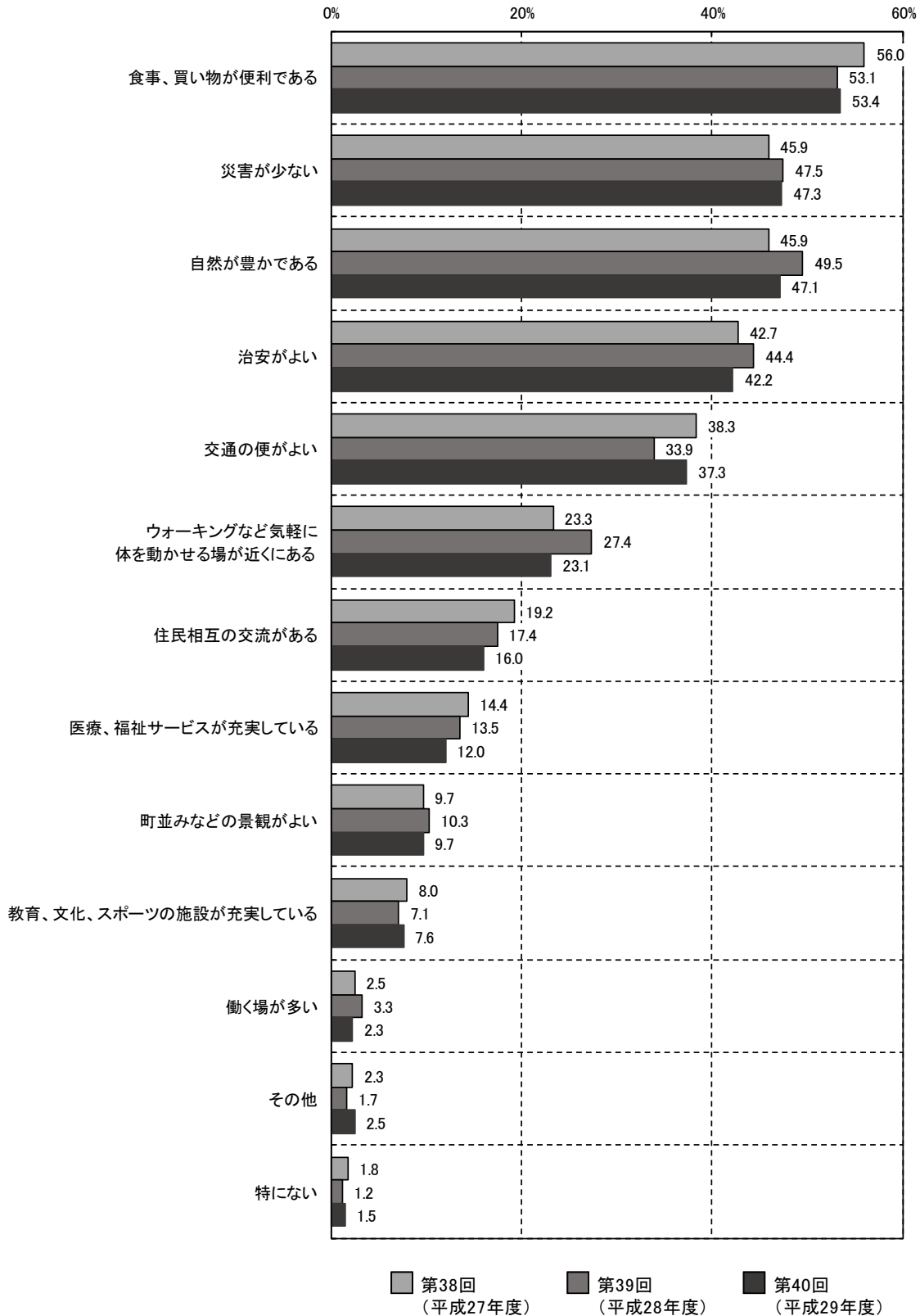
総回答数(N = 3,156)



※ 問6で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

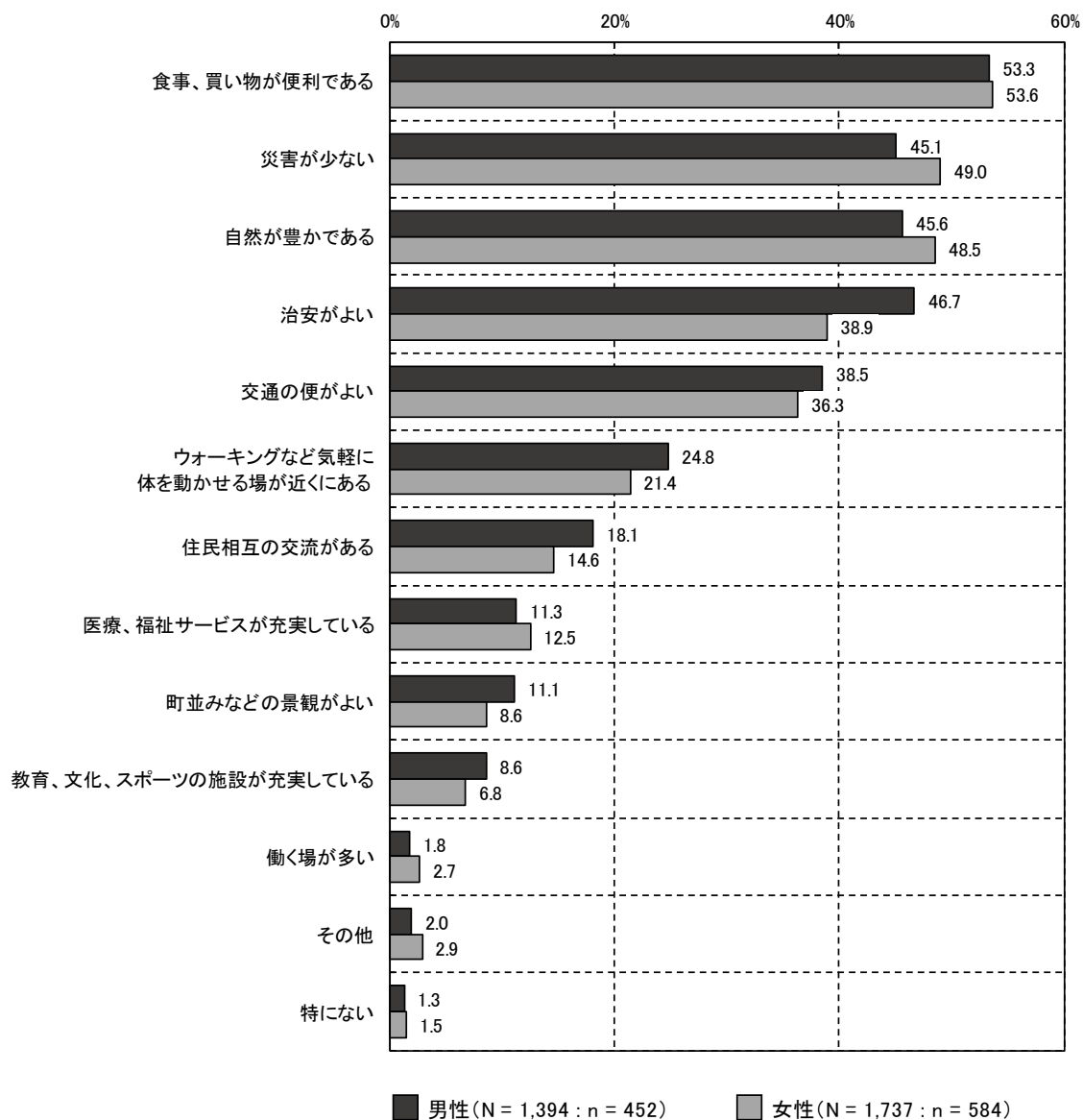
前々回・前回比較（図 6-2-2）で見ると、前々回・前回と同様に「食事、買い物が便利である」が最も高く、次いで「災害が少ない」（47.3%）、「自然が豊かである」（47.1%）の順となっている。前回の「自然が豊かである」、「災害が少ない」の順と逆転している。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）でみると、男女ともに「食事、買い物が便利である」が最も高くなっており、男性が 53.3%、女性が 53.6%となっている。「治安がよい」では、男性が女性より 7.8 ポイント高くなっている。

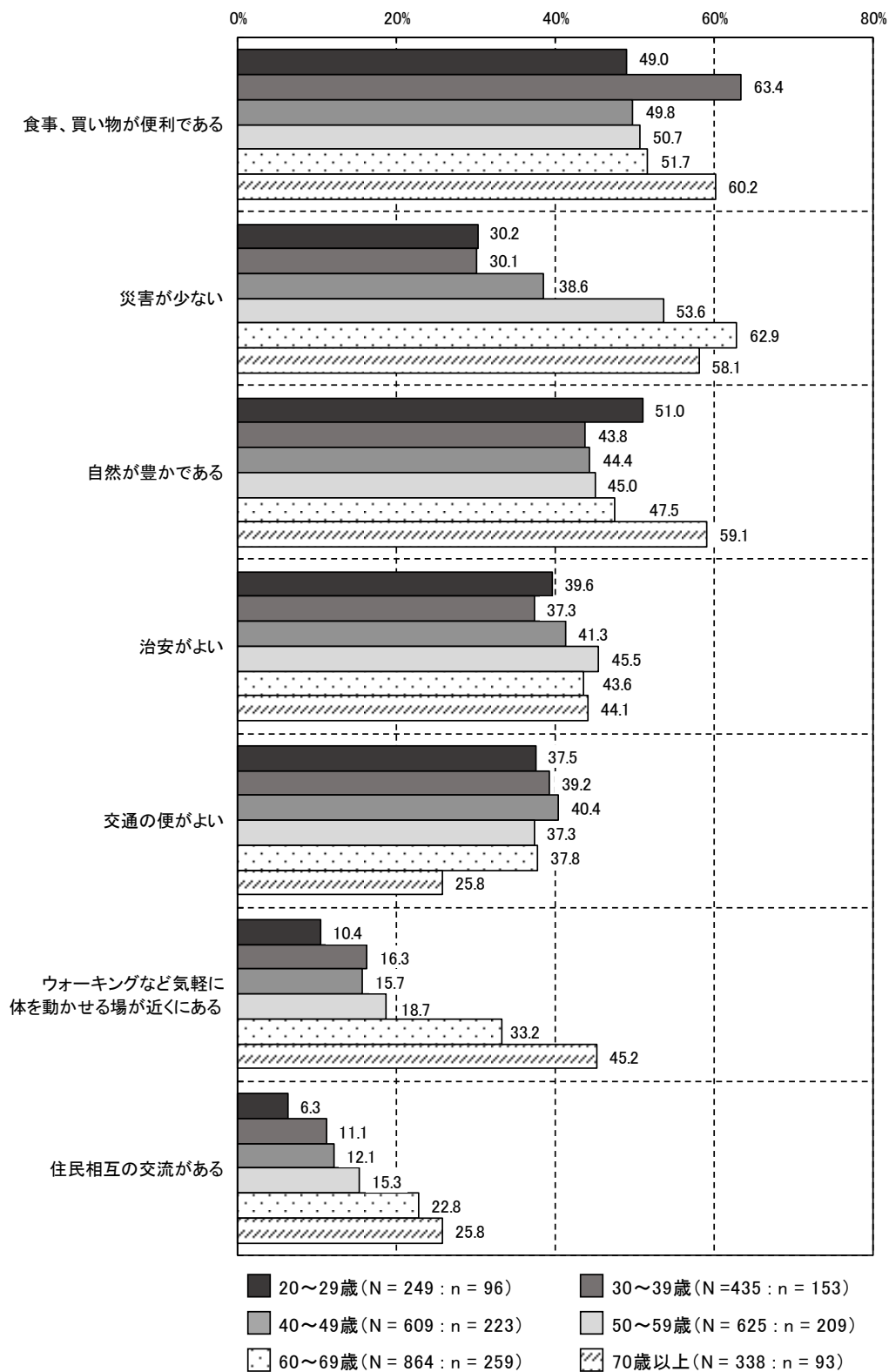
図 6-2-3 【性別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

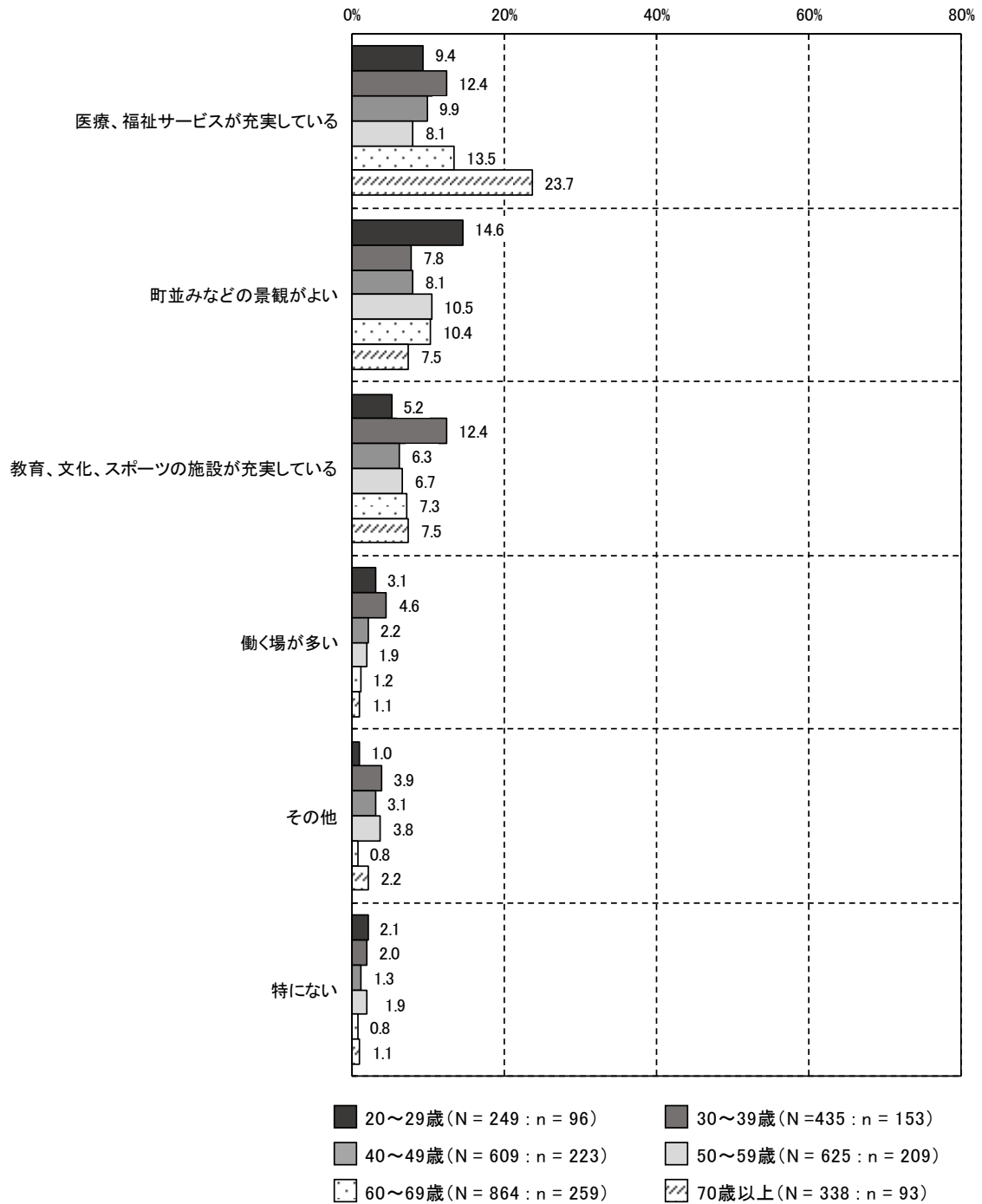
年代別（図 6-2-4）で見ると、30 歳代、40 歳代、70 歳以上で「食事、買い物が便利である」が最も高く、そのうち 30 歳代が 63.4%と最も高くなっている。20 歳代では「自然が豊かである」が 51.0%、50 歳代、60 歳代では「災害が少ない」が最も高く、そのうち 60 歳代が 62.9%と最も高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

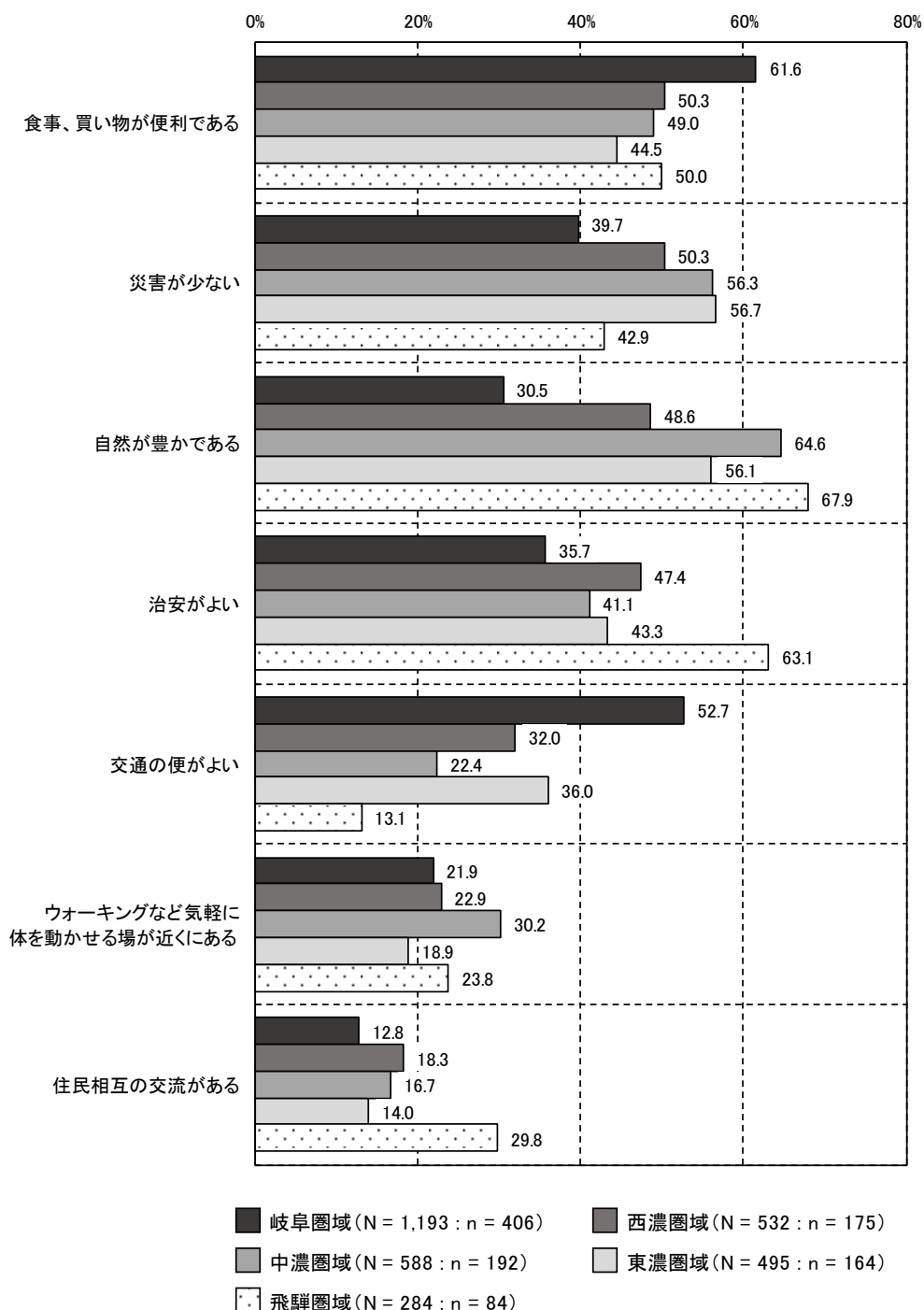
図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

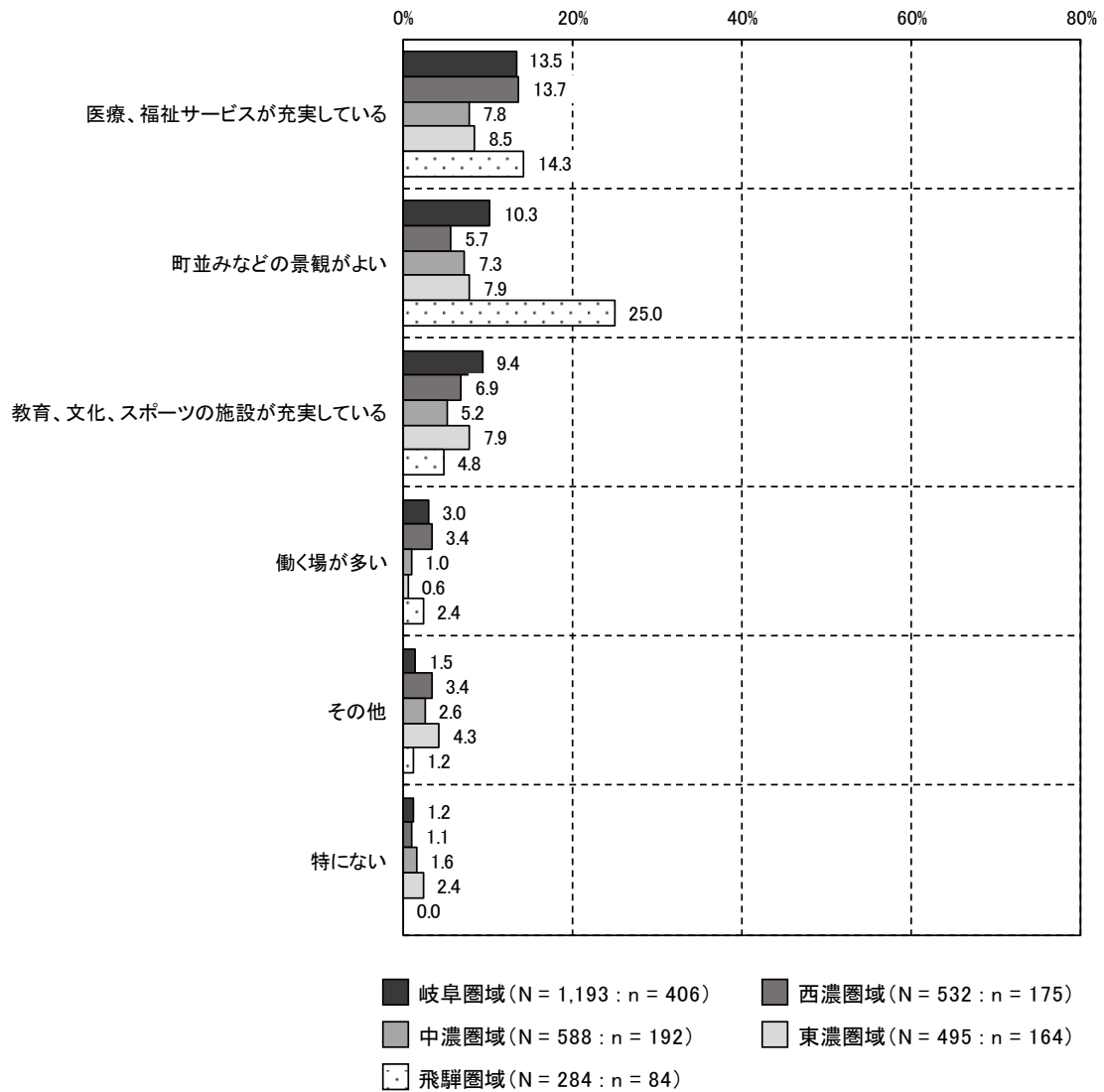
居住圏域別（図 6-2-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域で「食事、買い物が便利である」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 61.6%と最も高くなっている。東濃圏域では「災害が少ない」が 56.7%と最も高くなっている。中濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 67.9%と最も高くなっている。西濃圏域は「災害が少ない」でも 50.3%となっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

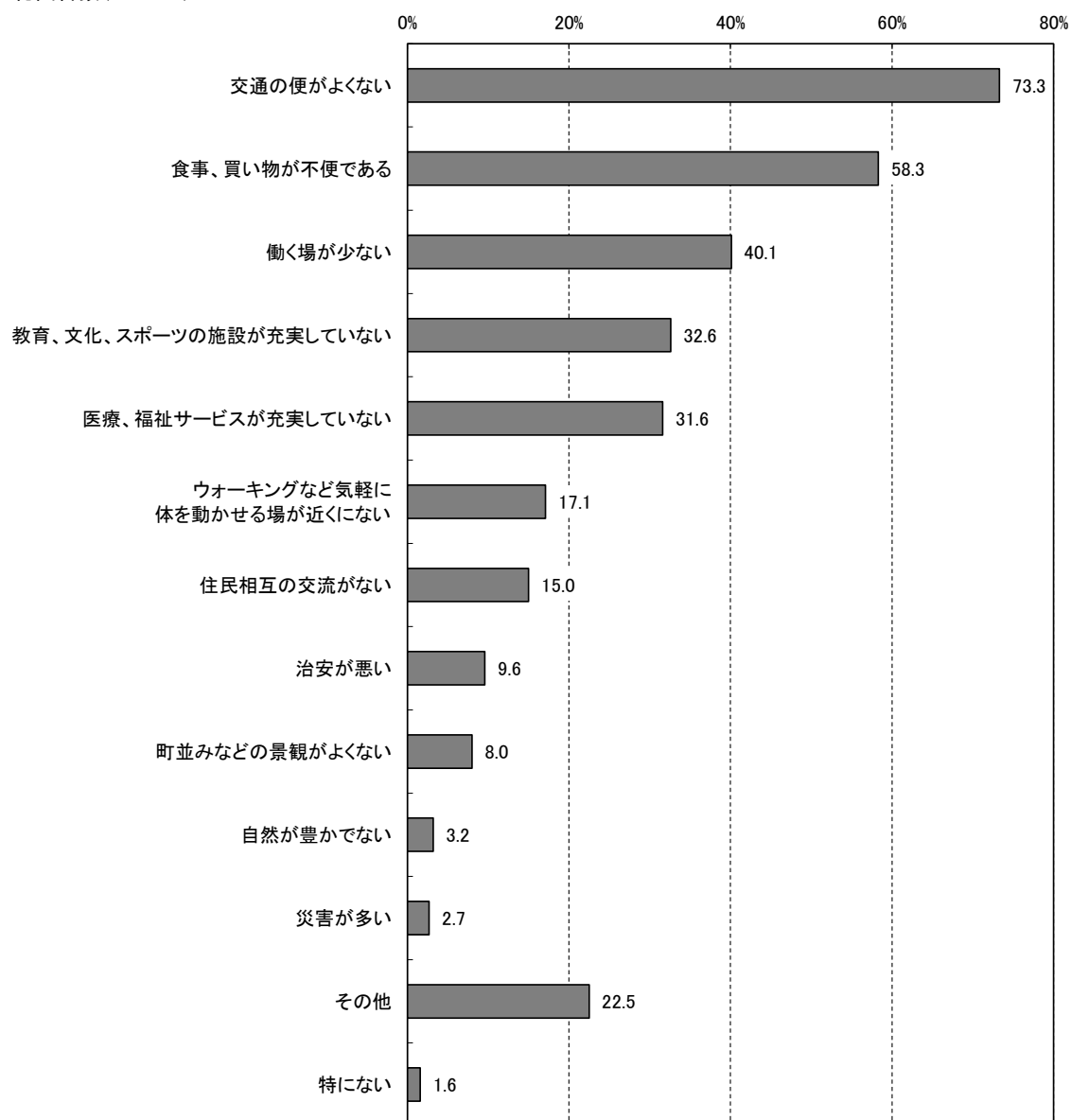
### 問6-3 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点

問6-3 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。  
現在お住まいの地域が住みにくいと感ずるのは、特にどのような点ですか。  
(いくつでも)

全体(図6-3-1)でみると、「交通の便がよくない」が73.3%と最も高く、次いで「食事、  
買い物に不便である」(58.3%)、「働く場が少ない」(40.1%)の順となっている。

図6-3-1 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点

回答者数(n=187)※  
総回答数(N=590)

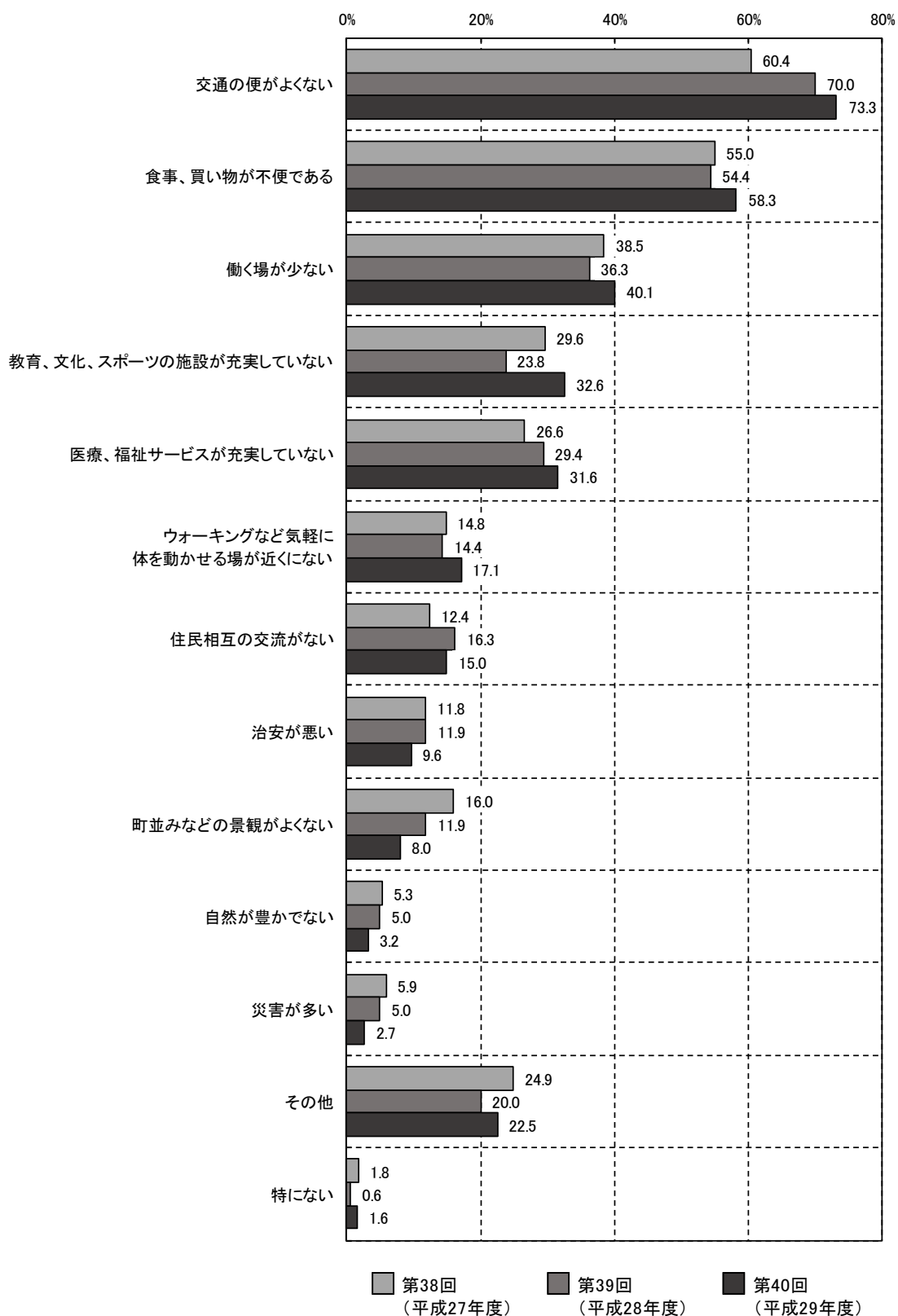


※ 問6で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ



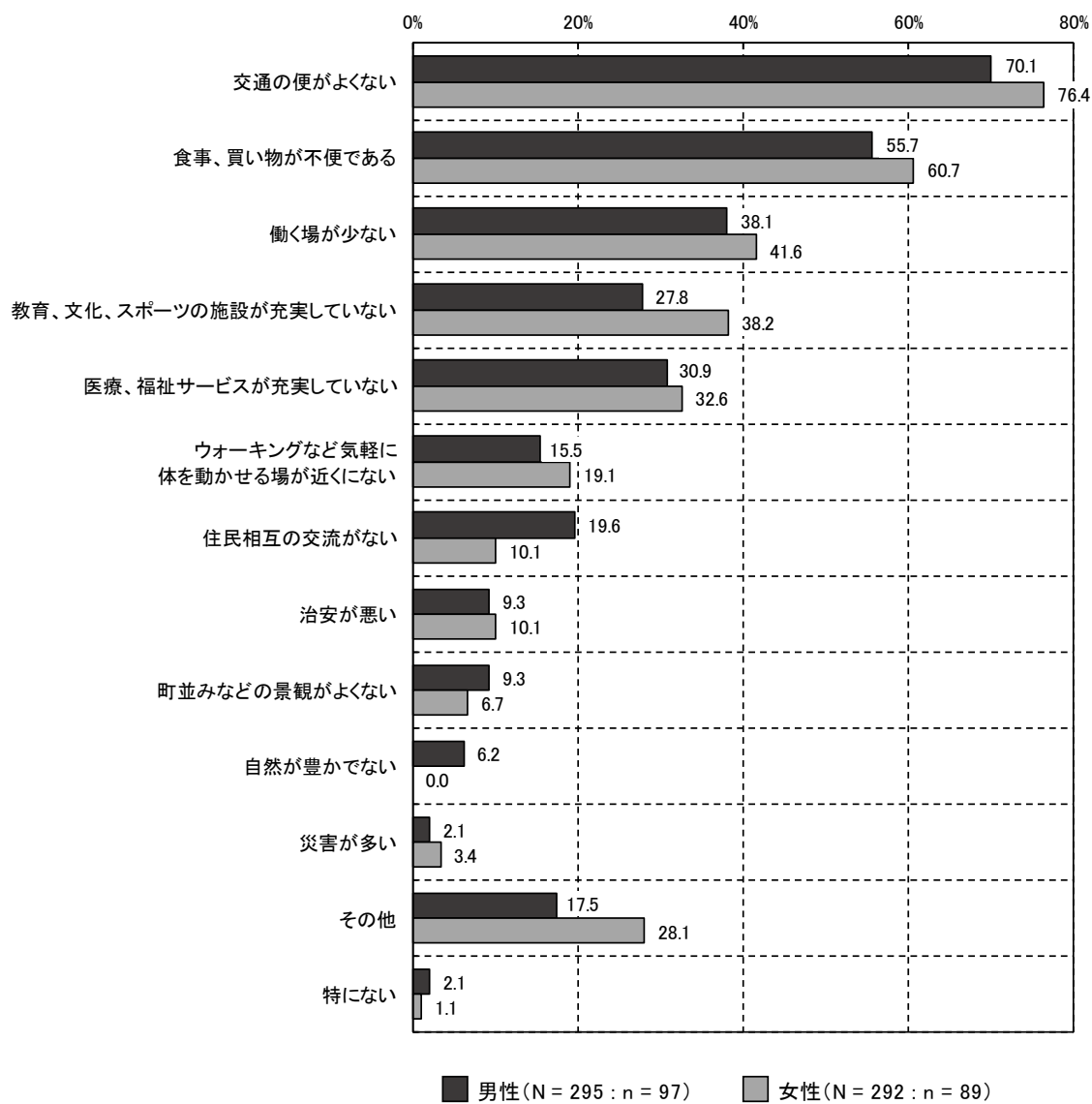
前々回・前回比較（図 6-3-2）でみると、前々回・前回と同様に「交通の便がよくない」は最も高く、前回に比べて3.3ポイント増加している。

図 6-3-2 【前々回・前回比較】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



性別（図 6-3-3）で見ると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高くなっており、女性が男性より 6.3 ポイント高くなっている。次いで「食事、買い物不便である」が高く、女性が男性より 5.0 ポイント高くなっている。

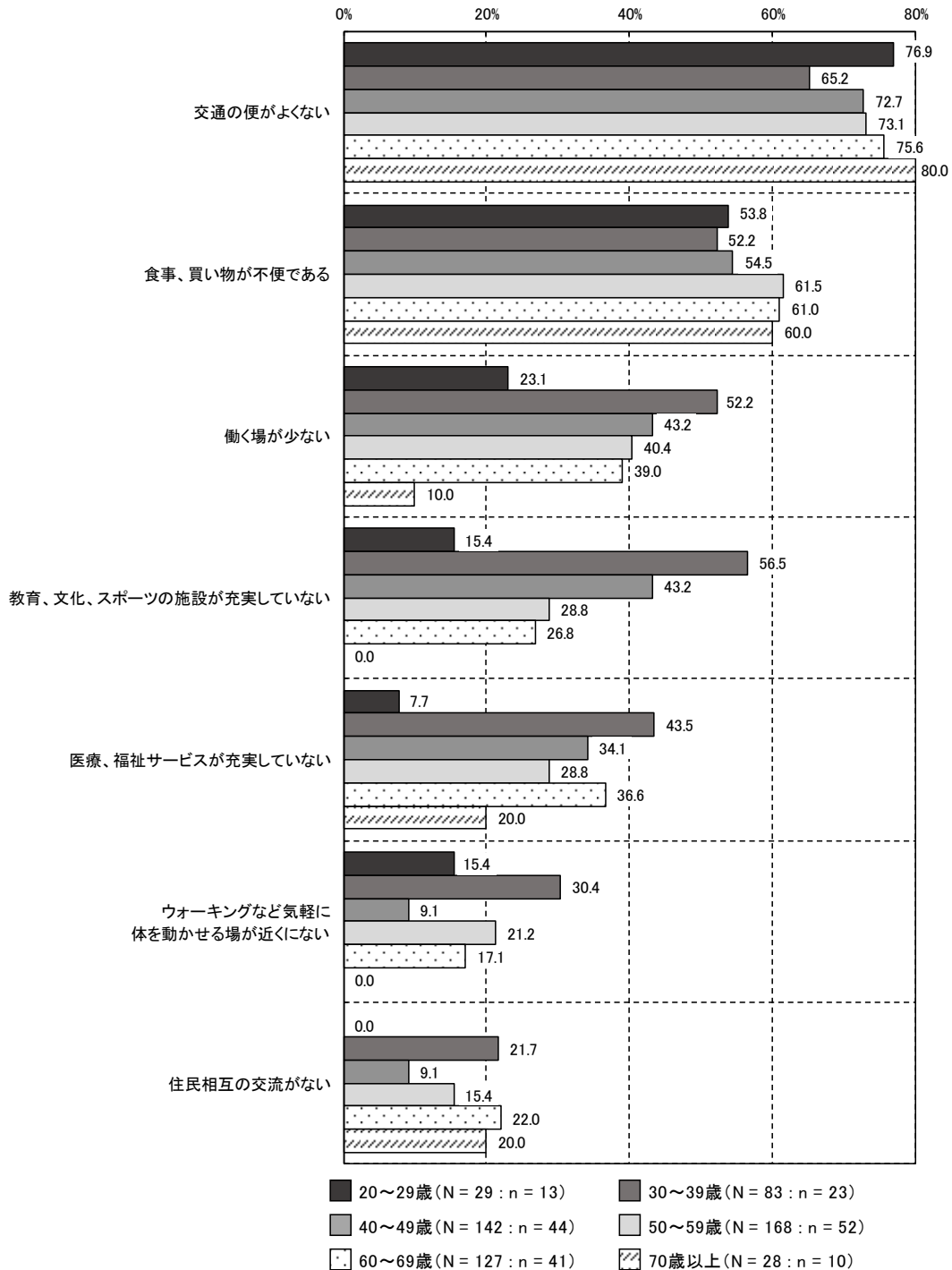
図 6-3-3 【性別】住んでいる地域が住みにくいと感ずる点



※ N=総回答数 n=回答者数

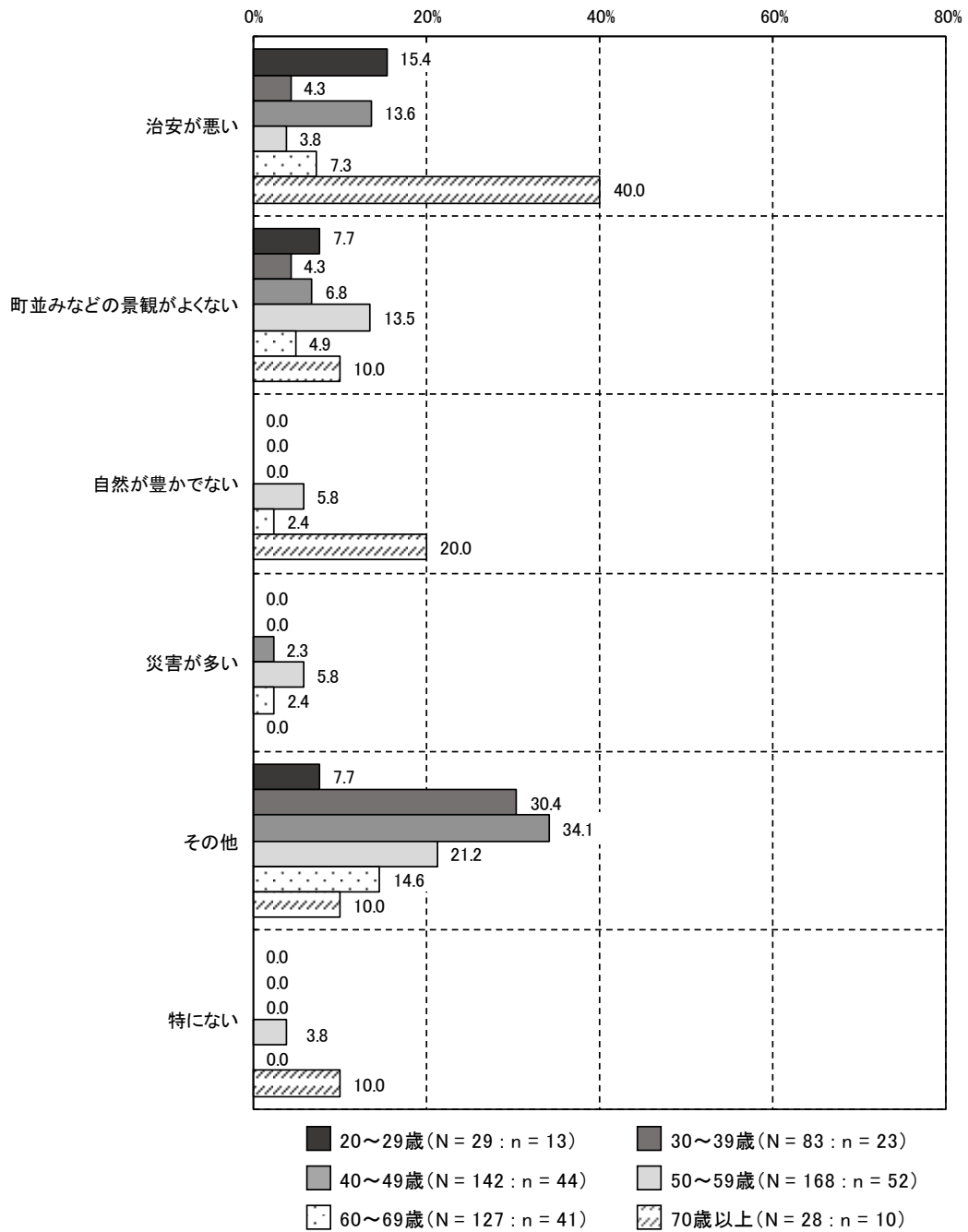
年代別（図 6-3-4）でみると、いずれの年代においても、「交通の便がよくない」が最も高く、そのうち70歳以上が80.0%と最も高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

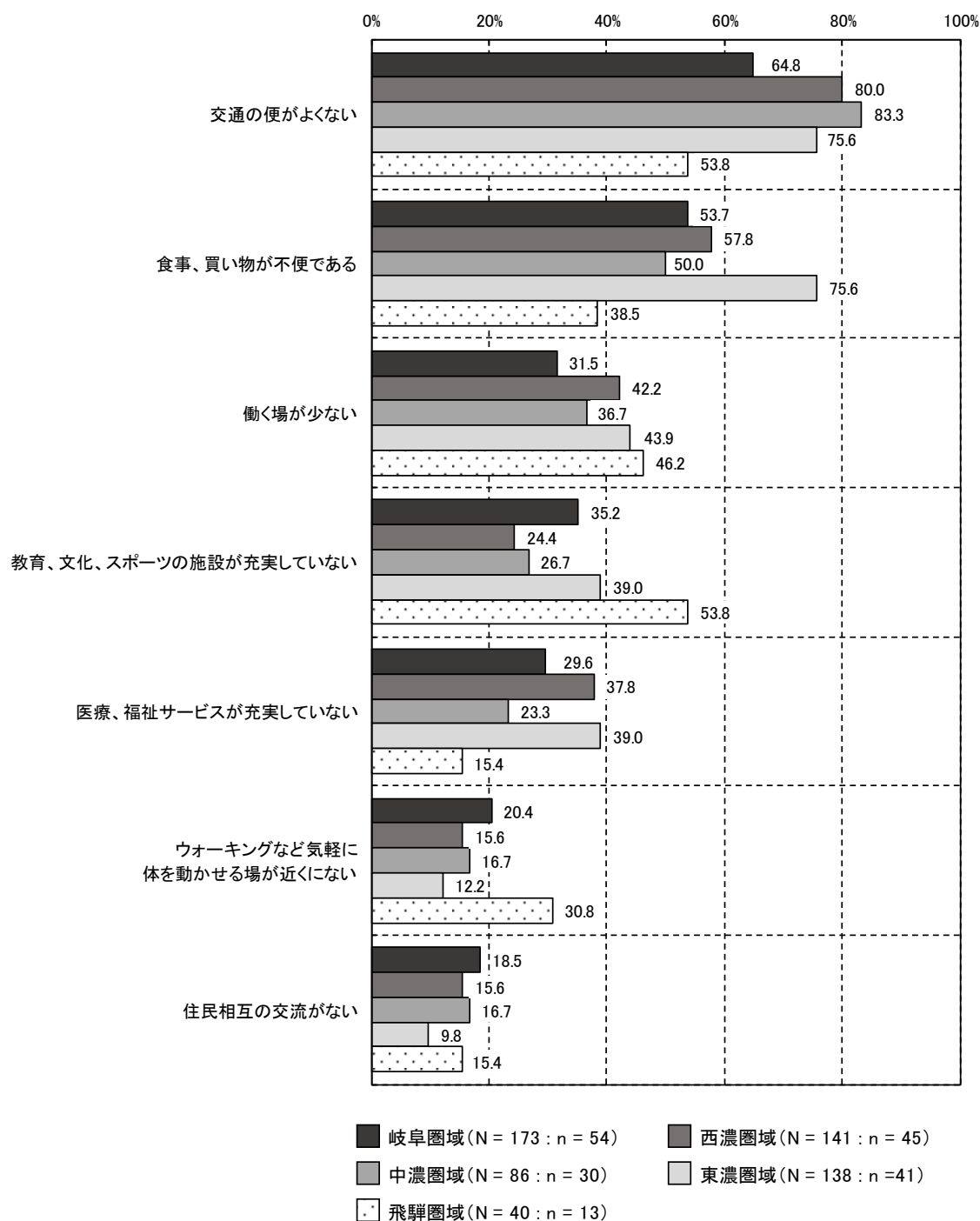
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点 (続き)



※ N=総回答数 n=回答者数

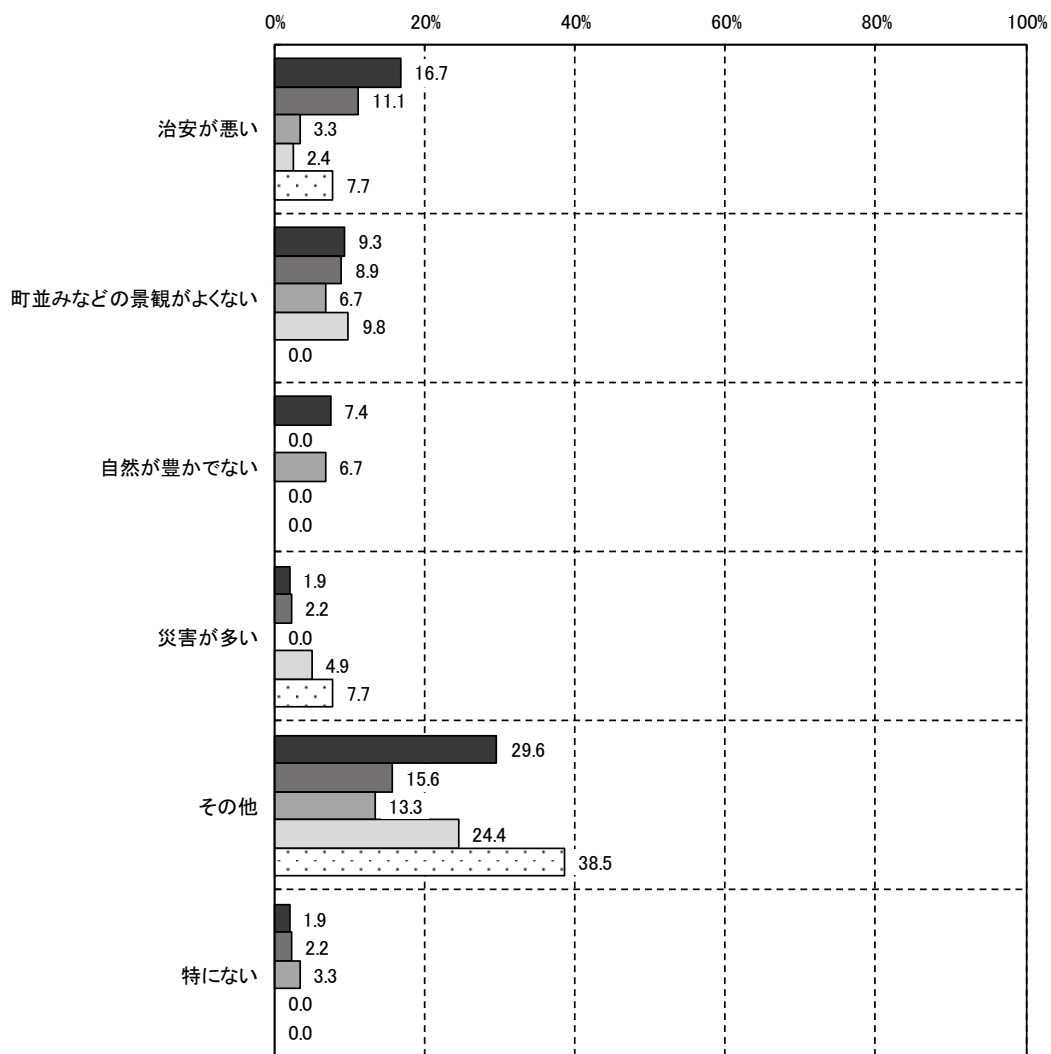
居住圏域別（図 6-3-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「交通の便がよくない」が最も高く、そのうち中濃圏域が 83.3%と最も高くなっている。「食事、買い物が不便である」は東濃圏域が 75.6%、「教育、文化、スポーツの施設が充実していない」では飛騨圏域が 53.8%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



■ 岐阜圏域 (N = 173 : n = 54)      ■ 西濃圏域 (N = 141 : n = 45)  
 ■ 中濃圏域 (N = 86 : n = 30)      ■ 東濃圏域 (N = 138 : n = 41)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 40 : n = 13)

※ N=総回答数 n=回答者数

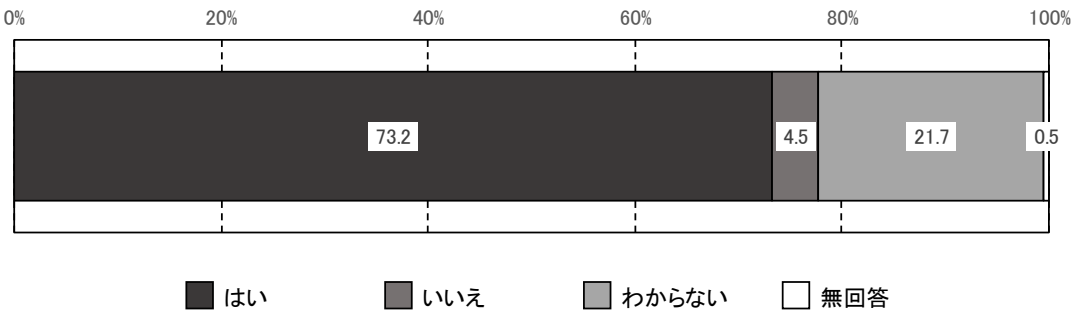
問7 今後も岐阜県に住み続けたいか

問7 あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。(1つだけ)

全体(図7-1)で見ると、「はい」が73.2%と最も高くなっている。

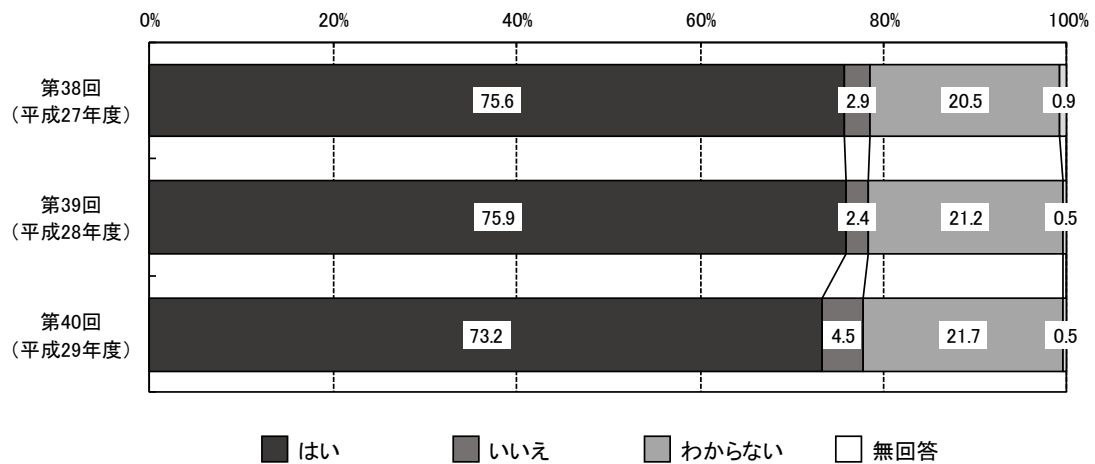
図7-1 今後も岐阜県に住み続けたいか

回答者数(n = 1,522)



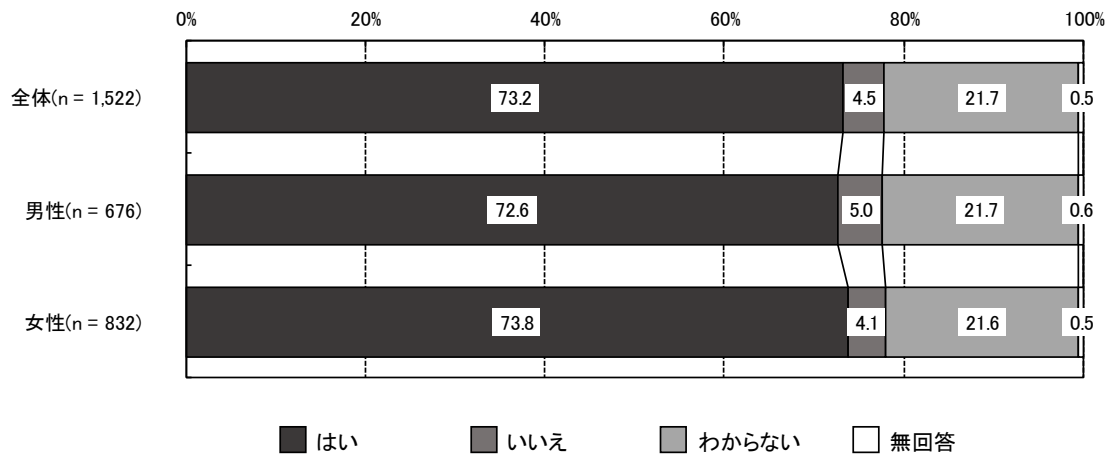
前々回・前回比較(図7-2)で見ると、前々回・前回と同様に「はい」が最も高く、前回に比べて2.7ポイント減少している。「いいえ」では2.1ポイント増加している。

図7-2 【前々回・前回比較】 今後も岐阜県に住み続けたいか



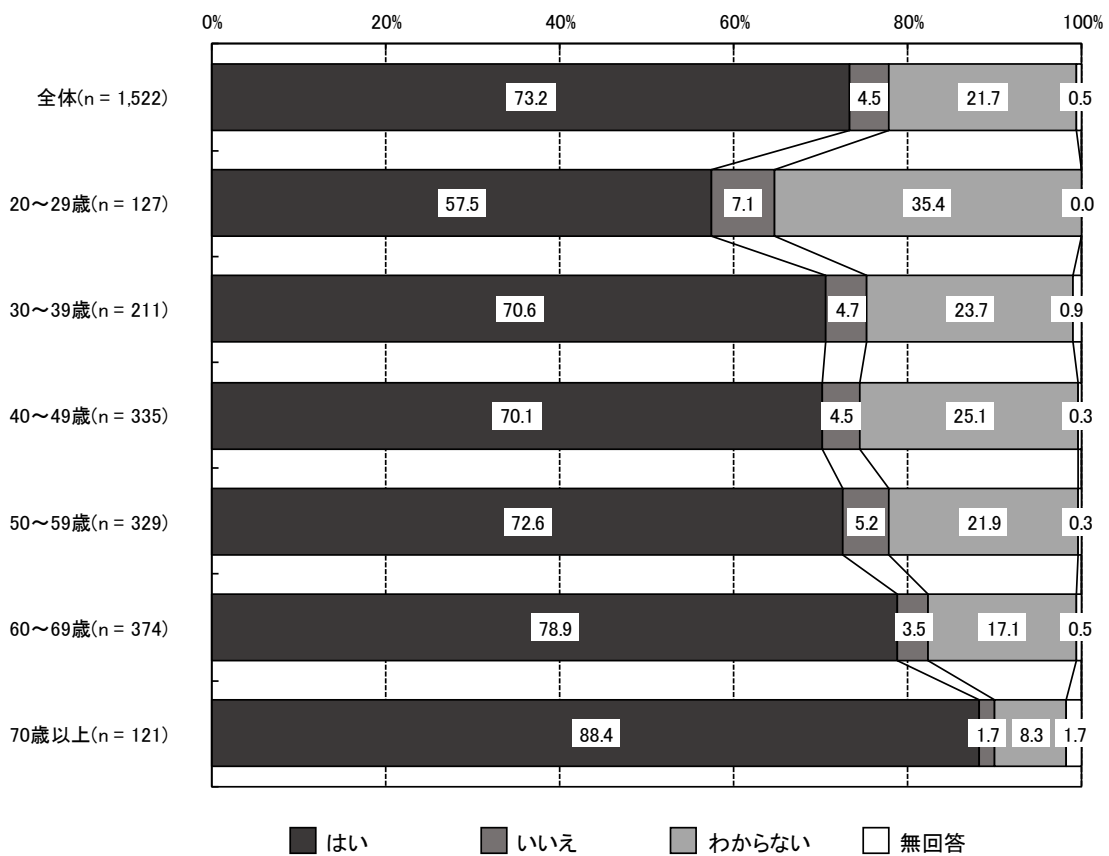
性別（図 7-3）で見ると、男女ともに「はい」が最も高くなっており、女性が男性より 1.2 ポイント高くなっている。

図 7-3 【性別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



年代別（図 7-4）で見ると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 88.4%と最も高くなっている。

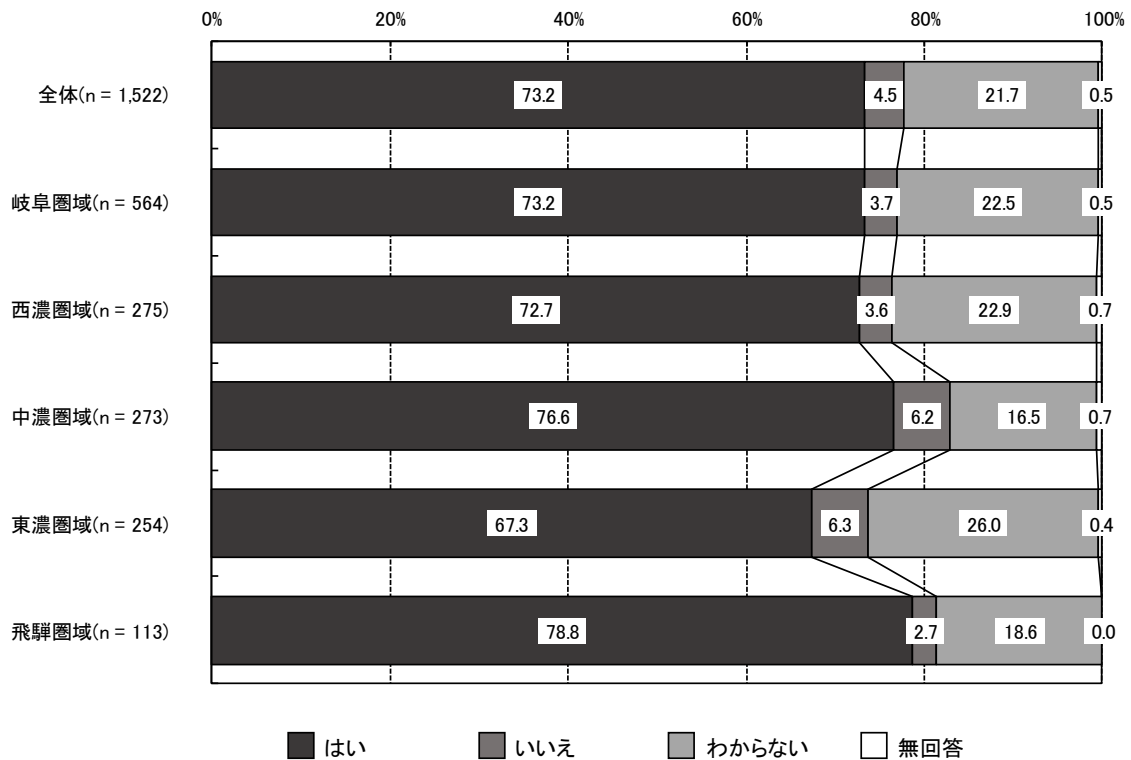
図 7-4 【年代別】 今後も岐阜県に住み続けたいか





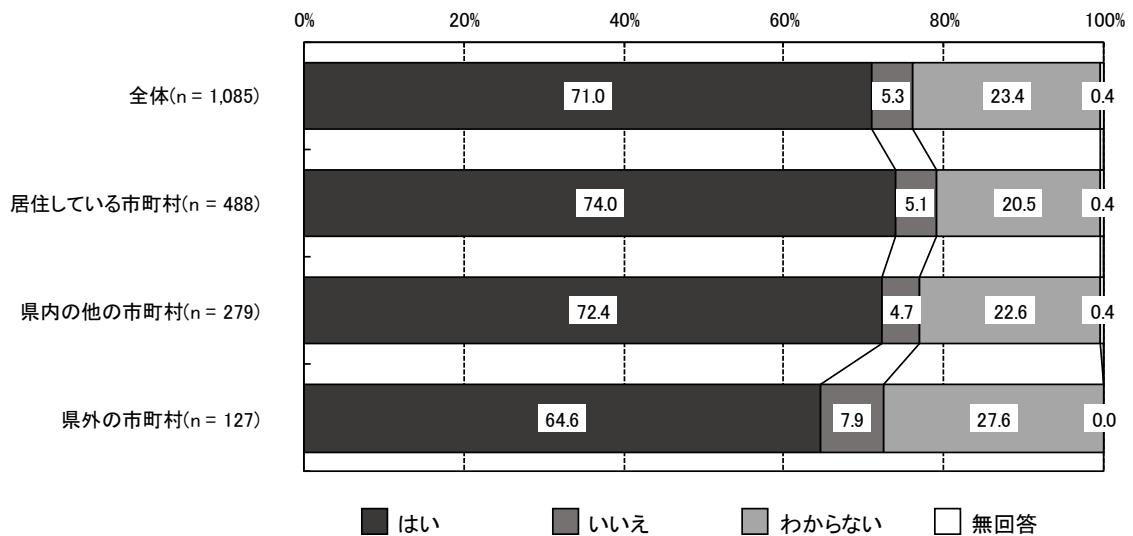
居住圏域別（図 7-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 78.8%と最も高くなっている。

図 7-5 【居住圏域別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



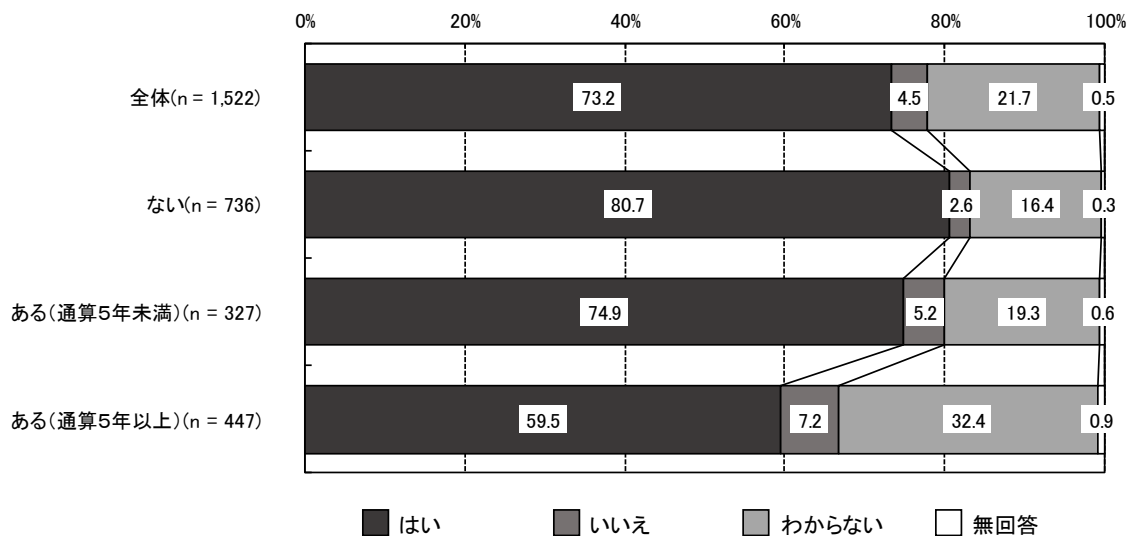
通勤、通学先別（図 7-6）で見ると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち居住している市町村が 74.0%と最も高くなっている。

図 7-6 【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



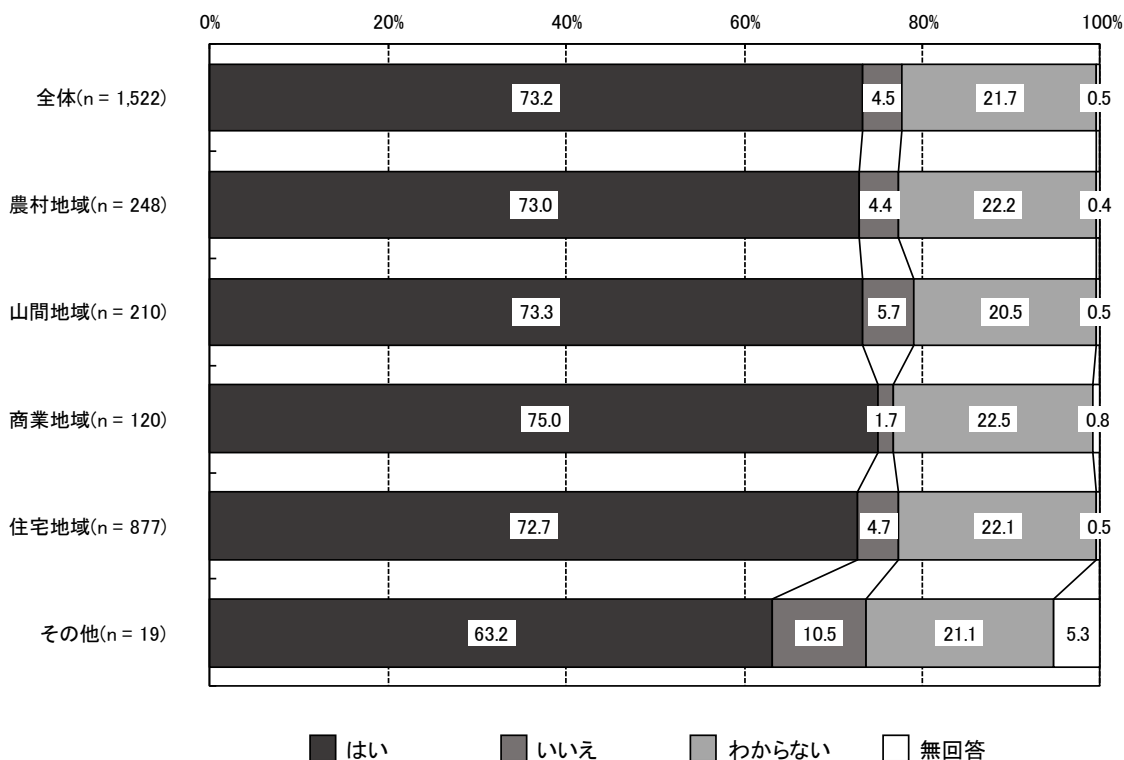
県外居住経験の有無別（図 7-7）で見ると、県外居住経験がない人は、ある人と比べて「はい」が 80.7%と高くなっている。

図 7-7 【県外居住経験の有無別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



居住環境別（図 7-8）で見ると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高く、そのうち商業地域が 75.0%と最も高くなっている。

図 7-8 【居住環境別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



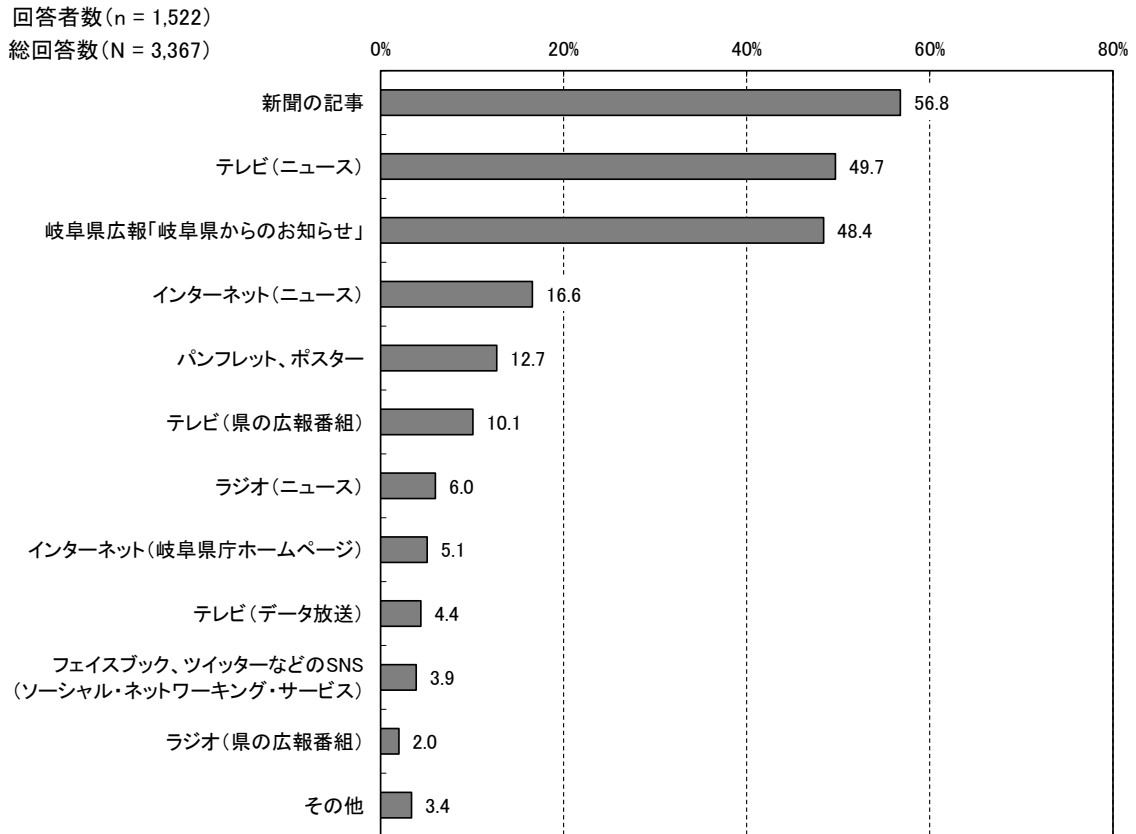
## 2. 2 県の取り組み全般について

### 問8 施策や事業についての情報の入手方法

問8 あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。  
(いくつでも)

全体（図8-1）で見ると、「新聞の記事」が56.8%と最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」（49.7%）、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」（48.4%）の順となっている。

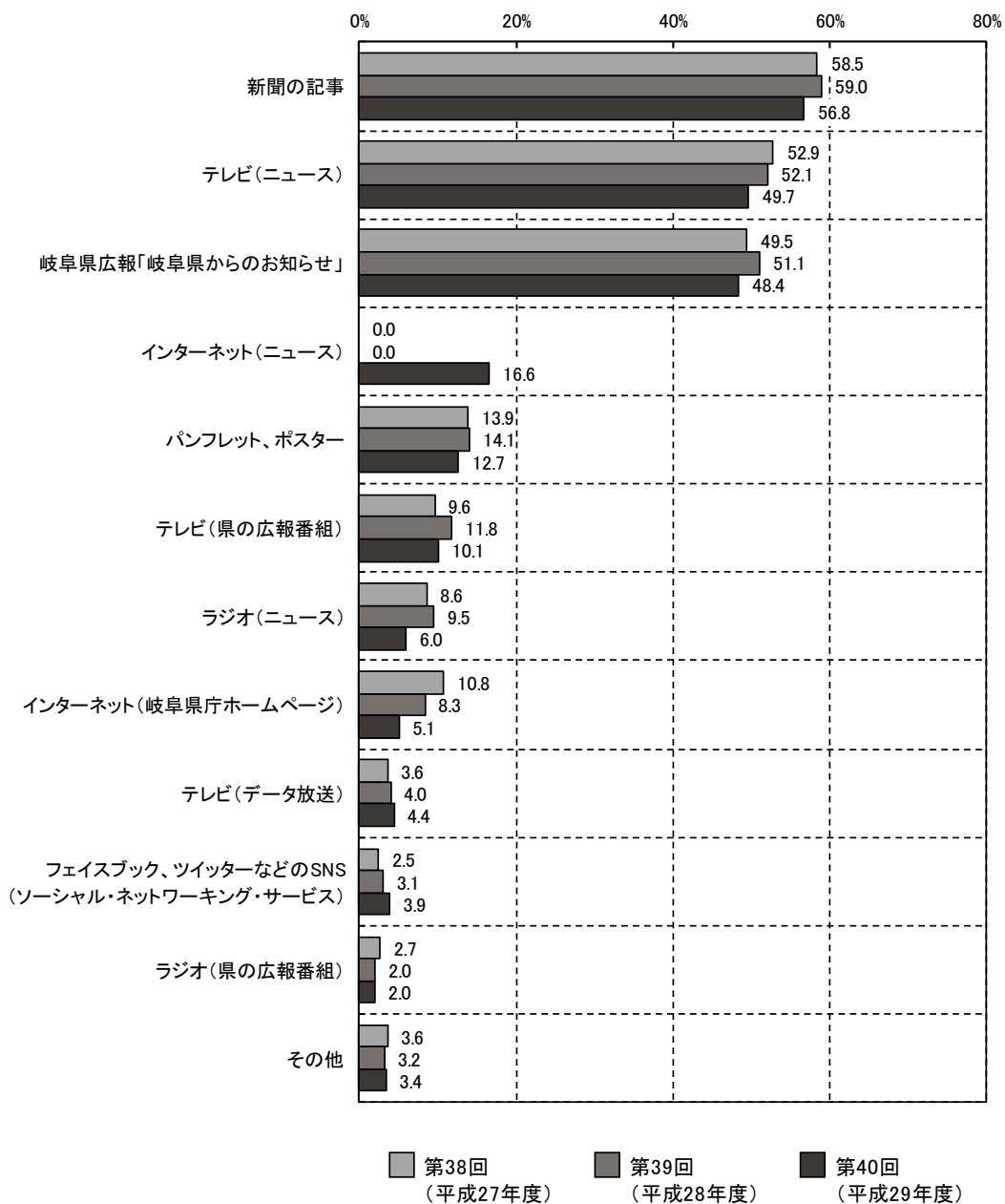
図8-1 施策や事業についての情報の入手方法



※ 選択肢、「インターネット(ニュース)」は今回調査より

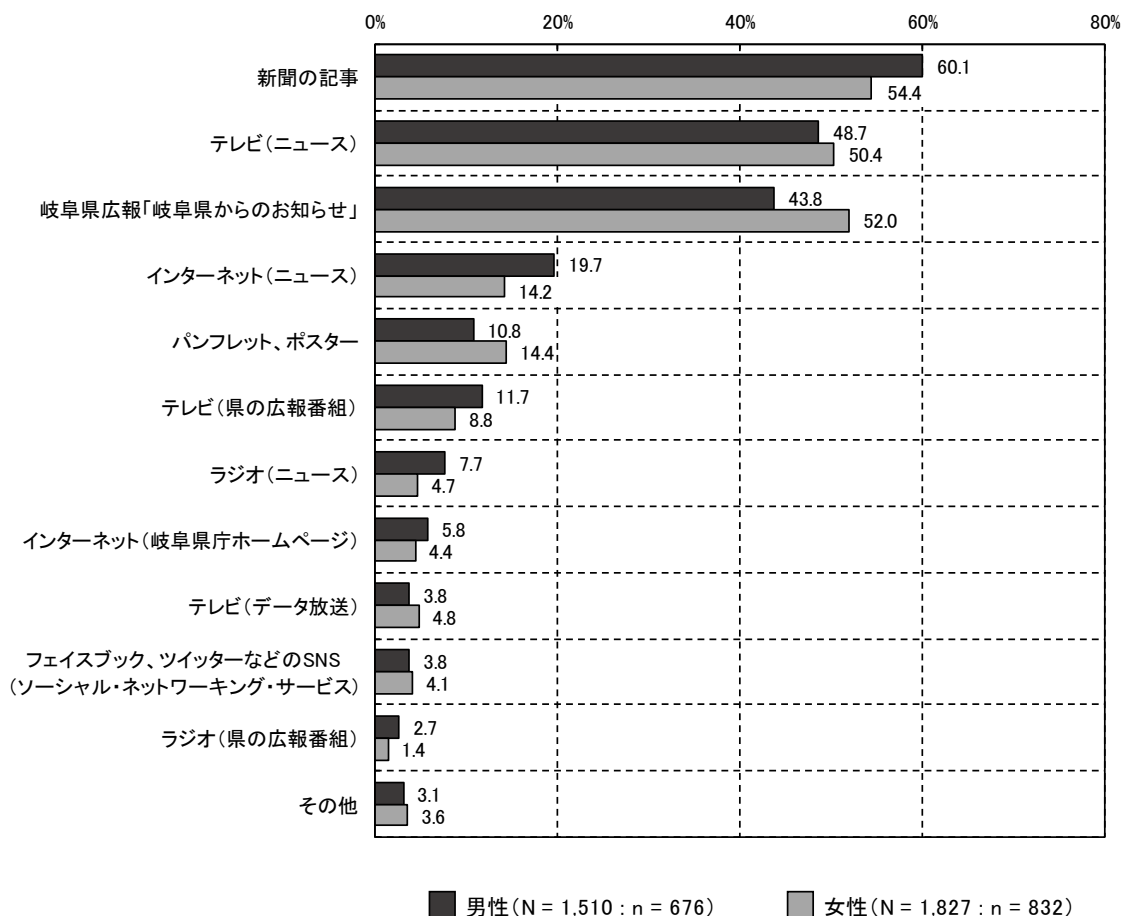
前々回・前回比較（図 8-2）で見ると、前々回・前回と同様に「新聞の記事」が最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」の順となっている。

図 8-2 【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）で見ると、男女ともに「新聞の記事」が最も高く、男性が女性より 5.7 ポイント高くなっている。女性は「テレビ（ニュース）」、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が、男性より高くなっている。

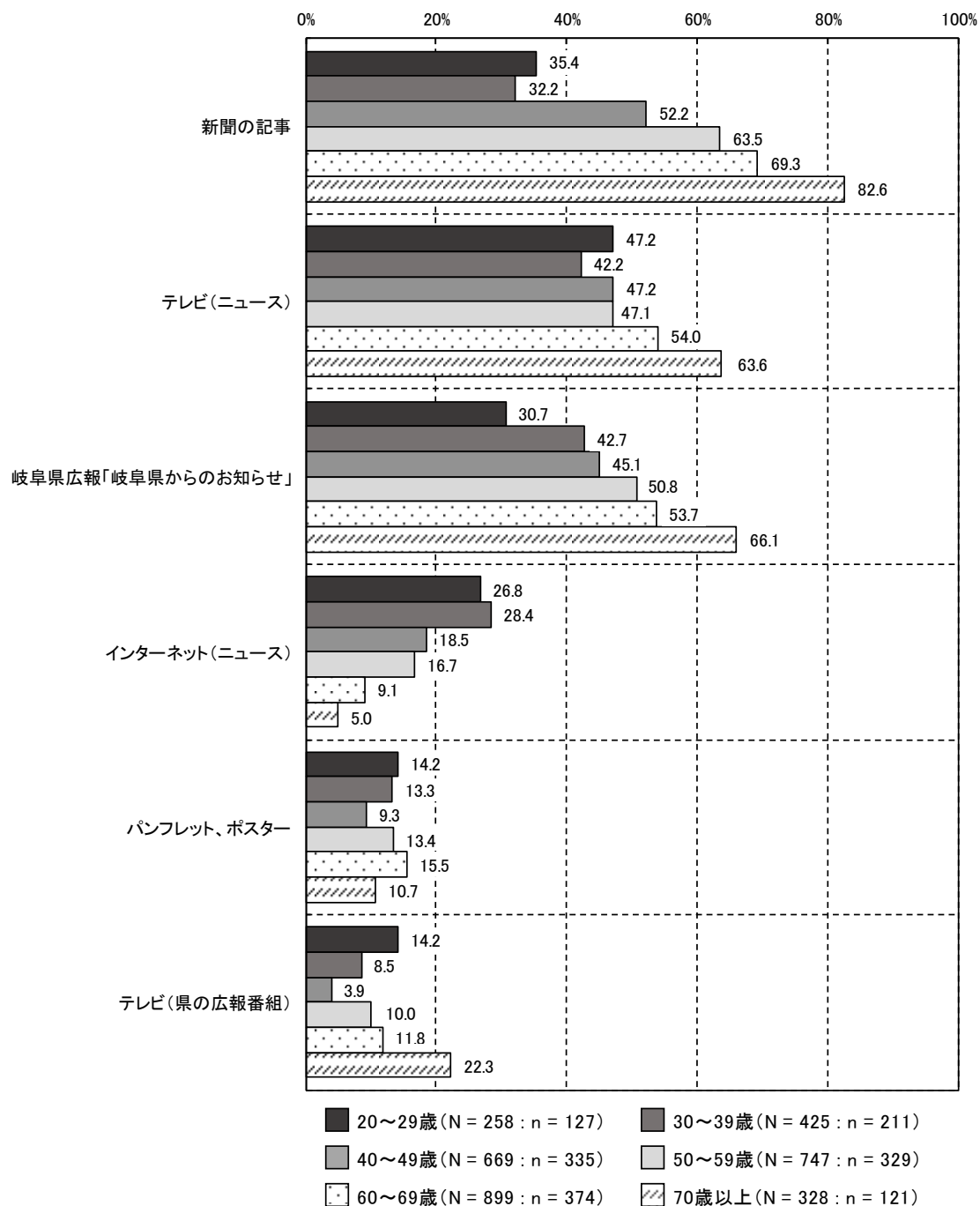
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

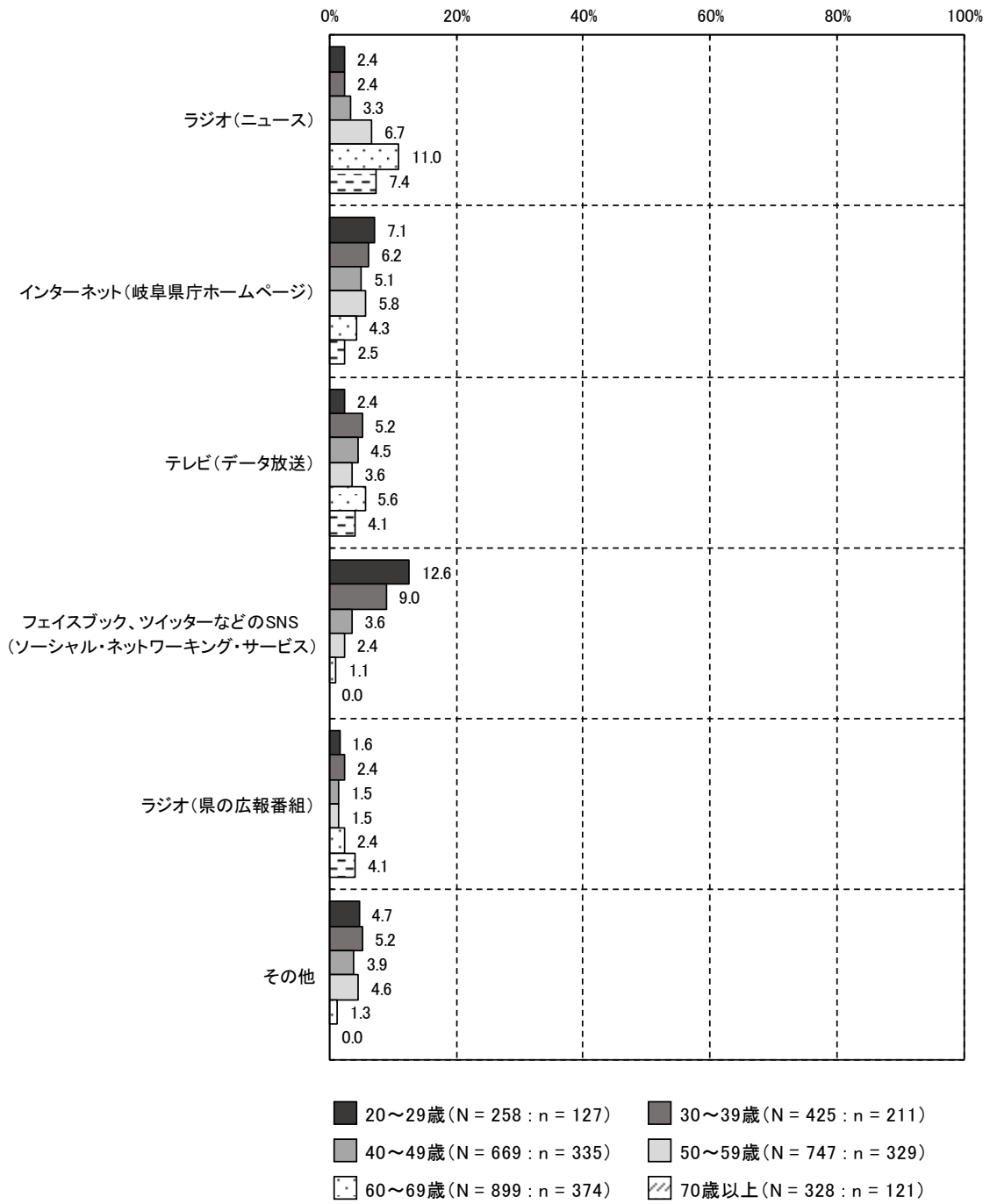
年代別（図 8-4）で見ると、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても「新聞の記事」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 82.6%と最も高くなっている。20 歳代では「テレビ（ニュース）」が 47.2%、30 歳代では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が 42.7%と、それぞれ最も高くなっている。

図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

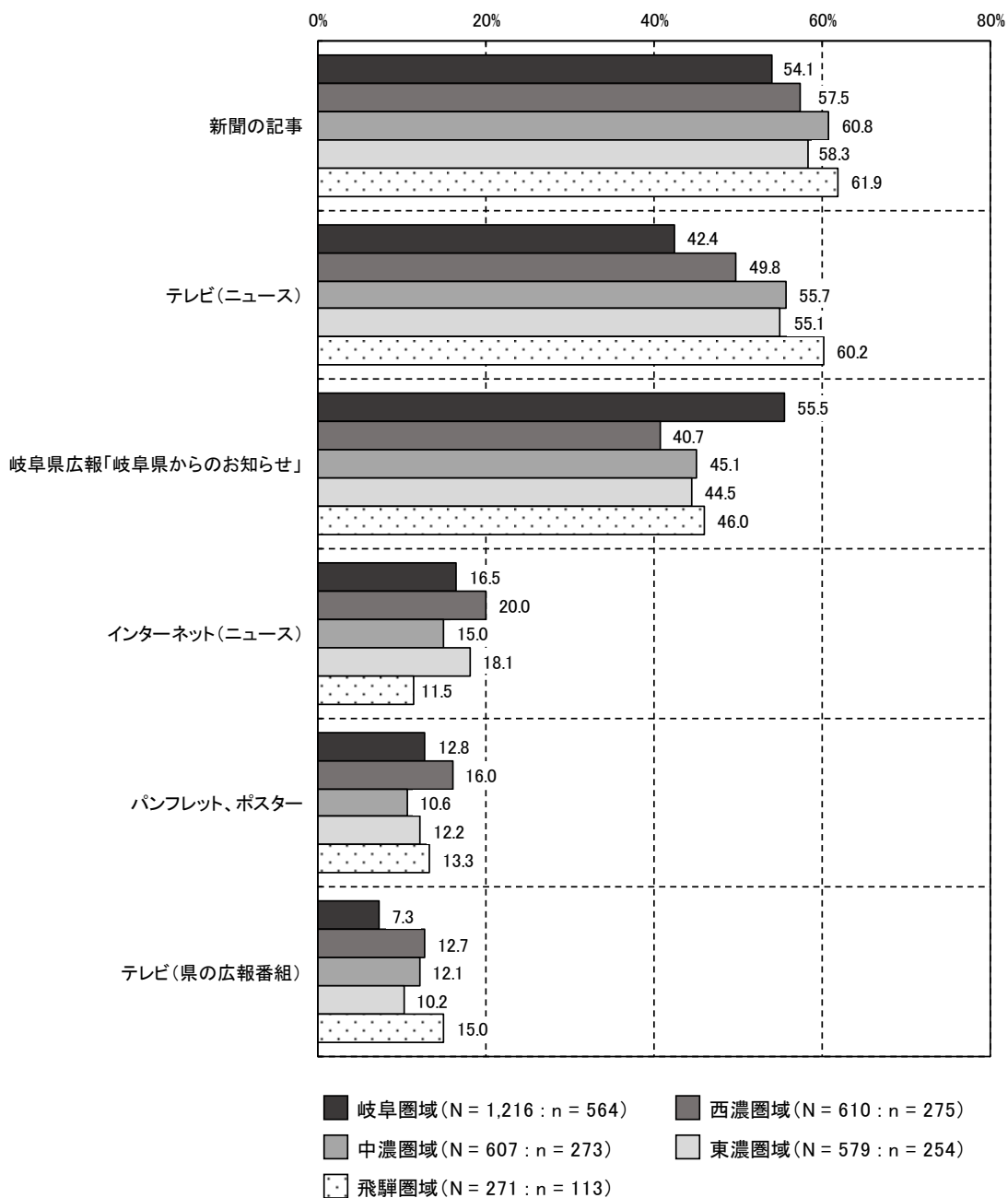
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 8-5）でみると、岐阜圏域を除くいずれの居住圏域においても「新聞の記事」が最も高く、そのうち飛驒圏域が 61.9%と最も高くなっている。岐阜圏域では「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が 55.5%と最も高くなっている。

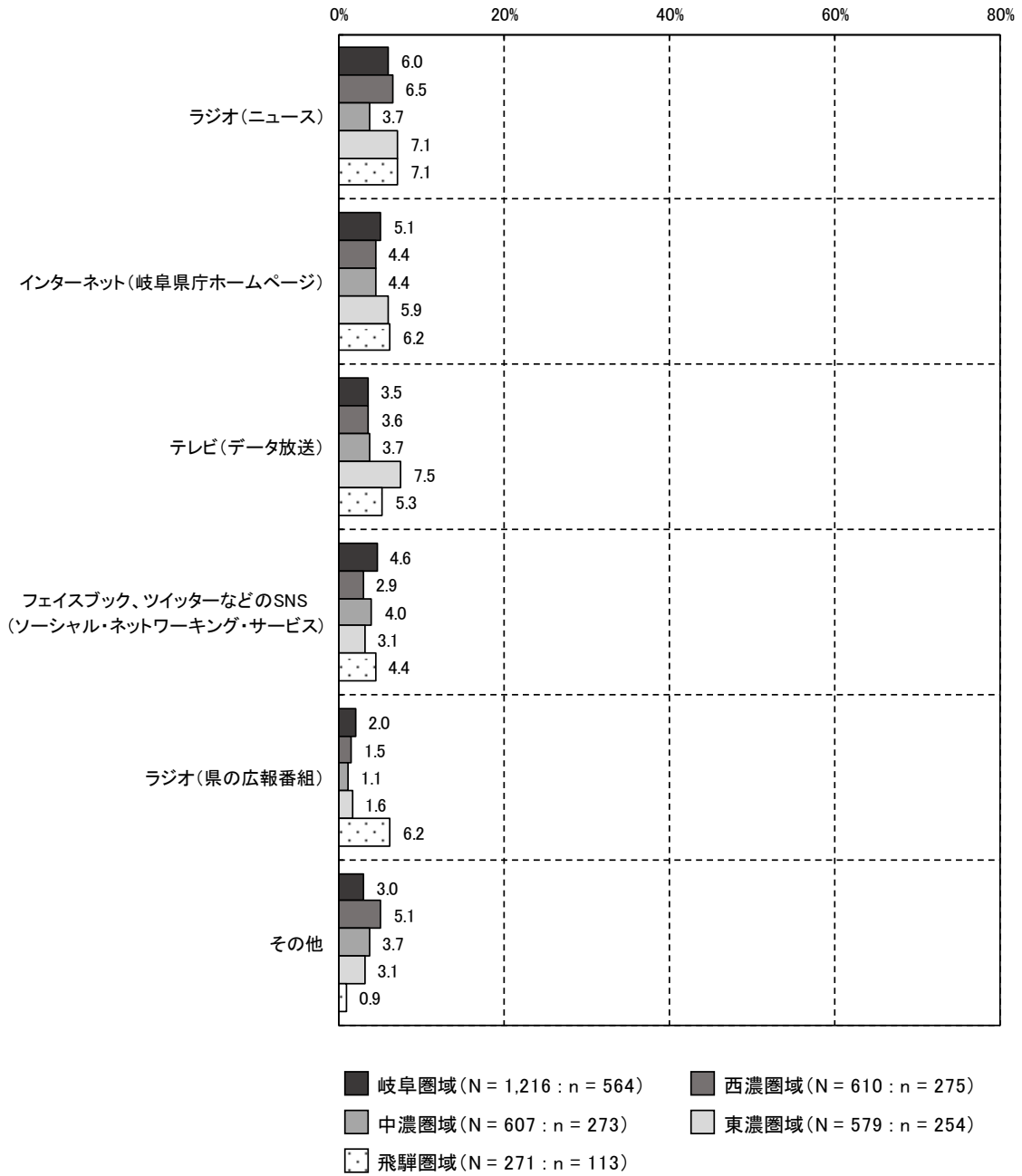
図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数



図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

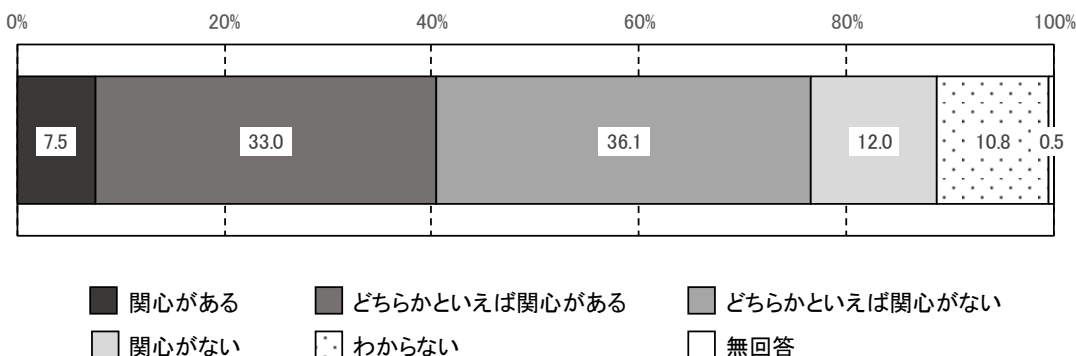
### 問9 県事業への関心の有無

問9 あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。  
(1つだけ)

全体(図9-1)でみると、「どちらかといえば関心がない」が36.1%と最も高く、次いで「どちらかとかえれば関心がある」(33.0%)、「関心がない」(12.0%)の順となっている。

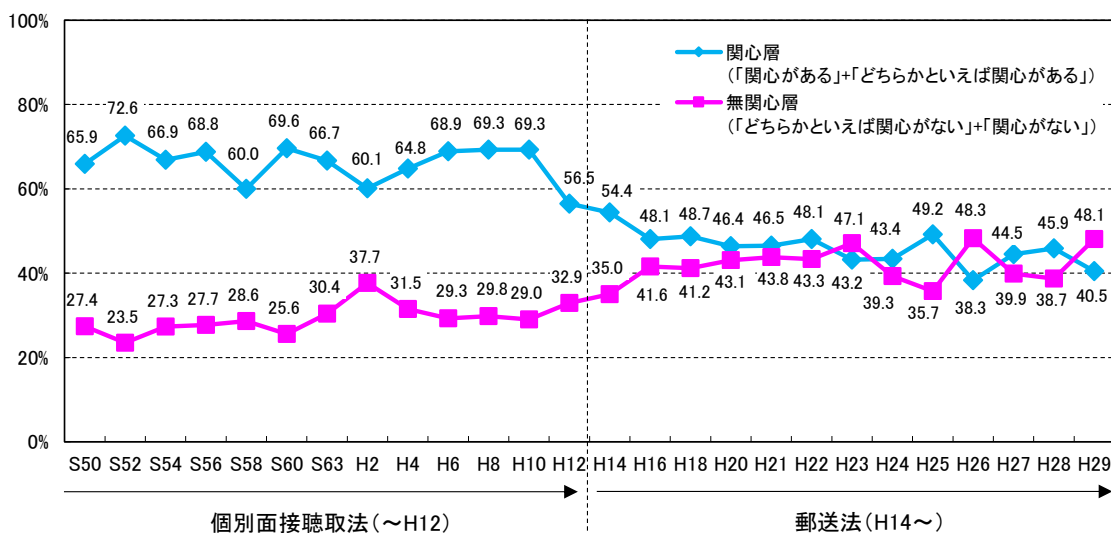
図9-1 県事業への関心の有無

回答者数(n = 1,522)



経年変化(図9-2)でみると、前回に比べて「関心層」(「関心がある」+「どちらかといえれば関心がある」)は5.4ポイント減少し、「無関心層」(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)は9.4ポイント増加しており、「無関心層」が「関心層」を逆転している。

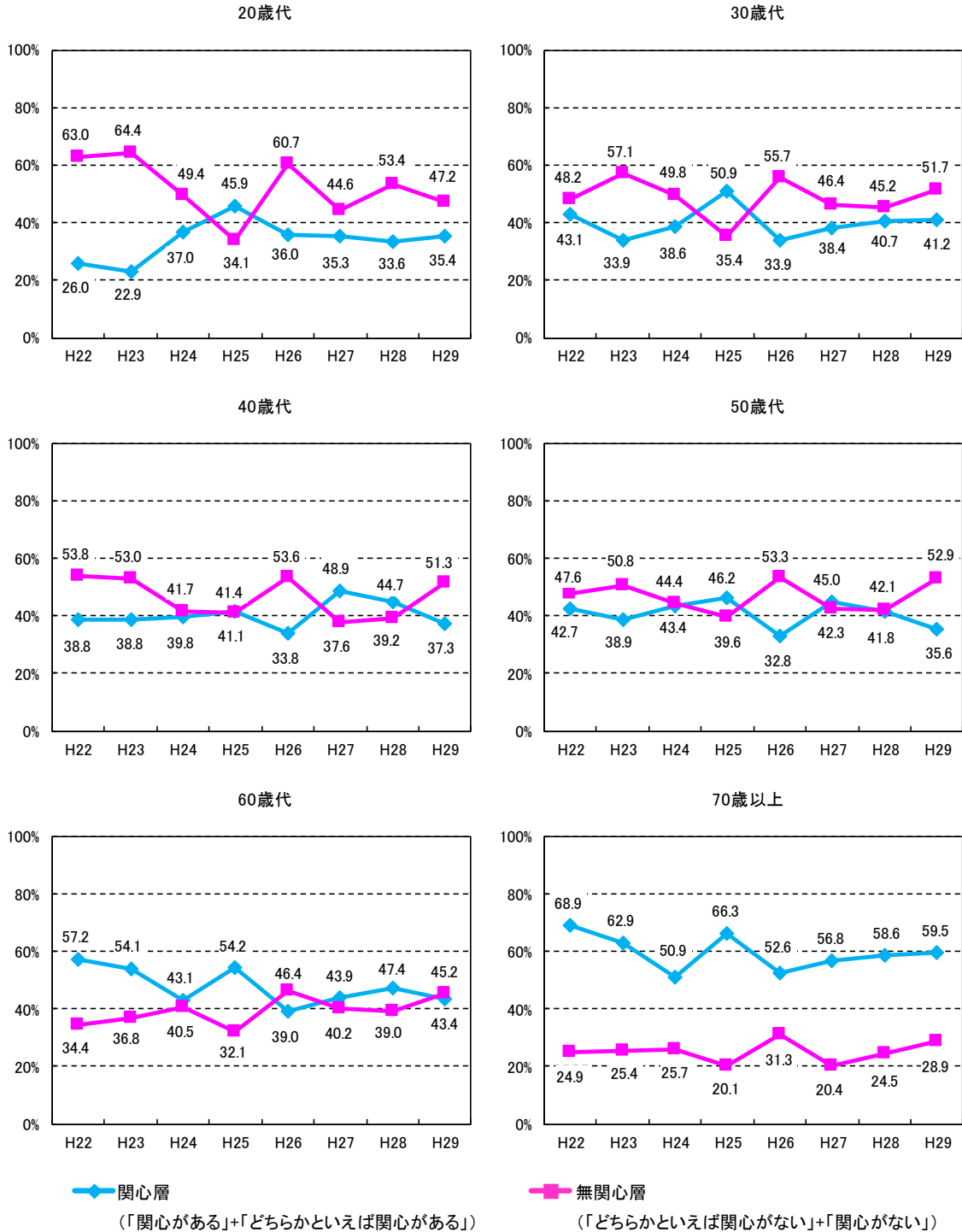
図9-2【経年変化】県事業への関心の有無



※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

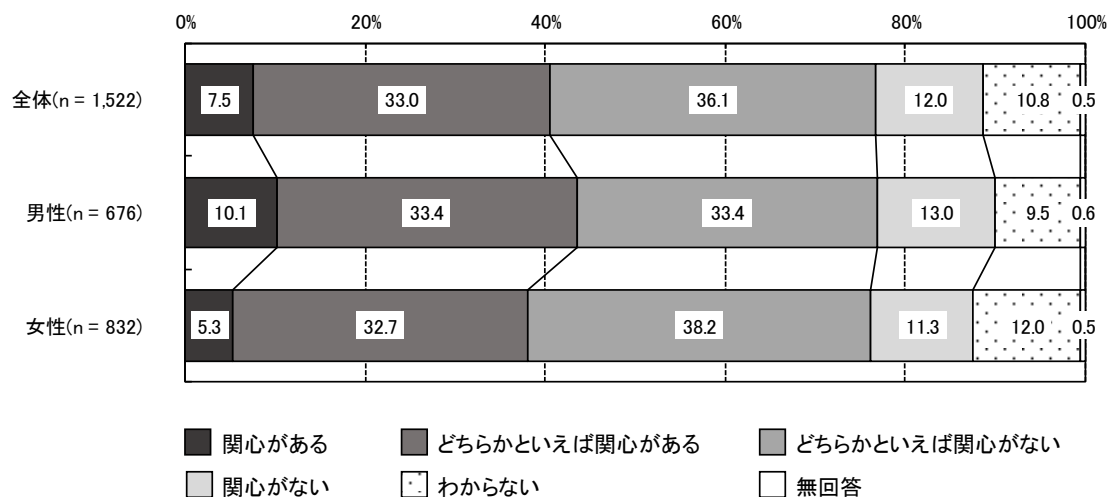
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、前回に比べ、40 歳代、60 歳代で「無関心層」が「関心層」を逆転している。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図 9-3 【経年変化(年代別)】 県事業への関心の有無



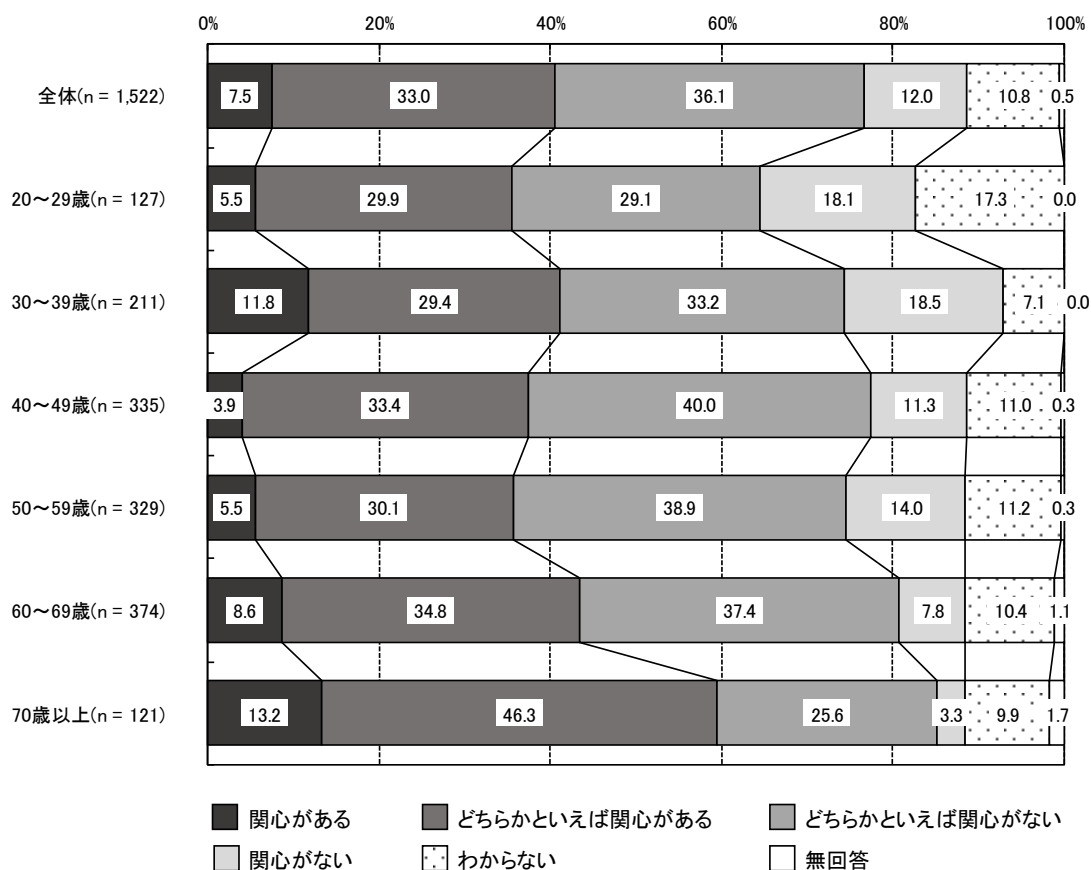
性別（図9-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がない」が最も高く、男性は「どちらかといえば関心がある」も同じく33.4%と最も高くなっている。「関心がある」では、男性が女性より4.8ポイント高くなっている。

図9-4【性別】県事業への関心の有無



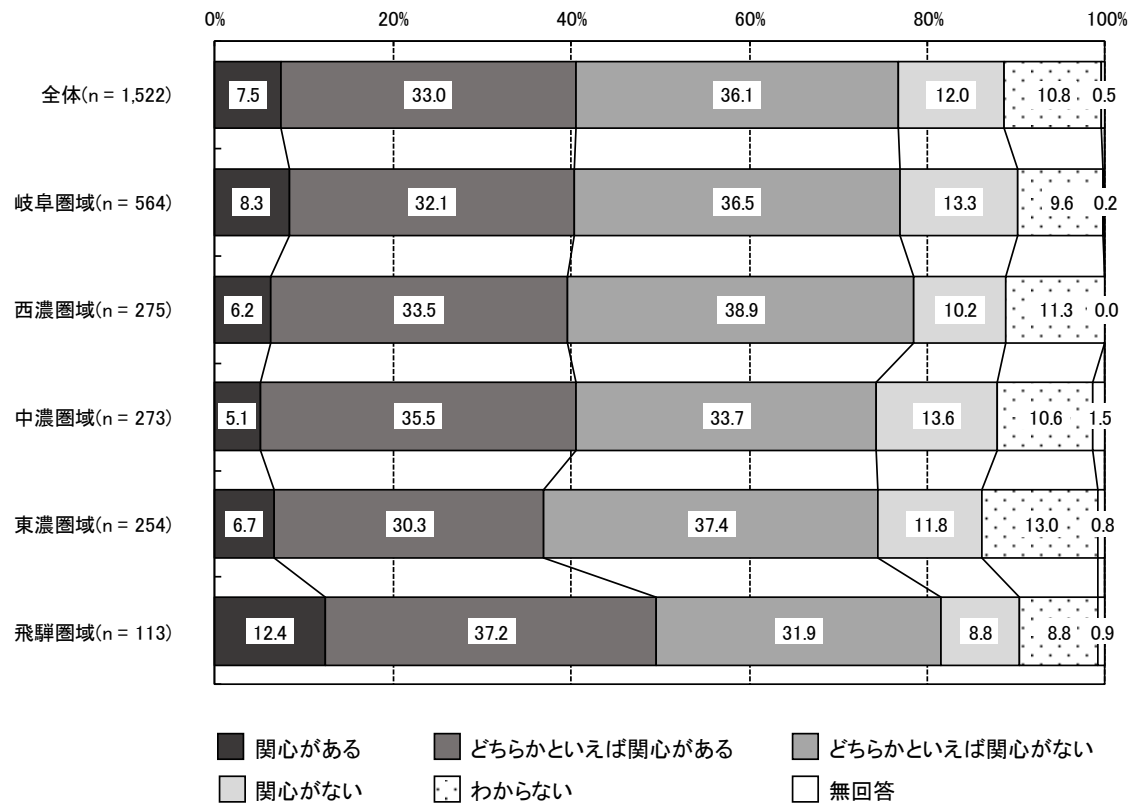
年代別（図9-5）でみると、20歳代、70歳以上で「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち70歳以上が46.3%と最も高くなっている。30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では、「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち40歳代が40.0%と最も高くなっている。

図9-5【年代別】県事業への関心の有無



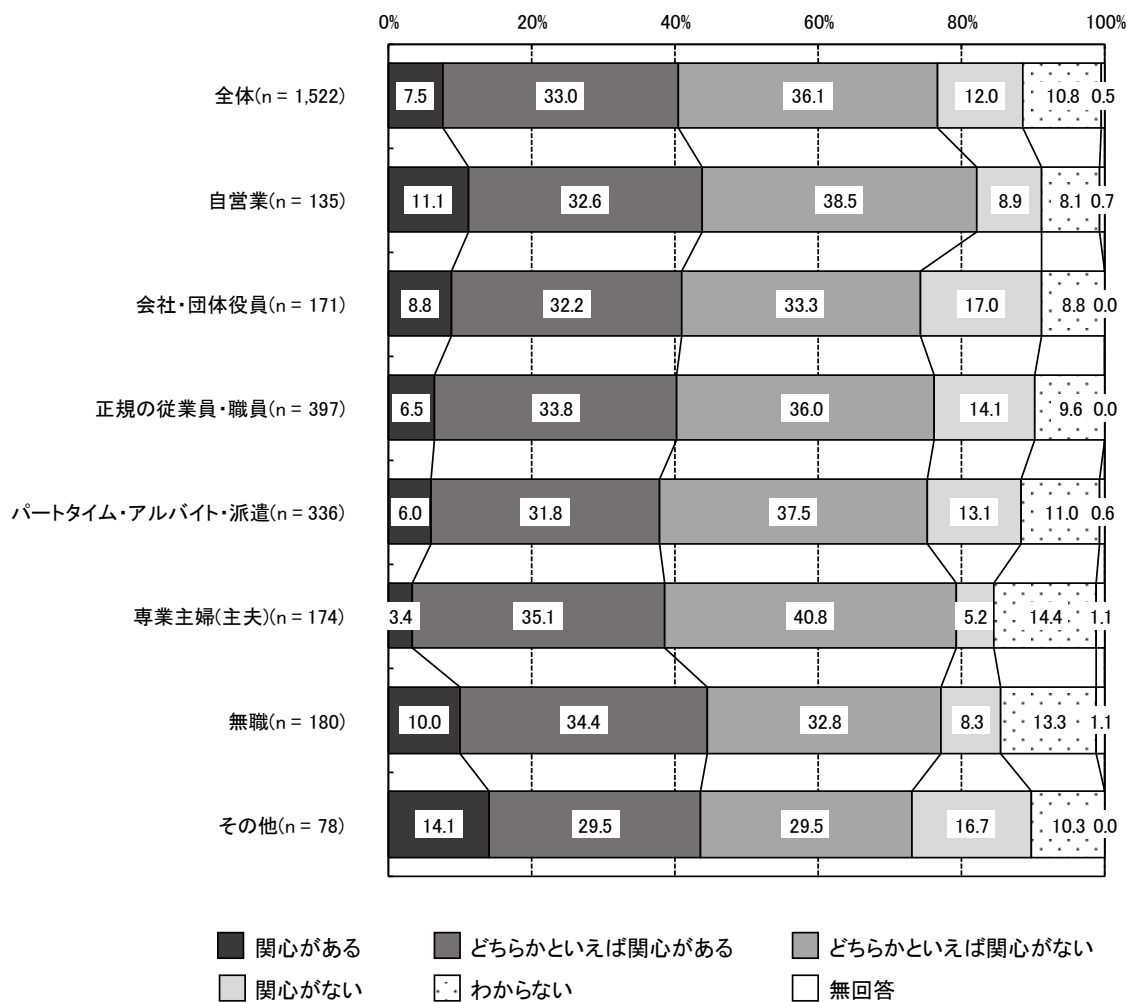
居住圏域別（図 9-6）でみると、中濃圏域、飛騨圏域においては「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 37.2%と最も高くなっている。岐阜圏域、西濃圏域、東濃圏域においては、「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち西濃圏域が 38.9%と最も高くなっている。

図 9-6 【居住圏域別】 県事業への関心の有無



職業別（図 9-7）で見ると、無職を除くいずれの職業においても「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち専業主婦（主夫）が 40.8%と最も高くなっている。無職では「どちらかといえば関心がある」が 34.4%と最も高くなっている。無職では「どちらかといえば関心がある」が 34.4%と最も高くなっている。

図 9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



※ その他には、自由業、学生を含む

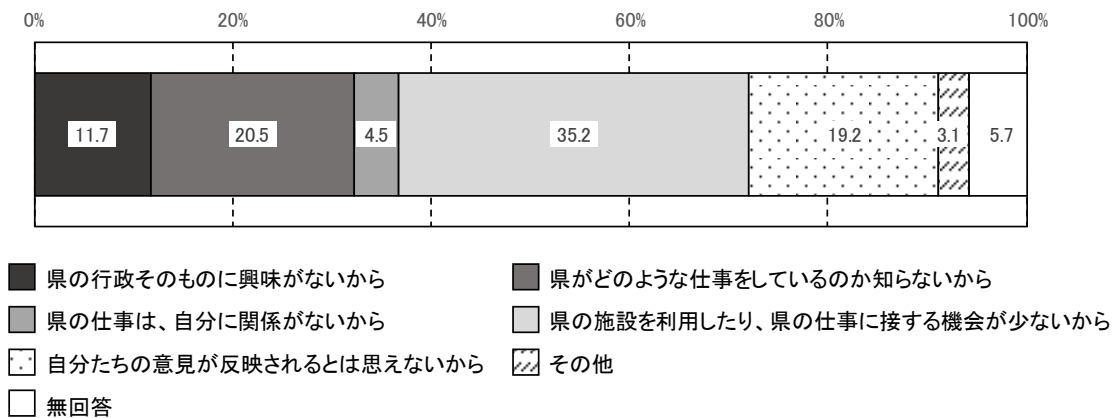
## 問9-2 県事業に関心がない理由

問9-2 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。  
 あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、どのような理由からですか。(1つだけ)

全体(図9-2-1)で見ると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が35.2%と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」(20.5%)、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」(19.2%)の順となっている。

図9-2-1 県事業に関心がない理由

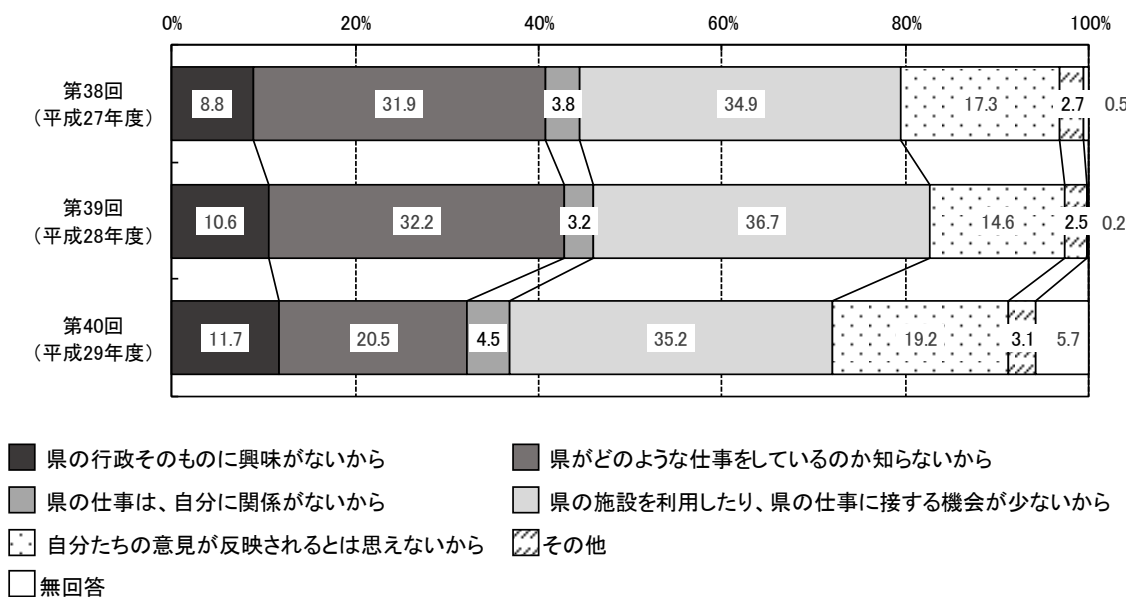
回答者数(n = 733)※



※ 問9で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

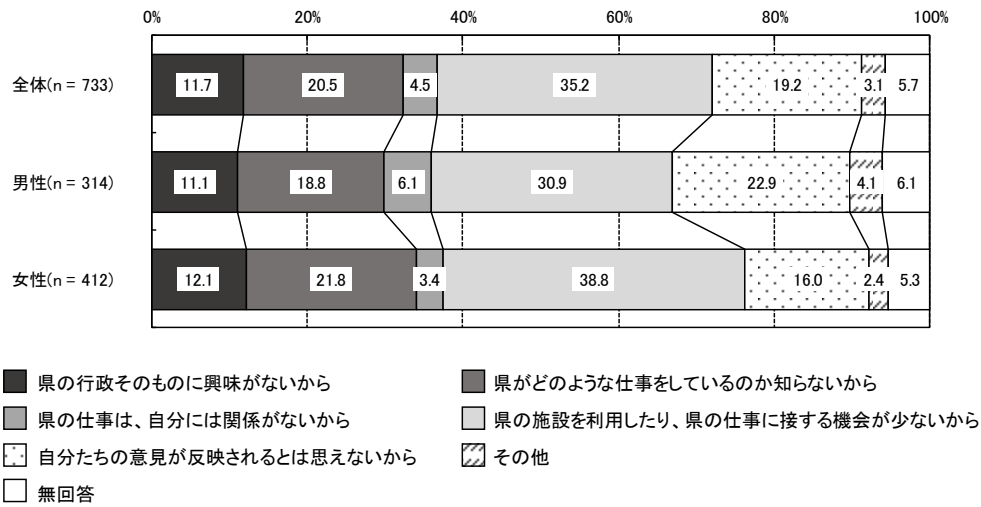
前々回・前回比較(図9-2-2)で見ると、前々回・前回と同様に「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が35.2%と最も高くなっている。

図9-2-2【前々回・前回比較】県事業に関心がない理由



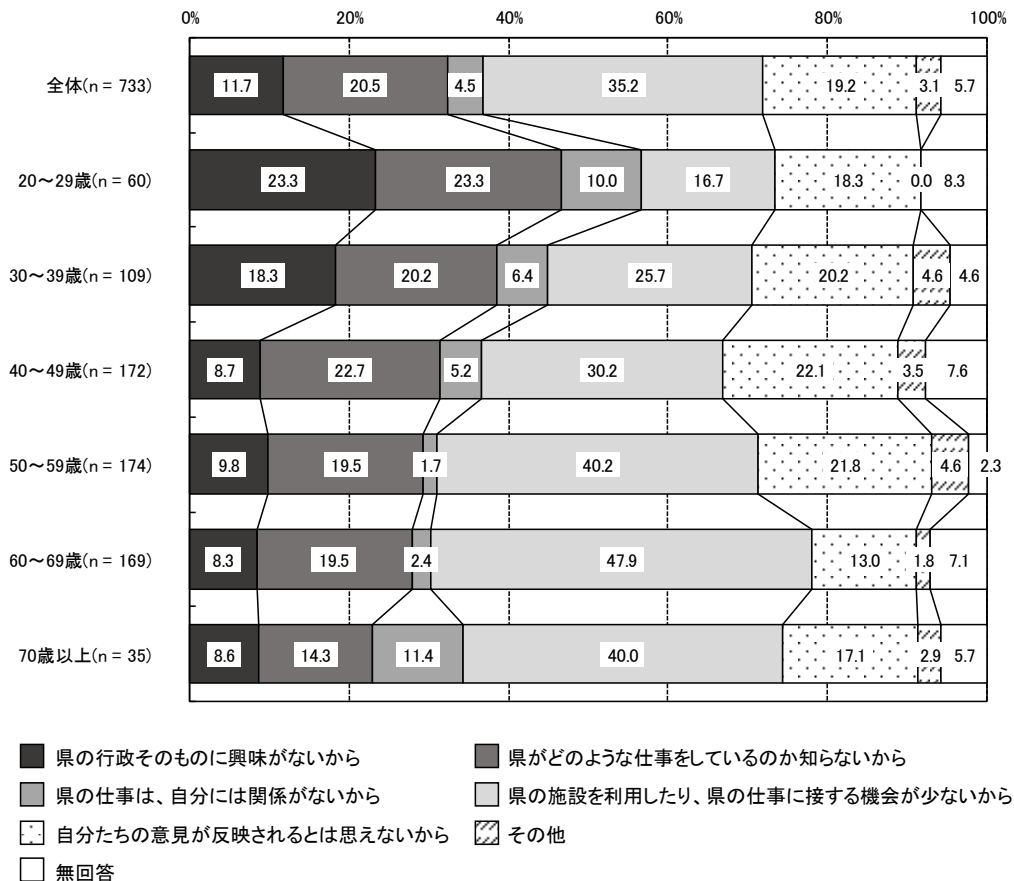
性別（図 9-2-3）で見ると、男女ともに「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、女性が男性より 7.9 ポイント高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



年代別（図 9-2-4）で見ると、20 歳代を除くいずれの年代においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち 60 歳代が 47.9%と最も高くなっている。20 歳代では「県の行政そのものに興味がないから」「県がどのような仕事をしているのかわからないから」が 23.3%、それぞれ最も高くなっている。

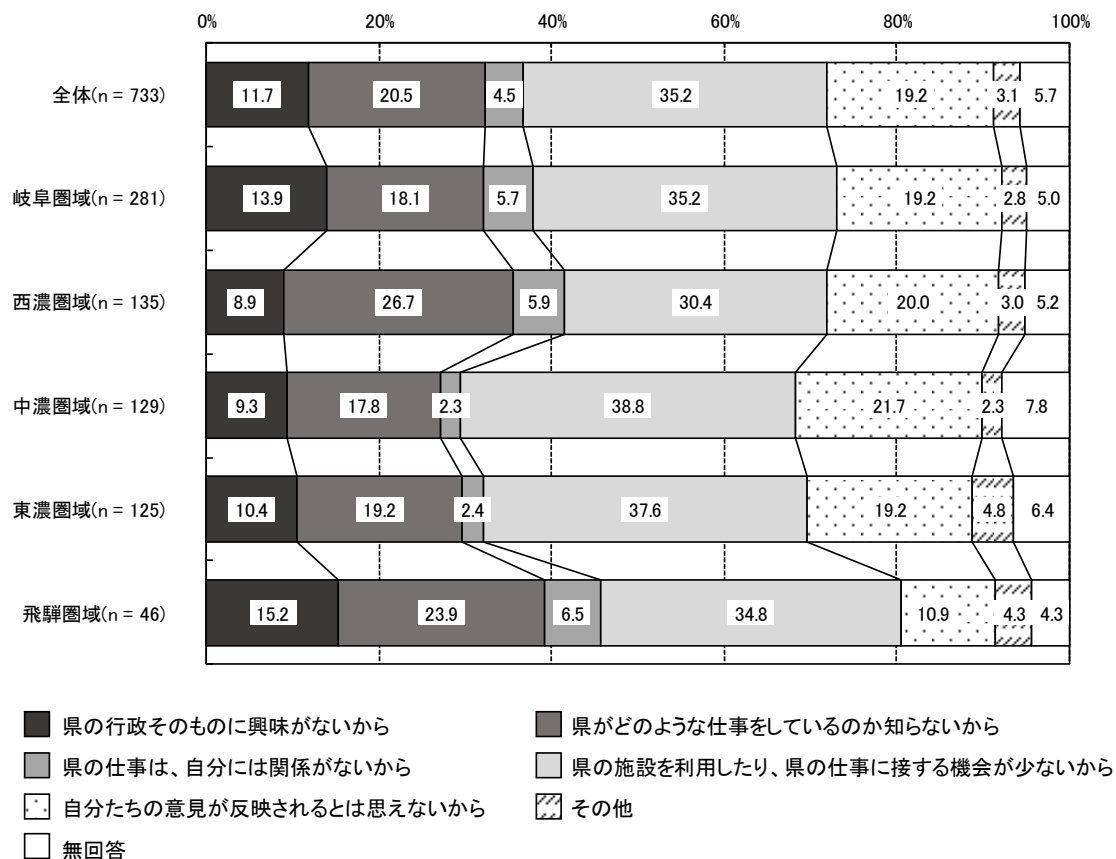
図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由





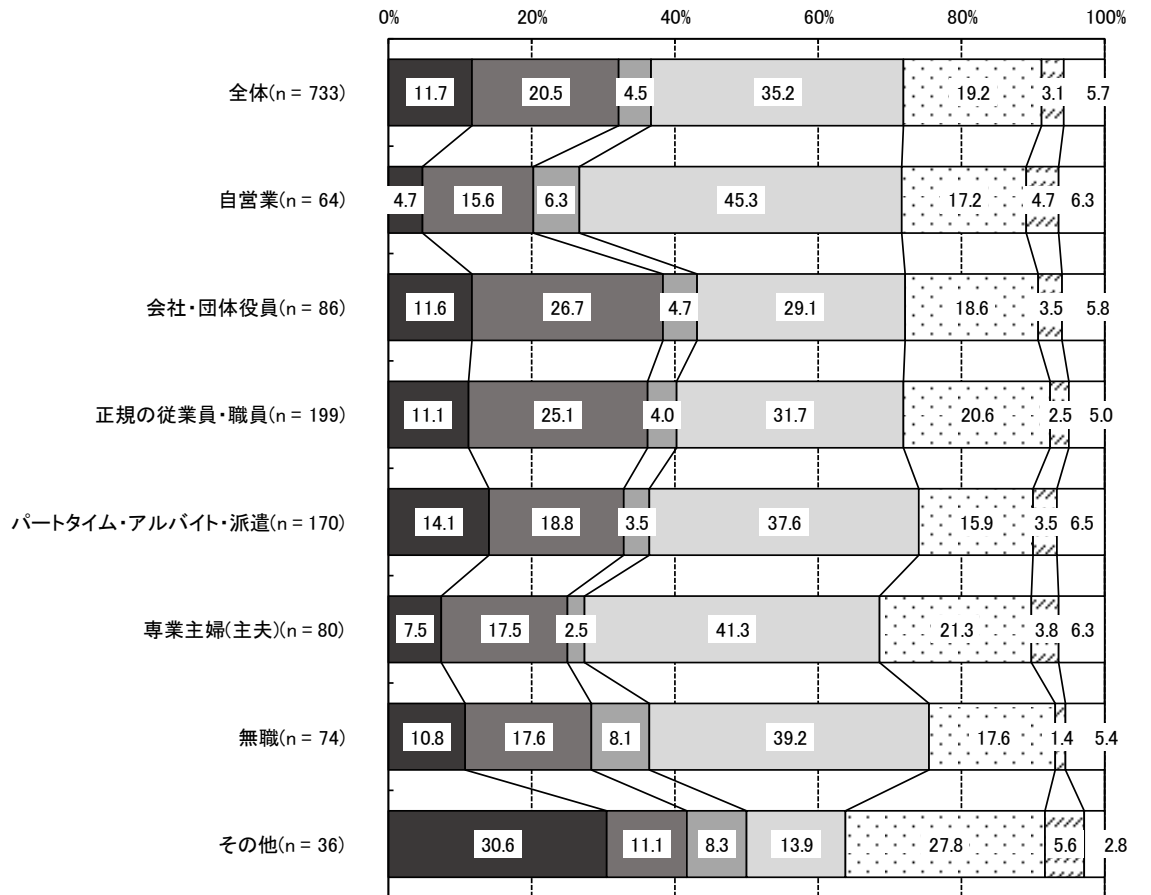
居住圏域別（図 9-2-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち中濃圏域が 38.8%と最も高くなっている。

図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由



職業別（図 9-2-6）でみると、その他を除くいずれの職業においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち自営業が 45.3%と最も高くなっている。

図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由



- 県の行政そのものに関心がないから
- 県がどのような仕事をしているのか知らないから
- 県の仕事は、自分には関係がないから
- 県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから
- 自分たちの意見が反映されるとは思えないから
- その他
- 無回答

※ その他には、自由業、学生を含む

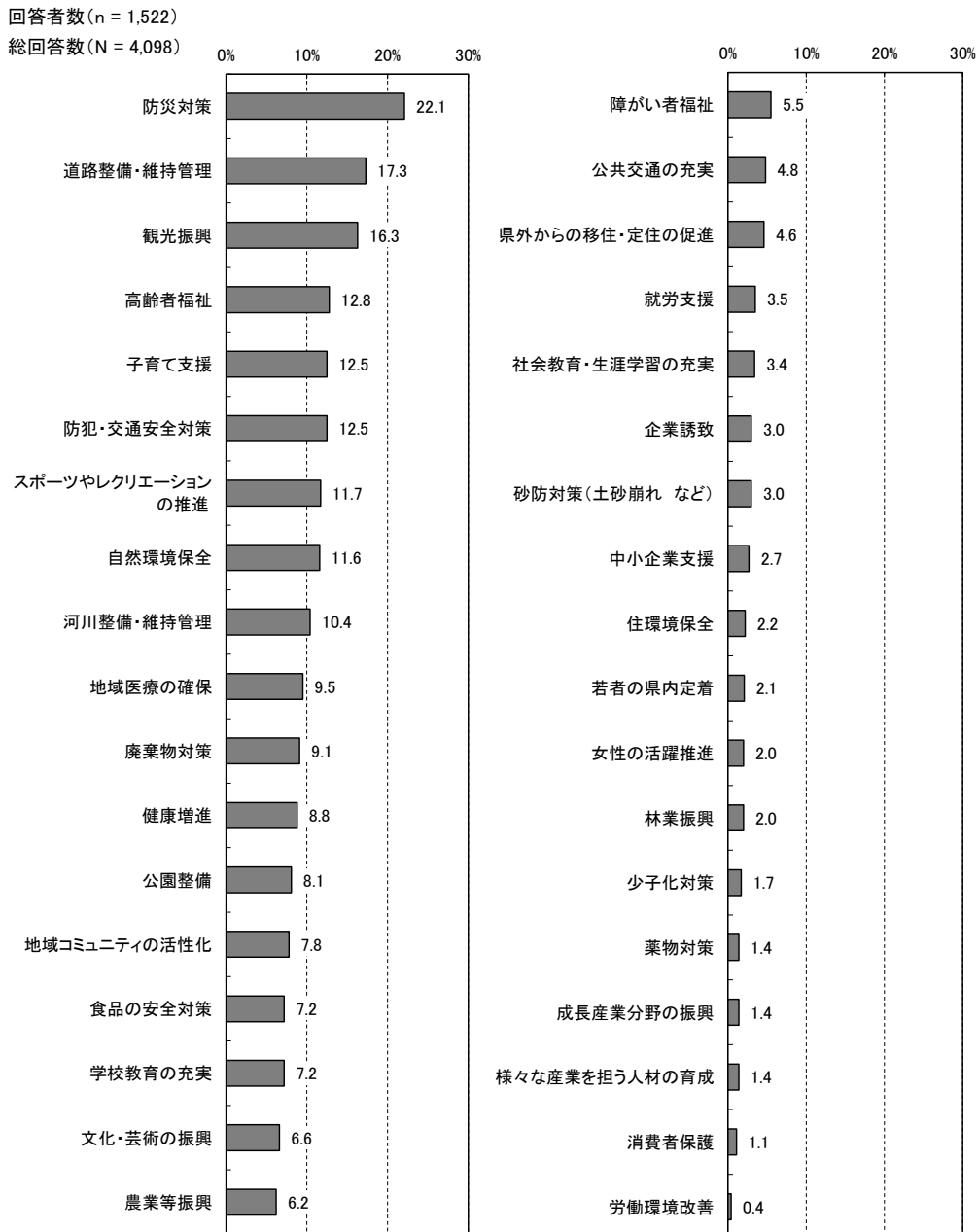
問10 県の取り組みでよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

問10 あなたが、県の取り組みについてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。  
また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。(それぞれ5つまで)

【県の取り組みでよくやっていると思う分野】

全体(図10-1)で見ると、「防災対策」が22.1%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」(17.3%)、「観光振興」(16.3%)の順となっている。

図10-1 県の取り組みでよくやっていると思う分野



※ 第38回調査では、「よくやっている」「どちらかといえば、よくやっている」と答えた方のみに、選択肢が13分野で3つまでの選択であった。

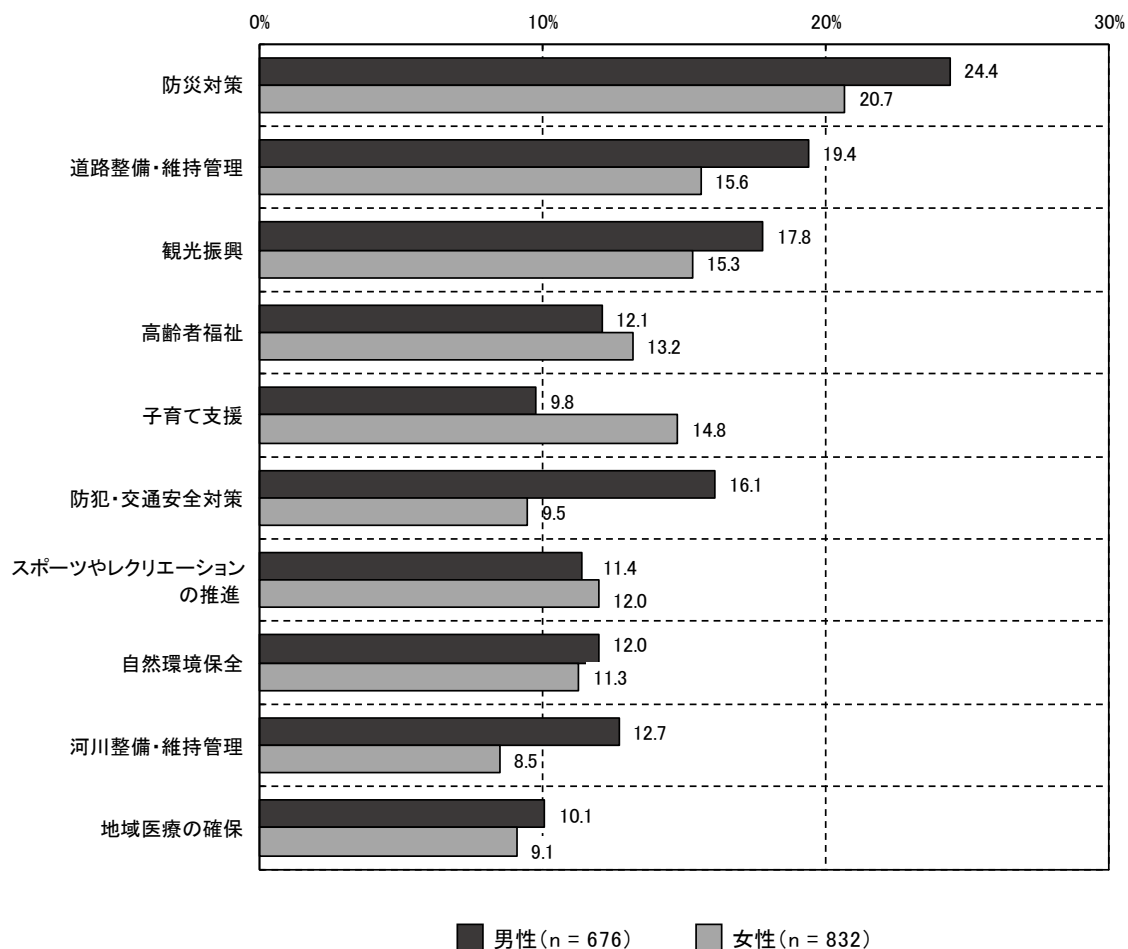
第39回調査では、選択肢が13分野で3つまでの選択であった。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

- ・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全
- ・農業等振興: 農業(畜産業・水産業含む)振興

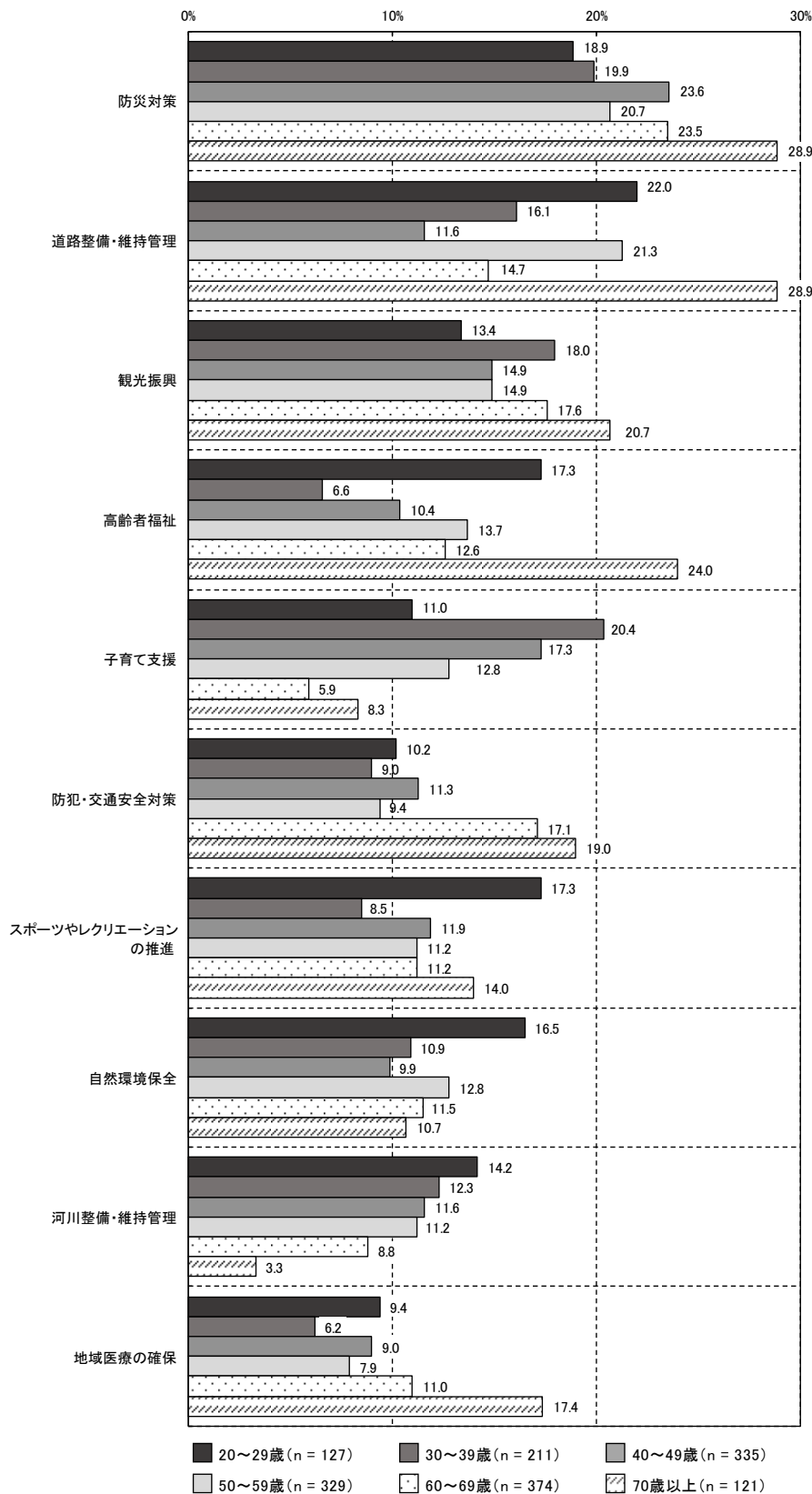
性別（図 10-2）で見ると、男女ともに「防災対策」が最も高く、男性が女性より 3.7 ポイント高くなっている。「防犯・交通安全対策」では、男性が女性より 6.6 ポイント、「子育て支援」では、女性が男性より 5.0 ポイント、それぞれ高くなっている。

図 10-2 【性別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



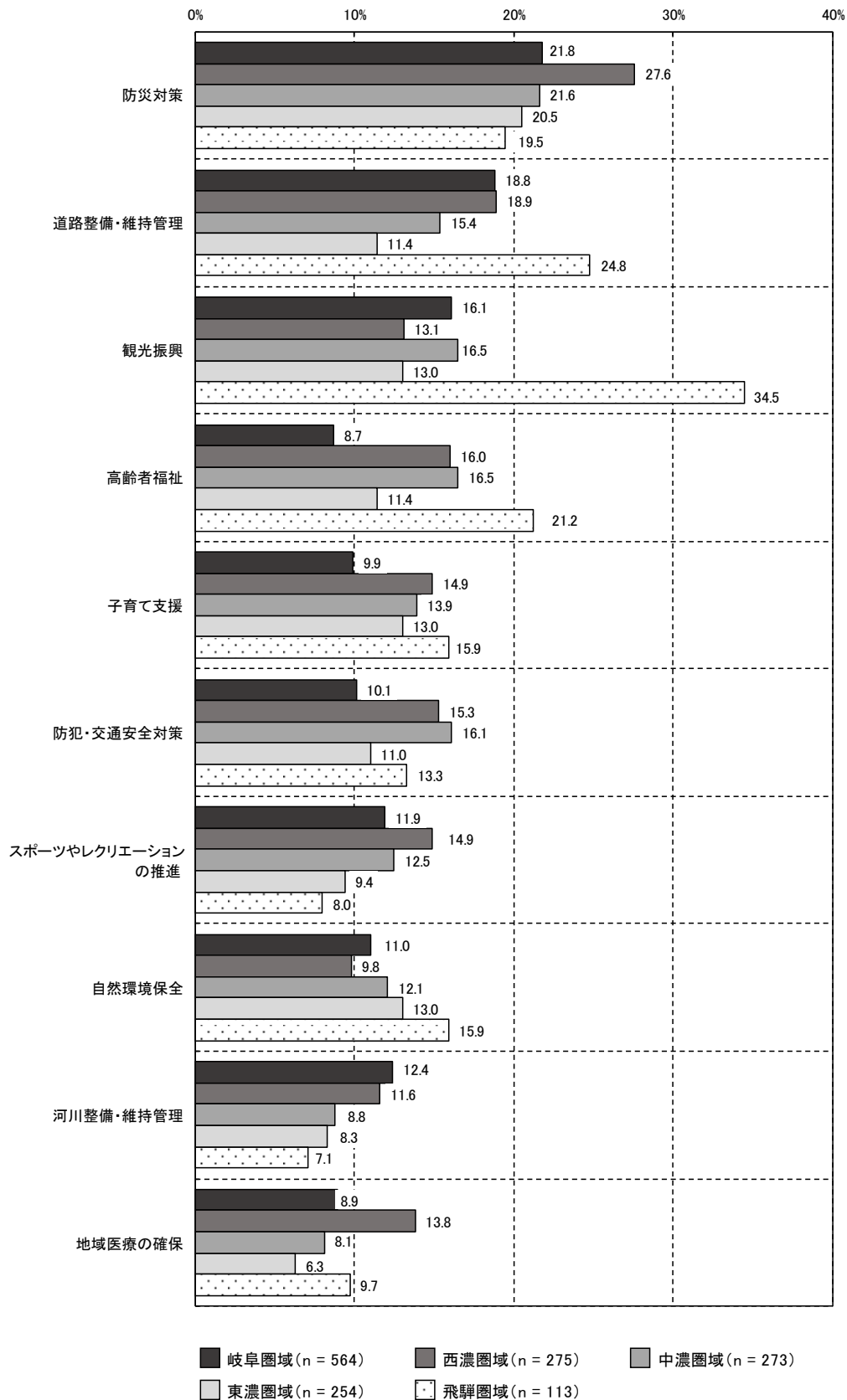
年代別（図 10-3）で見ると、40 歳代、60 歳代、70 歳以上は「防災対策」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 28.9%と最も高くなっている。20 歳代、50 歳代は「道路整備・維持管理」が最も高くなっている。30 歳代は「子育て支援」が 20.4%と最も高くなっている。70 歳以上は「道路整備・維持管理」でも 28.9%と最も高くなっている。

図 10-3 【年代別】県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



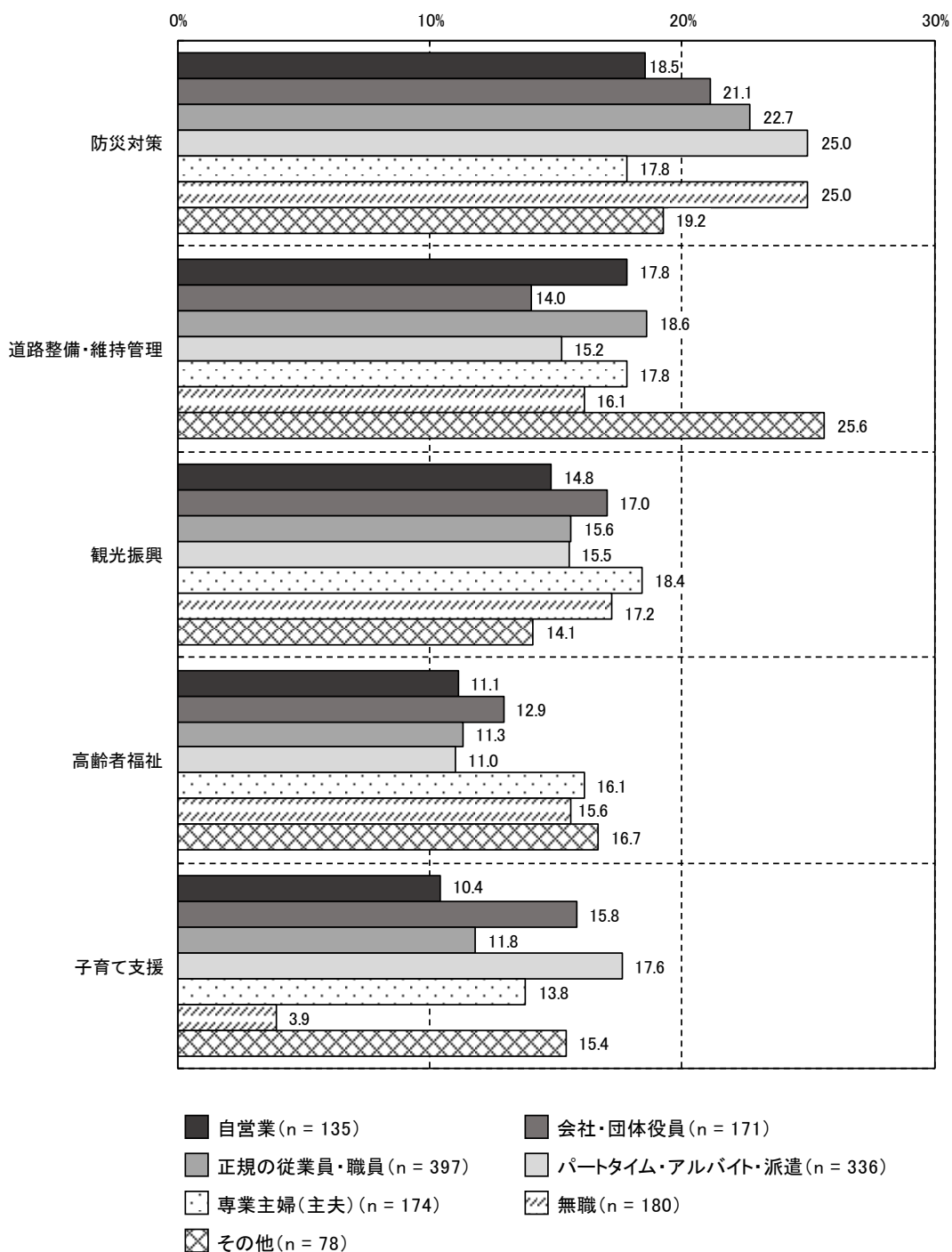
居住圏域別（図 10-4）で見ると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高く、そのうち西濃圏域が 27.6%と最も高くなっている。飛騨圏域では、「観光振興」が 34.5%と最も高くなっている。

図 10-4 【居住圏域別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



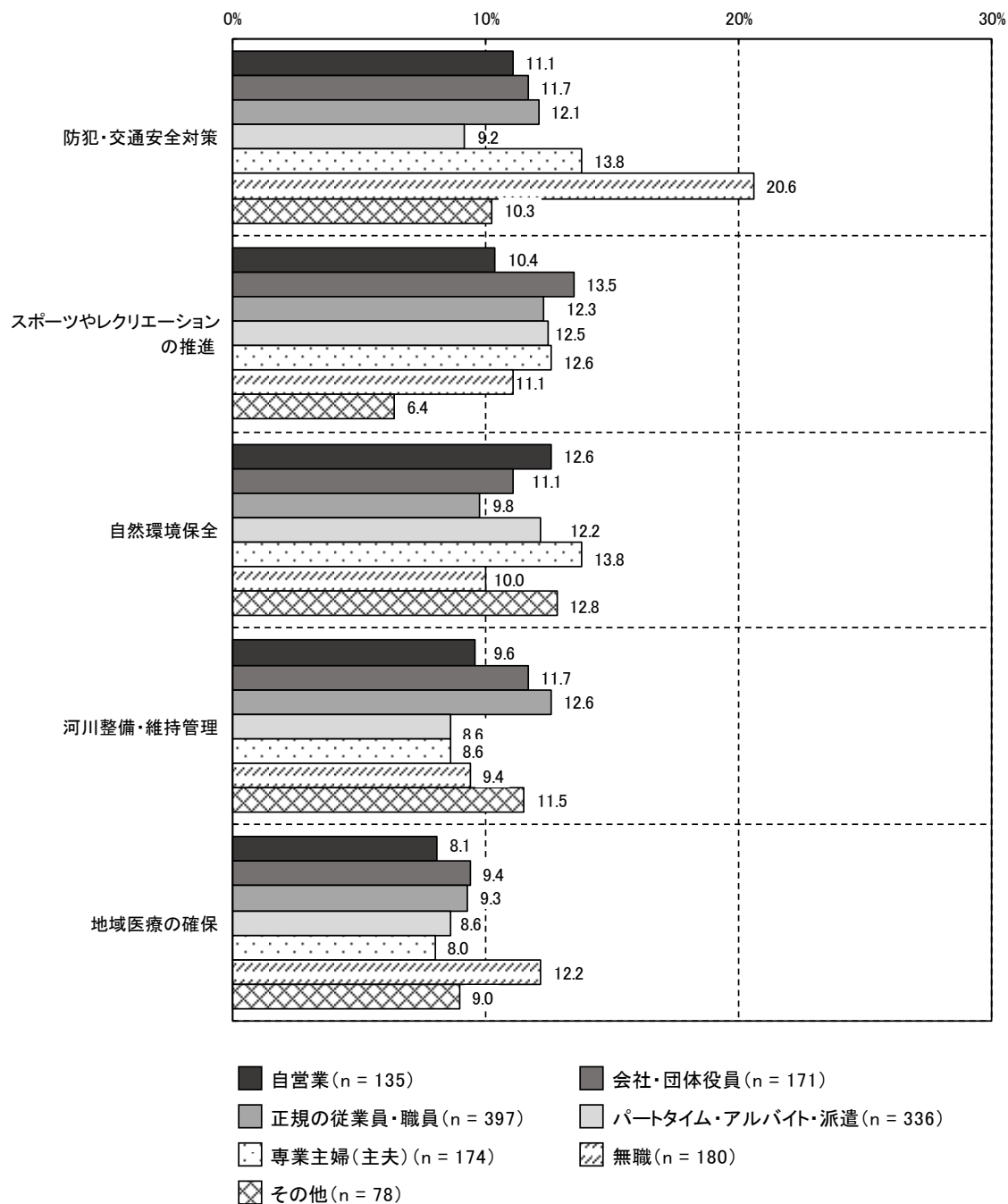
職業別（図 10-5）でみると、専業主婦（主夫）、その他を除くいずれの職業においても「防災対策」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣、無職がそれぞれ 25.0%と最も高くなっている。専業主婦（主夫）は「観光振興」が 18.4%、その他は「道路整備・維持管理」が 25.6%とそれぞれ最も高くなっている。

図 10-5 【職業別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-5 【職業別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策) (続き)



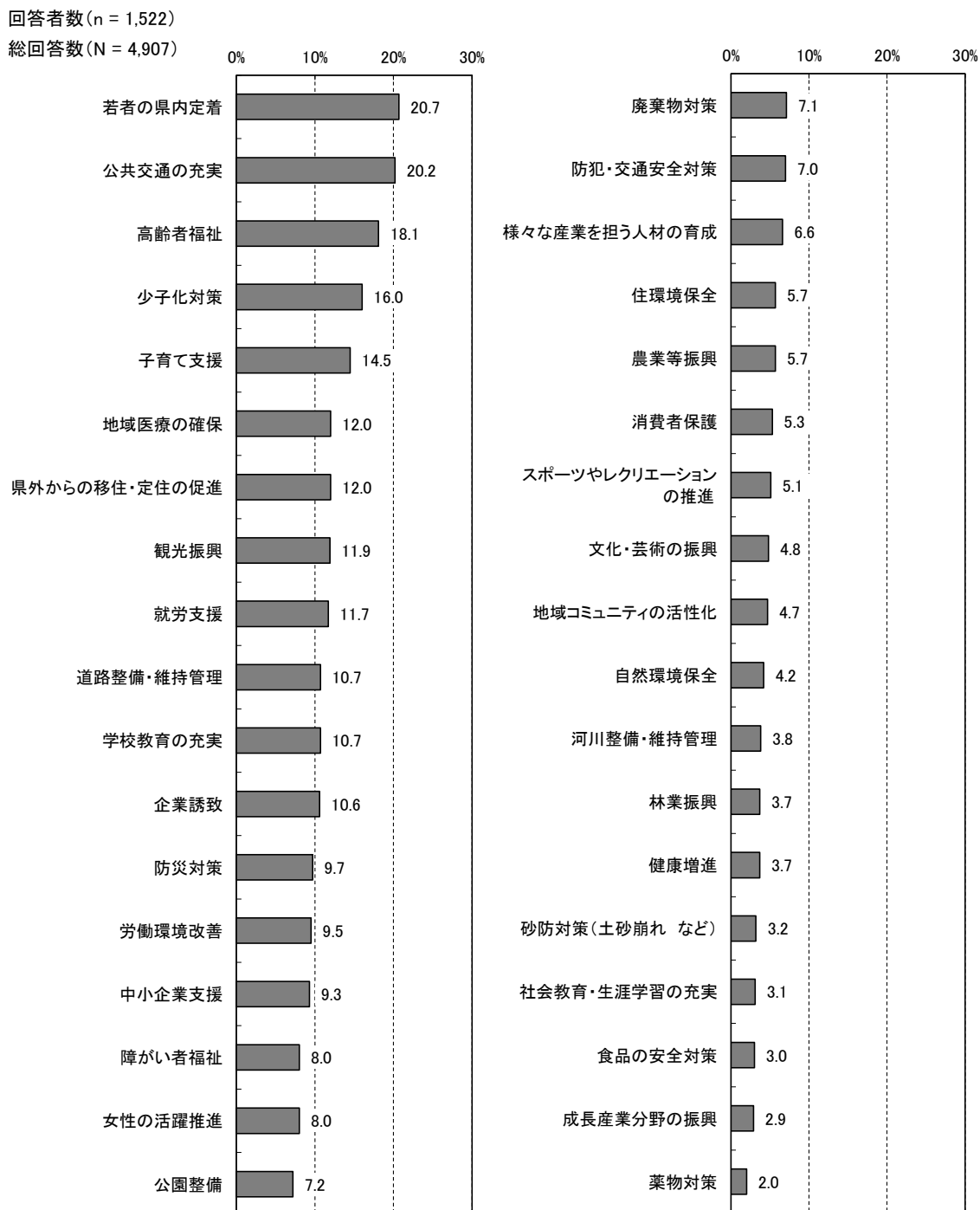
※ その他には、自由業、学生を含む。



【県の取り組みで努力が足りないと思う分野】

全体（図 10-2-1）で見ると、「若者の県内定着」が 20.7%と最も高く、次いで「公共交通の充実」（20.2%）、「高齢者福祉」（18.1%）の順となっている。

図 10-2-1 県の取り組みで努力が足りないと思う分野



※ 第 38 回調査では、「どちらかといえば、努力が足りない」「努力が足りない」と答えた方のみに、選択肢が 13 分野で 3 つまでの選択であった。

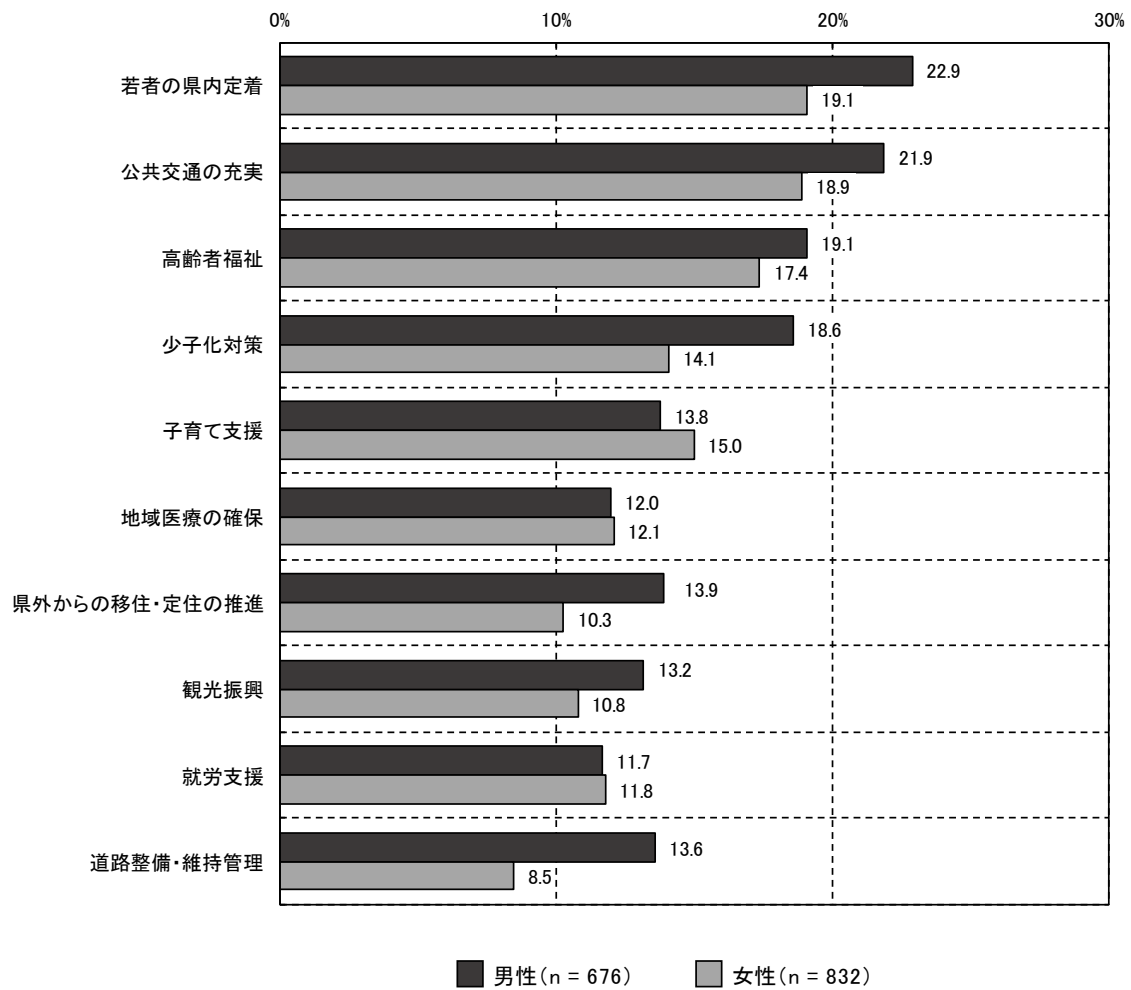
第 39 回調査では、選択肢が 13 分野で 3 つまでの選択であった。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

- ・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全
- ・農業等振興: 農業(畜産業・水産業含む)振興

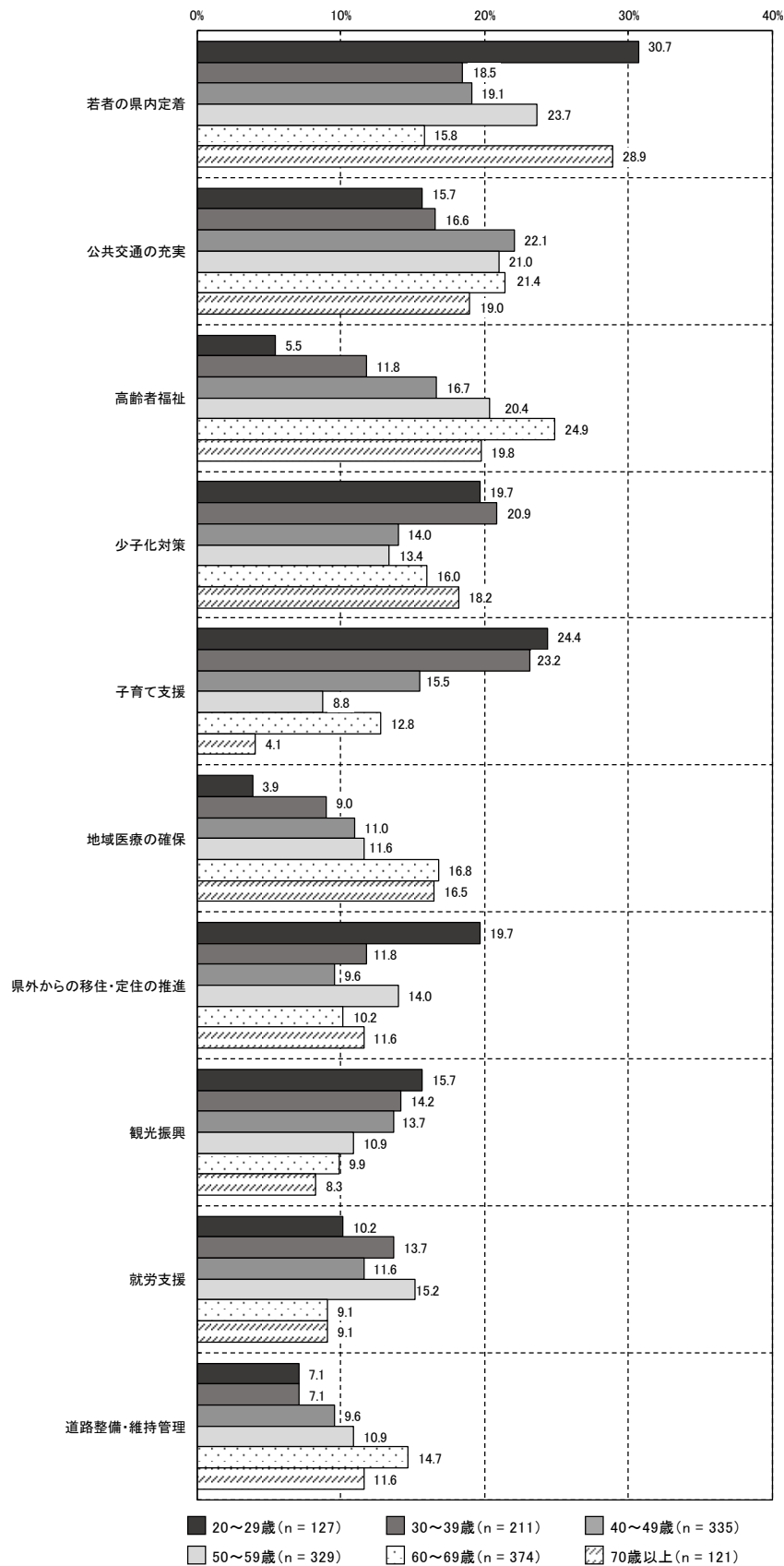
性別（図 10-2-2）で見ると、男女ともに「若者の県内定着」が最も高く、男性が女性より 3.8 ポイント高くなっている。「少子化対策」では男性が女性より 4.5 ポイント、「道路整備・維持管理」でも男性が女性より 5.1 ポイント、それぞれ高くなっている。

図 10-2-2 【性別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



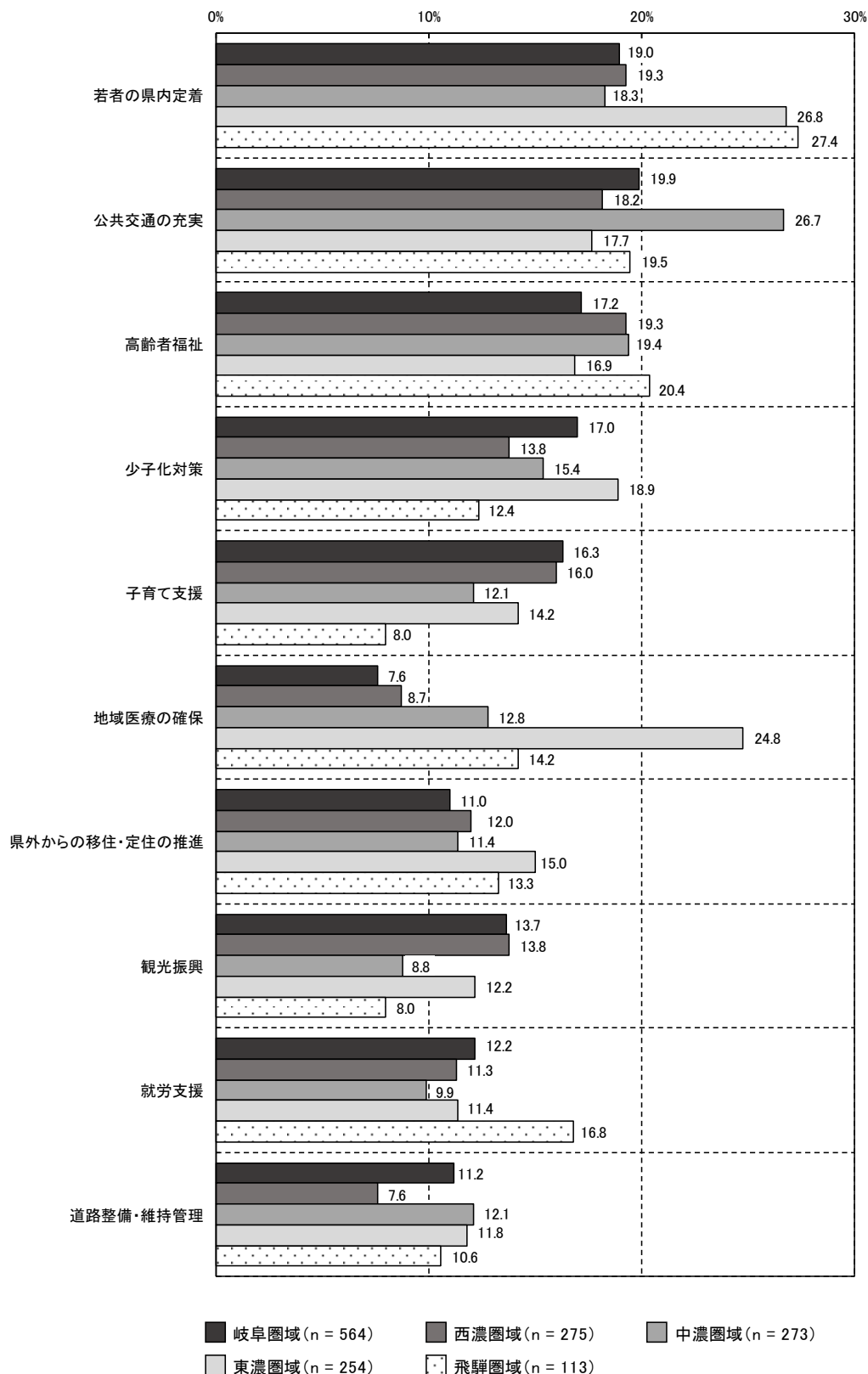
年代別（図 10-2-3）で見ると、20 歳代、50 歳代、70 歳以上は「若者の県内定着」、30 歳代は「子育て支援」、40 歳代は「公共交通の充実」、60 歳代は「高齢者福祉」が、それぞれ最も高くなっている。

図 10-2-3 【年代別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



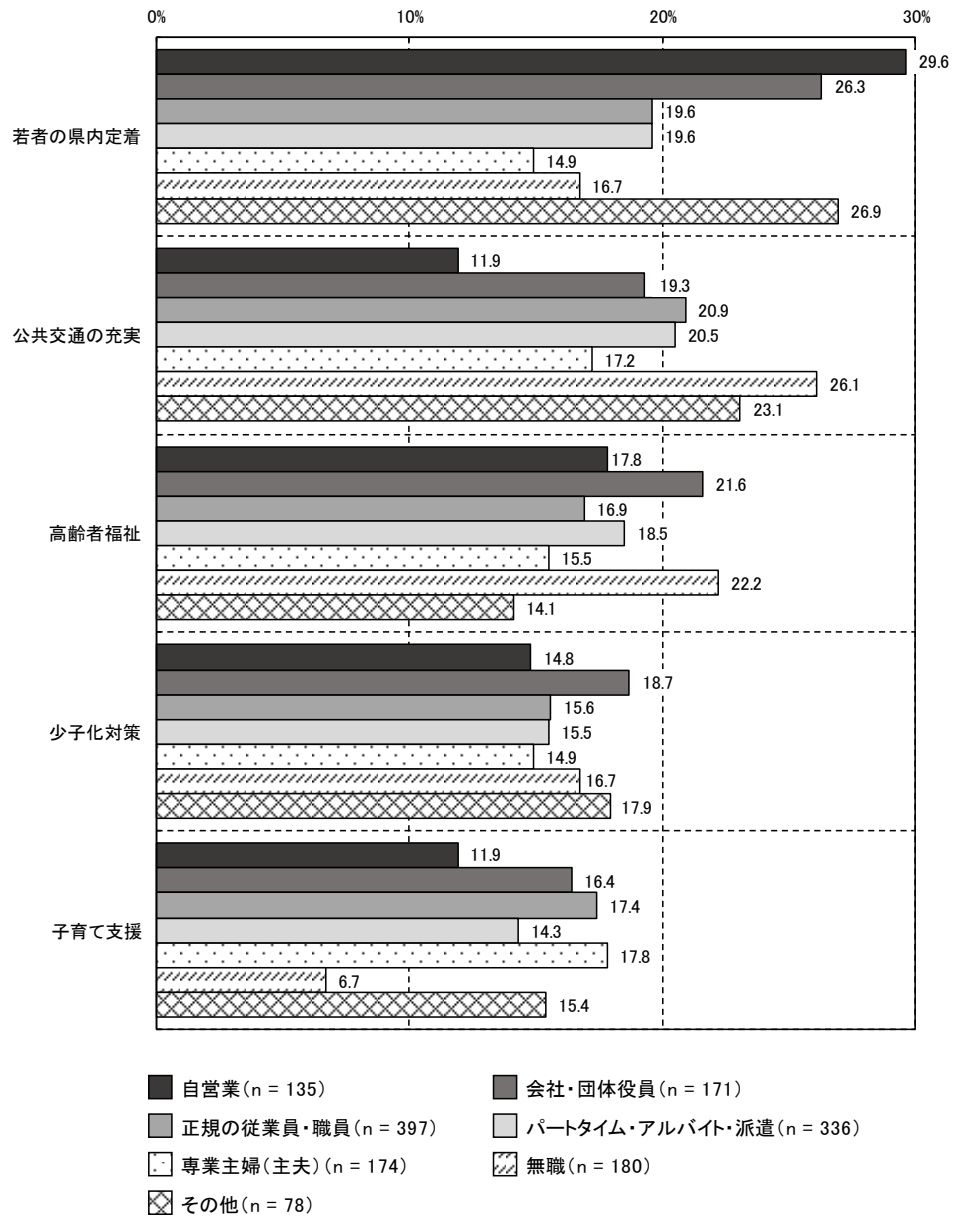
居住圏域別（図 10-2-4）で見ると、西濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域は「若者の県内定着」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 27.4%と最も高くなっている。岐阜圏域、中濃圏域では「公共交通の充実」が最も高く、そのうち中濃圏域が 26.7%と最も高くなっている。西濃圏域は「高齢者福祉」でも 19.3%と最も高くなっている。

図 10-2-4 【居住圏域別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



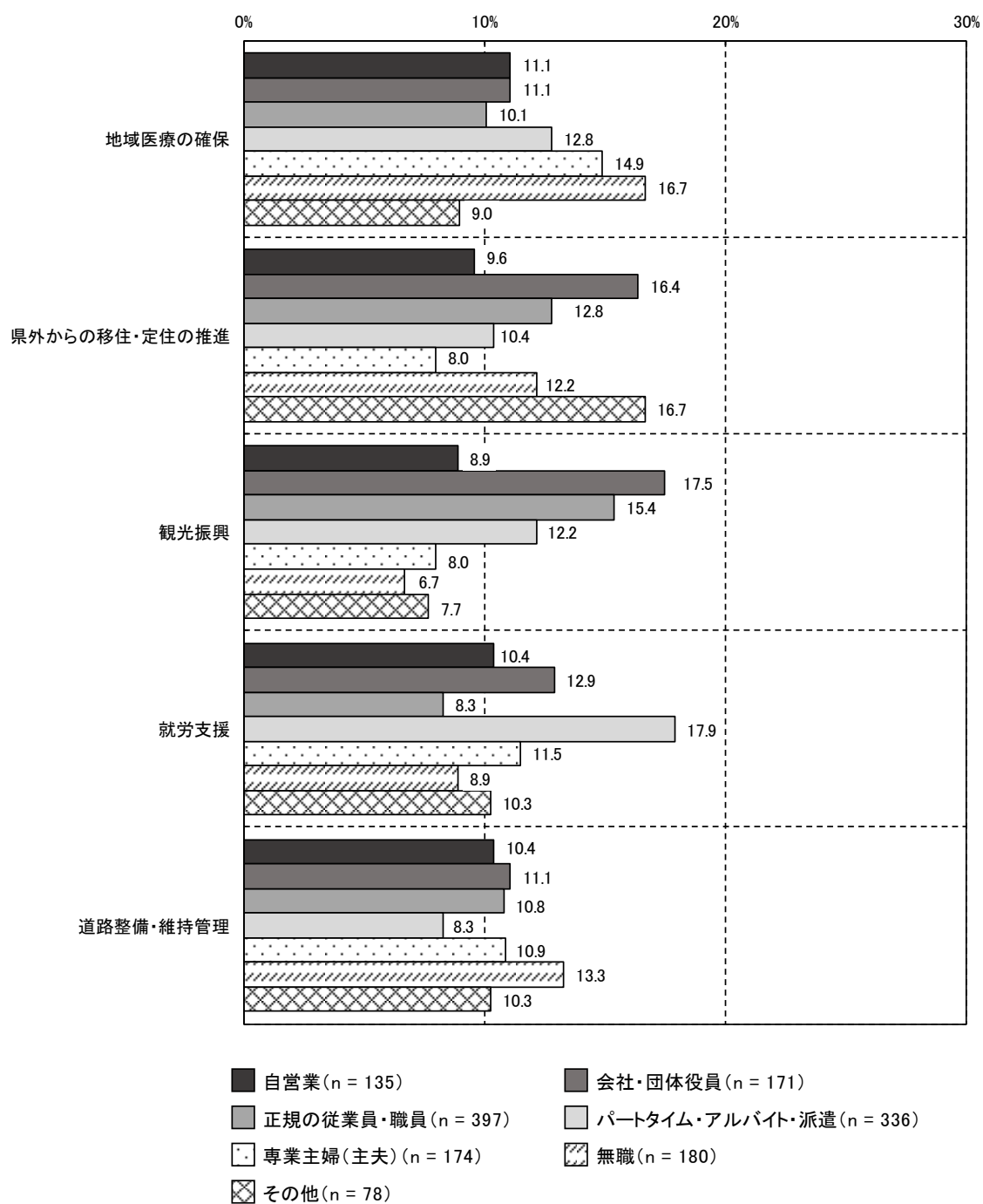
職業別（図 10-2-5）でみると、自営業、会社・団体役員は「若者の県内定着」が最も高く、そのうち自営業が 29.6%と最も高くなっている。正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、無職は「公共交通の充実」が最も高く、そのうち無職が 26.1%と最も高くなっている。専業主婦（主夫）では「子育て支援」が 17.8%と最も高くなっている。

図 10-2-5 【職業別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-5 【職業別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策) (続き)



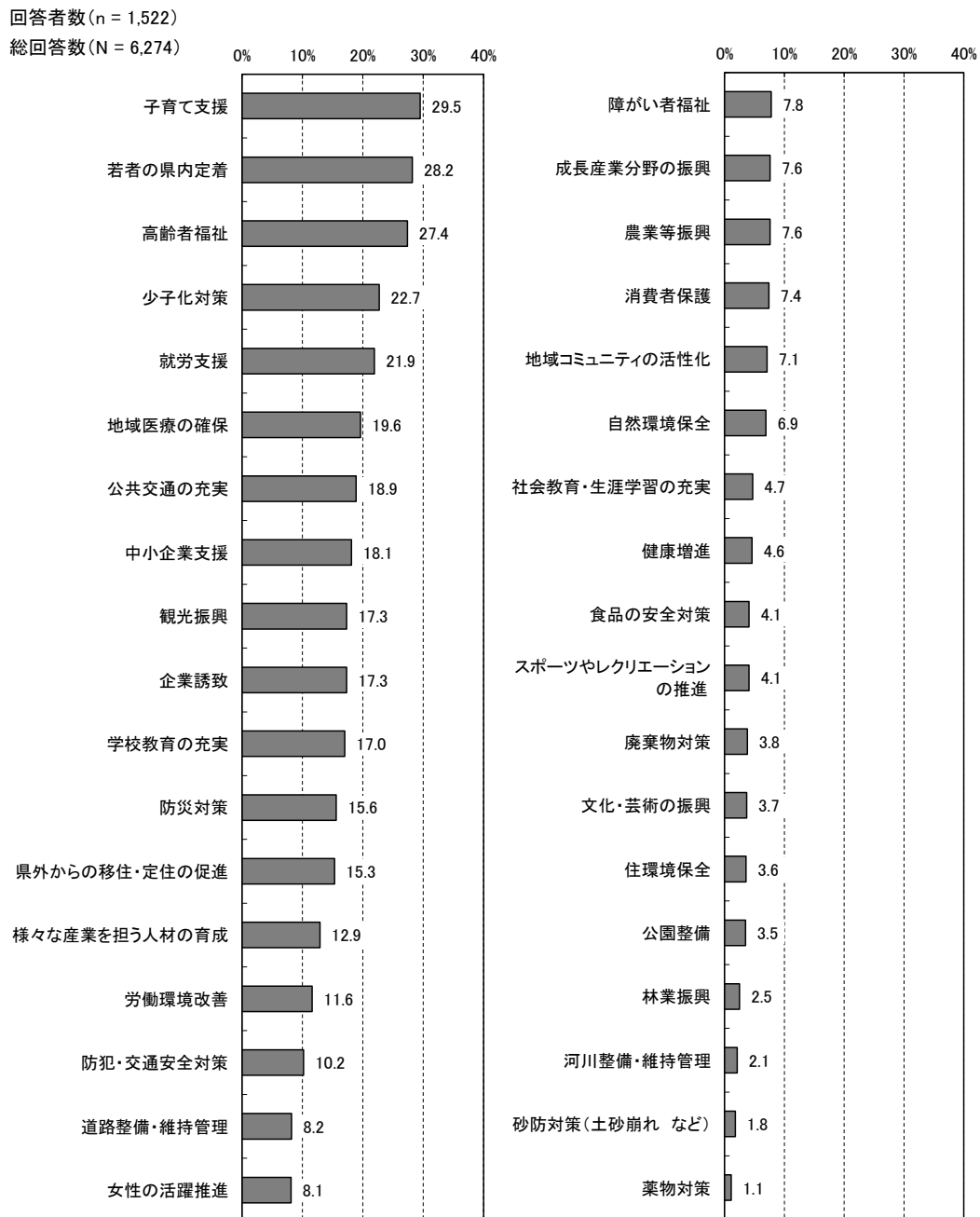
※ その他には、自由業、学生を含む。

## 問11 重点的に進めるべきだと思う分野

問11 少子高齢化に伴う、産業や地域社会の担い手の減少及び国内市場の縮小などによる国内外からの消費の呼び込みや所得の獲得における課題に対応するため、あなたが、重点的に進めるべきだと思う分野はどれですか。（5つまで）

全体（図11-1）で見ると、「子育て支援」が29.5%と最も高く、次いで「若者の県内定着」（28.2%）、「高齢者福祉」（27.4%）の順となっている。

図11-1 重点的に進めるべきだと思う分野



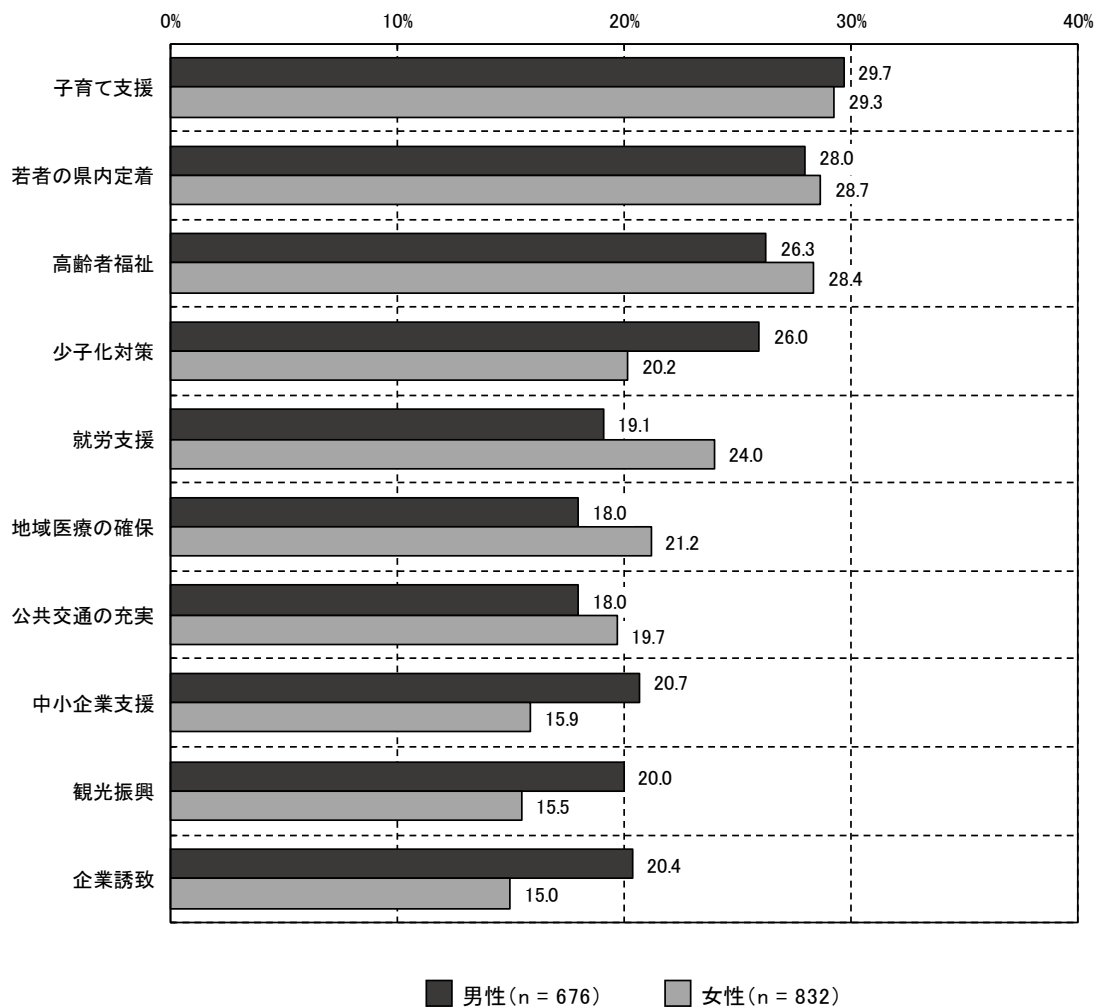
※ 第38・39回調査では、「特に重要だと思う県の施策」の設問で、選択肢は32施策で5つまでの選択であった。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

- ・住環境保全：騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全
- ・農業等振興：農業（畜産業・水産業含む）振興

性別（図 11-2）で見ると、男女ともに「子育て支援」が最も高くなっている。「少子化対策」では男性が女性より 5.8 ポイント高く、「就労支援」では女性が男性より 4.9 ポイント高くなっている。

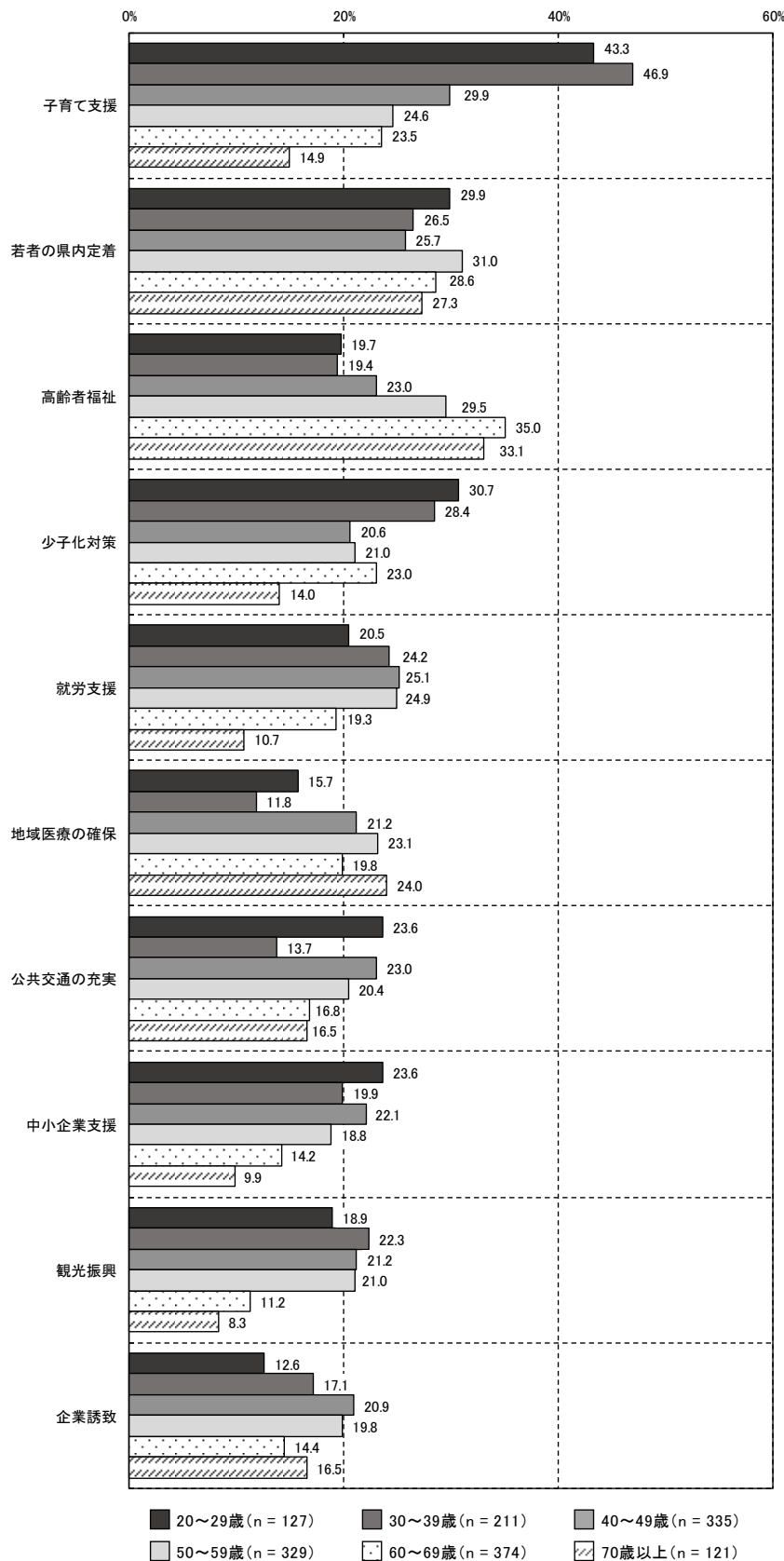
図 11-2 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)





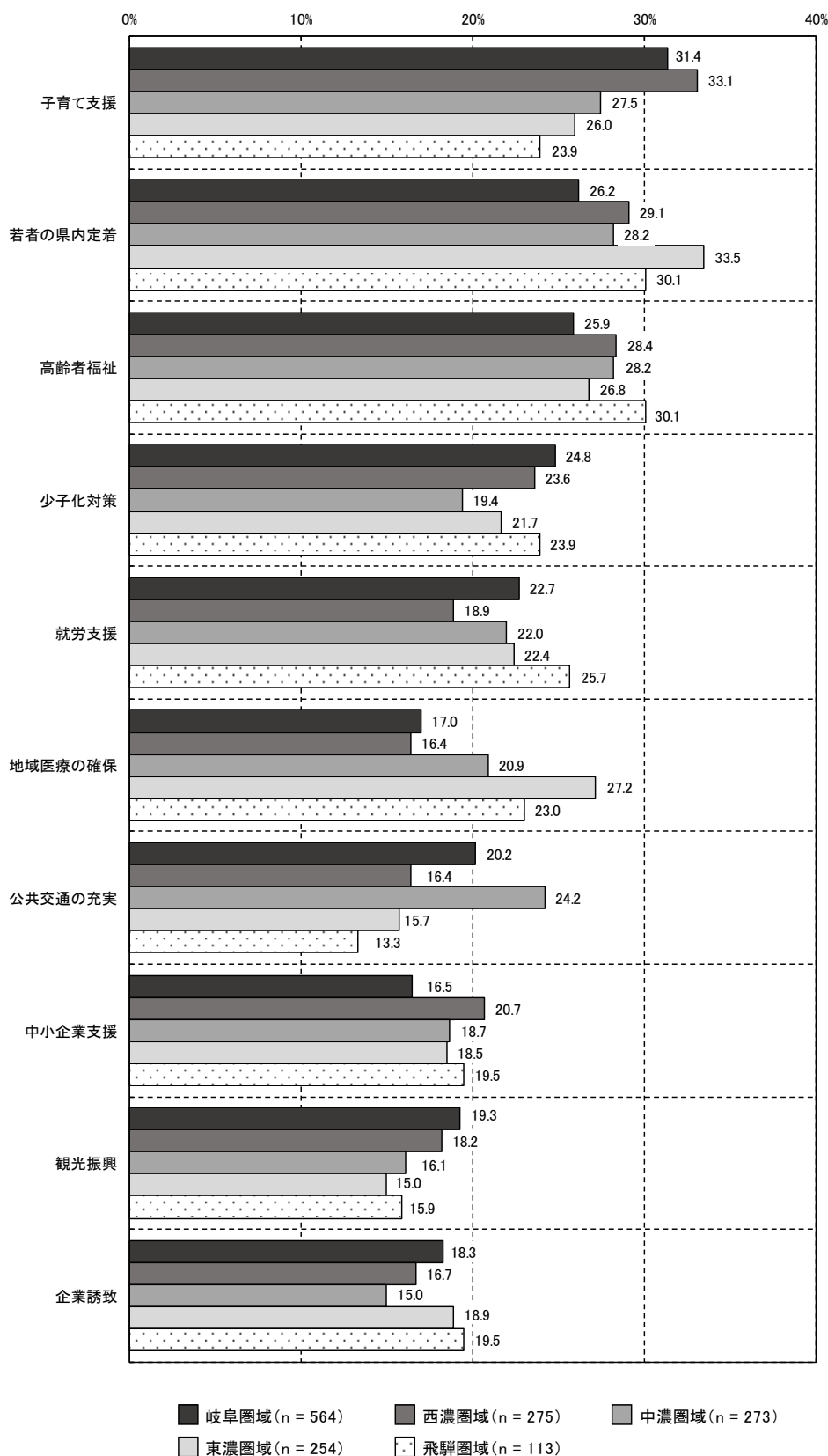
年代別（図 11-3）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代は「子育て支援」が最も高く、そのうち 30 歳代が 46.9%と最も高くなっている。50 歳代は「若者の県内定着」、60 歳代、70 歳以上は「高齢者福祉」が、それぞれ最も高くなっている。

図 11-3 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



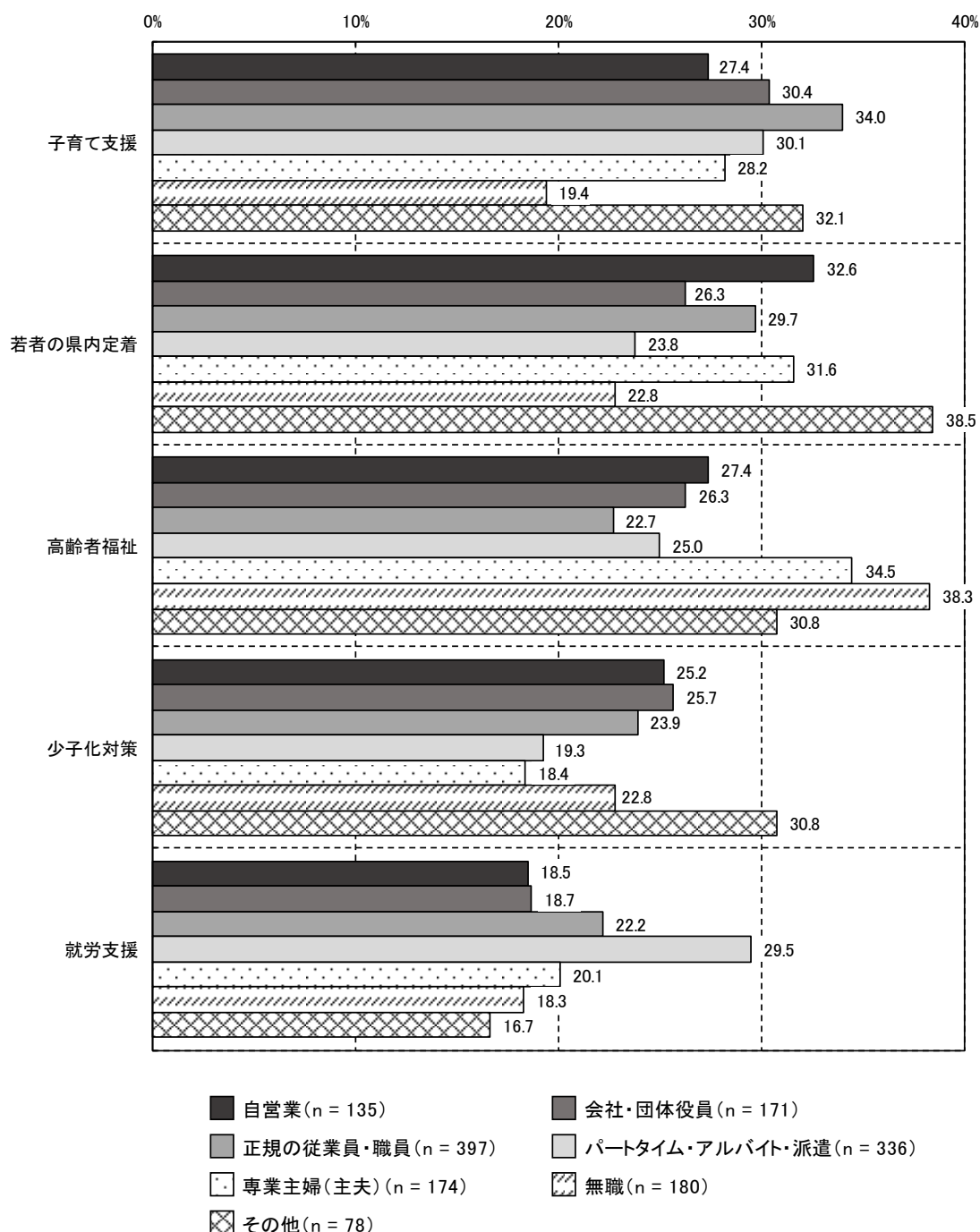
居住圏域別（図 11-4）で見ると、岐阜圏域、西濃圏域は「子育て支援」が最も高く、そのうち西濃圏域が 33.1%と最も高くなっている。中濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「若者の県内定着」が最も高く、そのうち東濃圏域が 33.5%と最も高くなっている。中濃圏域、飛騨圏域は「高齢者福祉」でもそれぞれ最も高くなっている。

図 11-4 【居住圏域別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



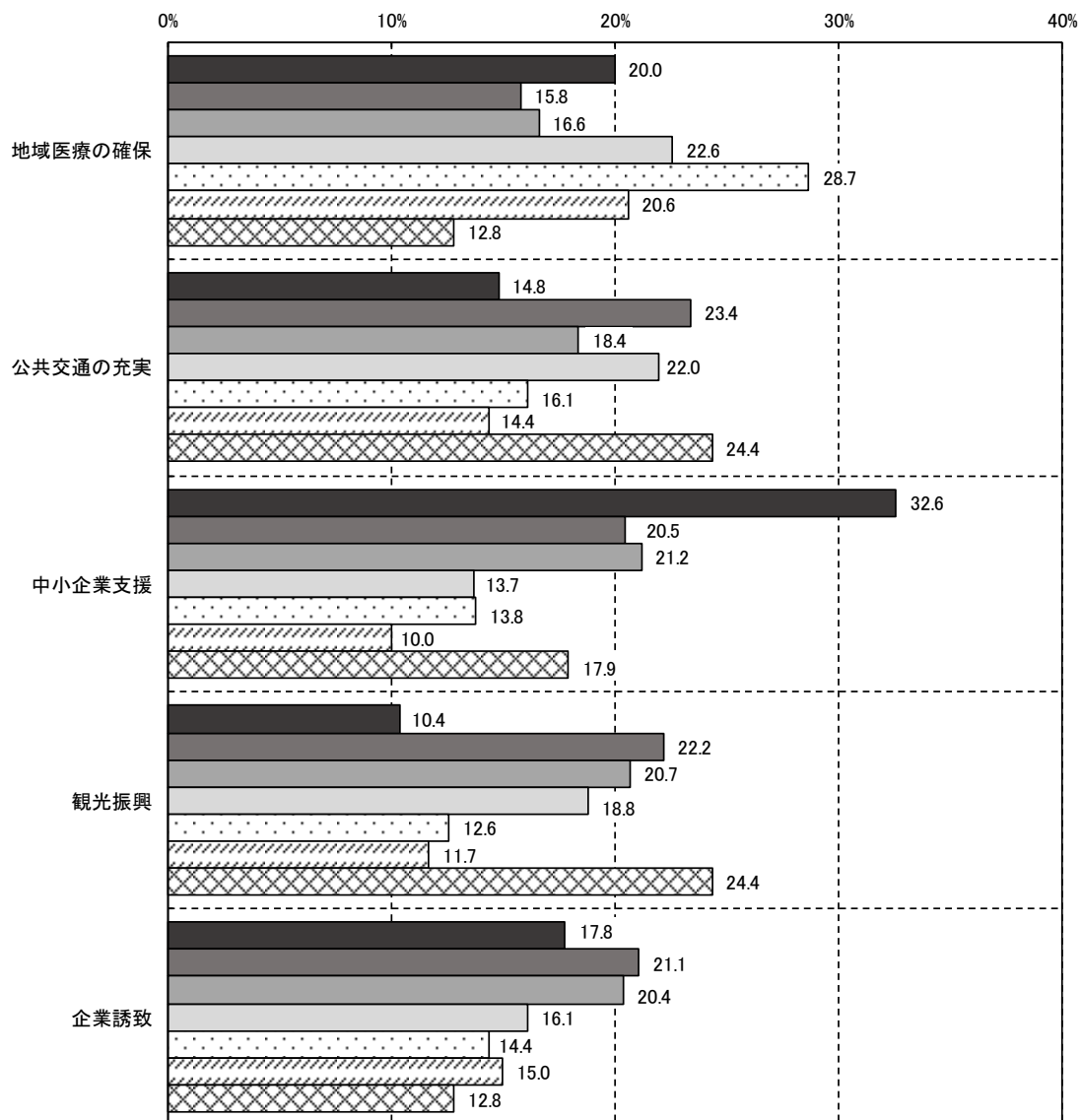
職業別（図 11-5）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣は「子育て支援」が最も高く、そのうち正規の従業員・職員が 34.0%と最も高くなっている。自営業は「若者の県内定着」、「中小企業支援」がそれぞれ 32.6%、専業主婦（主夫）、無職は「高齢者福祉」が最も高く、そのうち無職が 38.3%と最も高くなっている。その他は「若者の県内定着」が 38.5%と最も高くなっている。

図 11-5 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-5 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（続き）



- 自営業 (n = 135)
- 会社・団体役員 (n = 171)
- 正規の従業員・職員 (n = 397)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (n = 336)
- 専業主婦(主夫) (n = 174)
- 無職 (n = 180)
- その他 (n = 78)

※ その他には、自由業、学生を含む。

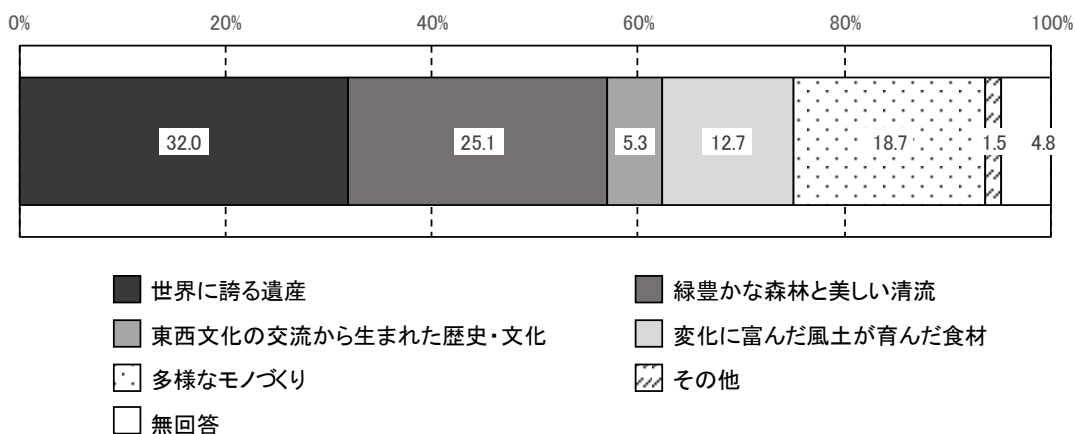
## 問1 1-2 国の内外に誇れるもの

問1 1-2 あなたは、人や消費を国の内外から県内に呼び込むために、岐阜県が国の内外に誇れるものは何だと思いますか。(1つだけ)

全体(図11-2-1)で見ると、「世界に誇る遺産」が32.0%と最も高くなっている。次いで、「緑豊かな森林と美しい清流」(25.1%)、「多様なモノづくり」(18.7%)の順となっている。

図11-2-1 国の内外に誇れるもの

回答者数(n = 1,522)



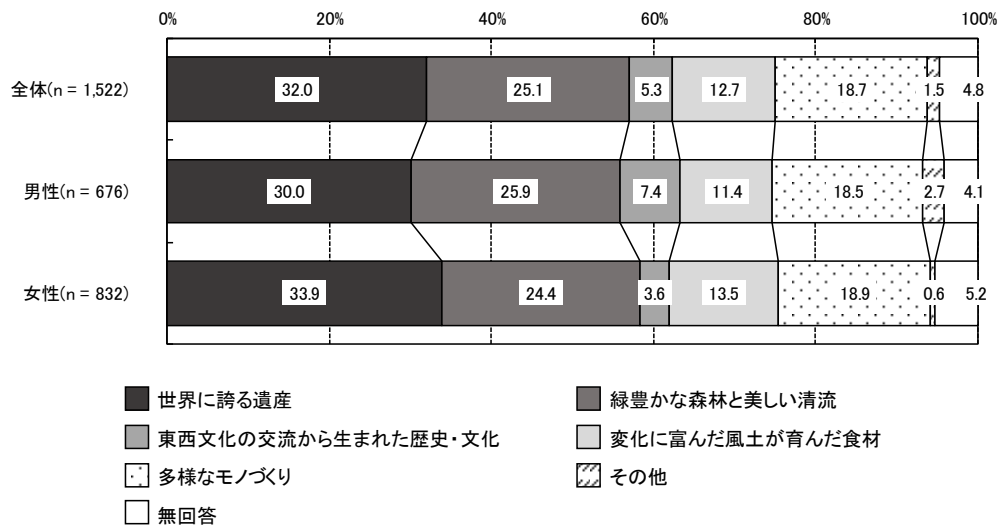
※ 第38・39回調査では、「国の内外に誇れるもの」は聞いていない。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略しているものがある。

- ・世界に誇る遺産: ユネスコ世界文化遺産「白川郷合掌造り集落」、ユネスコ無形文化遺産「本美濃紙、山・鉾・屋台行事」、世界かんがい施設遺産「曾代用水」、世界農業遺産「清流長良川の鮎」
- ・緑豊かな森林と美しい清流: 緑豊かな森林と美しい清流に代表される自然や景観
- ・東西文化の交流から生まれた歴史・文化: 古戦場や城跡、伝統的な街並み、地歌舞伎など
- ・変化に富んだ風土が育んだ食材: 飛騨牛、鮎、柿、栗、いちご、トマト、米など
- ・多様なモノづくり: 木工、和紙、刃物、陶磁器などの地域産業や機械、航空宇宙産業など

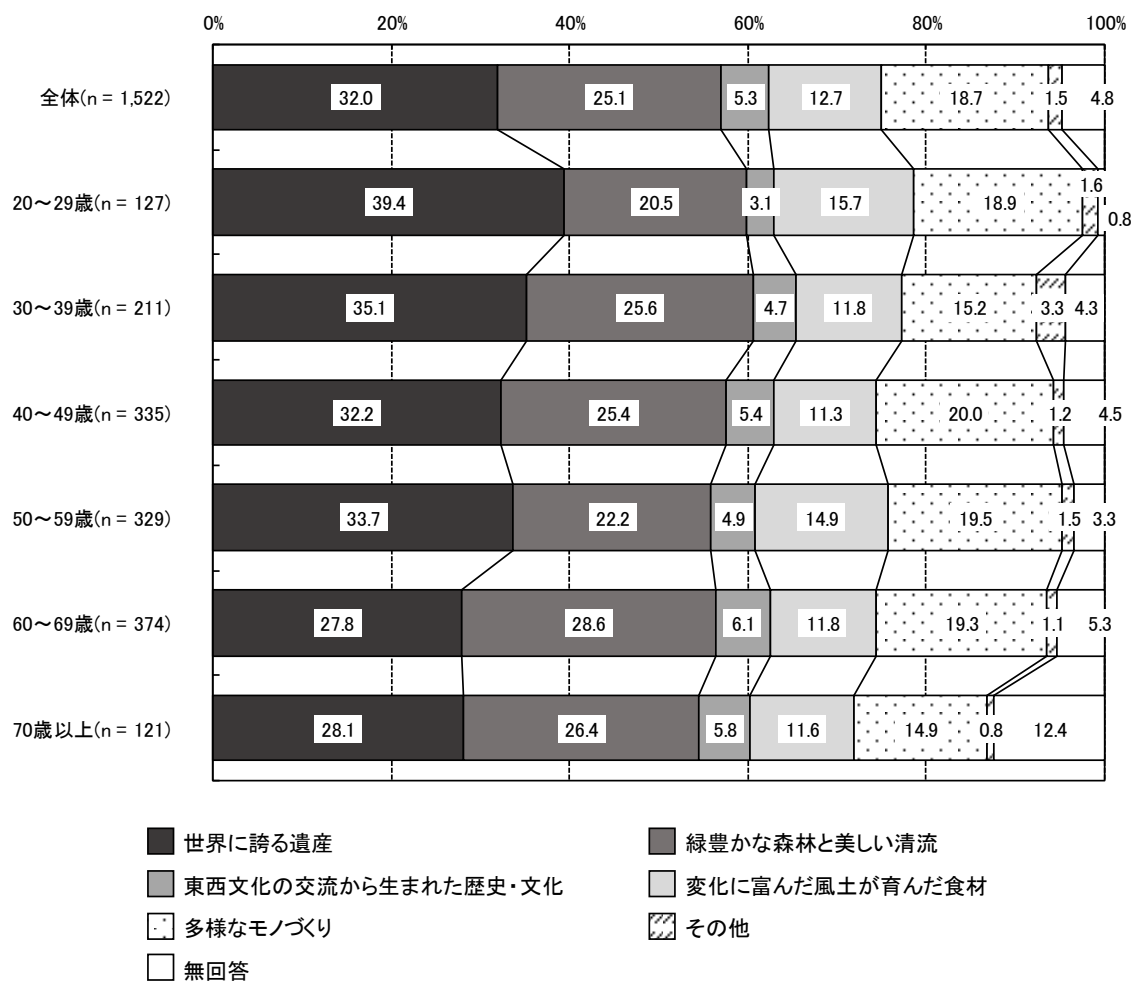
性別（図 11-2-2）で見ると、男女ともに「世界に誇る遺産」が最も高く、女性が男性より 3.9 ポイント高くなっている。

図 11-2-2 【性別】 国の内外に誇れるもの



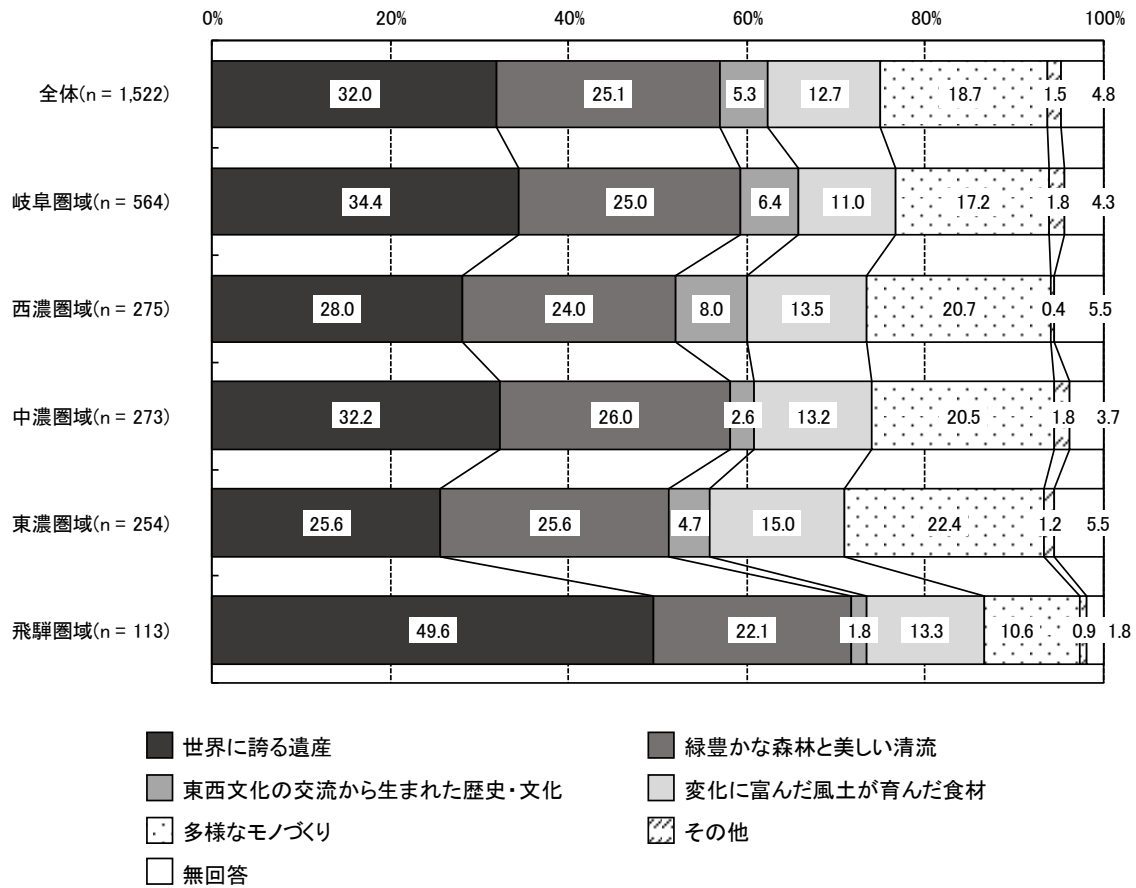
年代別（図 11-2-3）で見ると、60 歳代を除くいずれの年代においても「世界に誇る遺産」が最も高く、そのうち 20 歳代が 39.4% と最も高くなっている。60 歳代では「緑豊かな森林と美しい清流」が 28.6% と最も高くなっている。

図 11-2-3 【年代別】 国の内外に誇れるもの



居住圏域別（図 11-2-4）で見ると、いずれの居住圏域においても「世界に誇る遺産」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 49.6%と最も高くなっている。東濃圏域では「緑豊かな森林と美しい清流」でも 25.6%と最も高くなっている。

図 11-2-4 【居住圏域別】 国の内外に誇れるもの



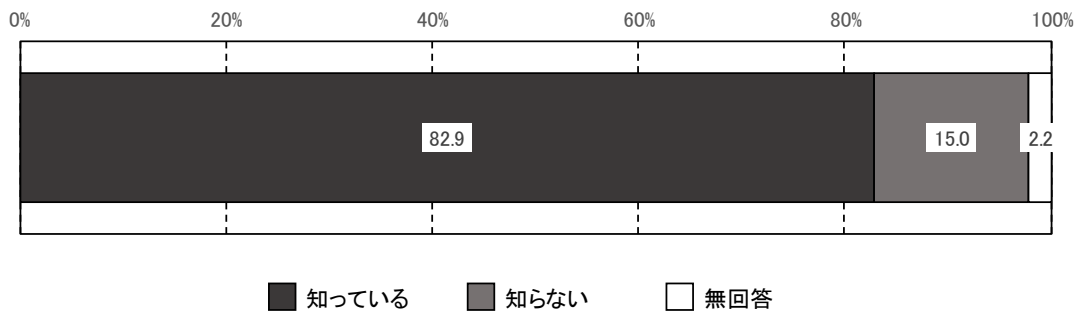
## 問12 「清流の国ぎふ」の認知度

問12 あなたは、岐阜県を「清流の国ぎふ」として打ち出していることを知っていますか。  
(1つだけ)

全体(図12-1)で見ると、「知っている」が82.9%、「知らない」が15.0%となっている。

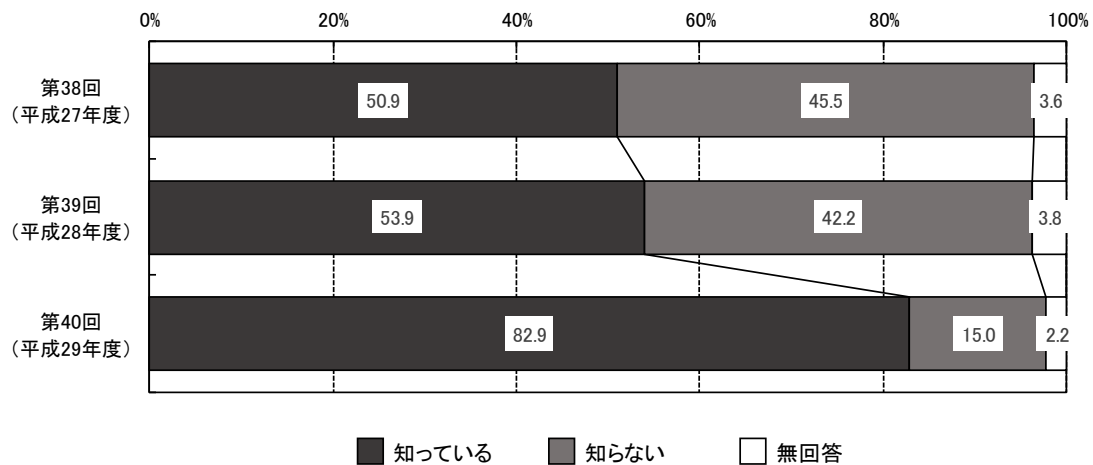
図12-1 「清流の国ぎふ」の認知度

回答者数(n = 1,522)



前々回・前回比較(図12-2)で見ると、前々回・前回と同様に「知っている」が最も高く、前回と比べて29.0ポイント高くなっている。「知らない」では15.0%と、27.2ポイント低くなっている。

図12-2 【前々回・前回比較】「清流の国ぎふ」の認知度

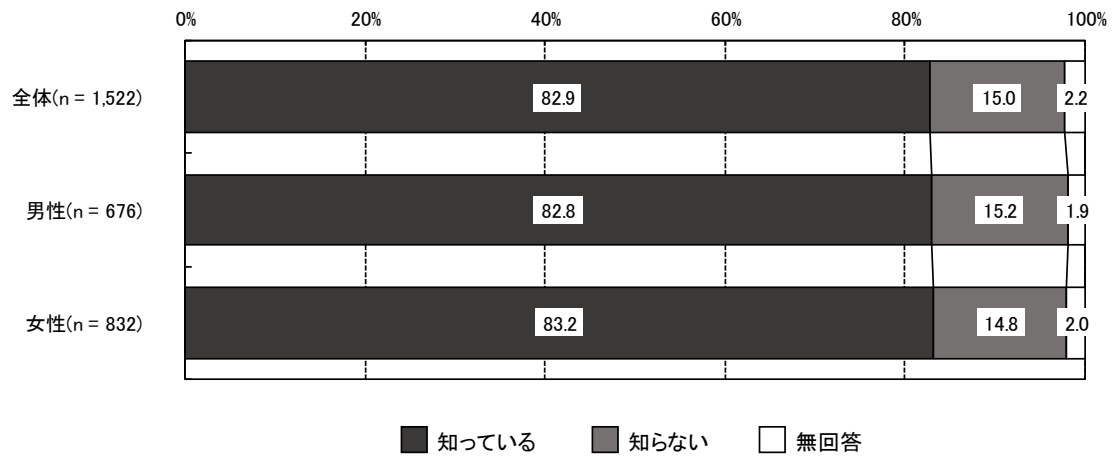


※ 第38・39回調査では、設問は「清流の国ぎふ」を地域づくりのキーワードとして掲げ、各種の施策に取り組んでいることを知っていますか。」であった。



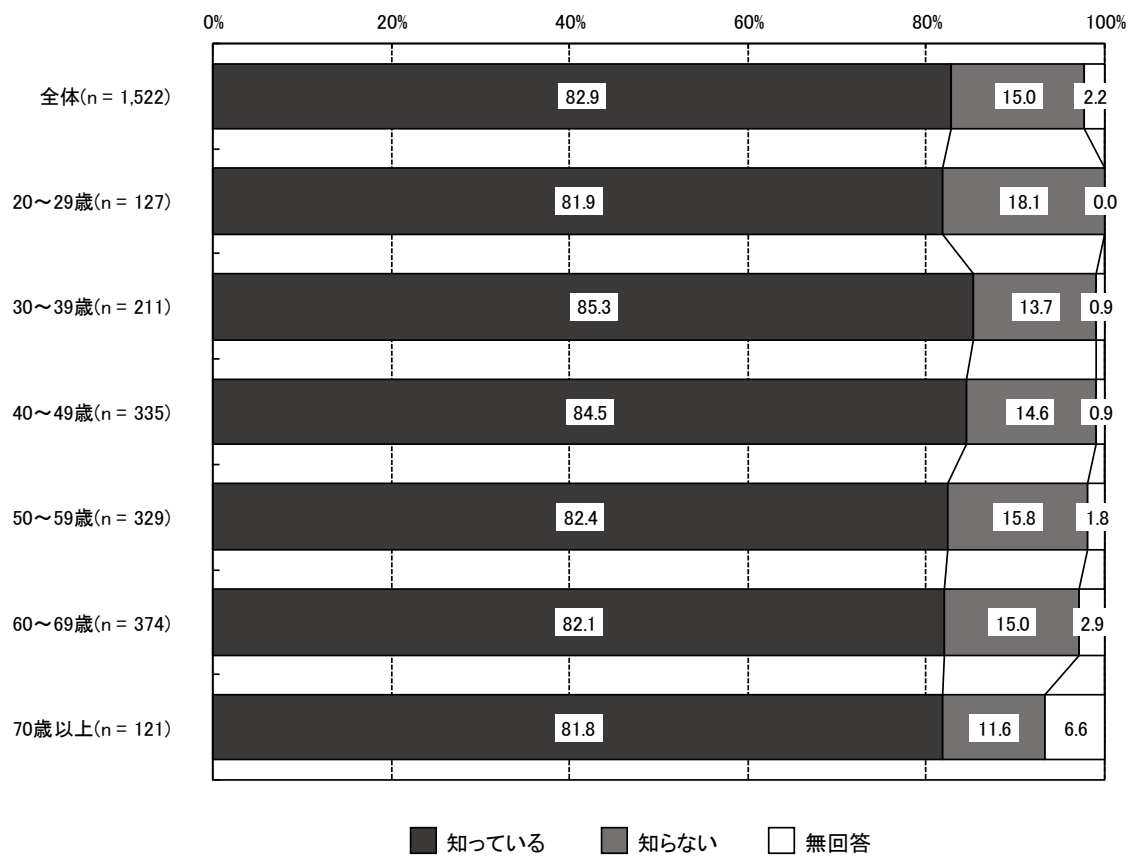
性別（図 12-3）で見ると、男女ともに「知っている」が高く、男性が 82.8%、女性が 83.2% となっている。「知らない」では、男性が 15.2%、女性が 14.8% となっている。

図 12-3 【性別】「清流の国ぎふ」の認知度



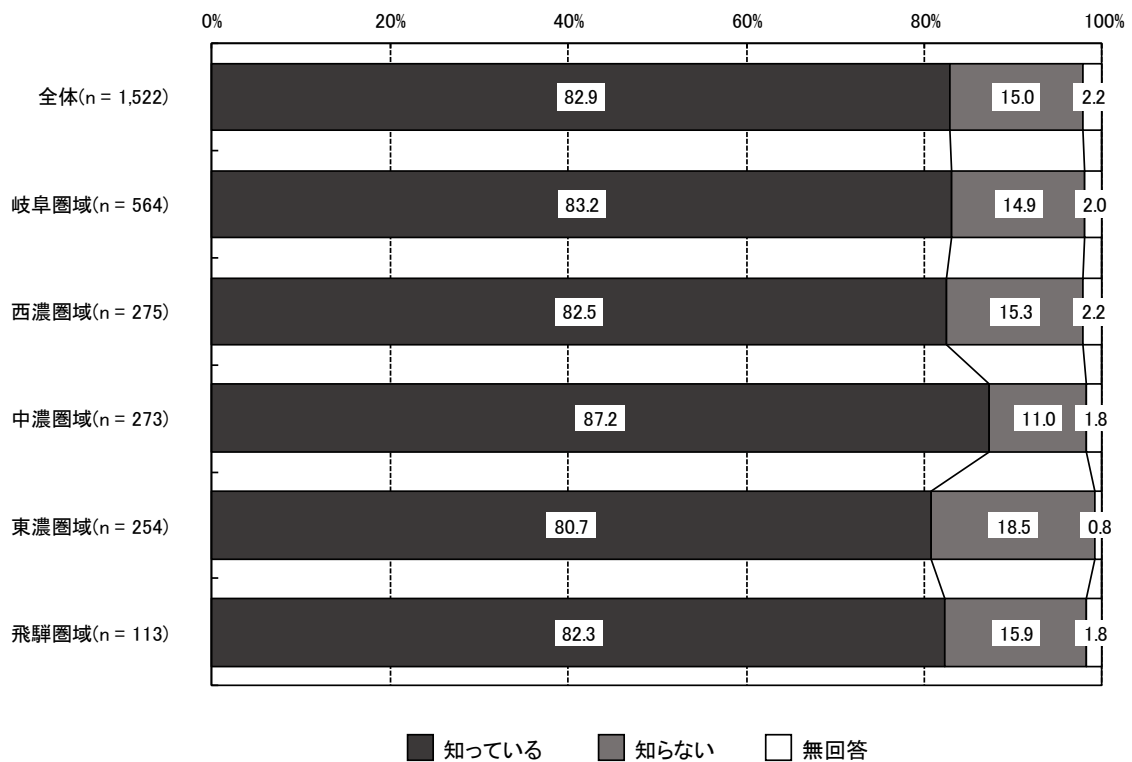
年代別（図 12-4）で見ると、いずれの年代においても「知っている」が高く、そのうち 30 歳代が 85.3% と最も高くなっている。

図 12-4 【年代別】「清流の国ぎふ」の認知度



居住圏域別（図 12-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「知っている」が最も高く、そのうち中濃圏域が 87.2%と最も高くなっている。

図 12-5 【居住圏域別】「清流の国ぎふ」の認知度



## 2. 3 生活を取り巻くさまざまな課題について

### 問13 「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス

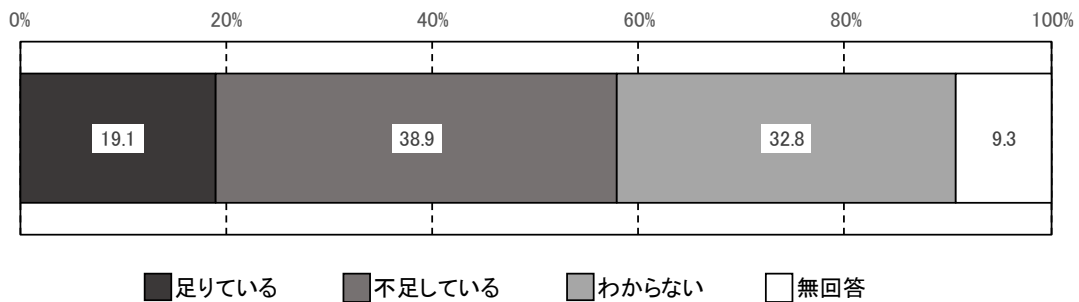
問13 あなたがお住まいの地域で、「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスは足りていると思いますか。(それぞれ1つずつ)

#### 【「高齢者」に対する福祉サービス】

「高齢者」に対する福祉サービスについて全体（図13-1）で見ると、「不足している」が38.9%と最も高く、次いで「わからない」（32.8%）、「足りている」（19.1%）の順となっている。

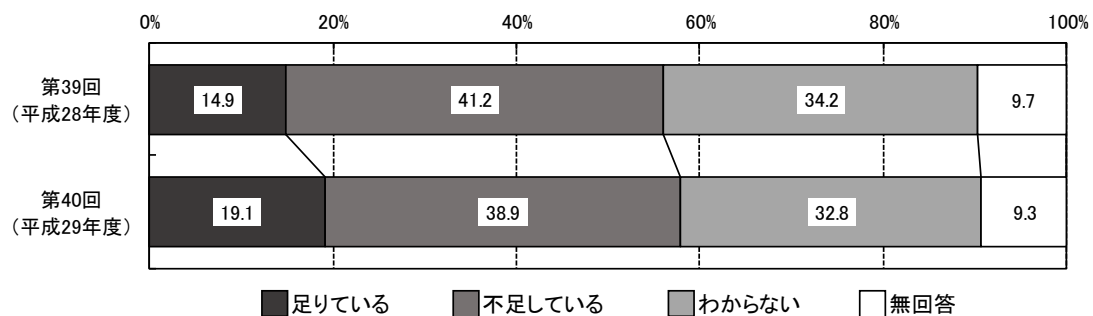
図13-1 「高齢者」に対する福祉サービス

回答者数(n = 1,522)



「高齢者」に対する福祉サービスについて前回比較（図13-2）で見ると、「足りている」は前回に比べて4.2ポイント増加している。「不足している」は2.3ポイント、「わからない」は1.4ポイントそれぞれ減少している。

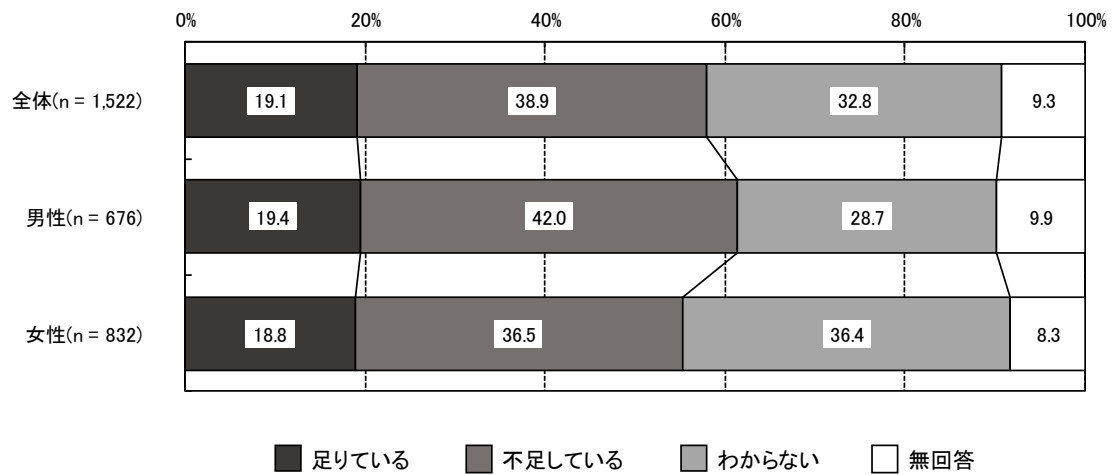
図13-2 【前回比較】「高齢者」に対する福祉サービス



※ 第38回調査では、「高齢者」に対する福祉サービスは聞いていない。

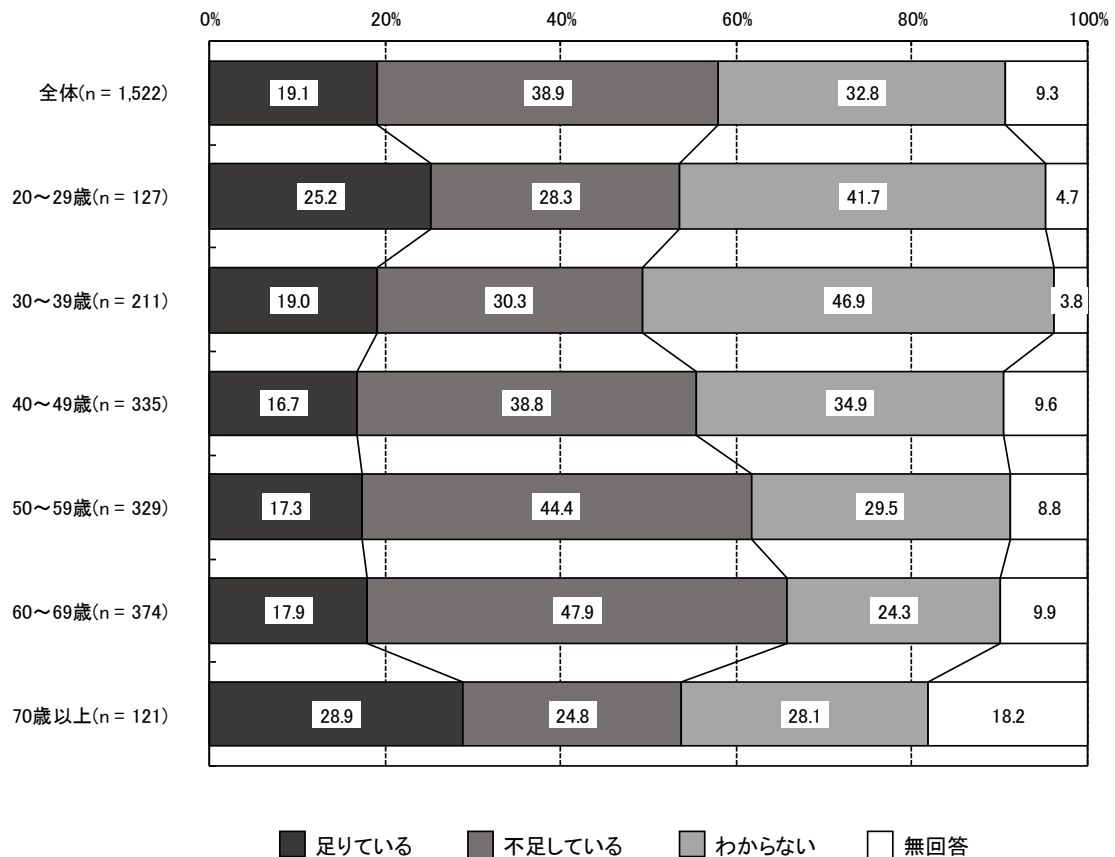
「高齢者」に対する福祉サービスについて性別（図 13-3）でみると、男女ともに「不足している」が最も高く、男性が女性より 5.5 ポイント高くなっている。

図 13-3 【性別】「高齢者」に対する福祉サービス



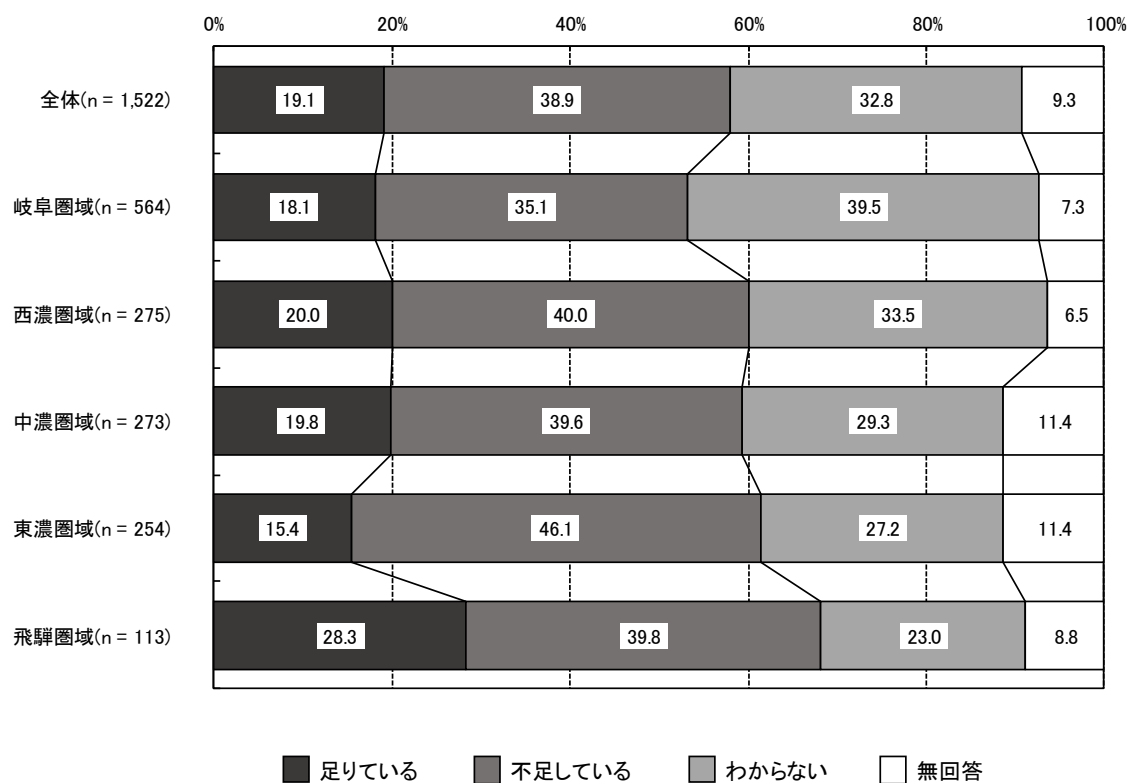
「高齢者」に対する福祉サービスについて年代別（図 13-4）でみると、20 歳代、30 歳代は「わからない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 46.9%と最も高くなっている。40 歳代、50 歳代、60 歳代は「不足している」が最も高く、そのうち 60 歳代が 47.9%と最も高くなっている。70 歳以上は「足っている」が 28.9%と最も高くなっている。

図 13-4 【年代別】「高齢者」に対する福祉サービス



「高齢者」に対する福祉サービスについて居住圏域別（図 13-5）で見ると、岐阜圏域を除くいずれの居住圏域においても「不足している」が最も高く、そのうち東濃圏域が46.1%と最も高くなっている。岐阜圏域は「わからない」が39.5%と最も高くなっている。「足りている」では飛騨圏域が28.3%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 13-5 【居住圏域別】「高齢者」に対する福祉サービス

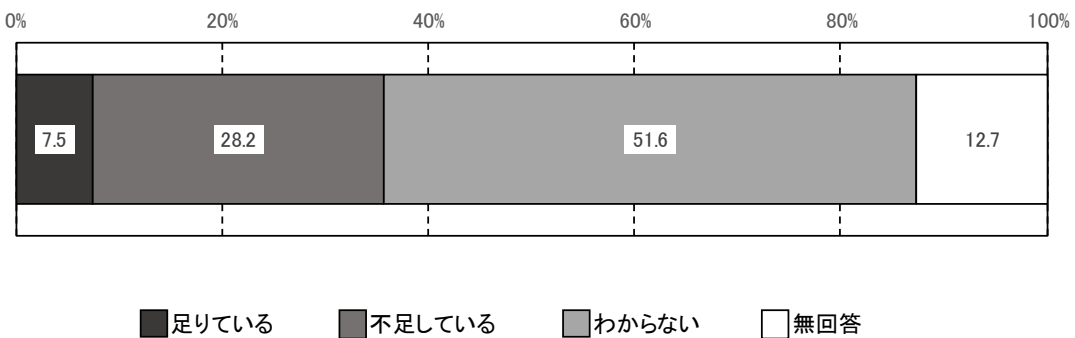


## 【「障がい者」に対する福祉サービス】

「障がい者」に対する福祉サービスについて全体（図 13-6）で見ると、「わからない」が 51.6%と最も高く、次いで「不足している」（28.2%）、「足りている」（7.5%）の順となっている。

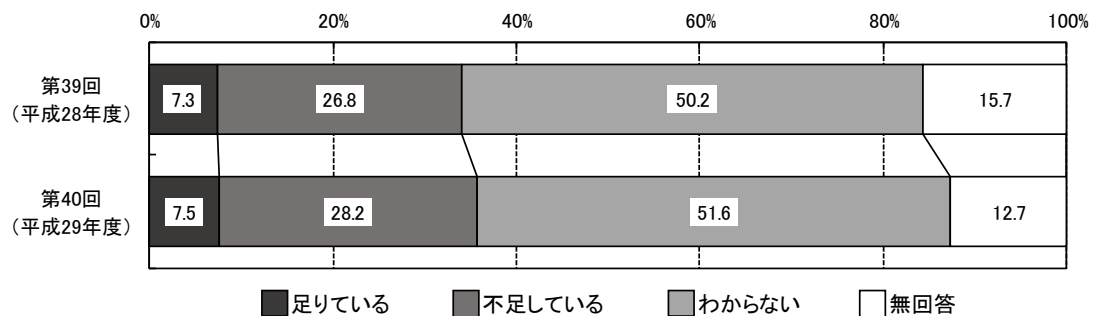
図 13-6 「障がい者」に対する福祉サービス

回答者数(n = 1,522)



「障がい者」に対する福祉サービスについて前回比較（図 13-7）で見ると、「足りている」は前回に比べて 0.2 ポイント、「不足している」は 1.4 ポイント、「わからない」は 1.4 ポイントそれぞれ増加している。

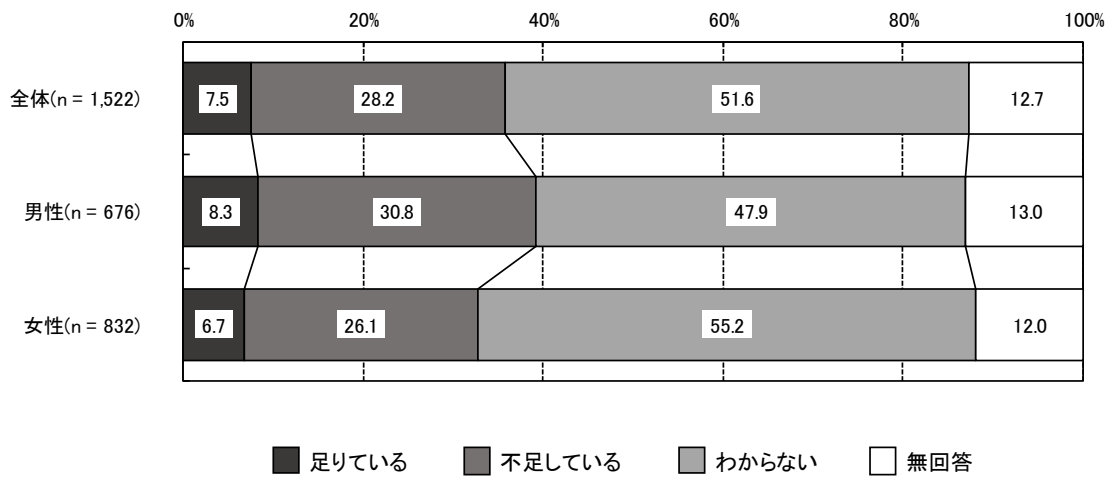
図 13-7 【前回比較】「障がい者」に対する福祉サービス



※ 第 38 回調査では、「障がい者」に対する福祉サービスは聞いていない。

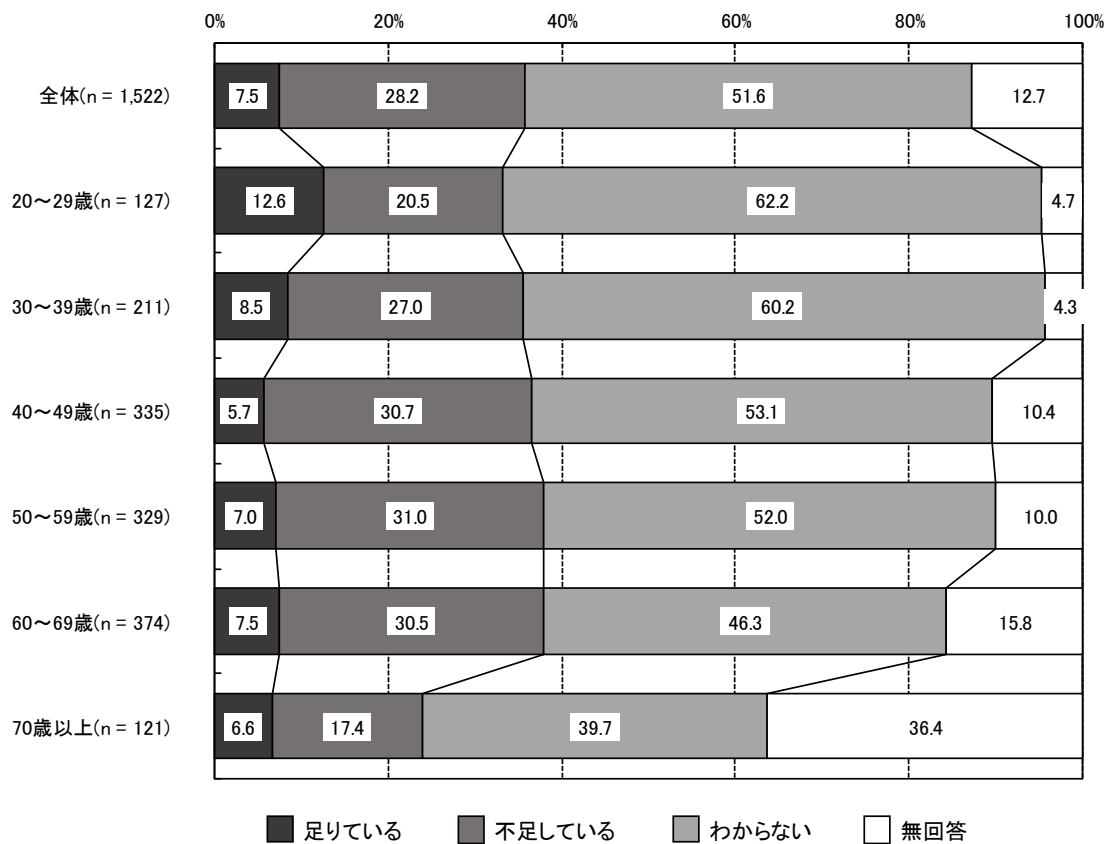
「障がい者」に対する福祉サービスについて性別（図 13-8）で見ると、男女ともに「わからない」が最も高く、男性が 47.9%、女性が 55.2%となっている。

図 13-8 【性別】「障がい者」に対する福祉サービス



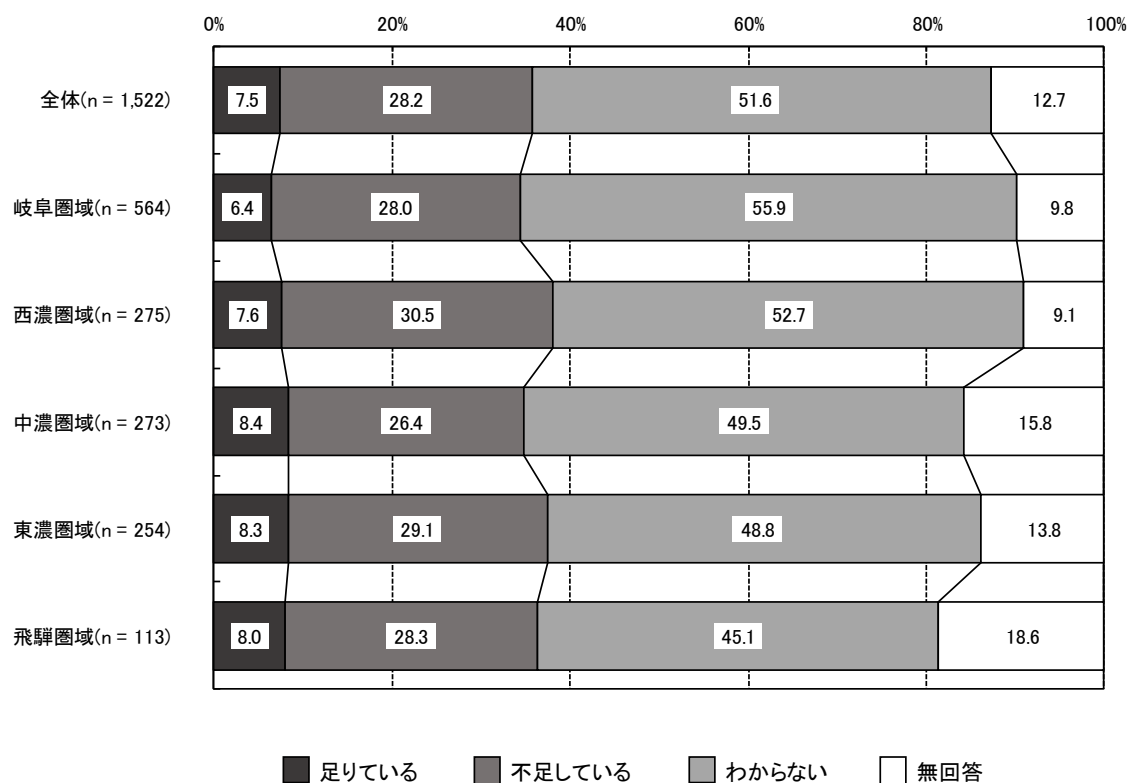
「障がい者」に対する福祉サービスについて年代別（図 13-9）で見ると、いずれの年代においても「わからない」が最も高く、そのうち 20 歳代が 62.2%と最も高くなっている。

図 13-9 【年代別】「障がい者」に対する福祉サービス



「障がい者」に対する福祉サービスについて居住圏域別（図 13-10）で見ると、いずれの居住圏域においても「わからない」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 55.9%と最も高くなっている。

図 13-10 【居住圏域別】「障がい者」に対する福祉サービス





問13-2 不足している「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービス

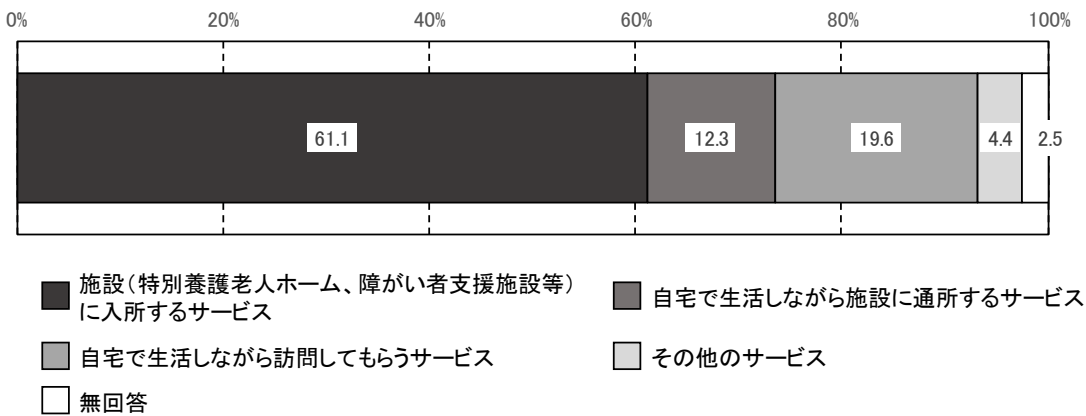
問13-2 「不足している」と答えた方にお尋ねします。不足していると思う「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスなどは何ですか。(それぞれ1つずつ)

【不足している「高齢者」に対する福祉サービス】

不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて全体(図13-2-1)で見ると、「施設(特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等)に入所するサービス」が61.1%と最も高く、次いで「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」(19.6%)、「自宅で生活しながら施設に通所するサービス」(12.3%)、の順となっている。

図13-2-1 不足している「高齢者」に対する福祉サービス

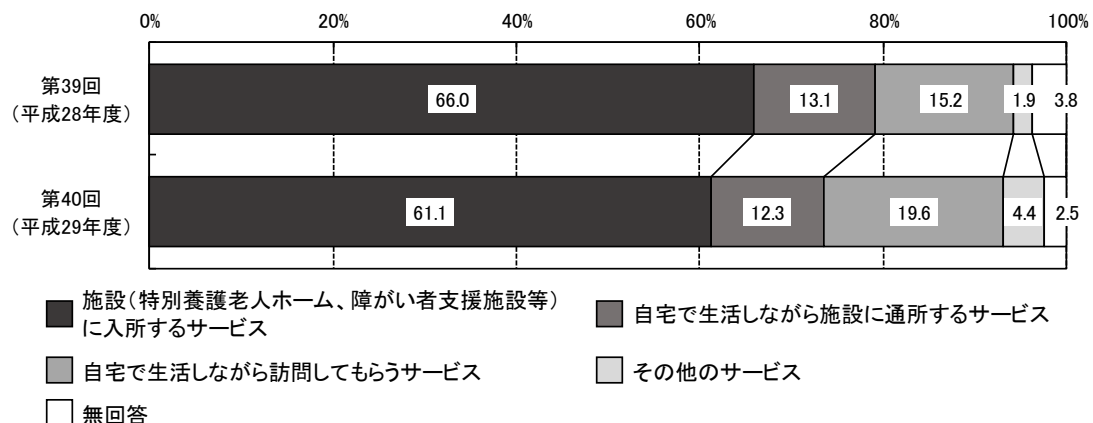
回答者数(n=592)※



※ 問13で「高齢者」に対する福祉サービスが「不足している」と答えた方のみ

不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて前回比較(図13-2-2)で見ると、前回に比べて「施設(特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等)に入所するサービス」が4.9ポイント、「自宅で生活しながら施設に通所するサービス」が0.8ポイント、それぞれ減少している。「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」が4.4ポイント増加している。

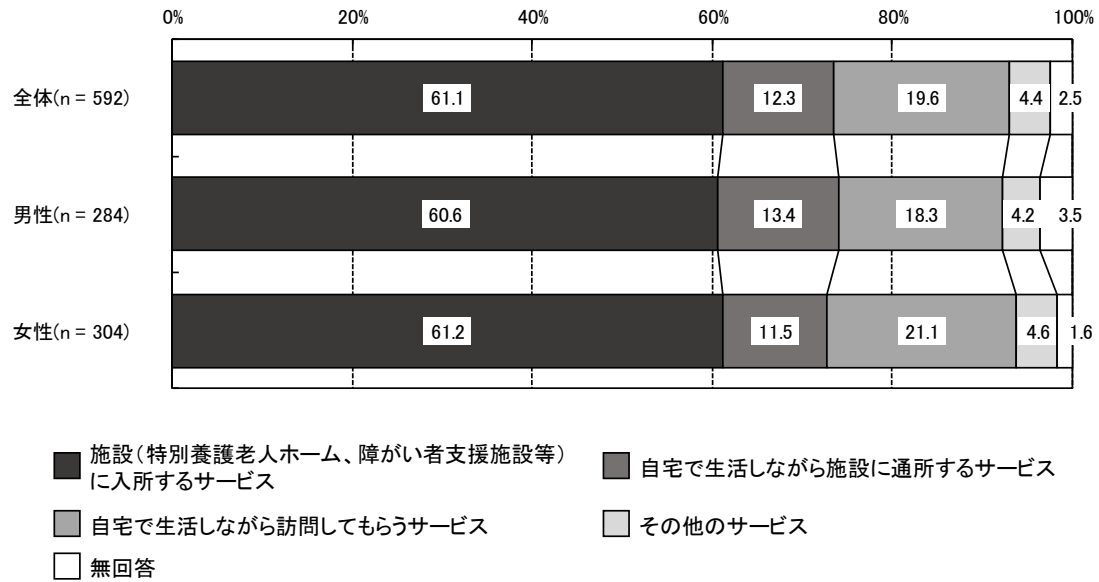
図13-2-2 【前回比較】 不足している「高齢者」に対する福祉サービス



※ 第38回調査では、すべての方に「不足している「高齢者」に対する福祉サービス」を聞いている。

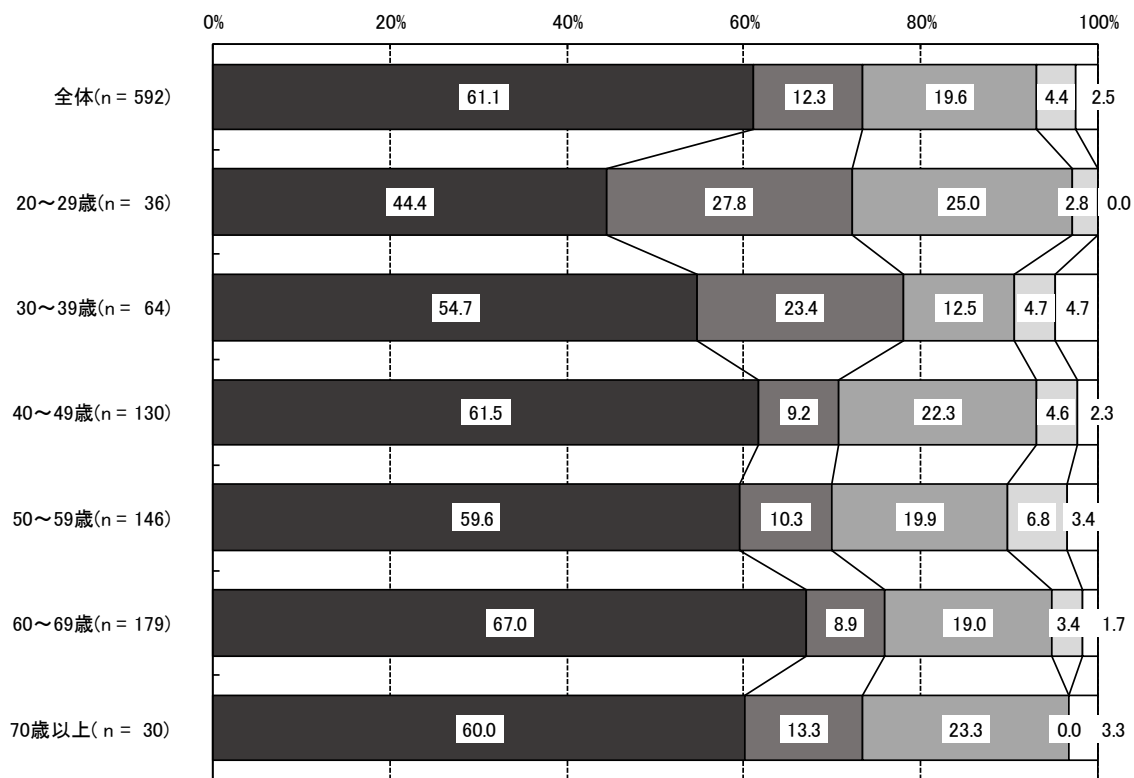
不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて性別（図 13-2-3）で見ると、男女ともに「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、男性が 60.6%、女性が 61.2%となっている。

図 13-2-3 【性別】 不足している「高齢者」に対する福祉サービス



不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて年代別（図 13-2-4）で見ると、いずれの年代においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち 60 歳代が 67.0%と最も高くなっている。

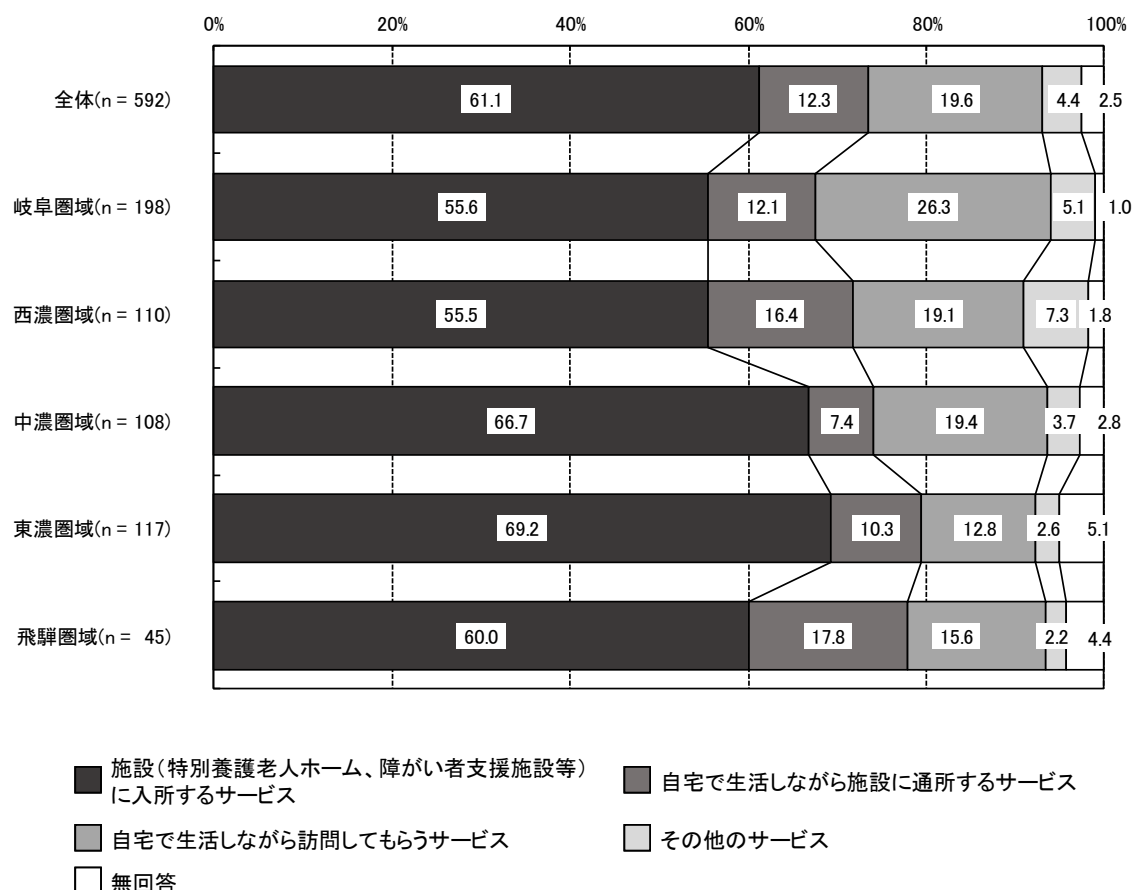
図 13-2-4 【年代別】不足している「高齢者」に対する福祉サービス



- 施設(特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等)に入所するサービス
- 自宅で生活しながら施設に通所するサービス
- 自宅で生活しながら訪問してもらうサービス
- その他のサービス
- 無回答

不足している「高齢者」に対する福祉サービスについて居住圏域別（図 13-2-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち東濃圏域が 69.2%と最も高くなっている。「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」では岐阜圏域が 26.3%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 13-2-5 【居住圏域別】 不足している「高齢者」に対する福祉サービス

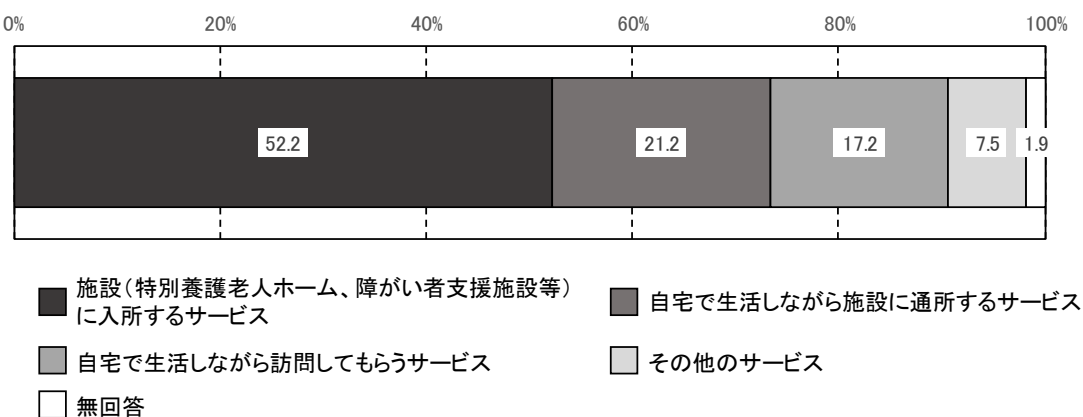


## 【不足している「障がい者」に対する福祉サービス】

不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて全体（図 13-2-6）でみると、「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が 52.2%と最も高く、次いで「自宅で生活しながら施設に通所するサービス」（21.2%）、「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」（17.2%）の順となっている。

図 13-2-6 不足している「障がい者」に対する福祉サービス

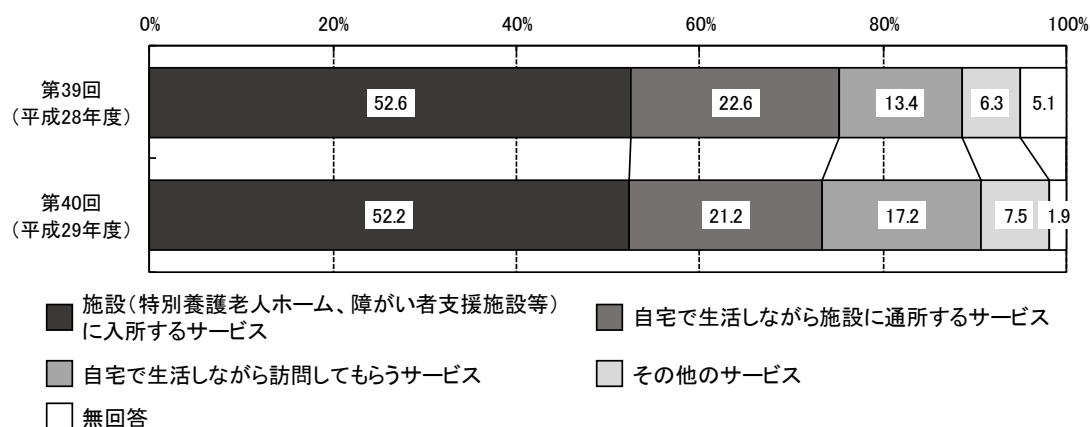
回答者数(n = 429)※



※ 問 13 で「障がい者」に対する福祉サービスが「不足している」と答えた方のみ

不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて前回比較（図 13-2-7）でみると、前回に比べて「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が 0.4 ポイント、「自宅で生活しながら施設に通所するサービス」が 1.4 ポイント、それぞれ減少している。「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」が 3.8 ポイント増加している。

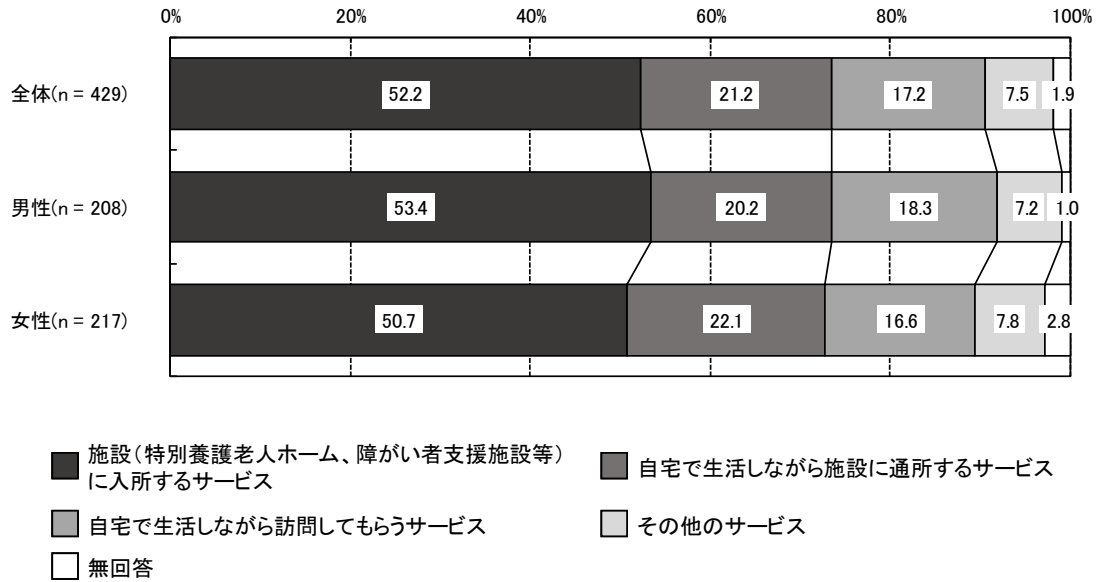
図 13-2-7 【前回比較】 不足している「障がい者」に対する福祉サービス



※ 第 38 回調査では、すべての方に「不足している「障がい者」に対する福祉サービス」を聞いている。

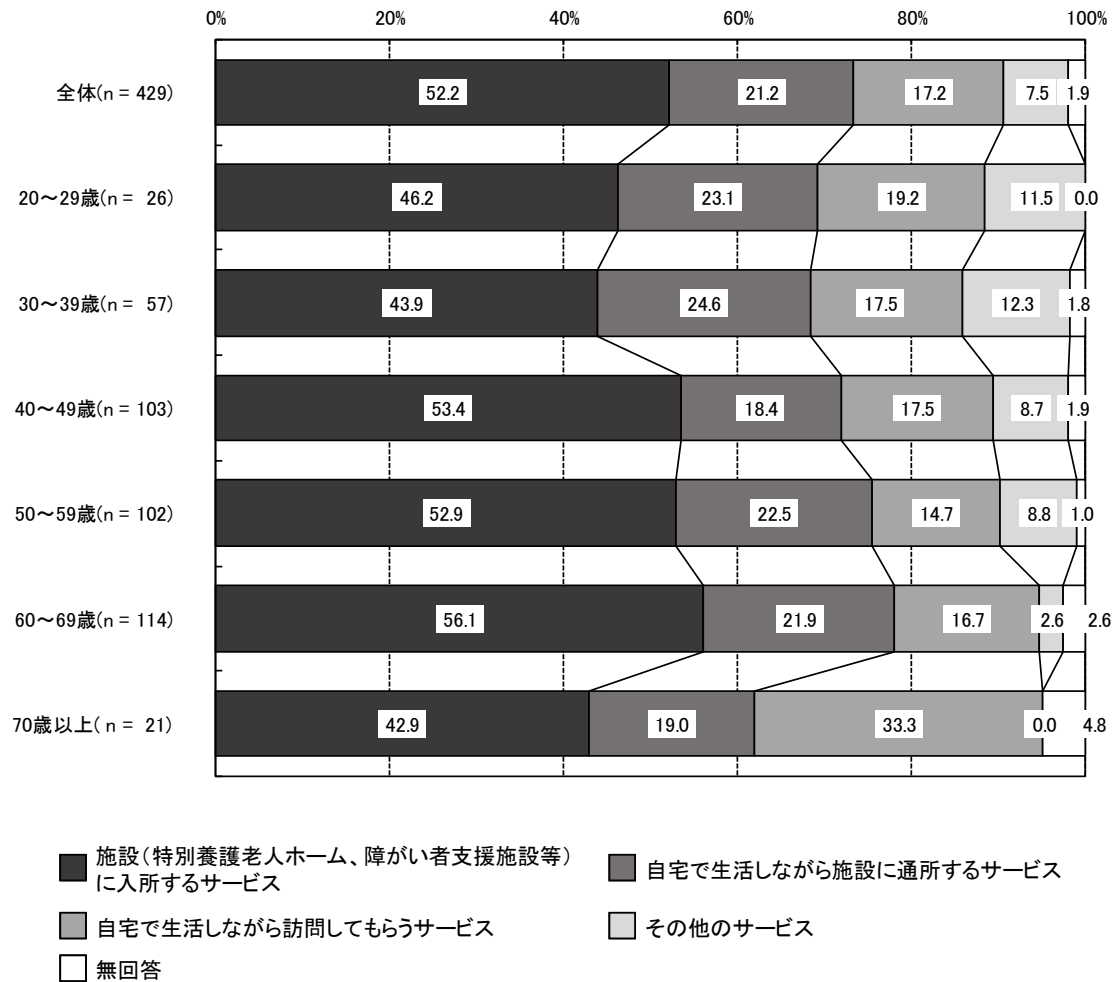
不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて性別（図 13-2-8）で見ると、男女ともに「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、男性が 53.4%、女性が 50.7%となっている。

図 13-2-8 【性別】 不足している「障がい者」に対する福祉サービス



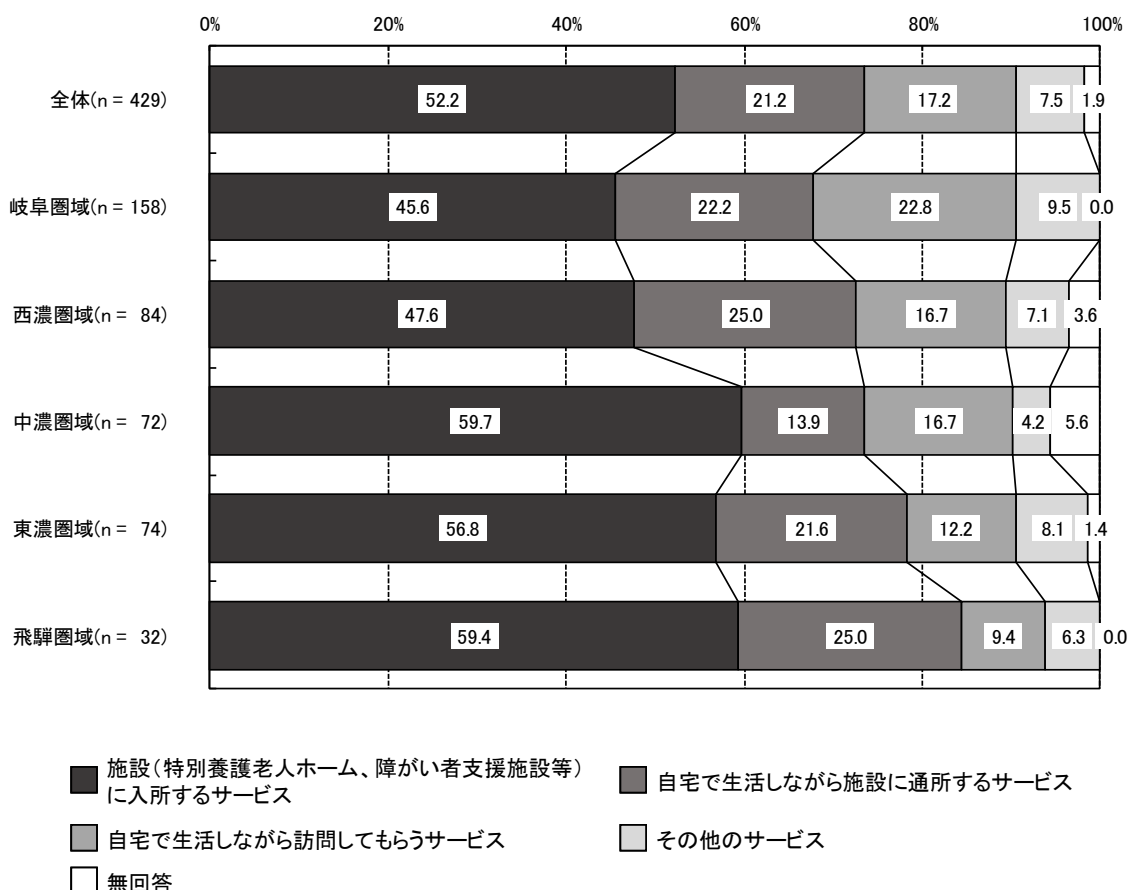
不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて年代別（図 13-2-9）で見ると、いずれの年代においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち 60 歳代が 56.1%と最も高くなっている。「自宅で生活しながら訪問してもらふサービス」では、70 歳以上が 33.3%と、他の年代と比較して高くなっている。

図 13-2-9 【年代別】不足している「障がい者」に対する福祉サービス



不足している「障がい者」に対する福祉サービスについて居住圏域別（図 13-2-10）で見ると、いずれの居住圏域においても「施設（特別養護老人ホーム、障がい者支援施設等）に入所するサービス」が最も高く、そのうち中濃圏域が 59.7%と最も高くなっている。「自宅で生活しながら訪問してもらうサービス」では、岐阜圏域が 22.8%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 13-2-10 【居住圏域別】不足している「障がい者」に対する福祉サービス





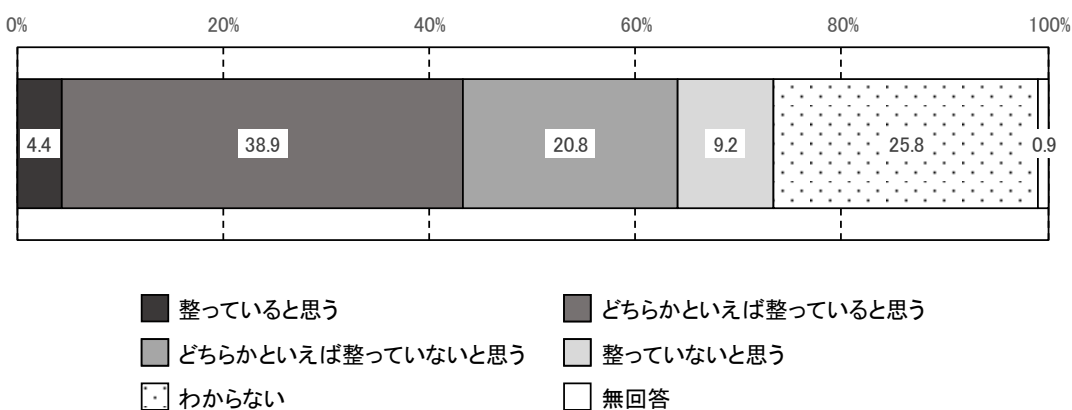
## 問 14 地域全体で子育てを支える環境の整備

問 14 あなたがお住まいの地域では、地域全体で子育てを支える環境が整っていると思いますか。(1つだけ)

全体(図 14-1)で見ると、「どちらかといえば整っていると思う」が 38.9%と最も高く、次いで「わからない」(25.8%)、「どちらかといえば整っていないと思う」(20.8%)の順となっている。

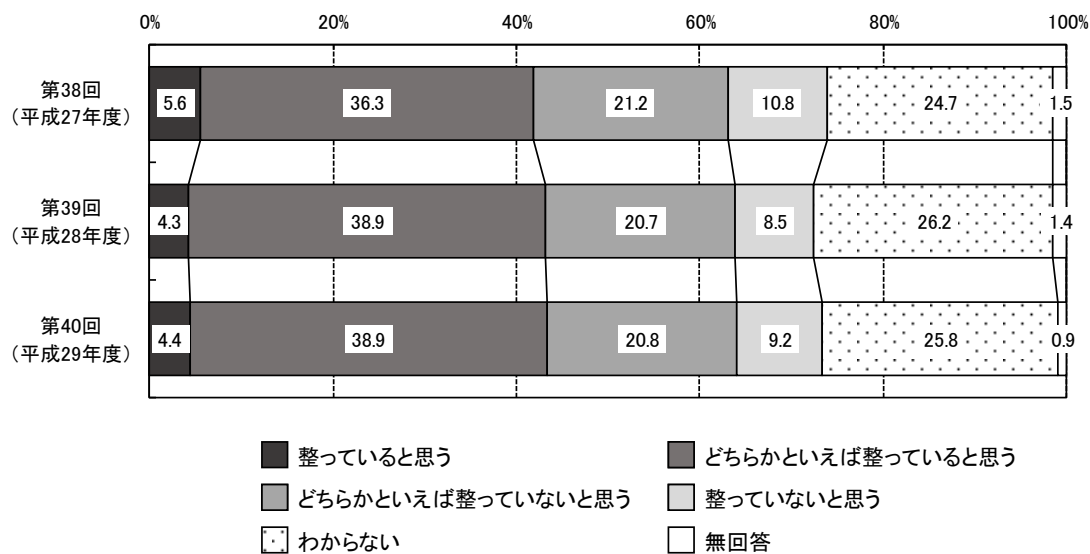
図 14-1 地域全体で子育てを支える環境の整備

回答者数(n = 1,522)



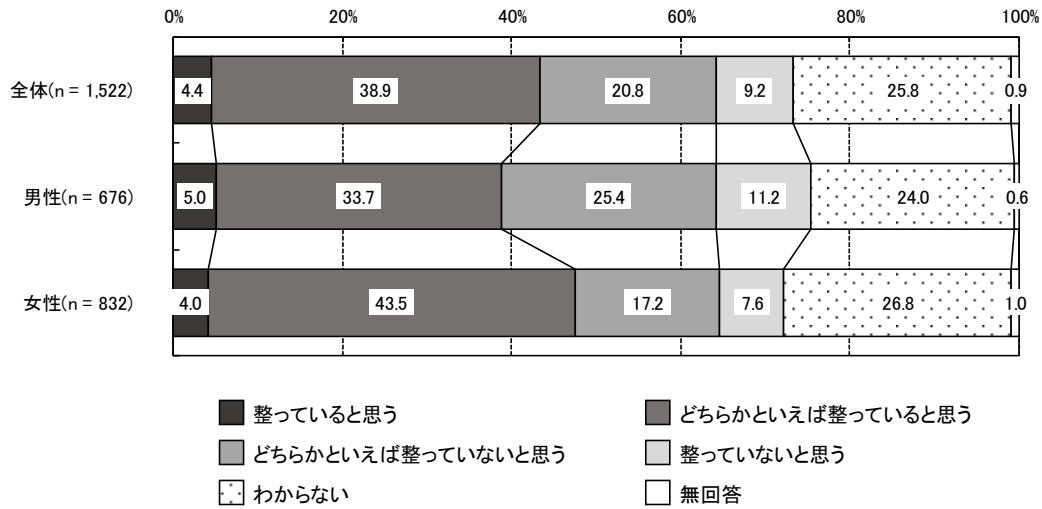
前々回・前回比較(図 14-2)で見ると、前々回・前回と同様に「どちらかといえば整っていると思う」が最も高くなっている。

図 14-2 【前々回・前回比較】 地域全体で子育てを支える環境の整備



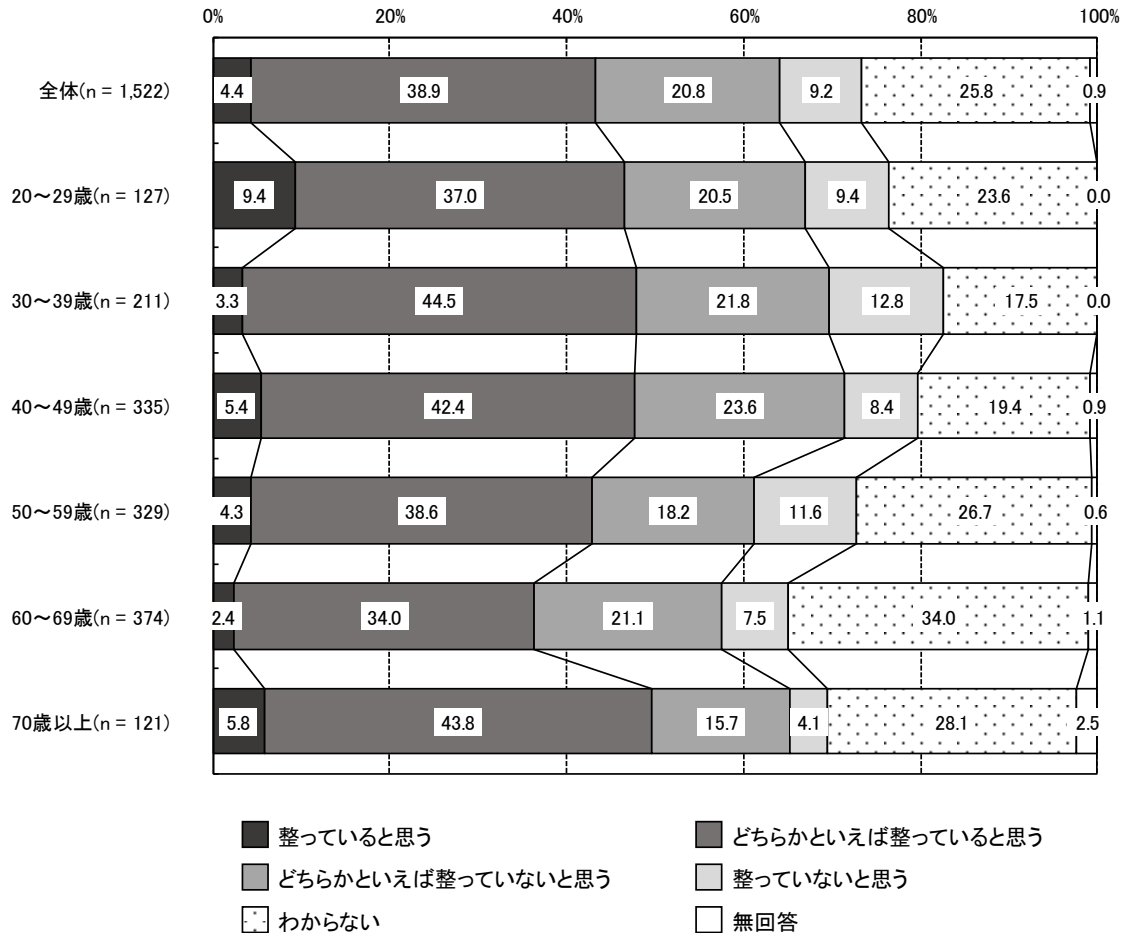
性別（図 14-3）で見ると、男女ともに「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、男性が 33.7%、女性が 43.5%と、女性が男性より 9.8 ポイント高くなっている。

図 14-3 【性別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



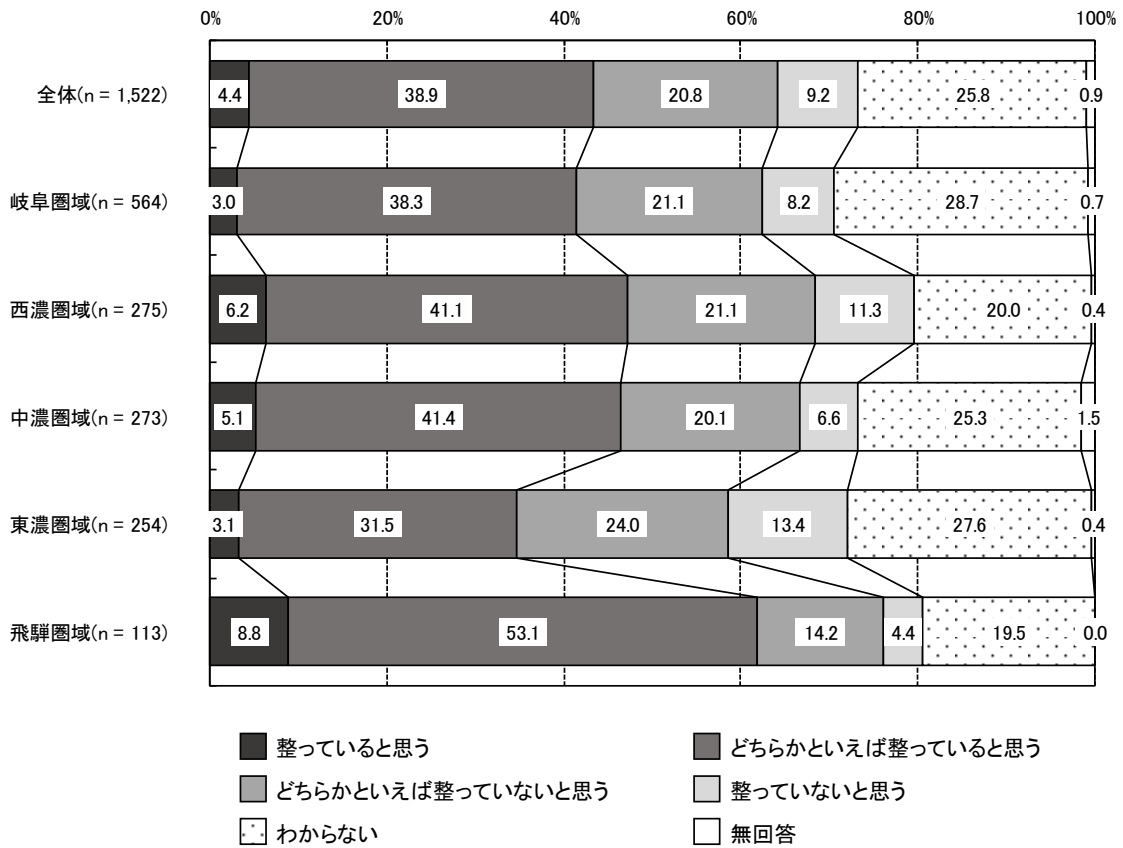
年代別（図 14-4）で見ると、いずれの年代においても「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、そのうち 30 歳代が 44.5%と最も高くなっている。

図 14-4 【年代別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



居住圏域別（図 14-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、そのうち飛騨圏域が53.1%と最も高くなっている。

図 14-5 【居住圏域別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



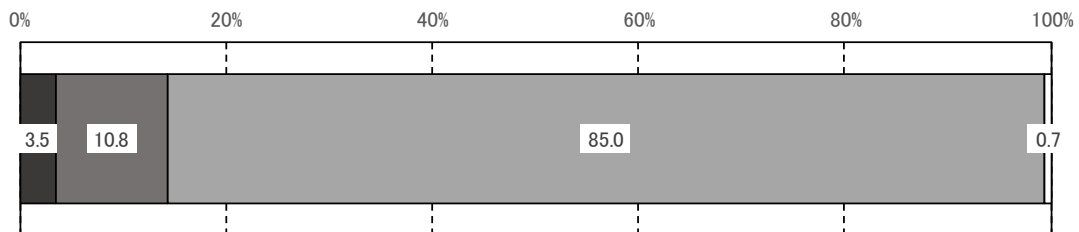
問 15 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無

問 15 あなたは、過去 1 年間に犯罪被害にあったこと、または犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがありますか。(1つだけ)

全体 (図 15-1) でみると、「ない」が 85.0%と最も高くなっている。

図 15-1 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無

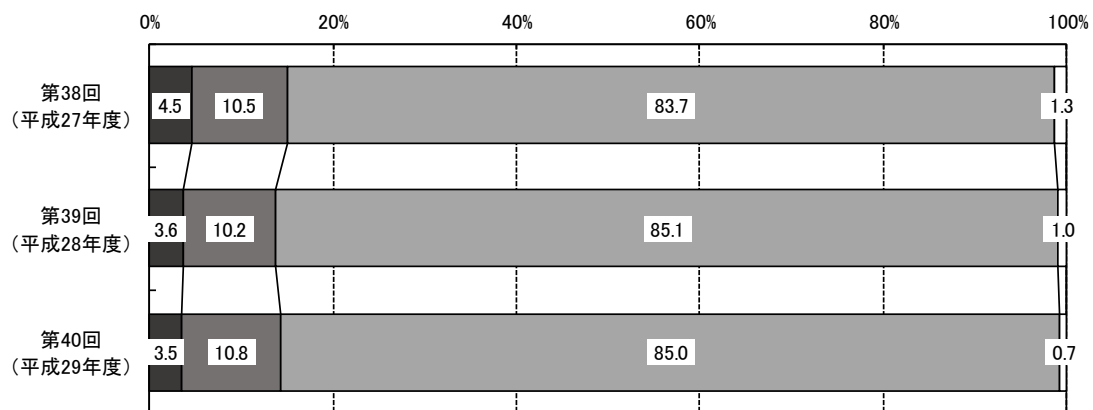
回答者数 (n = 1,522)



犯罪被害にあったことがある
  犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある  
 ない
  無回答

前々回・前回比較 (図 15-2) でみると、前々回・前回と同様に「ない」が最も高く、前回より 0.1 ポイント減少している。

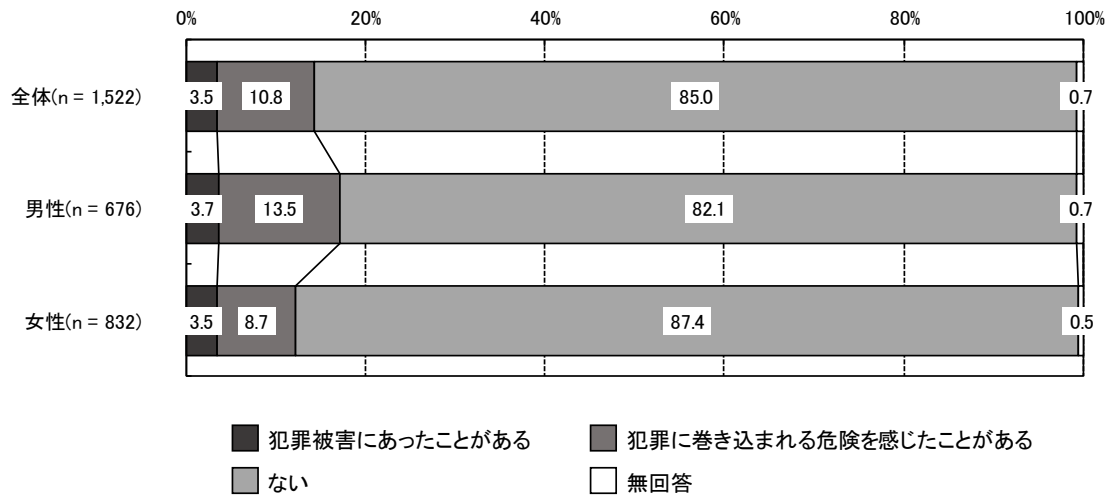
図 15-2 【前々回・前回比較】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



犯罪被害にあったことがある
  犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある  
 ない
  無回答

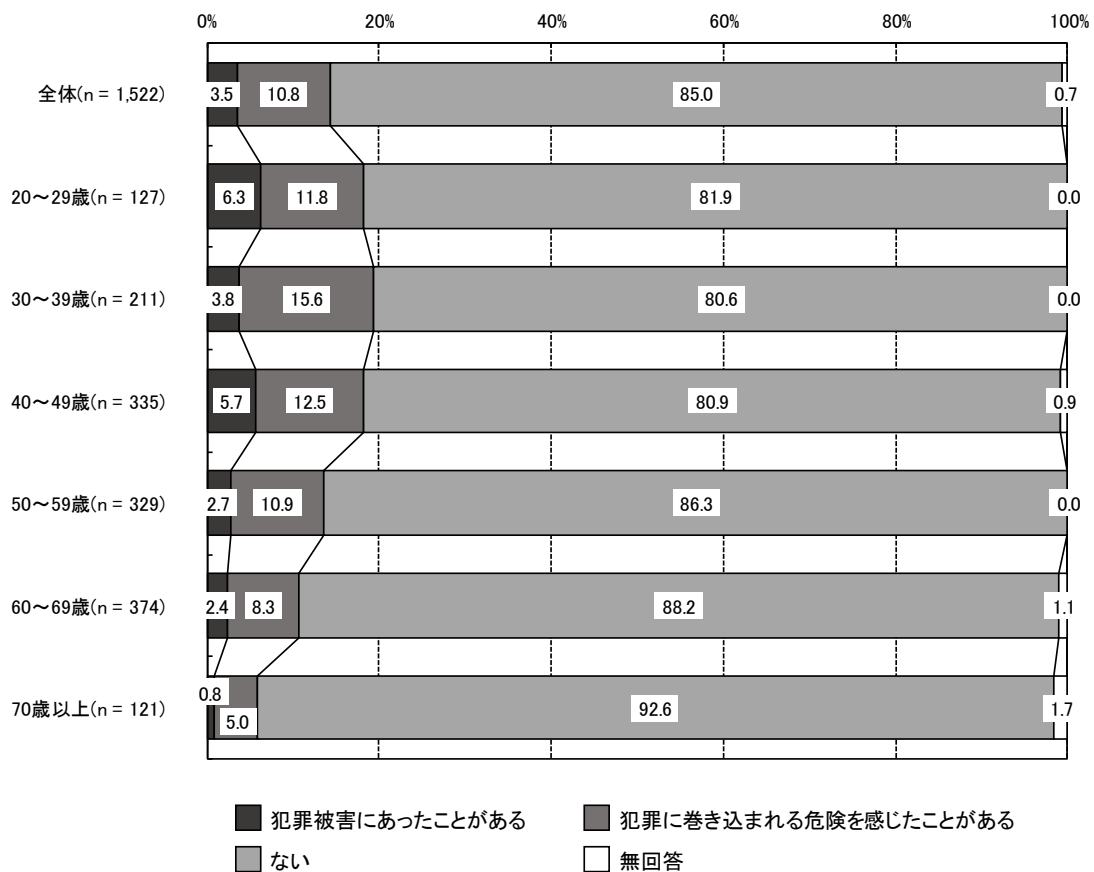
性別（図 15-3）で見ると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は男性が 17.2%、女性が 12.2%となっており、男性が女性より 5.0 ポイント高くなっている。

図 15-3 【性別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



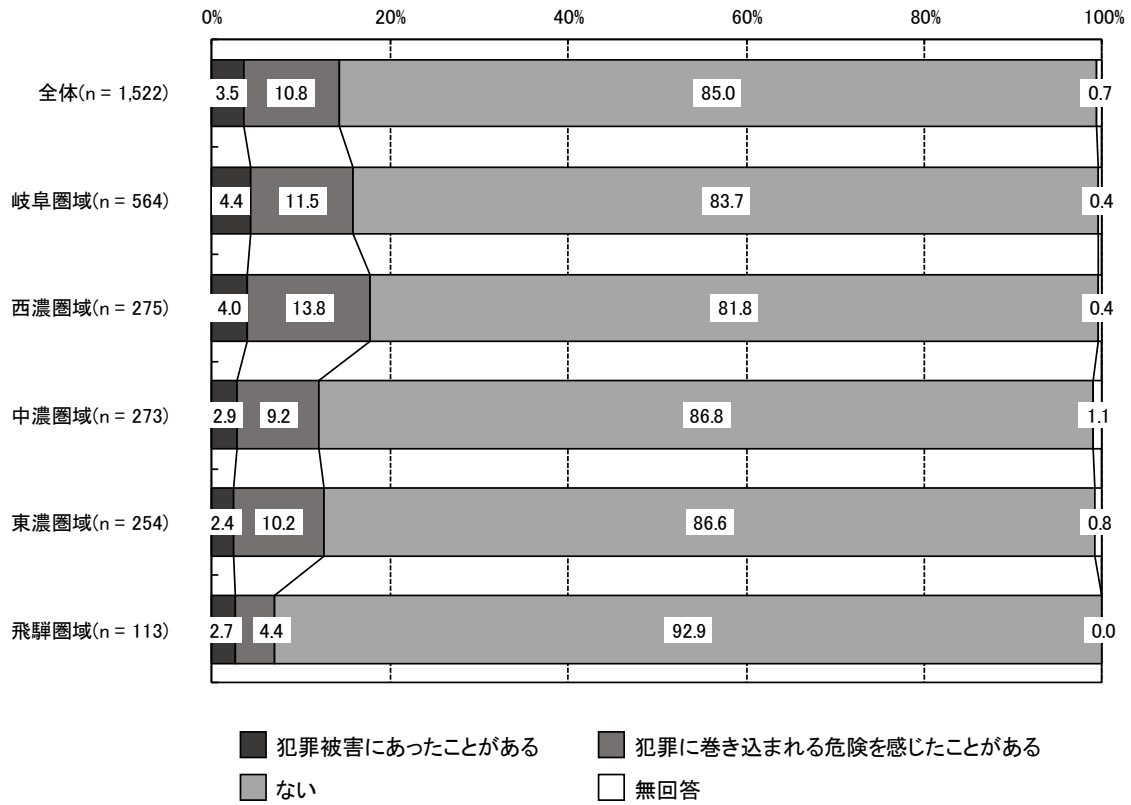
年代別（図 15-4）で見ると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は 30 歳代が 19.4%と最も高く、70 歳以上が 5.8%と最も低くなっている。

図 15-4 【年代別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



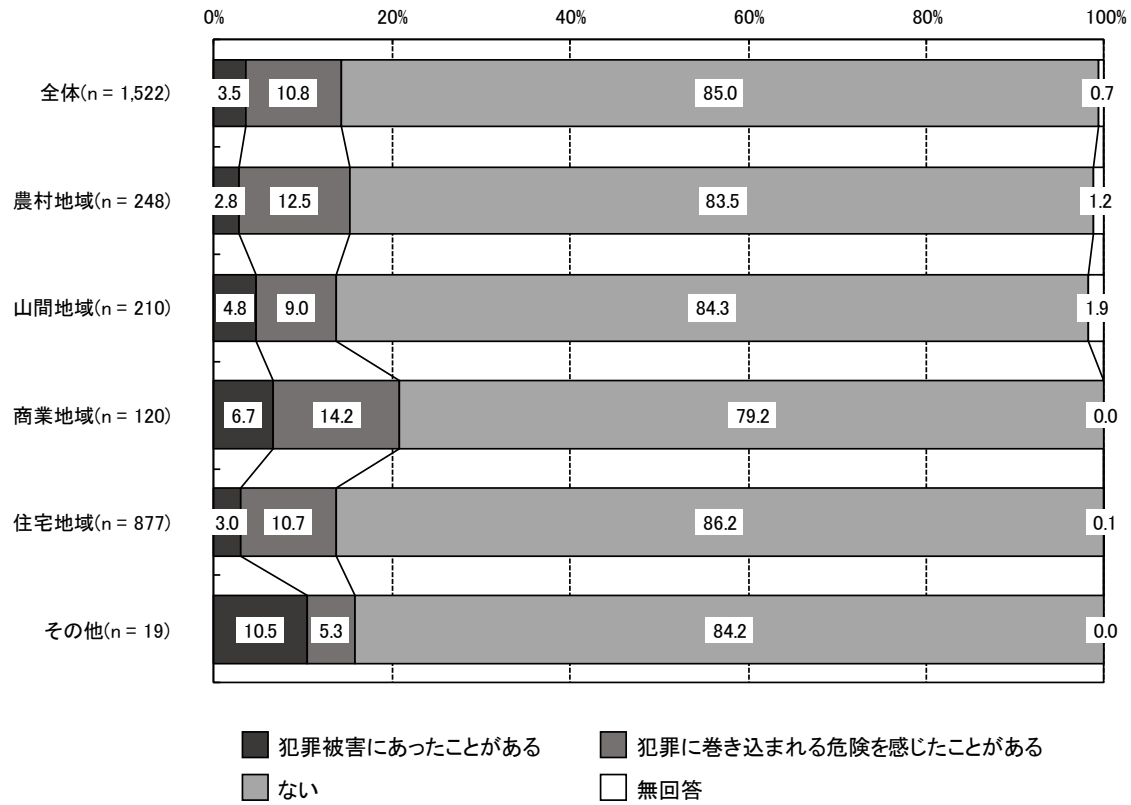
居住圏域別（図 15-5）で見ると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は、西濃圏域が 17.8%と最も高く、飛騨圏域が 7.1%と最も低くなっている。

図 15-5 【居住圏域別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



居住環境別（図 15-6）で見ると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は、商業地域が 20.9%と最も高く、住宅地域が 13.7%と最も低くなっている。

図 15-6 【居住環境別】 過去 1 年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



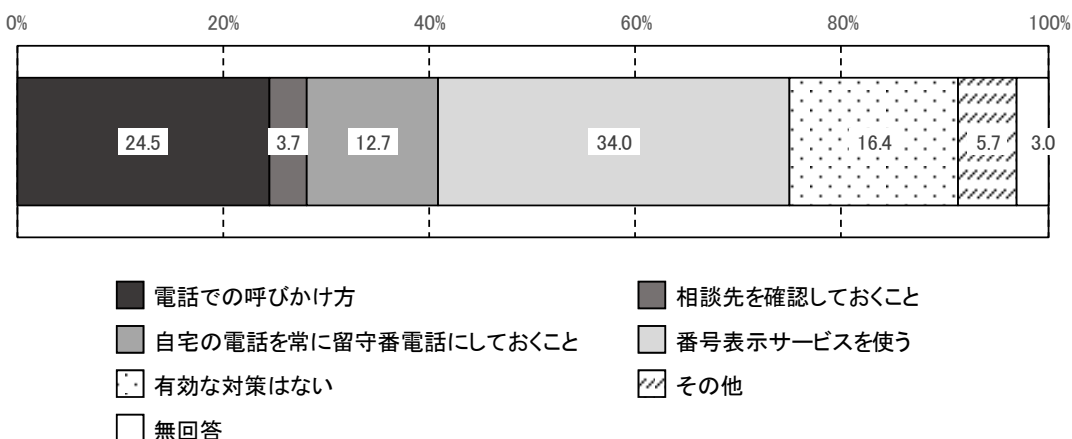
## 問 16 不審な電話による勧誘被害の対策

問 16 あなたは、不審な電話による悪質商法や振り込め詐欺被害などを防ぐためにどのようなことをしていますか。(1つだけ)

全体(図 16-1)で見ると、「番号表示サービスを使う」が34.0%と最も高く、次いで「電話での呼びかけ方」(24.5%)、「有効な対策はない」(16.4%)の順となっている。

図 16-1 不審な電話による勧誘被害の対策

回答者数(n = 1,522)



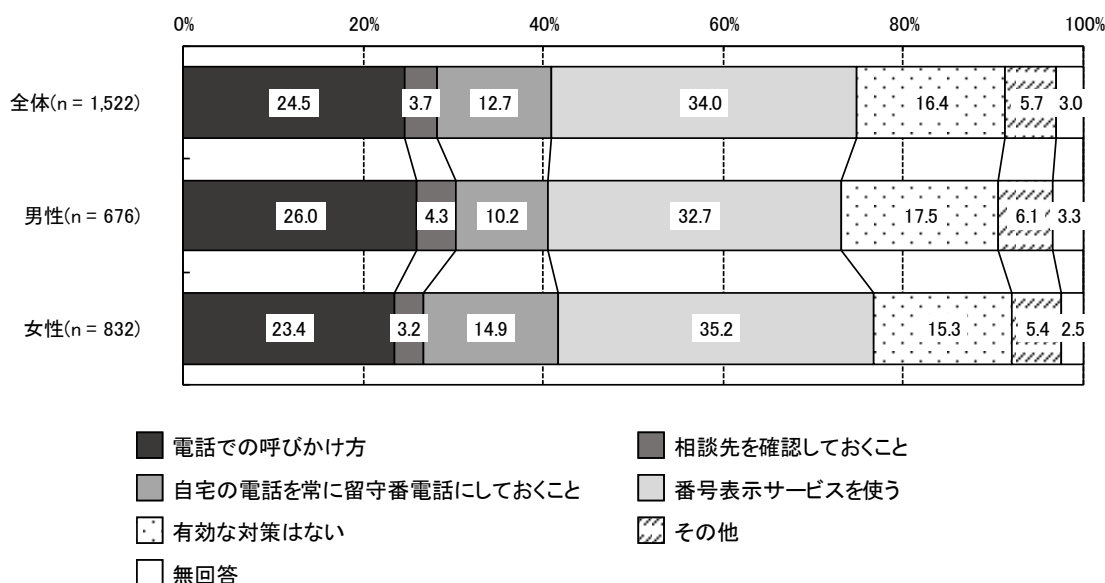
※ 第 38・39 回調査では、「不審な電話による勧誘被害の対策」は聞いていない。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

- ・電話での呼びかけ方: 日頃から家族と電話での呼びかけ方などについて話し合っておくこと
- ・番号表示サービスを使う: 番号表示サービスを使って、知らない相手からの電話には出ないこと

性別(図 16-2)で見ると、男女ともに「番号表示サービスを使う」が最も高く、女性が男性より 2.5 ポイント高くなっている。「自宅の電話を常に留守番電話にしておくこと」では、女性が男性より 4.7 ポイント高くなっている。

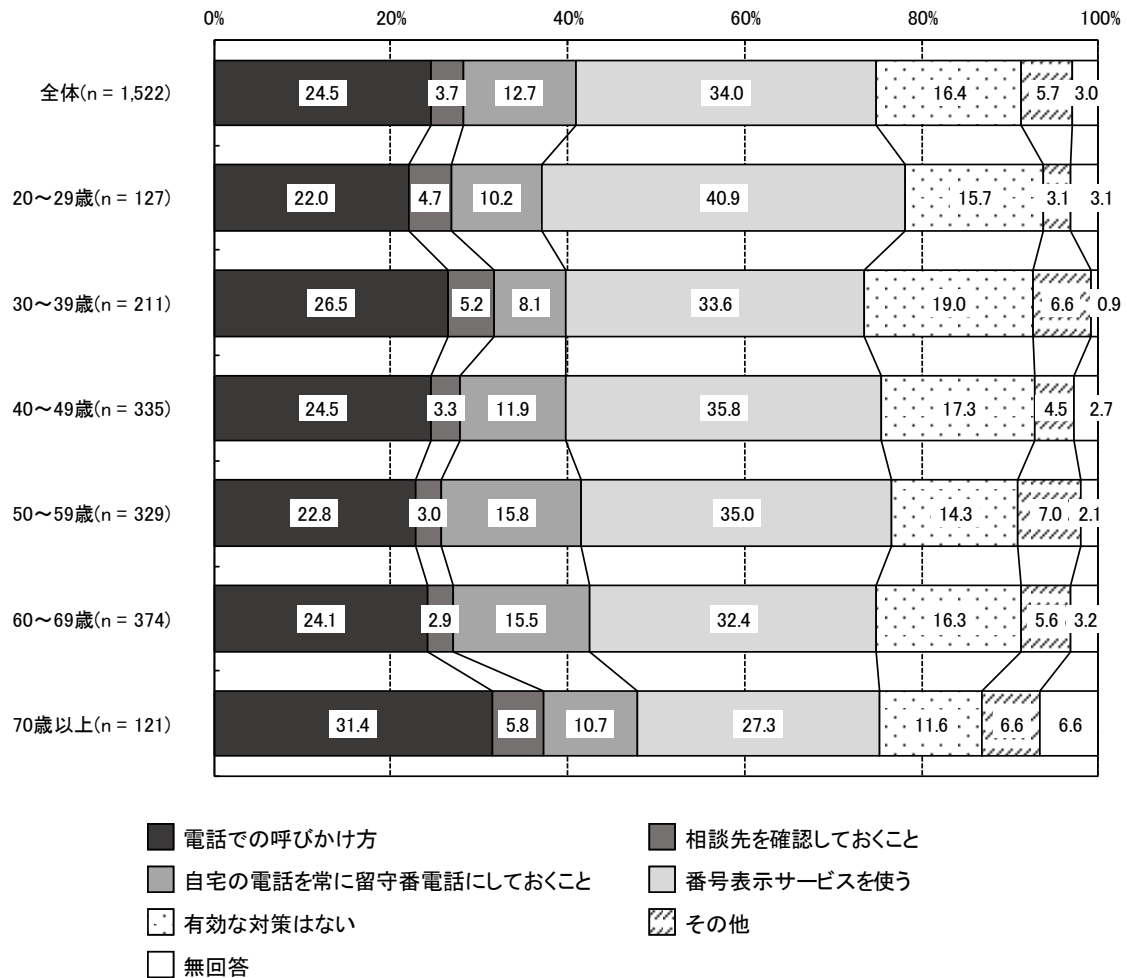
図 16-2 【性別】 不審な電話による勧誘被害の対策





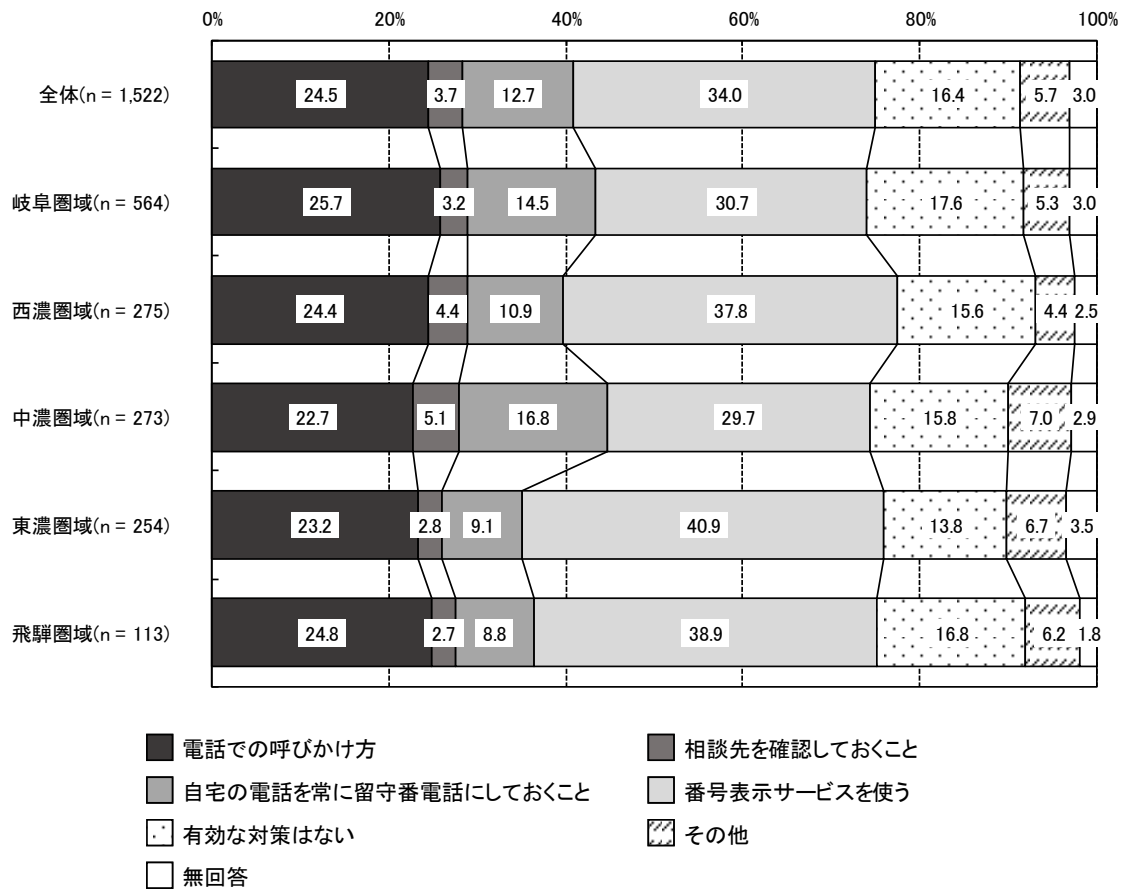
年代別（図 16-3）で見ると、70 歳以上を除く、いずれの年代においても「番号表示サービスを使う」が最も高く、そのうち 20 歳代が 40.9%と最も高くなっている。70 歳以上では「電話での呼びかけ方」が 31.4%と最も高くなっている。

図 16-3 【年代別】 不審な電話による勧誘被害の対策



居住圏域別（図 16-4）で見ると、いずれの居住圏域においても「番号表示サービスを使う」が最も高く、そのうち東濃圏域が 40.9%と最も高くなっている。

図 16-4 【居住圏域別】 不審な電話による勧誘被害の対策



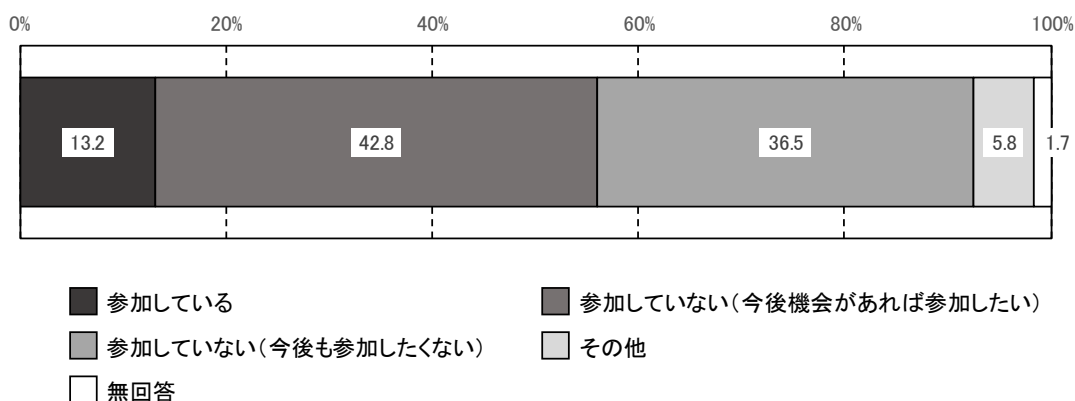
## 問 17 社会貢献活動への参加

問 17 あなたは、NPO（民間非営利組織）やボランティアなど、自発的に社会のために取り組む活動に参加していますか。（1つだけ）

全体（図 17-1）で見ると、「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が 42.8%と最も高く、次いで「参加していない（今後も参加したくない）」（36.5%）、「参加している」（13.2%）の順となっている。

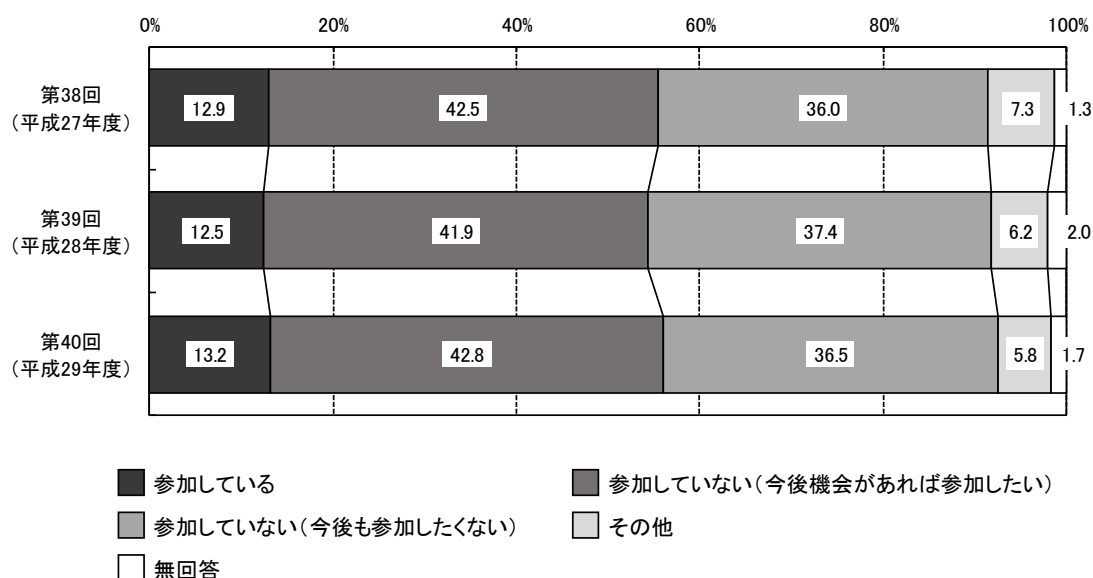
図 17-1 社会貢献活動への参加

回答者数 (n = 1,522)



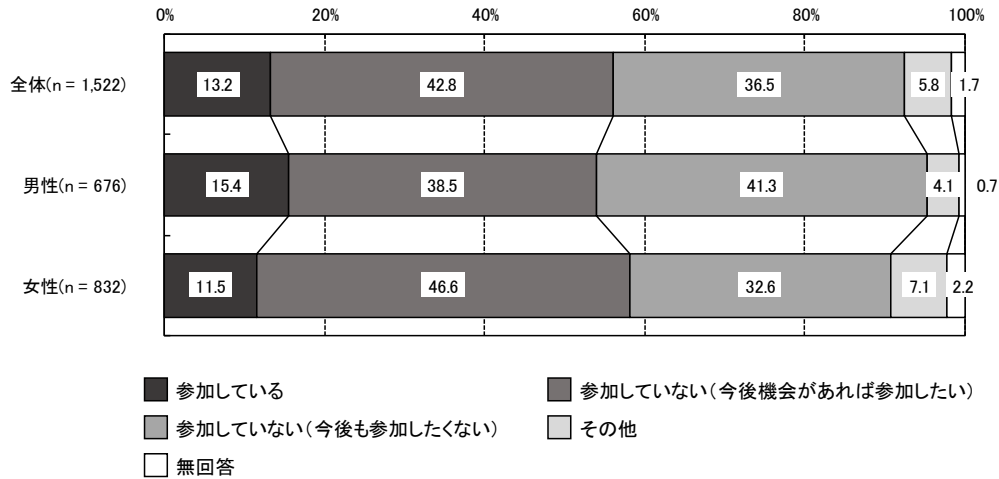
前々回・前回比較（図 17-2）で見ると、前々回・前回と同様に「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高くなっている。「参加している」は、前回より 0.7 ポイント増加している。

図 17-2 【前々回・前回比較】 社会貢献活動への参加



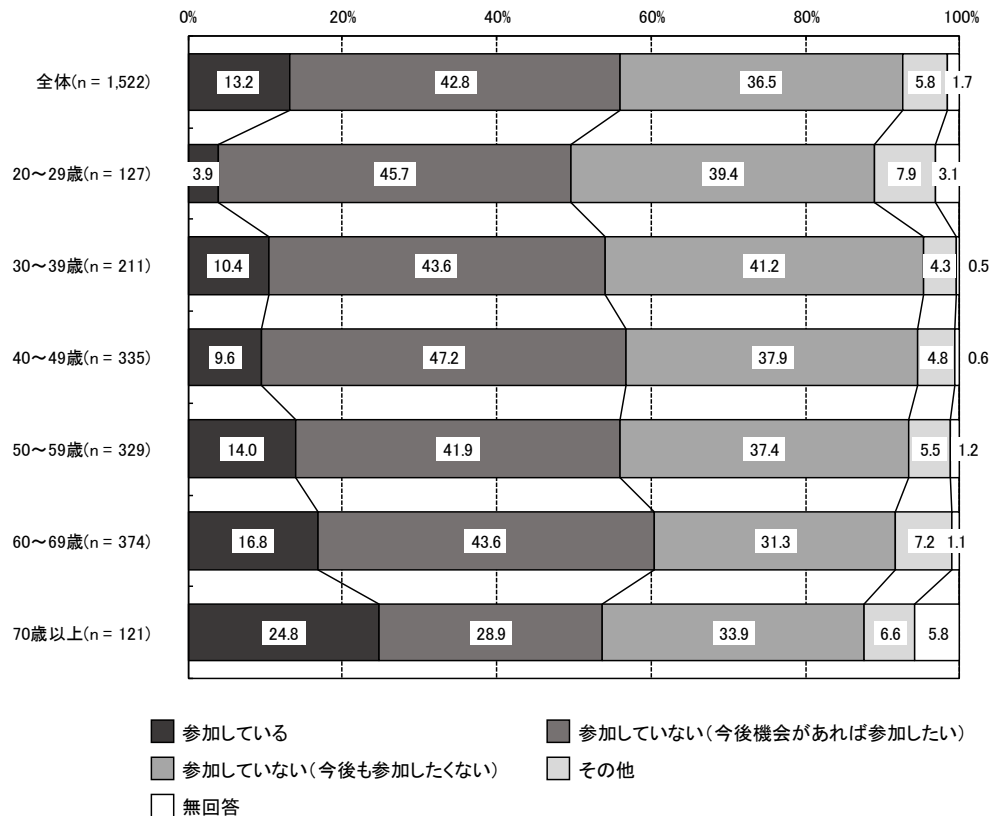
性別（図 17-3）で見ると、男性は「参加していない（今後も参加したくない）」が 41.3%と最も高く、女性では「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が 46.6%と最も高くなっている。

図 17-3 【性別】 社会貢献活動への参加



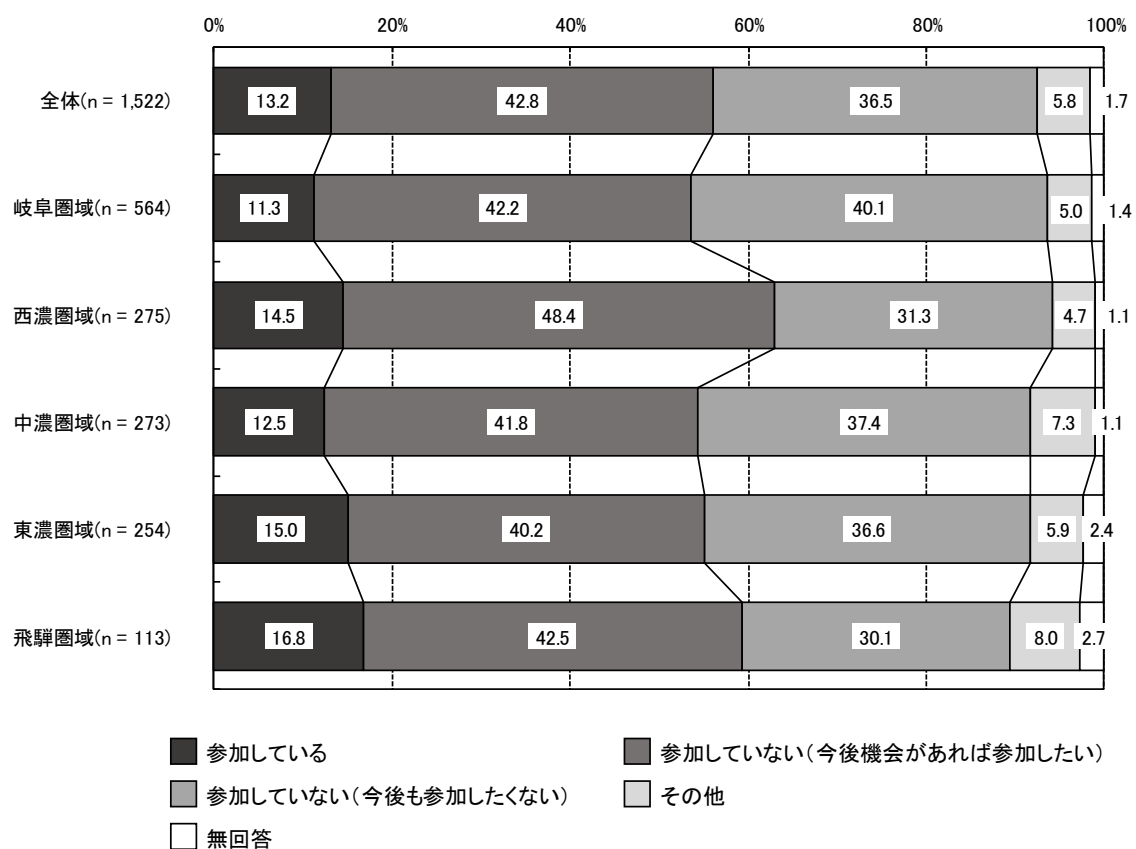
年代別（図 17-4）で見ると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高く、そのうち 40 歳代が 47.2%と最も高くなっている。70 歳以上では「参加していない（今後も参加したくない）」が 33.9%と最も高くなっているが、「参加している」では 24.8%と、他の年代と比較して高くなっている。

図 17-4 【年代別】 社会貢献活動への参加



居住圏域別（図 17-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高く、そのうち西濃圏域が 48.4%と最も高くなっている。

図 17-5 【居住圏域別】 社会貢献活動への参加



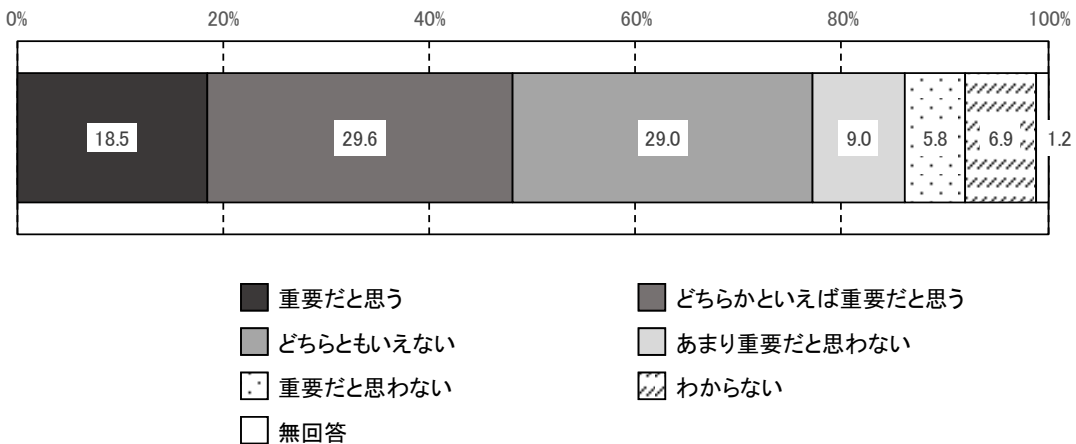
## 問 18 在住外国人との共生

問 18 現在、県内では、多くの外国人が暮らし、定住化が進んでいます。あなたは、在住外国人と共生する社会の実現についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図 18-1）で見ると、「どちらかといえば重要だと思う」が 29.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」（29.0%）、「重要だと思う」（18.5%）の順となっている。

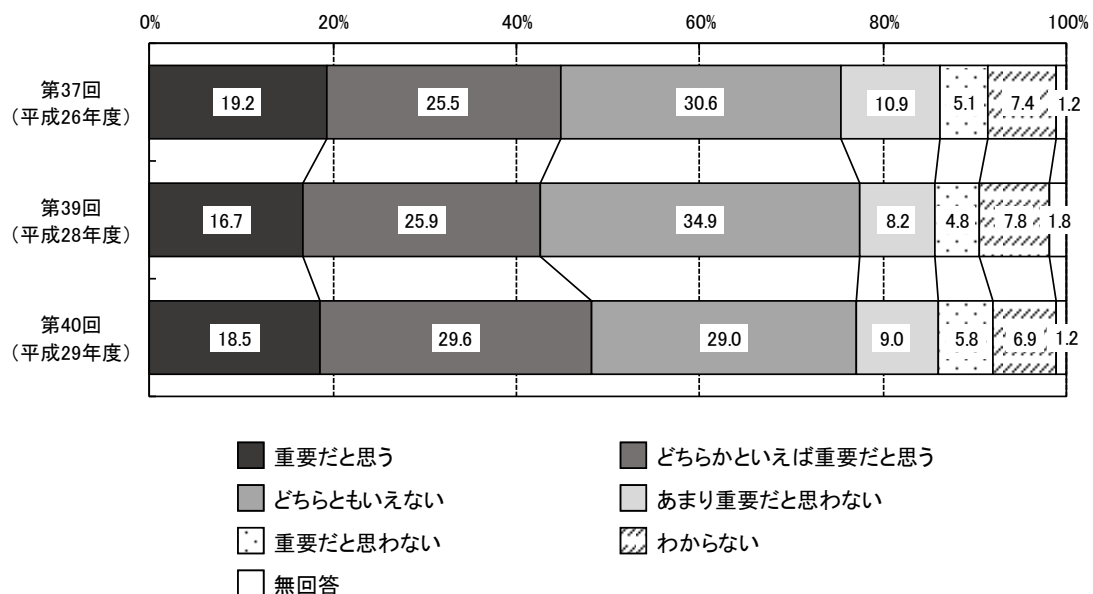
図 18-1 在住外国人との共生

回答者数 (n = 1,522)



第 37 回・第 39 回調査比較（図 18-2）で見ると、「重要だと思う」は前回から 1.8 ポイント、「どちらかといえば重要だと思う」では、前回から 3.7 ポイント、「あまり重要だと思わない」が 0.8 ポイント、「重要だと思わない」が 1.0 ポイント、それぞれ増加している。「どちらともいえない」では、前回より 5.9 ポイント減少している。

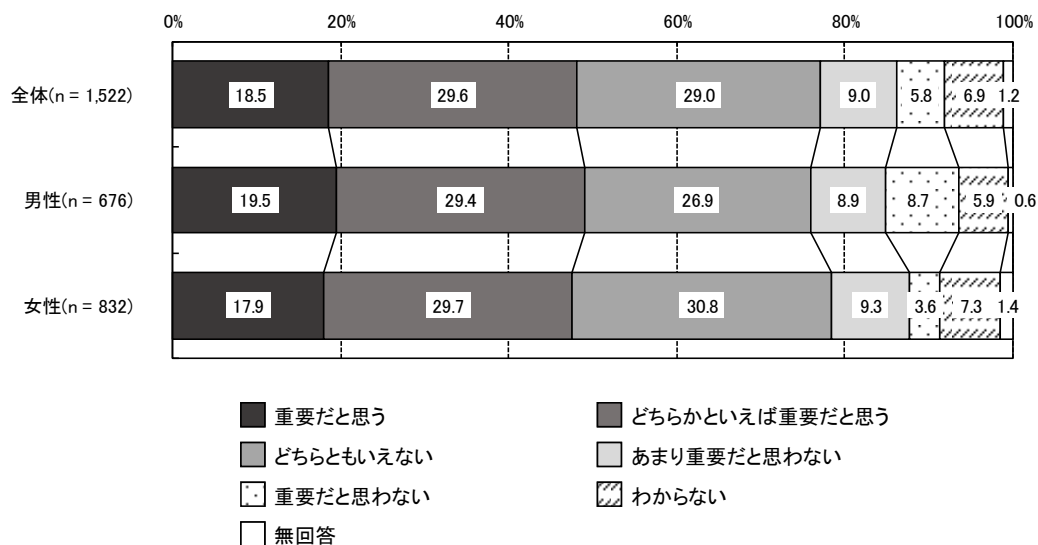
図 18-2 【第 37 回・第 39 回調査比較】 在住外国人との共生



※ 第 38 回調査では、「在住外国人との共生」は聞いていない。

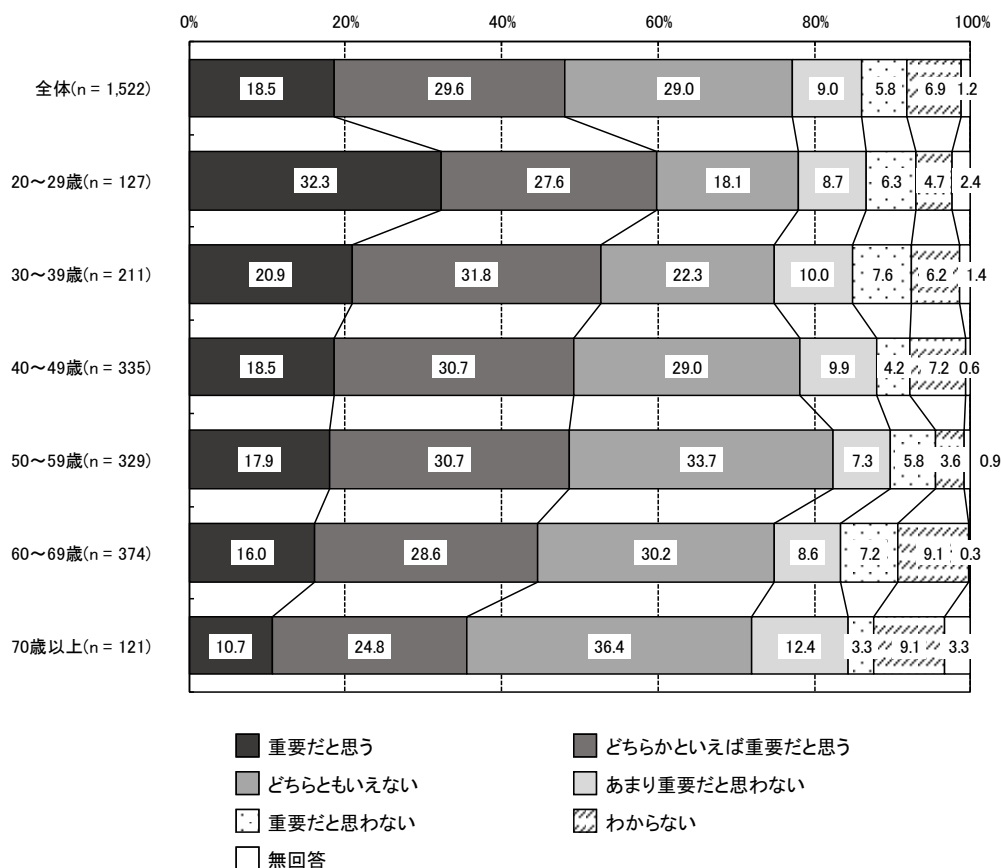
性別（図 18-3）で見ると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」の計は男性が 48.9%、女性が 47.6%で、男性が女性より 1.3 ポイント高くなっている。

図 18-3 【性別】 在住外国人との共生



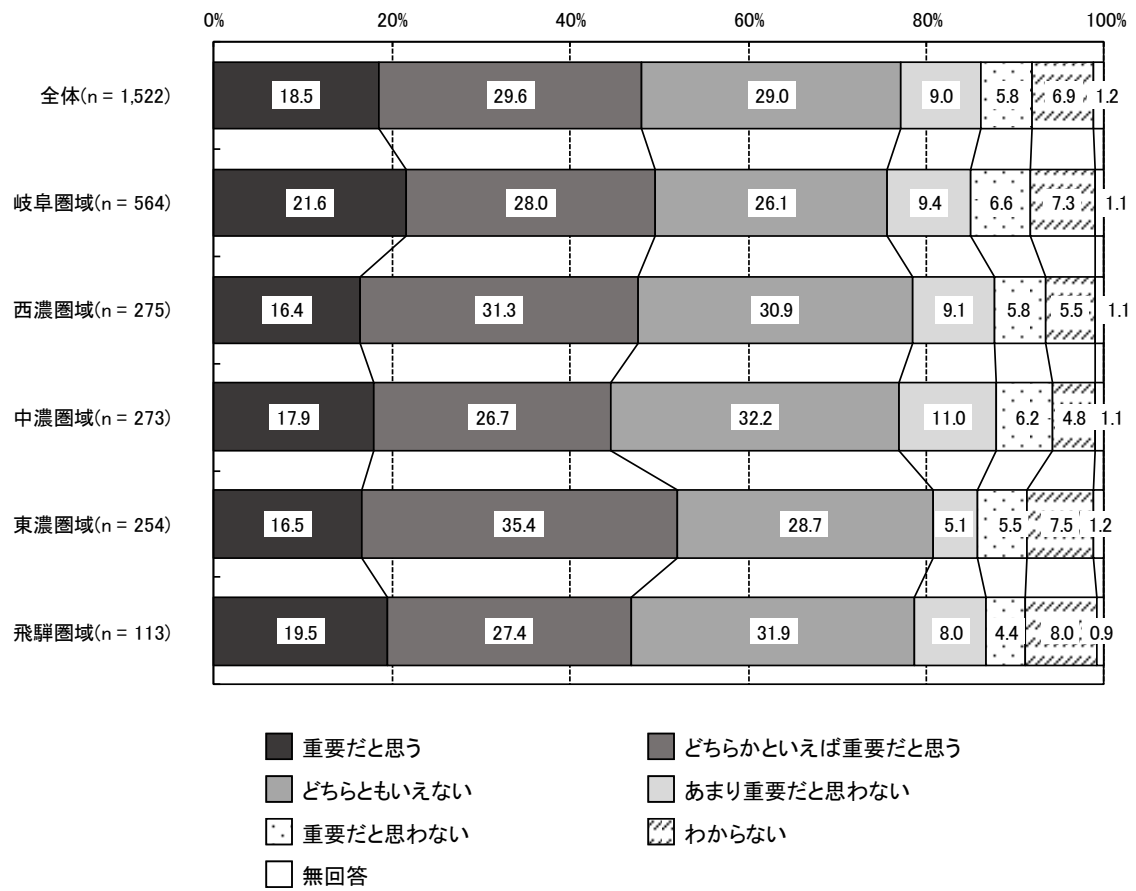
年代別（図 18-4）で見ると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」の計は 20 歳代が 59.9%と最も高く、70 歳以上は 35.5%と最も低くなっている。

図 18-4 【年代別】 在住外国人との共生



居住圏域別（図 18-5）で見ると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」の計は東濃圏域が 51.9%と最も高く、中濃圏域が 44.6%と最も低くなっている。

図 18-5 【居住圏域別】 在住外国人との共生





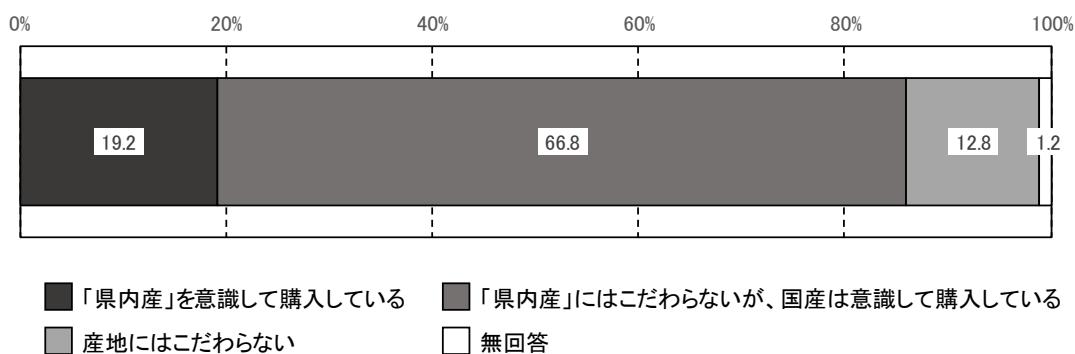
## 問 19 農産物購入時の「県内産」の意識

問 19 あなたは、米、野菜、食肉などの農産物について、「県内産」であることを意識して購入していますか。(1つだけ)

全体(図 19-1)で見ると、「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が 66.8%と最も高く、次いで「県内産」を意識して購入している」(19.2%)、「産地にはこだわらない」(12.8%)の順となっている。

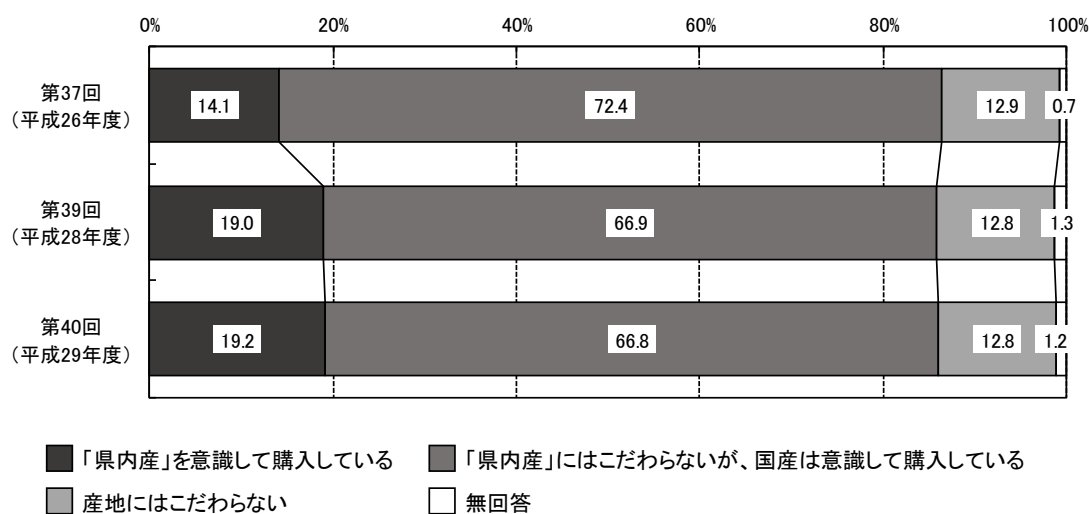
図 19-1 農産物購入時の「県内産」の意識

回答者数(n = 1,522)



第 37 回・第 39 回調査比較(図 19-2)で見ると、前 2 回と同様に「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高くなっている。「県内産」を意識して購入している」では、前回より 0.2 ポイント高くなっている。

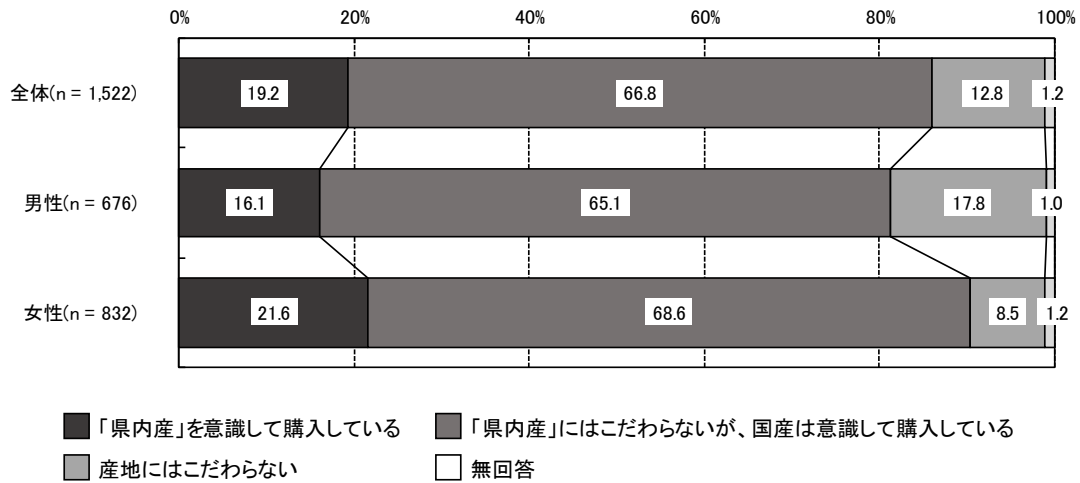
図 19-2 【第 37 回・第 39 回調査比較】農産物購入時の「県内産」の意識



※ 第 38 回調査では、「農産物購入時の「県内産」の意識」は聞いていない。

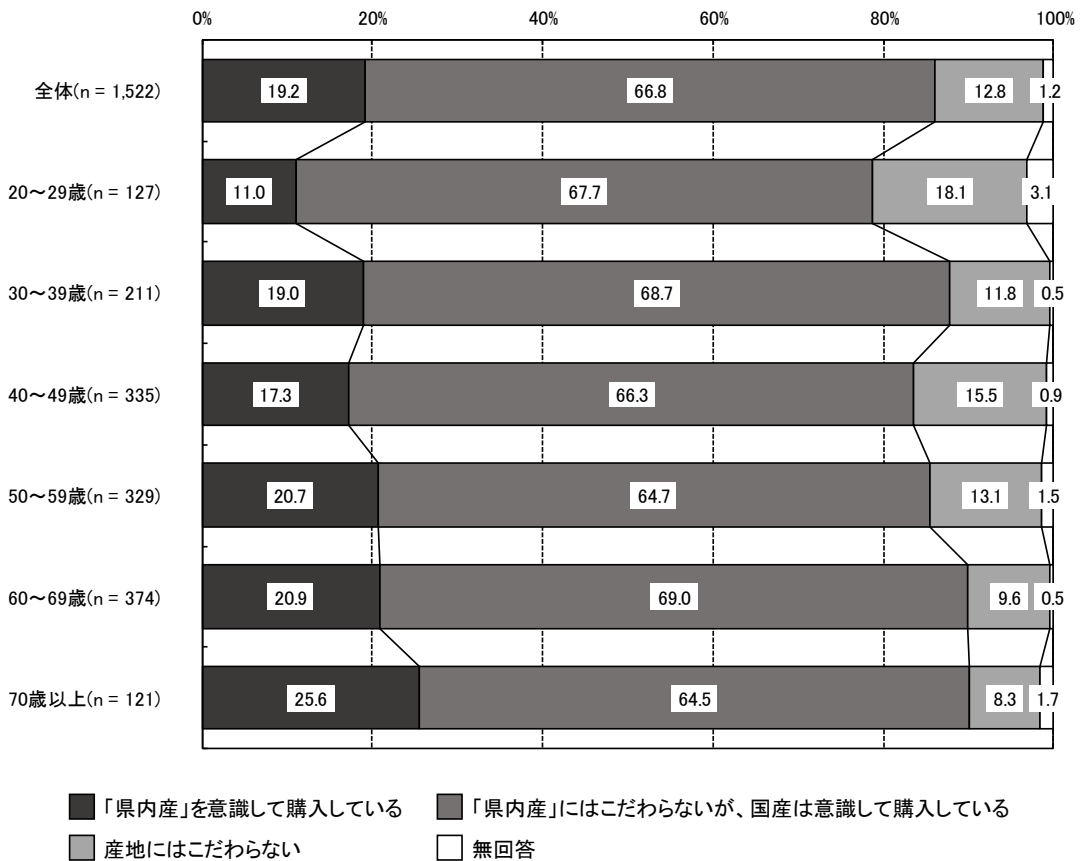
性別（図 19-3）で見ると、男女ともに「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高く、男性が 65.1%、女性が 68.6%と、女性が男性より 3.5 ポイント高くなっている。

図 19-3 【性別】 農産物購入時の「県内産」の意識



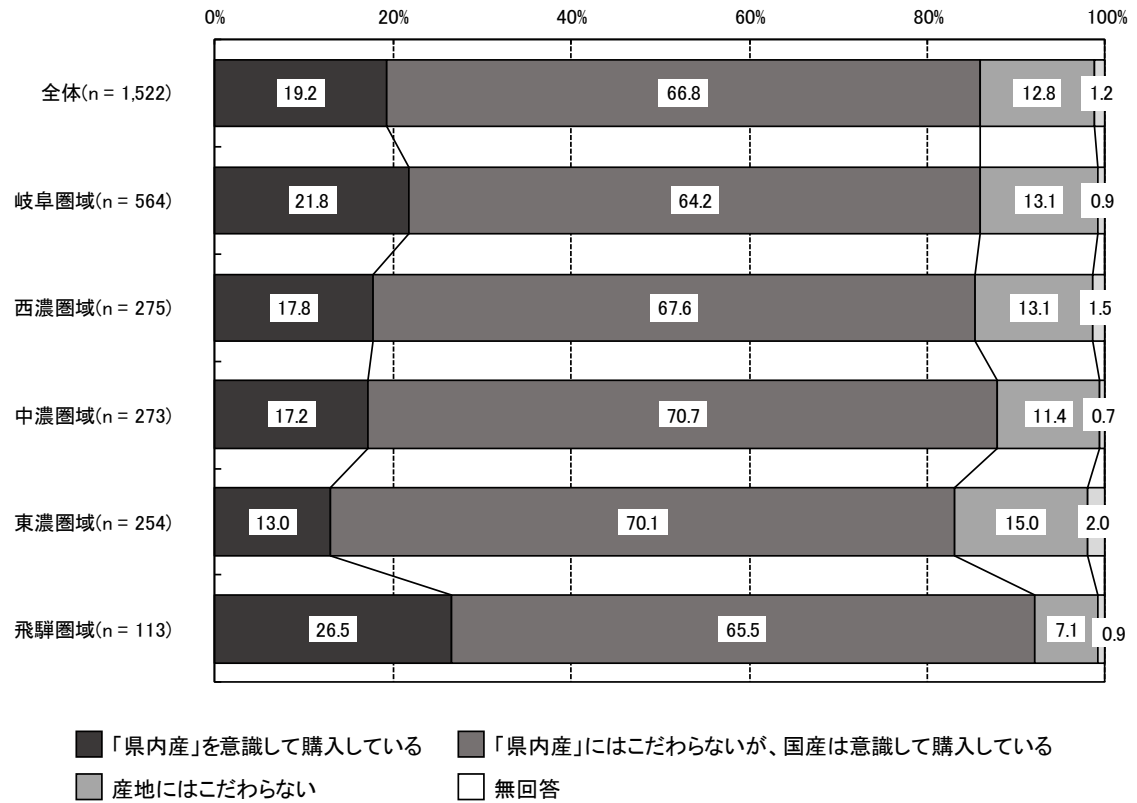
年代別（図 19-4）で見ると、いずれの年代においても「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高く、そのうち 60 歳代が 69.0%と最も高くなっている。「県内産」を意識して購入している」では、70 歳以上が 25.6%と、他の年代よりも高くなっている。

図 19-4 【年代別】 農産物購入時の「県内産」の意識



居住圏域別（図 19-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「県内産」にはこだわらないが、国産は意識して購入している」が最も高く、そのうち中濃圏域が 70.7%と最も高くなっている。「県内産」を意識して購入している」では、飛騨圏域が 26.5%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 19-5 【居住圏域別】 農産物購入時の「県内産」の意識



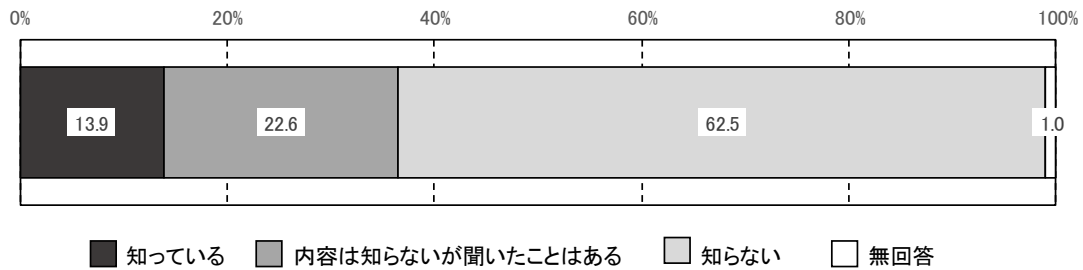
## 問20 「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

問20 岐阜県では、県民の皆様に「清流の国ぎふ森林・環境税」を負担していただき、豊かな森づくりや清流の保全に取り組んでいます。  
あなたは、この「清流の国ぎふ森林・環境税」を知っていますか。(1つだけ)

全体(図20-1)で見ると、「知らない」が62.5%と最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」(22.6%)、「知っている」(13.9%)の順となっている。

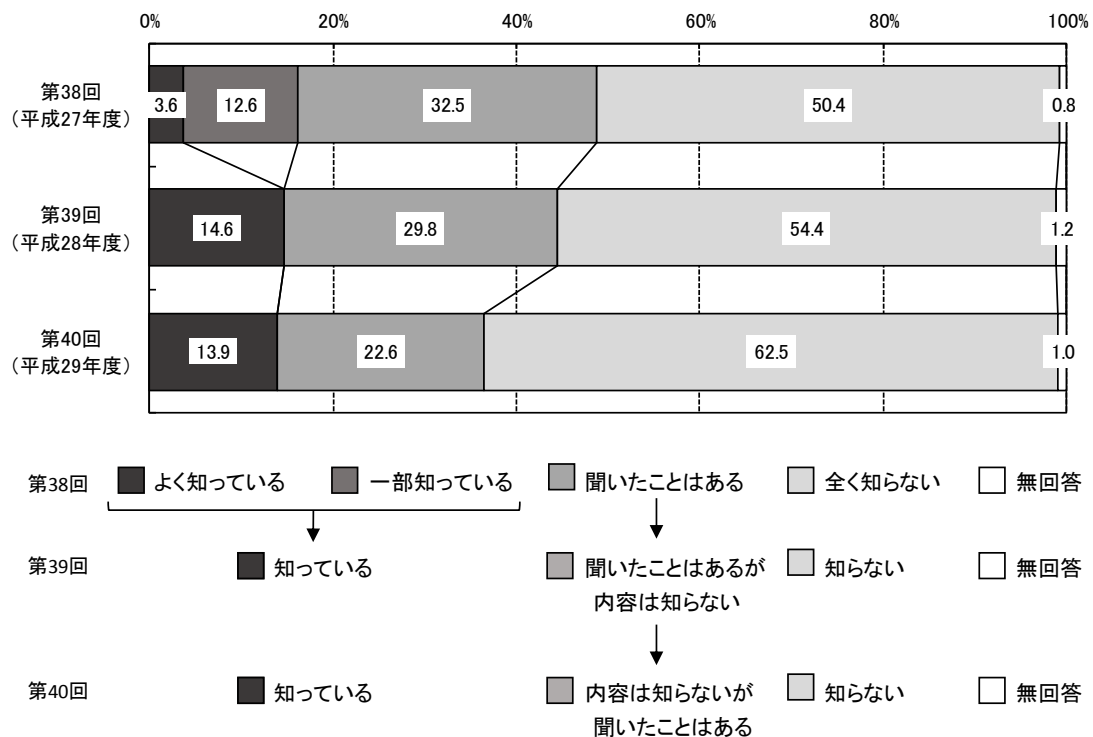
図20-1 「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

回答者数(n = 1,522)



前々回・前回比較(図20-2)で見ると、「知っている」が前回と比べて0.7ポイント、「内容は知らないが聞いたことはある」が前回と比べて7.2ポイント、それぞれ減少している。「知らない」では前回と比べて8.1ポイント増加している。

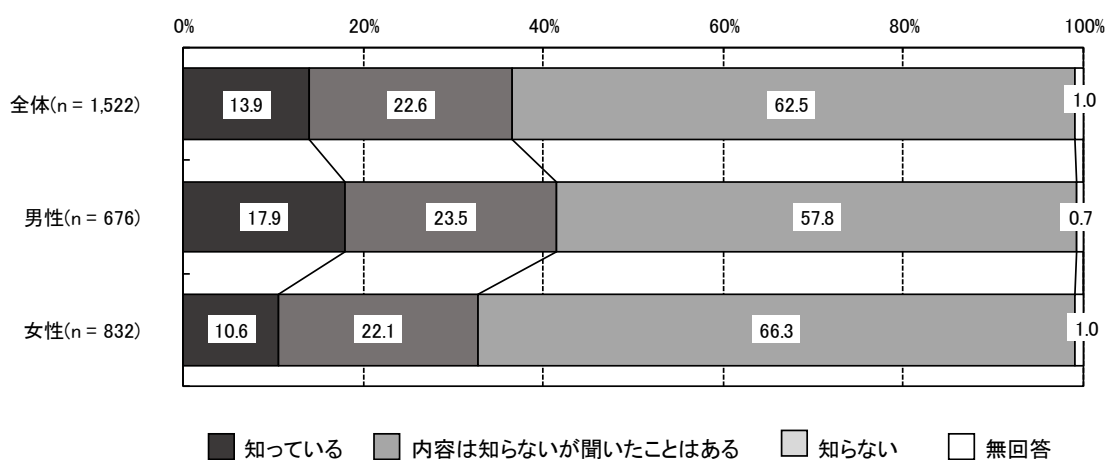
図20-2 【前々回・前回比較】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



※ 第39回調査で選択肢を変えているため、第38回の「よく知っている」「一部知っている」を第39、40回の「知っている」、第38回の「聞いたことはある」を第39回の「聞いたことはあるが内容は知らない」、第40回の「内容は知らないが聞いたことはある」と比較している。

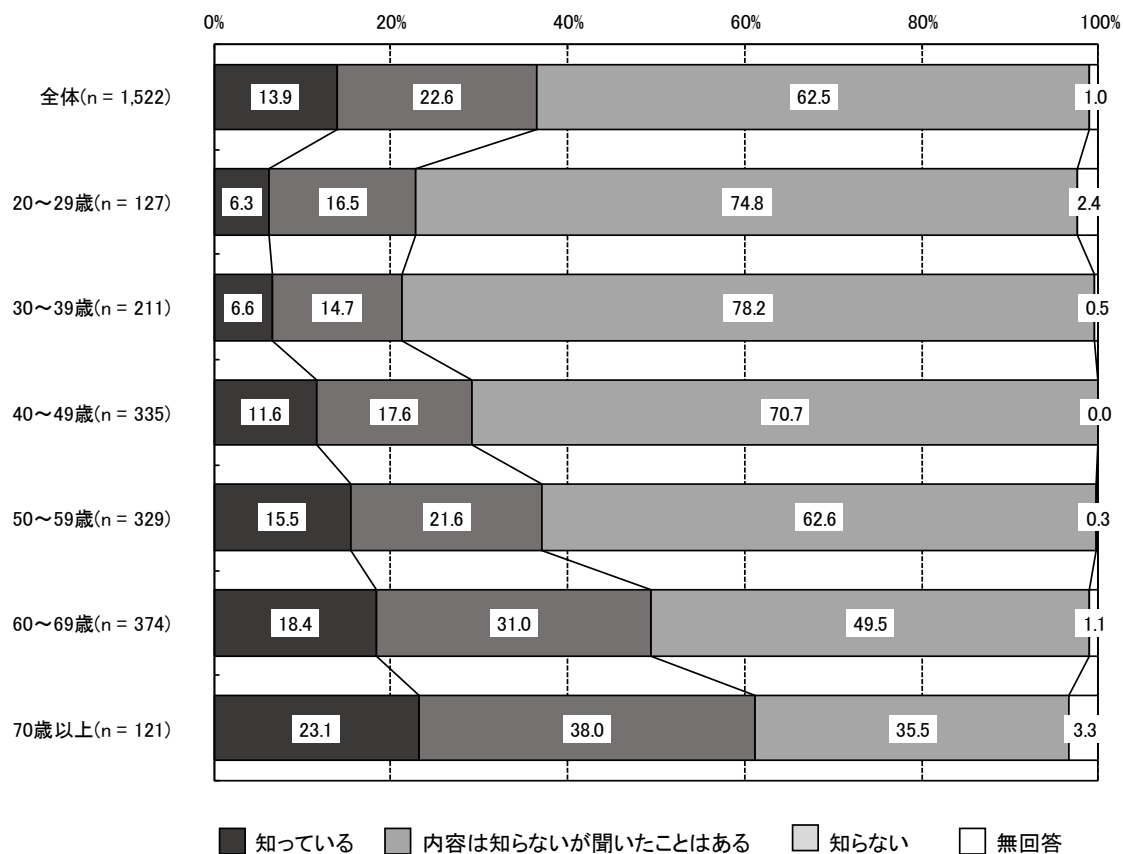
性別（図 20-3）でみると、「知っている」は男性が 17.9%、女性が 10.6%と、男性が女性より 7.3 ポイント高くなっている。

図 20-3 【性別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



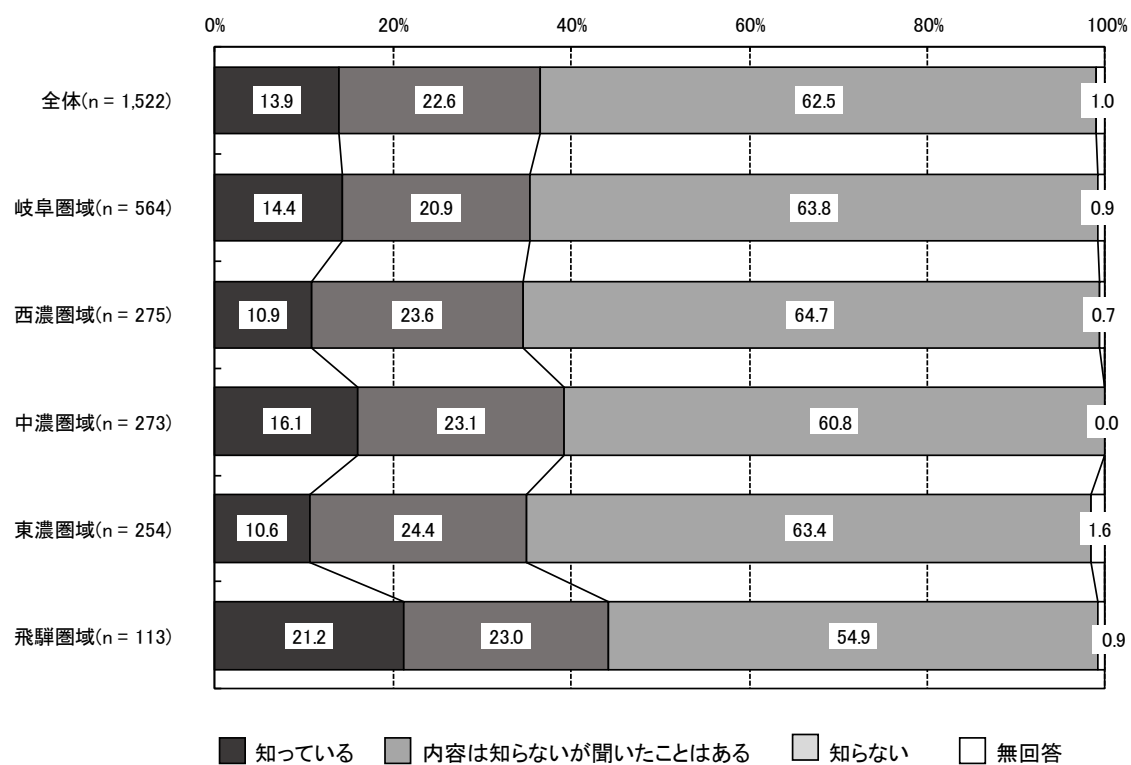
年代別（図 20-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「知らない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 78.2%と最も高くなっている。70 歳以上では「内容は知らないが聞いたことはある」が 38.0%と最も高くなっている。

図 20-4 【年代別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



居住圏域別（図 20-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「知らない」が最も高く、そのうち西濃圏域が 64.7%と最も高くなっている。「知っている」では、飛騨圏域が 21.2%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 20-5 【居住圏域別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



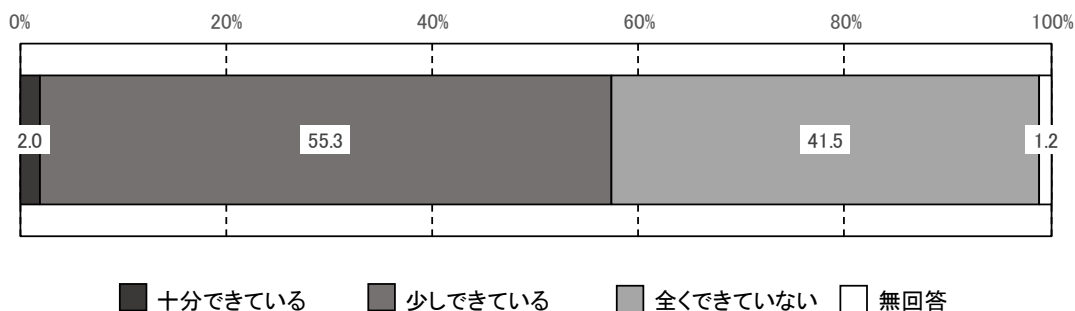
## 問 21 災害や緊急時の備え

問 21 あなたは、地震や台風などの災害や緊急時の備えができていますか。(1つだけ)

全体(図 21-1)で見ると、「少しできている」が 55.3%と最も高くなっている。次いで「全くできていない」(41.5%)、「十分できていない」(2.0%)の順となっている。

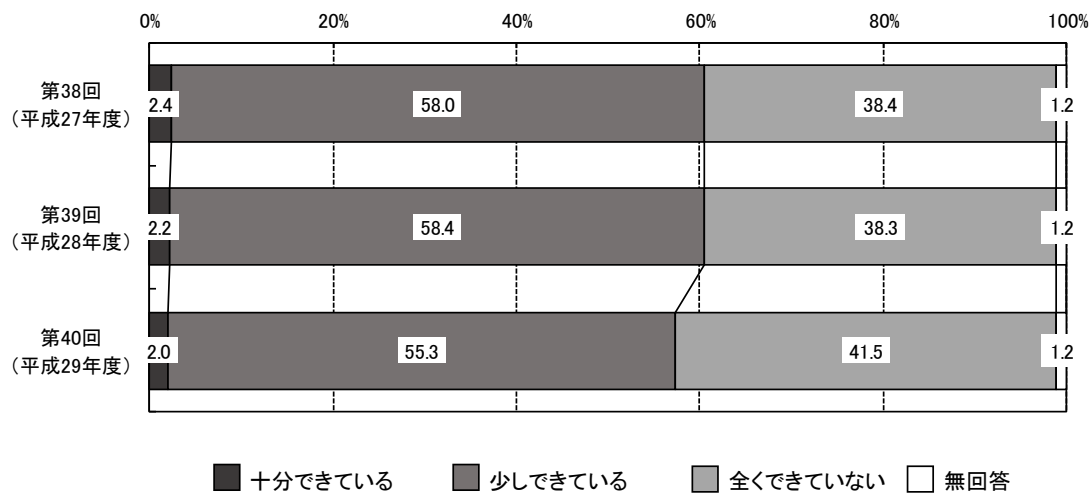
図 21-1 災害や緊急時の備え

回答者数(n = 1,522)



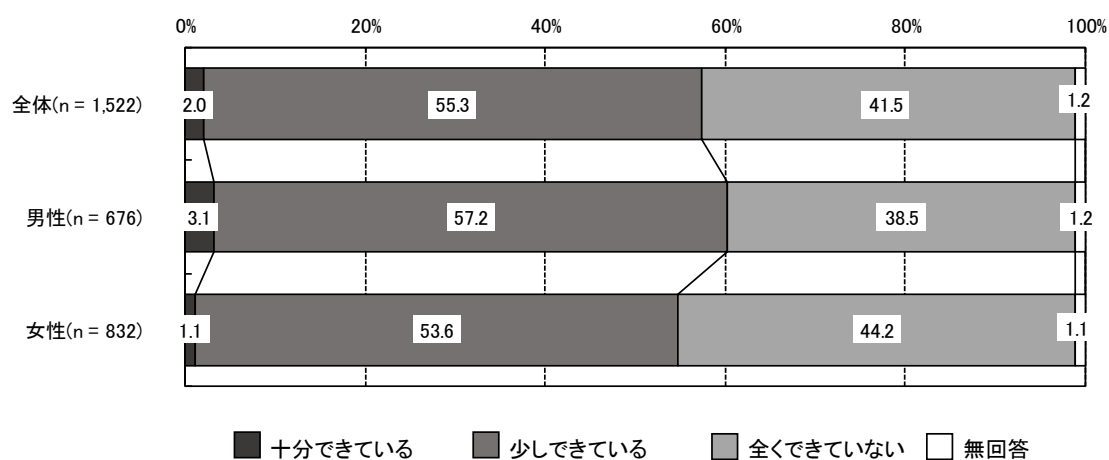
前々回・前回比較(図 21-2)で見ると、「全くできていない」が前回と比べて 3.2 ポイント増加し、「少しできている」が 3.1 ポイント減少している。

図 21-2 【前々回・前回比較】災害や緊急時の備え



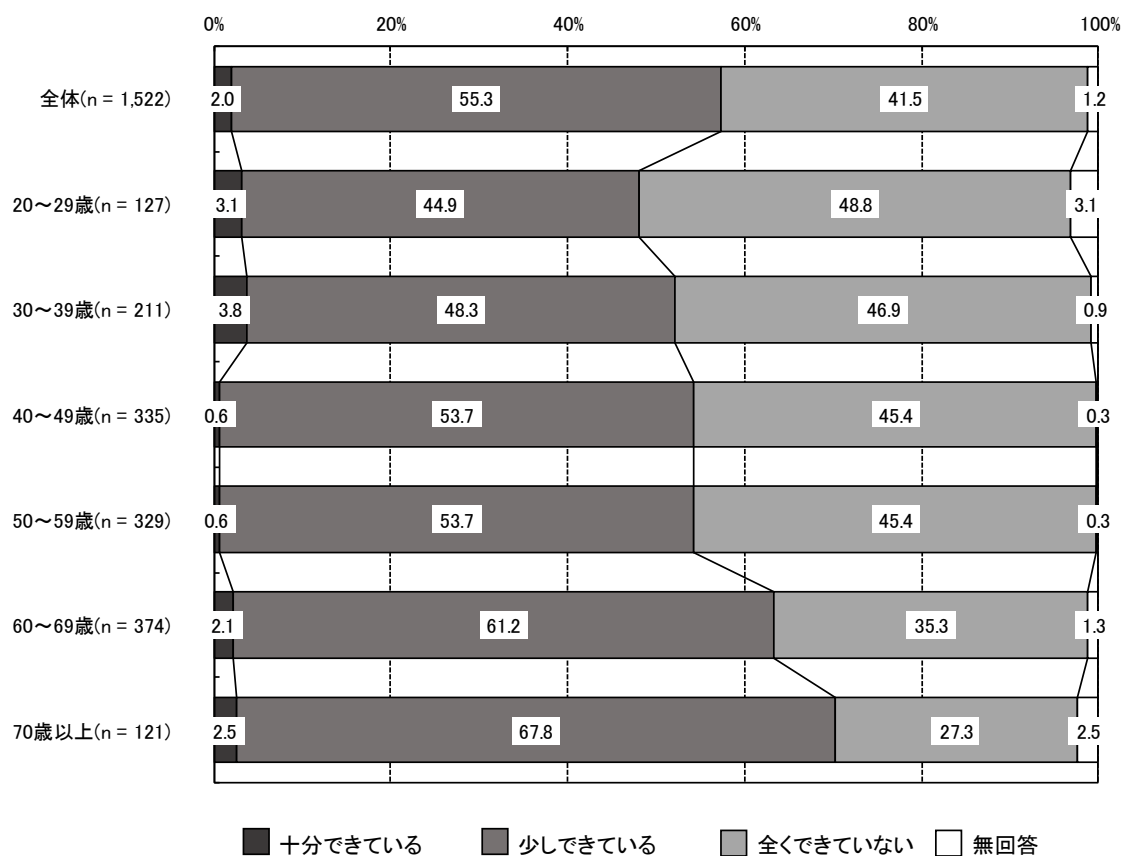
性別（図 21-3）で見ると、男女ともに「少しできている」が最も高く、男性が 57.2%、女性が 53.6%と、男性が女性より 3.6 ポイント高くなっている。

図 21-3 【性別】 災害や緊急時の備え



年代別（図 21-4）で見ると、20 歳代を除くいずれの年代においても「少しできている」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 67.8%と最も高くなっている。20 歳代では「全くできていない」が 48.8%と最も高くなっている。

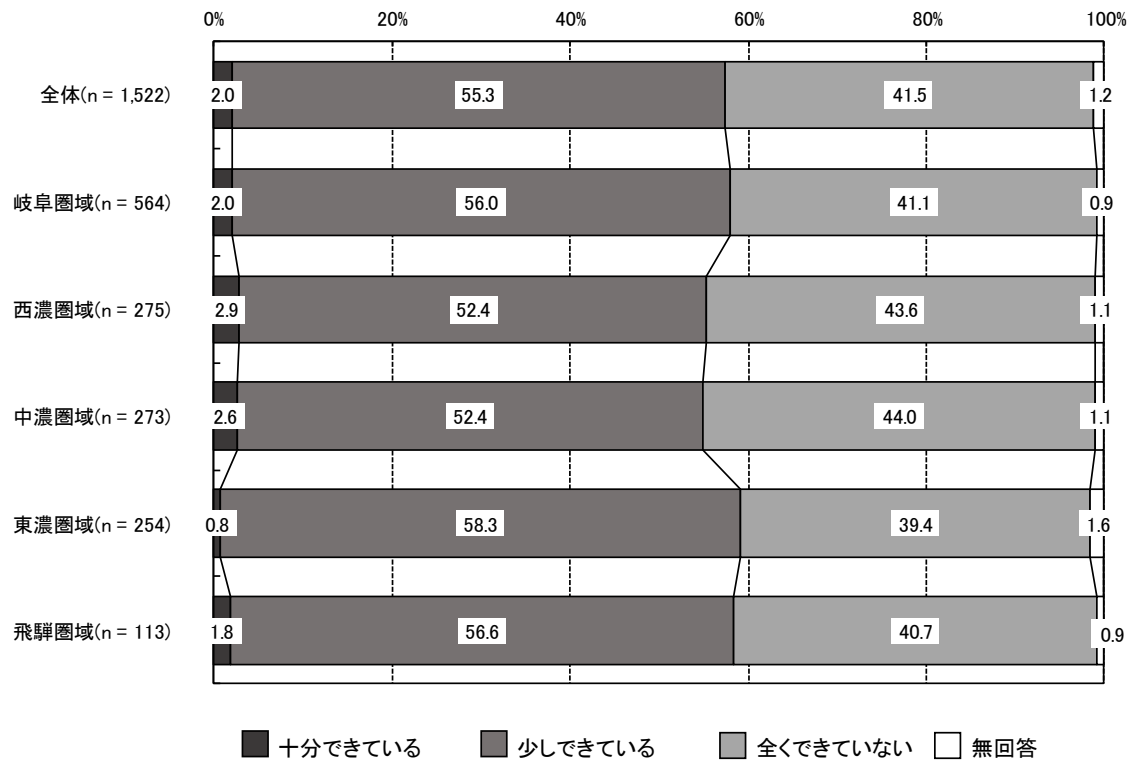
図 21-4 【年代別】 災害や緊急時の備え





居住圏域別（図 21-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「少しできている」が最も高く、そのうち東濃圏域が 58.3%と最も高くなっている。

図 21-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の備え



## 問22 防災対策や避難行動の情報源

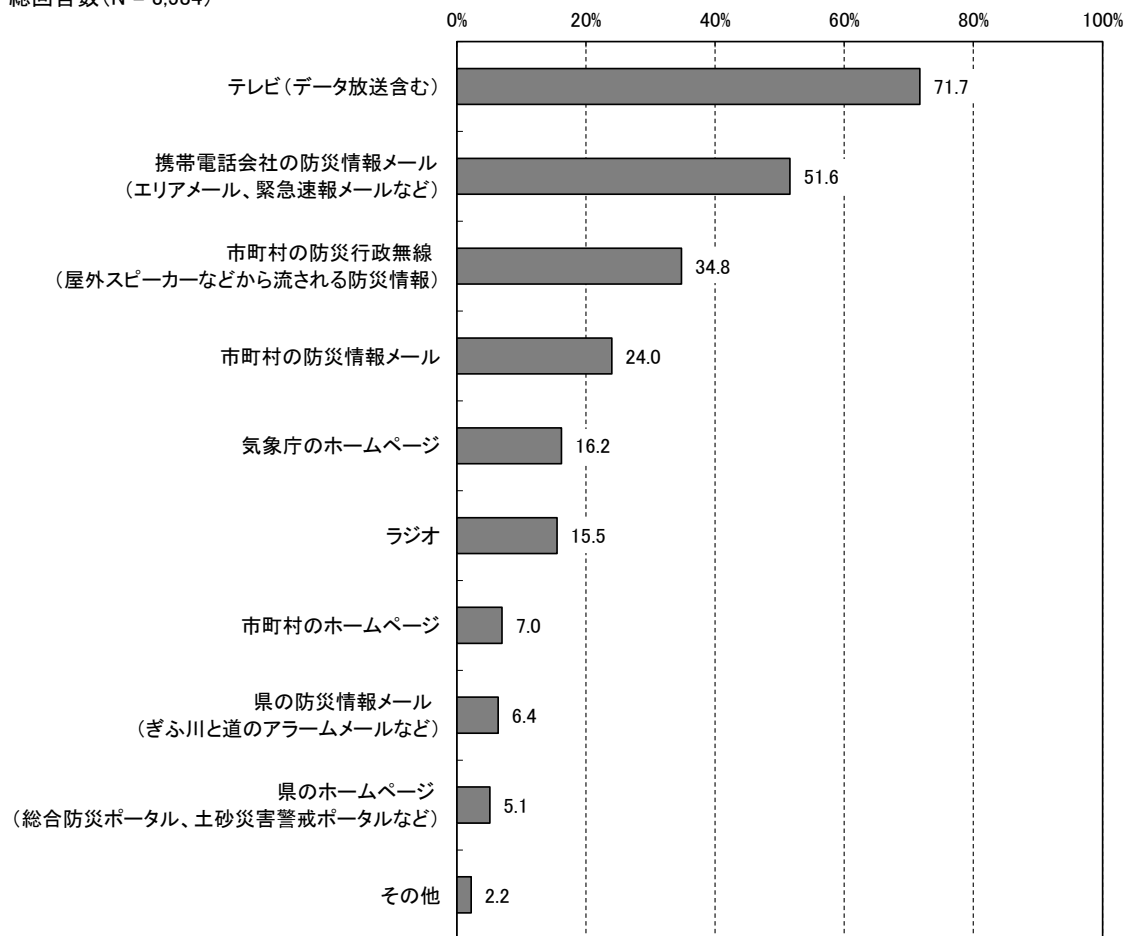
問22 あなたは、台風や集中豪雨発生時に、防災対策や避難行動に役立つ情報を何によって知ることが多いですか。(いくつでも)

全体(図22-1)で見ると、「テレビ(データ放送含む)」が71.7%と最も高く、次いで「携帯電話会社の防災情報メール(エリアメール、緊急速報メールなど)」(51.6%)、「市町村の防災行政無線(屋外スピーカーなどから流される防災情報)」(34.8%)の順となっている。

図22-1 防災対策や避難行動の情報源

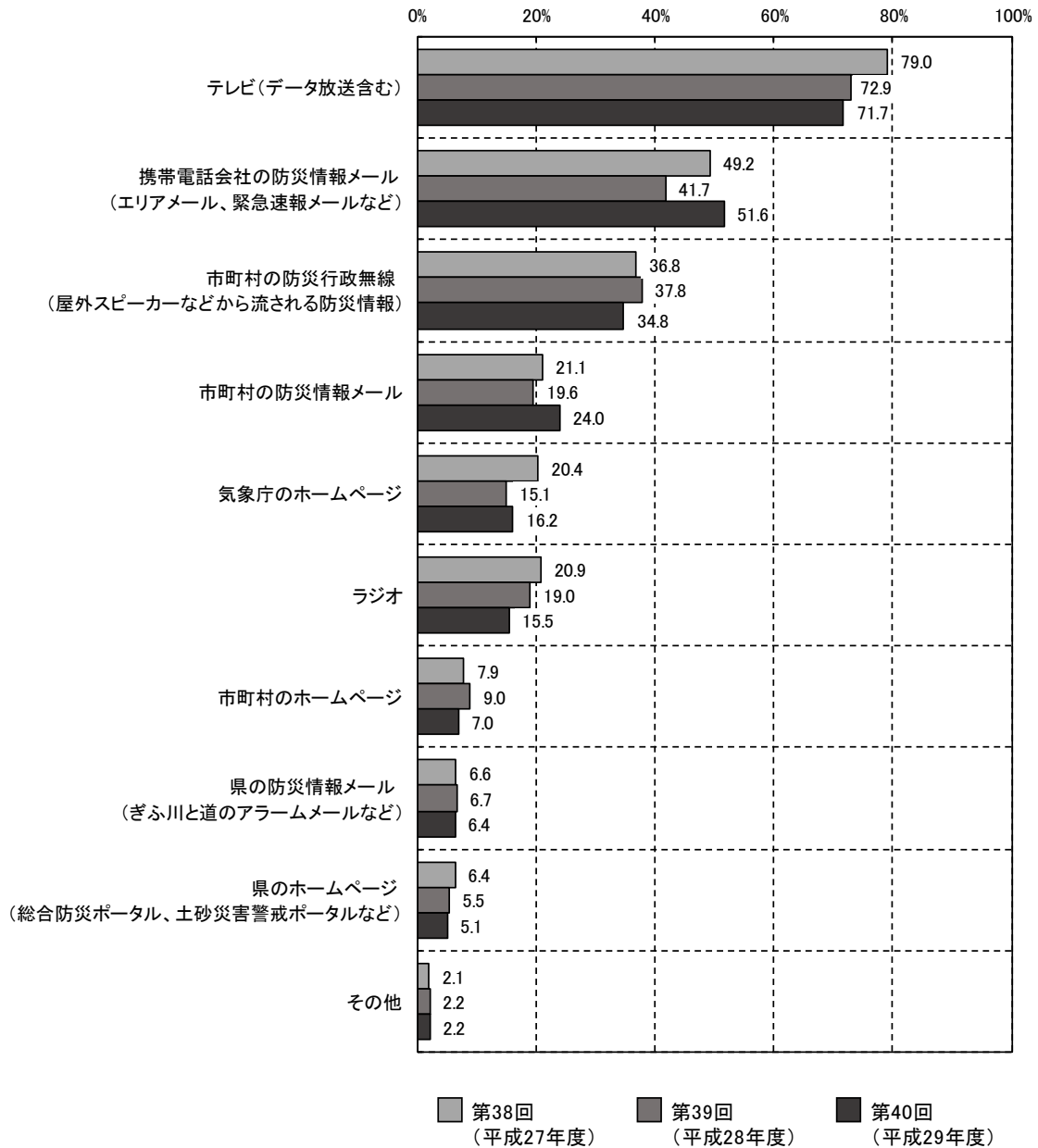
回答者数(n = 1,522)

総回答数(N = 3,584)



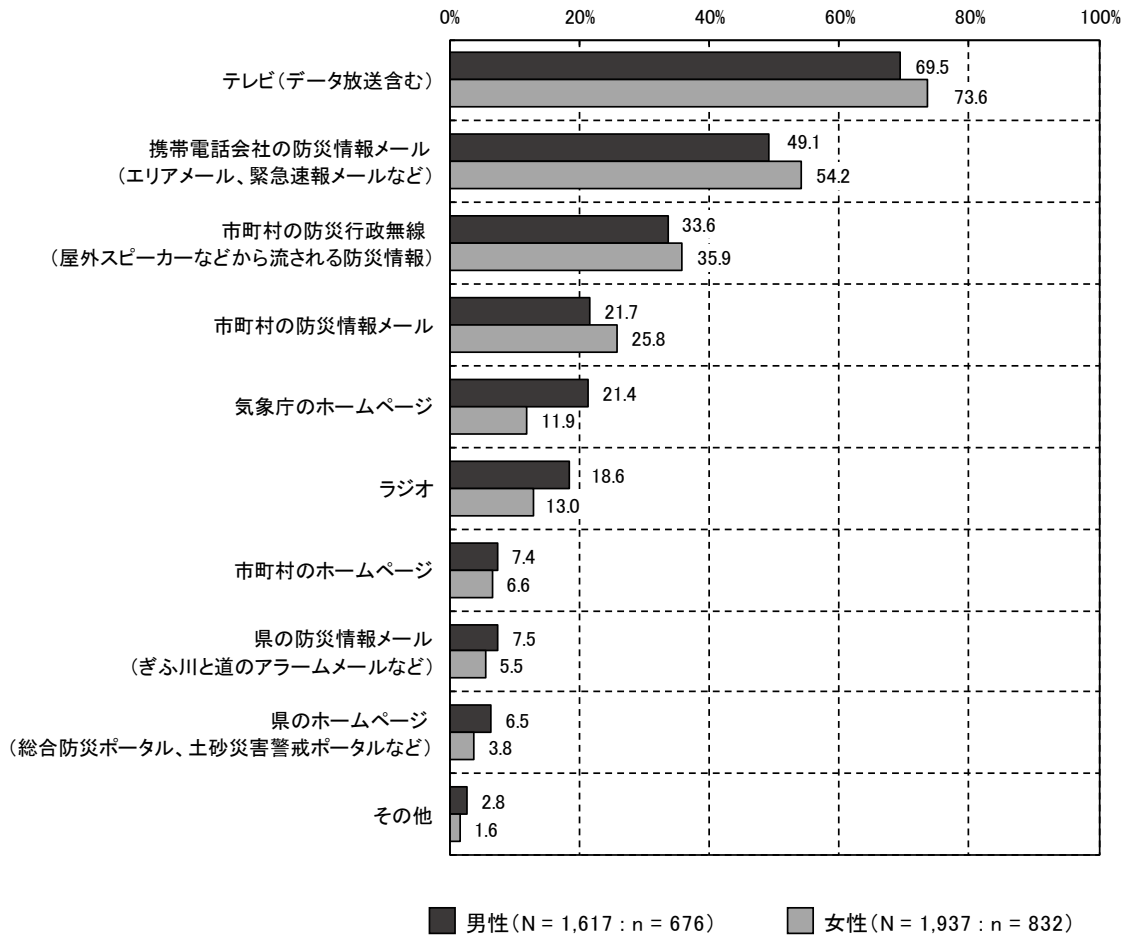
前々回・前回比較（図 22-2）で見ると、前々回・前回と同様に「テレビ（データ放送含む）」が最も高いが、前回と比べて1.2ポイント減少している。「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」では、前回と比べて9.9ポイント増加している。

図 22-2 【前々回・前回比較】 防災対策や避難行動の情報源



性別（図 22-3）で見ると、男女ともに「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、男性が 69.5%、女性が 73.6%となっている。「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」では、女性が男性より 5.1 ポイント、「気象庁のホームページ」では、男性が女性より 9.5 ポイント、それぞれ高くなっている。

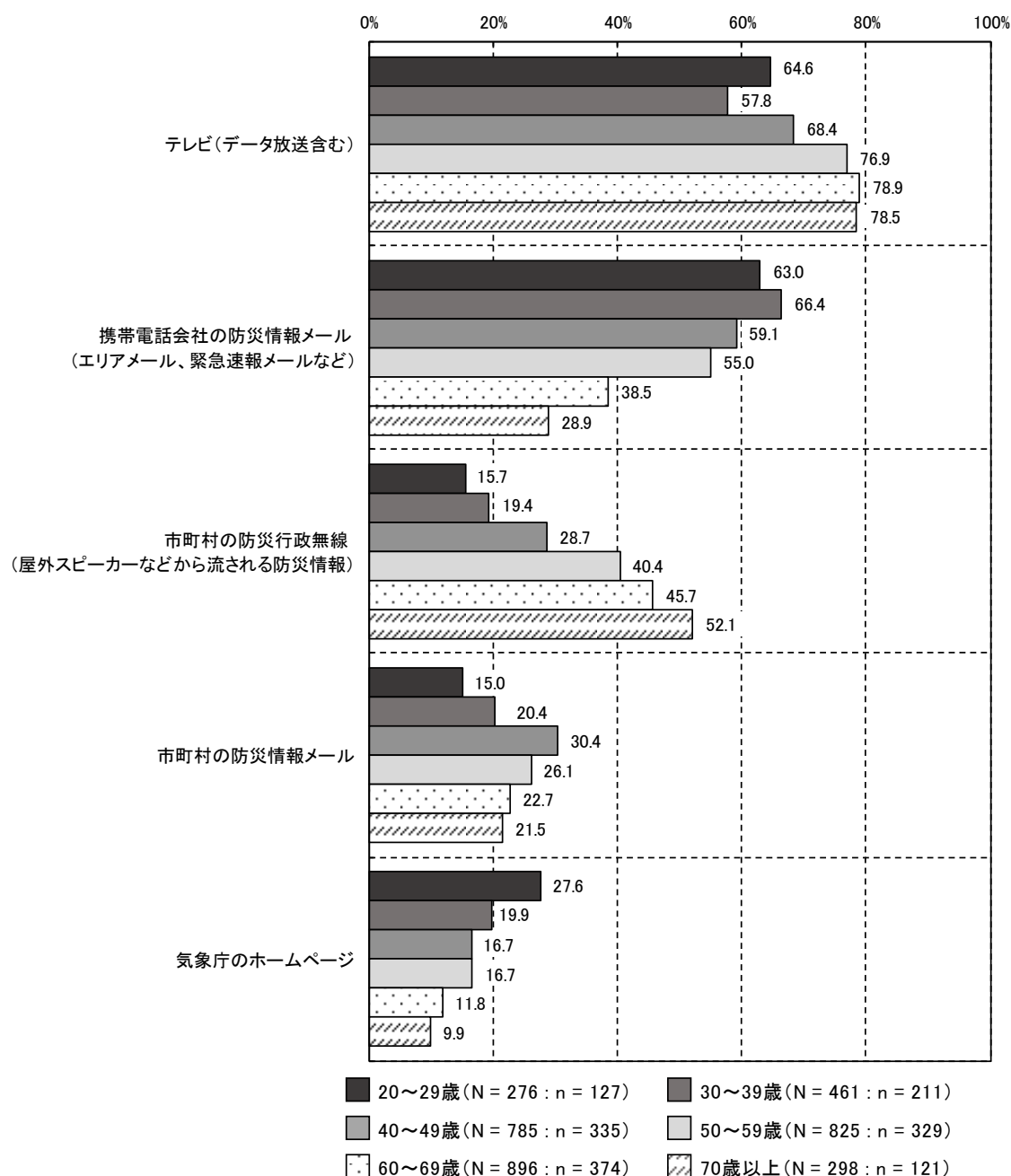
図 22-3 【性別】 防災対策や避難行動の情報源



※ N=総回答数 n=回答者数

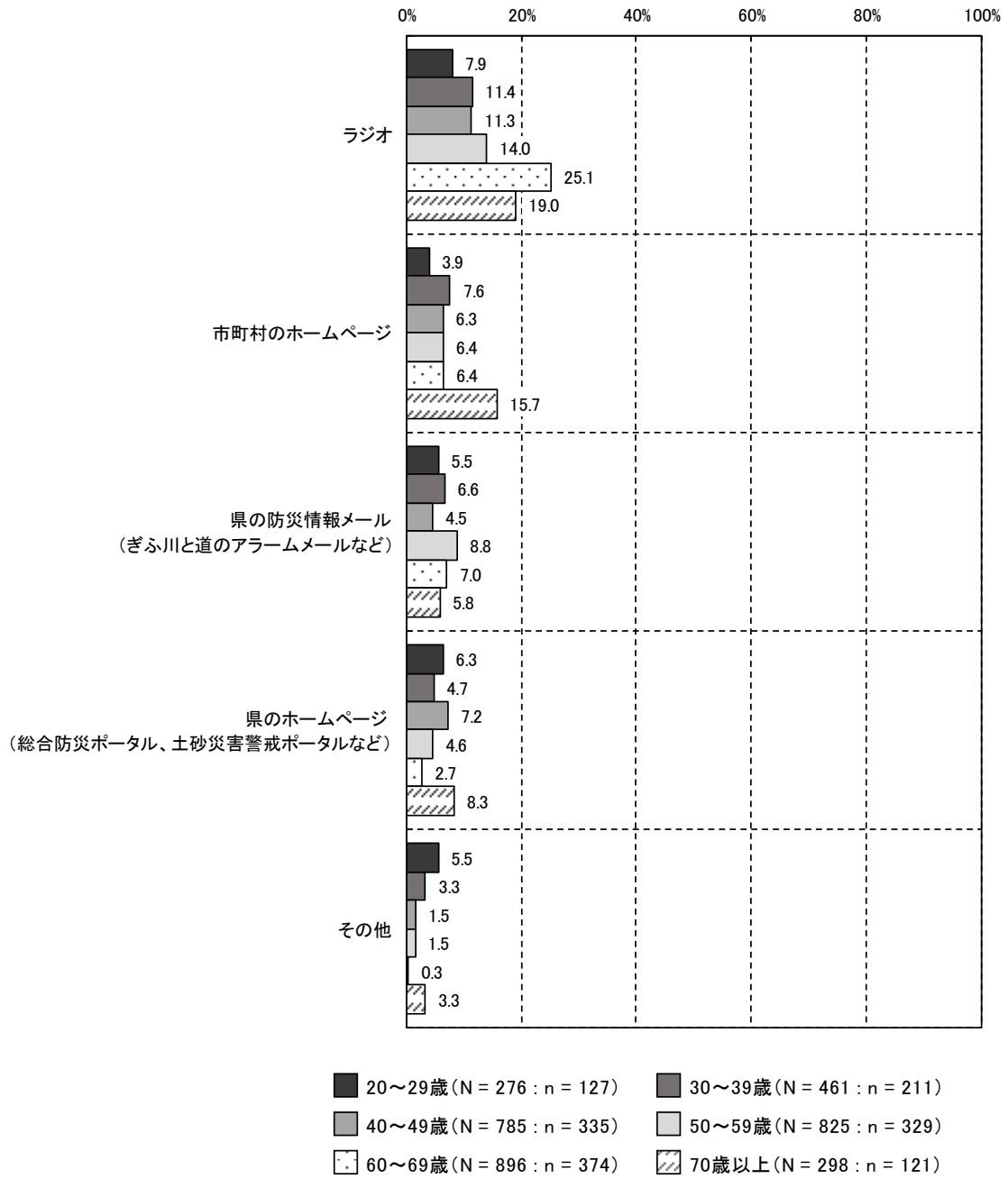
年代別（図 22-4）で見ると、30 歳代を除くいずれの年代においても「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、そのうち 60 歳代が 78.9%と最も高くなっている。30 歳代では「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」が 66.4%と最も高くなっている。

図 22-4 【年代別】 防災対策や避難行動の情報源



※ N=総回答数 n=回答者数

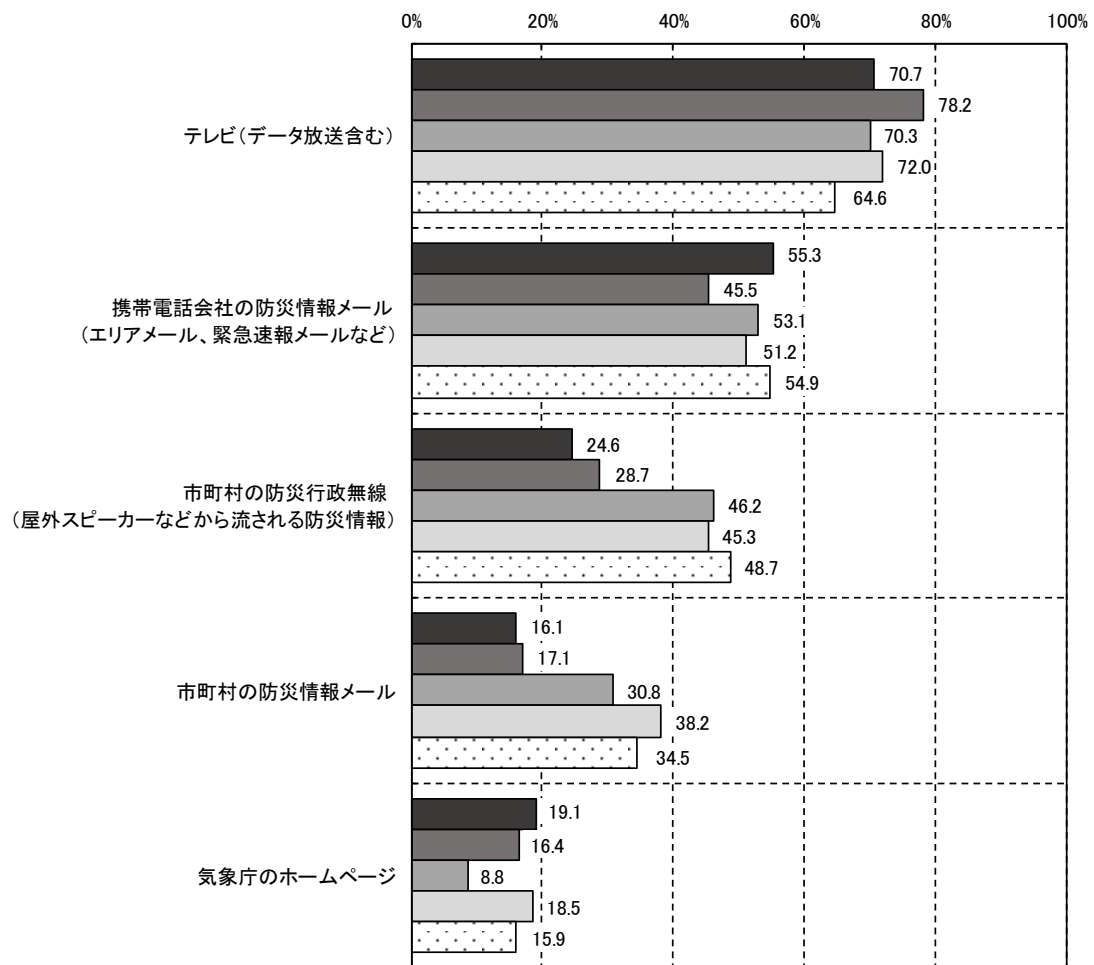
図 22-4 【年代別】 防災対策や避難行動の情報源（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 22-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、そのうち西濃圏域が78.2%と最も高くなっている。

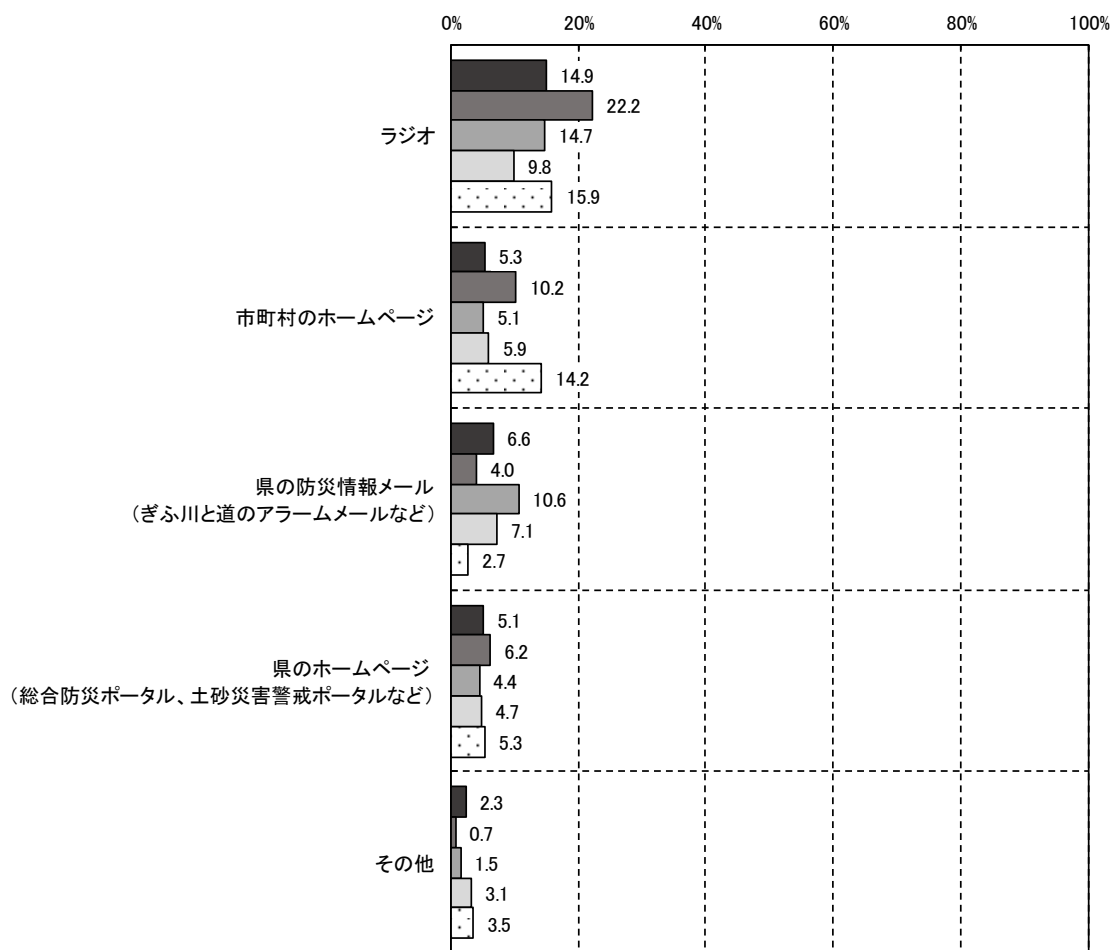
図 22-5 【居住圏域別】 防災対策や避難行動の情報源



■ 岐阜圏域 (N = 1,249 : n = 564)      ■ 西濃圏域 (N = 634 : n = 275)  
 ■ 中濃圏域 (N = 671 : n = 273)      ■ 東濃圏域 (N = 653 : n = 254)  
 ■ 飛騨圏域 (N = 295 : n = 113)

※ N=総回答数 n=回答者数

図 22-5 【居住圏域別】 防災対策や避難行動の情報源（続き）



■ 岐阜圏域(N = 1,249 : n = 564)      ■ 西濃圏域(N = 634 : n = 275)  
 ■ 中濃圏域(N = 671 : n = 273)      ■ 東濃圏域(N = 653 : n = 254)  
 ■ 飛騨圏域(N = 295 : n = 113)

※ N=総回答数 n=回答者数



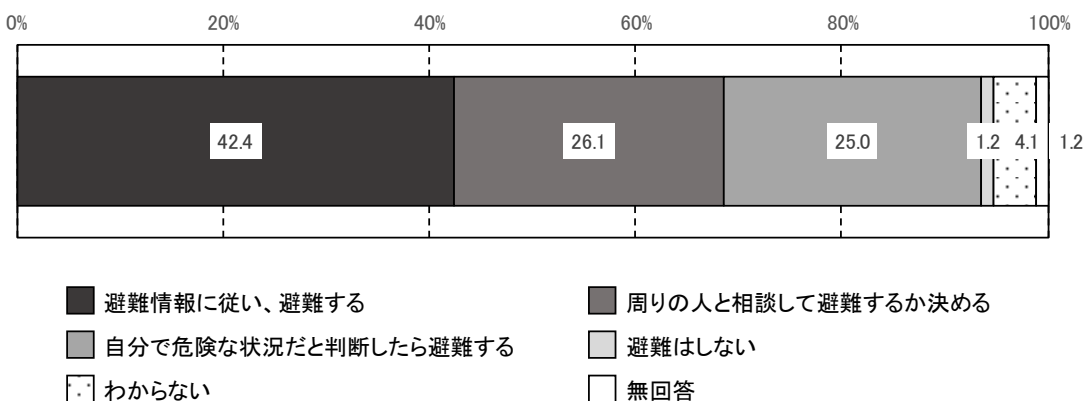
### 問23 避難情報に対する行動

問23 あなたは、台風や集中豪雨発生時に市町村から「避難準備・高齢者等避難開始※」や「避難勧告」などの避難情報が発令された場合、勧告等に従って行動しますか。  
(1つだけ)

全体(図23-1)でみると、「避難情報に従い、避難する」が42.4%と最も高く、次いで「周りの人と相談して避難するか決める」(26.1%)、「自分で危険な状況だと判断したら避難する」(25.0%)の順となっている。

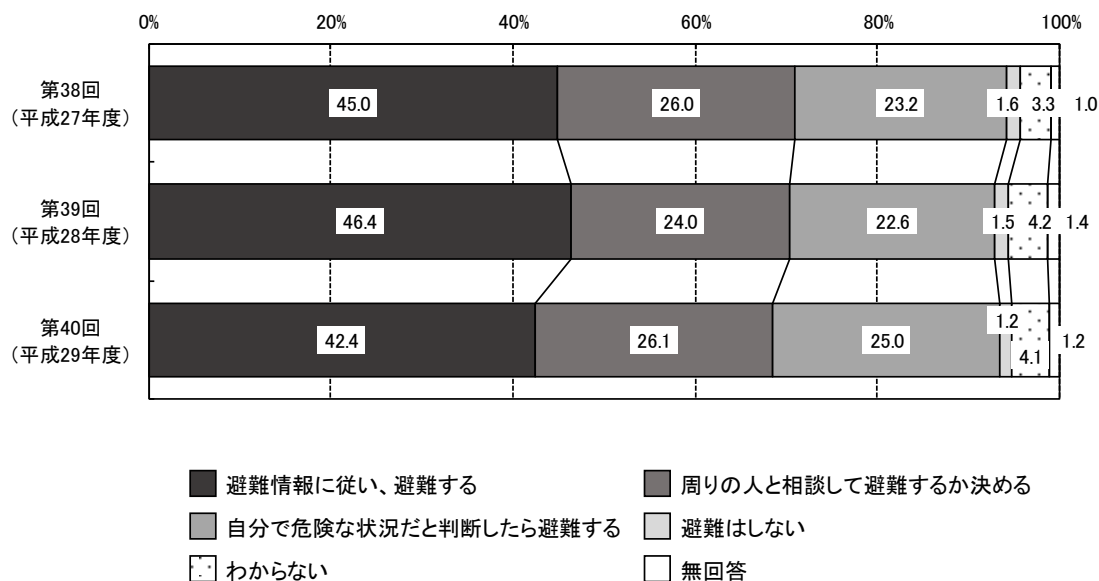
図23-1 避難情報に対する行動

回答者数(n=1,522)



前々回・前回比較(図23-2)でみると、前々回・前回と同様に「避難情報に従い、避難する」が最も高いが、4.0ポイント減少している。

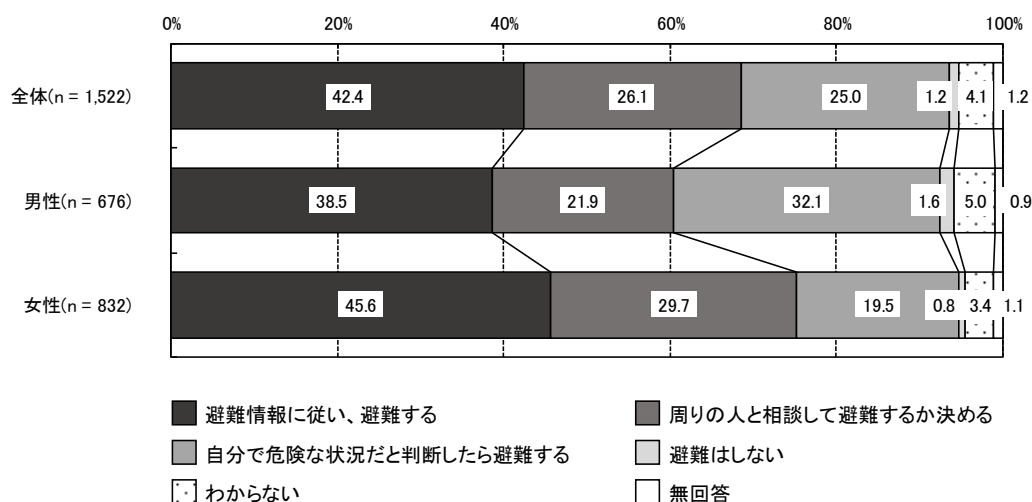
図23-2【前々回・前回比較】避難情報に対する行動



※ 避難準備・高齢者等避難開始:平成28年台風第10号による水害で、岩手県岩泉町の高齢者施設において避難準備情報の意味するところが伝わっておらず、適切な避難行動がとられなかったことを踏まえ、名称が変更されました。

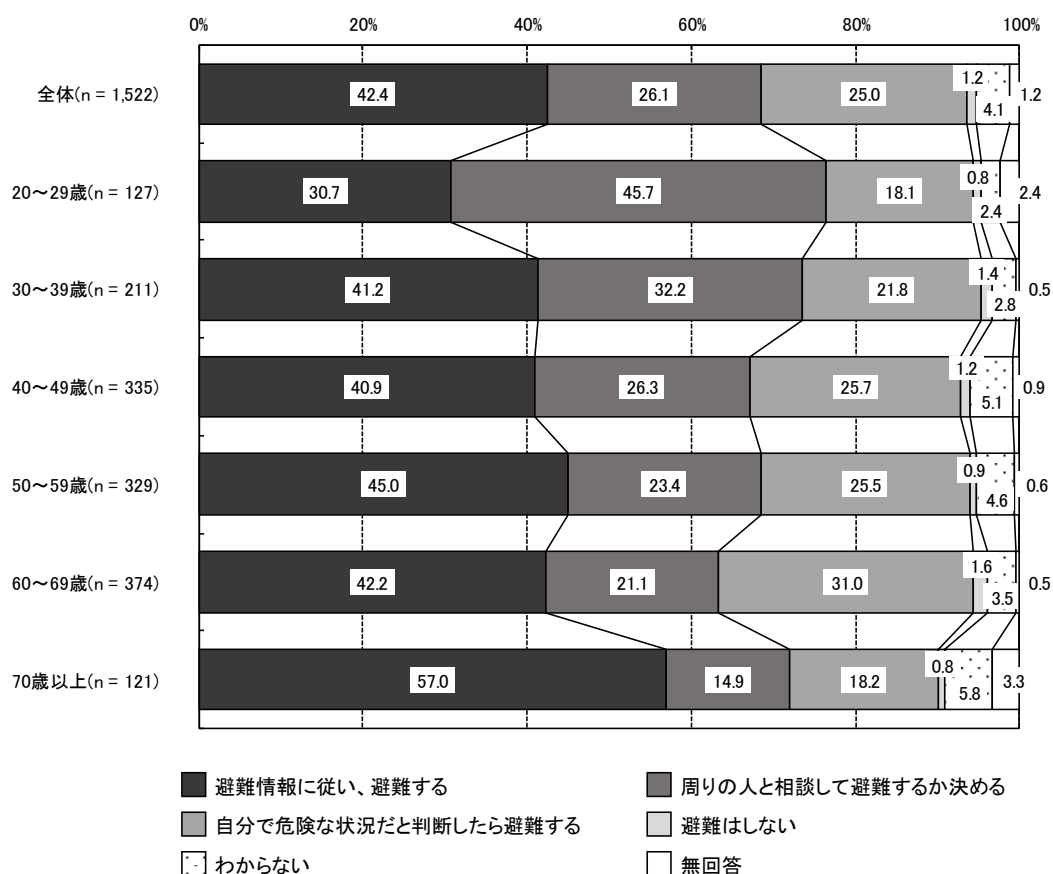
性別（図 23-3）で見ると、男女ともに「避難情報に従い、避難する」が最も高く、男性が 38.5%、女性が 45.6%となっている。「周りの人と相談して避難するか決める」では、女性が男性より 7.8 ポイント、「自分で危険な状況だと判断したら避難する」では、男性が女性より 12.6 ポイント、それぞれ高くなっている。

図 23-3 【性別】 避難情報に対する行動



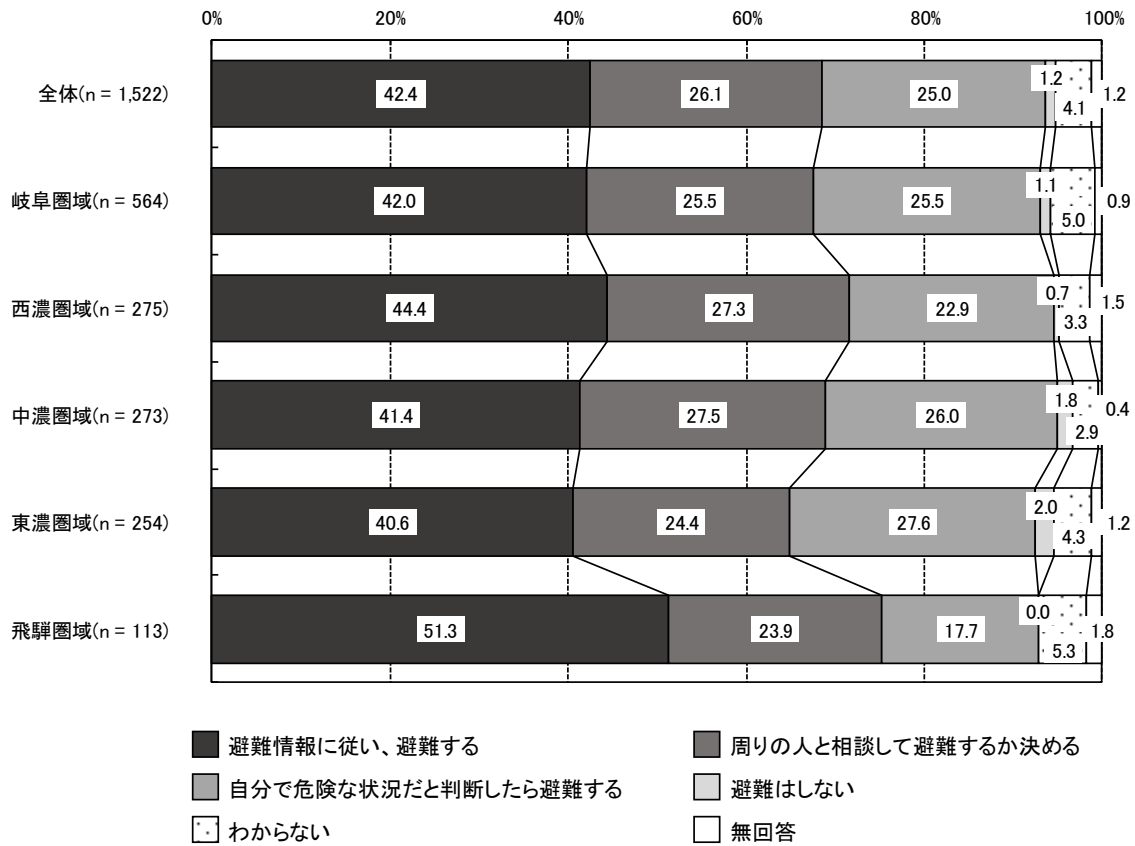
年代別（図 23-4）で見ると、20 歳代を除くいずれの年代においても「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 57.0%と最も高くなっている。20 歳代では「周りの人と相談して避難するか決める」が 45.7%と最も高くなっている。

図 23-4 【年代別】 避難情報に対する行動



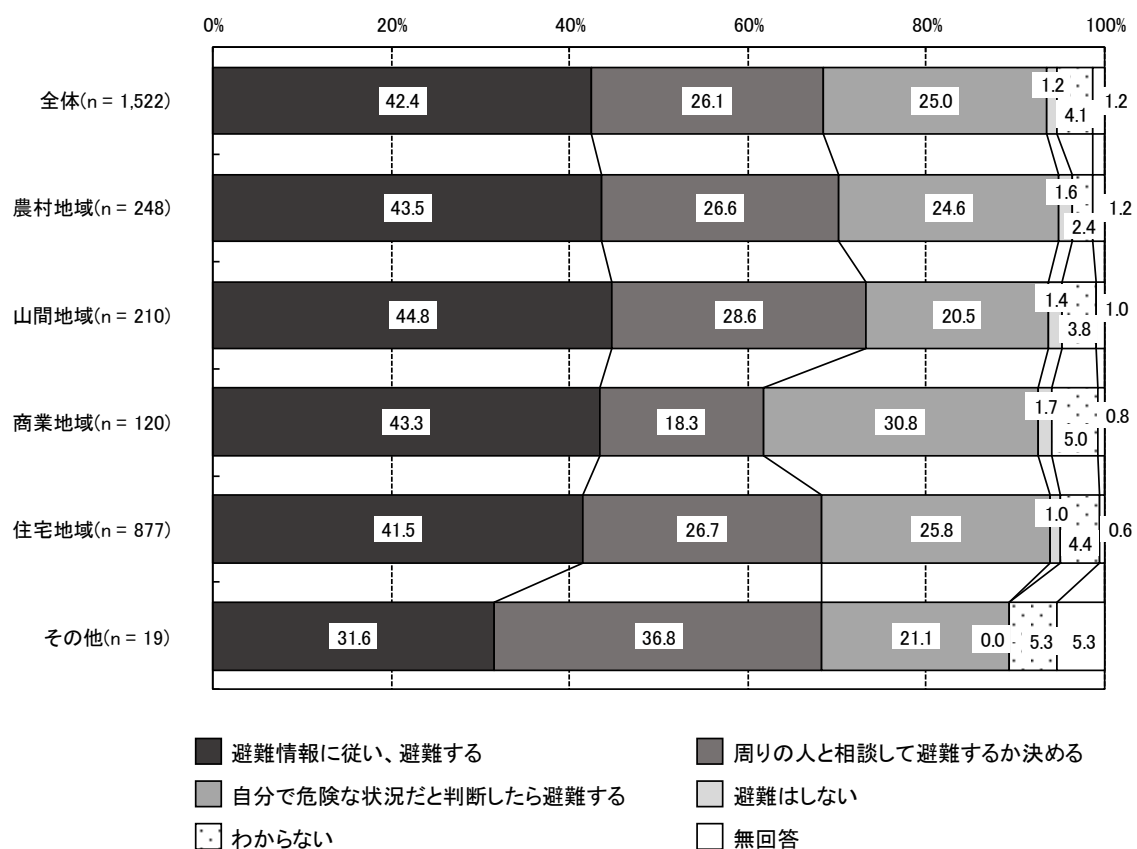
居住圏域別（図 23-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 51.3%と最も高くなっている。

図 23-5 【居住圏域別】 避難情報に対する行動



居住環境別（図 23-6）で見ると、その他を除くいずれの居住環境においても「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち山間地域が 44.8%と最も高くなっている。

図 23-6 【居住環境別】 避難情報に対する行動



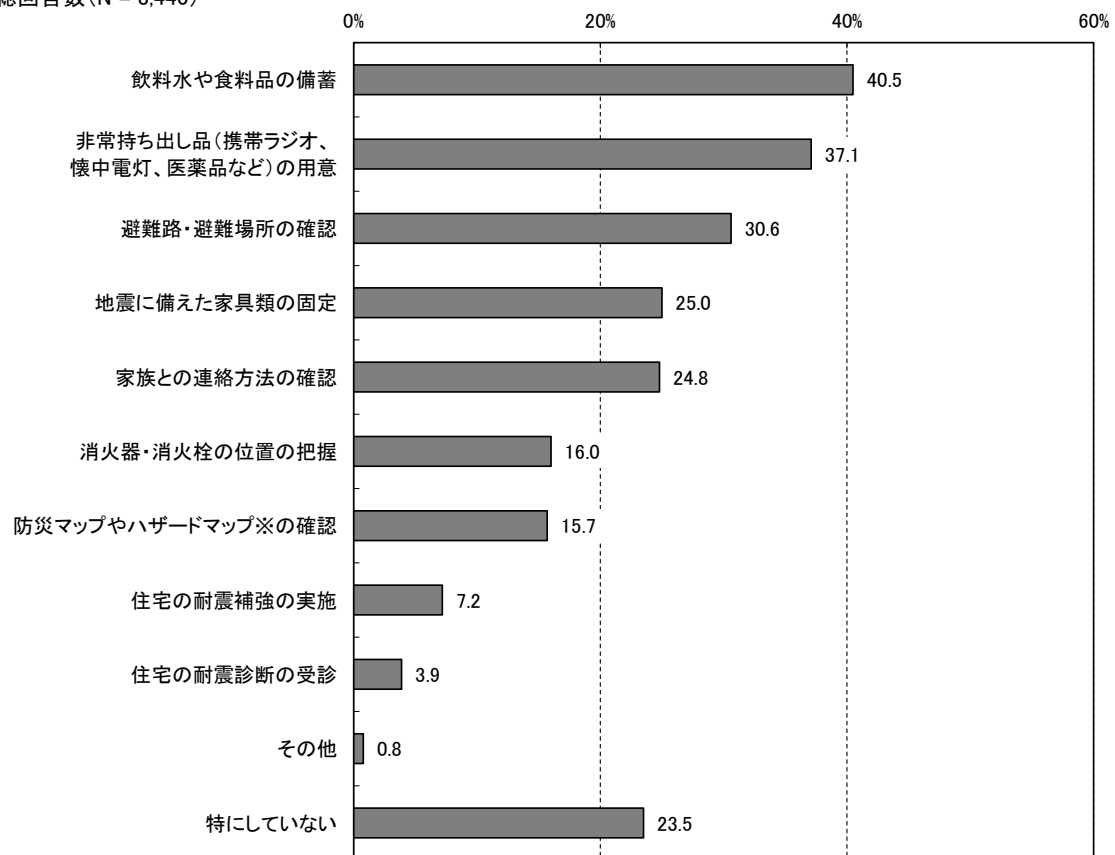
## 問24 災害や緊急時の現在できている備え

問24 あなたは、地震や台風などの災害や緊急時に備え、現在どのようなことをしていますか。(いくつでも)

全体(図24-1)で見ると、「飲料水や食料品の備蓄」が40.5%と最も高く、次いで「非常持ち出し品(携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の用意」(37.1%)、「避難路・避難場所の確認」(30.6%)の順となっている。

図24-1 災害や緊急時の現在できている備え

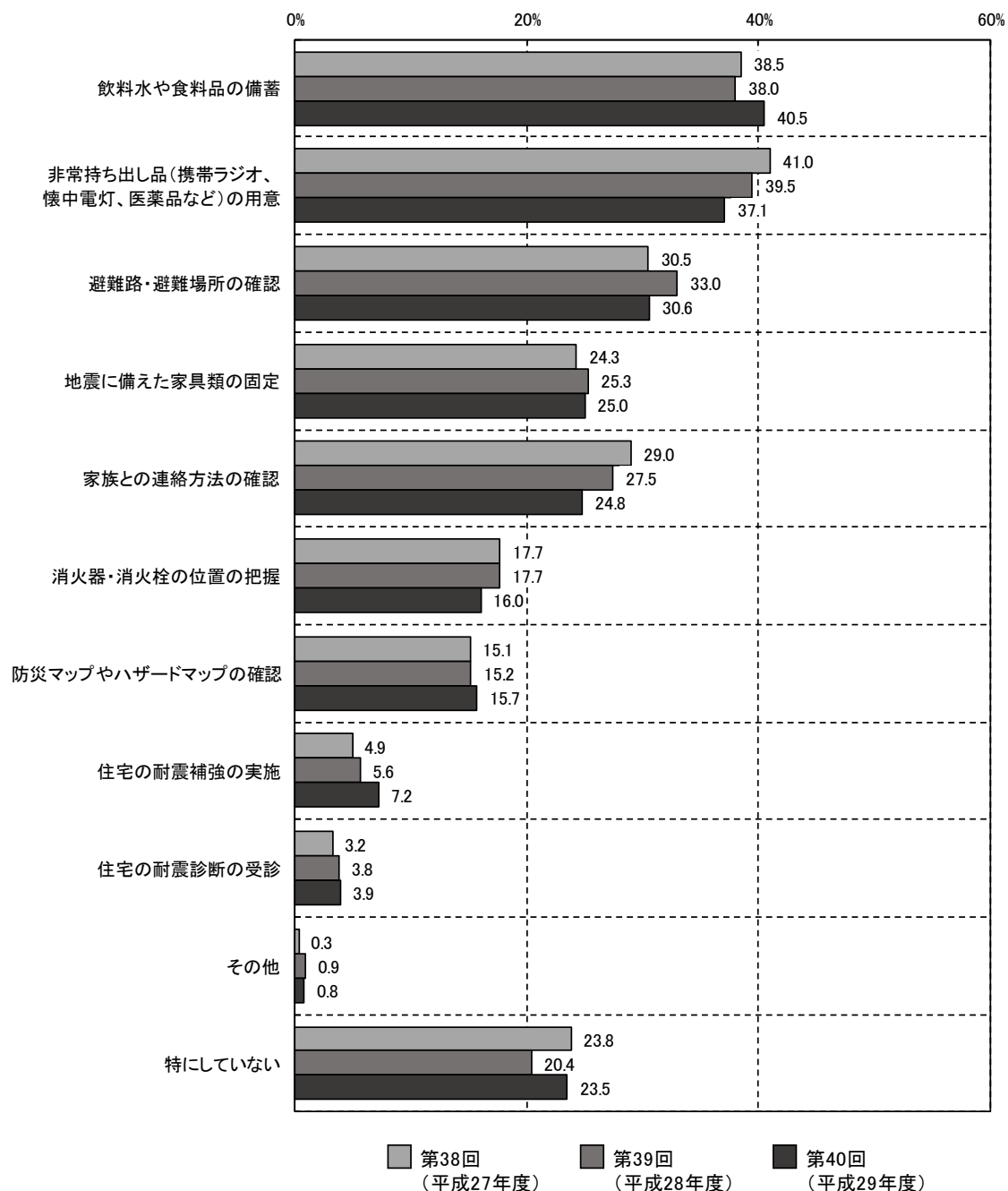
回答者数(n = 1,522)  
総回答数(N = 3,440)



※ ハザードマップ: 自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図

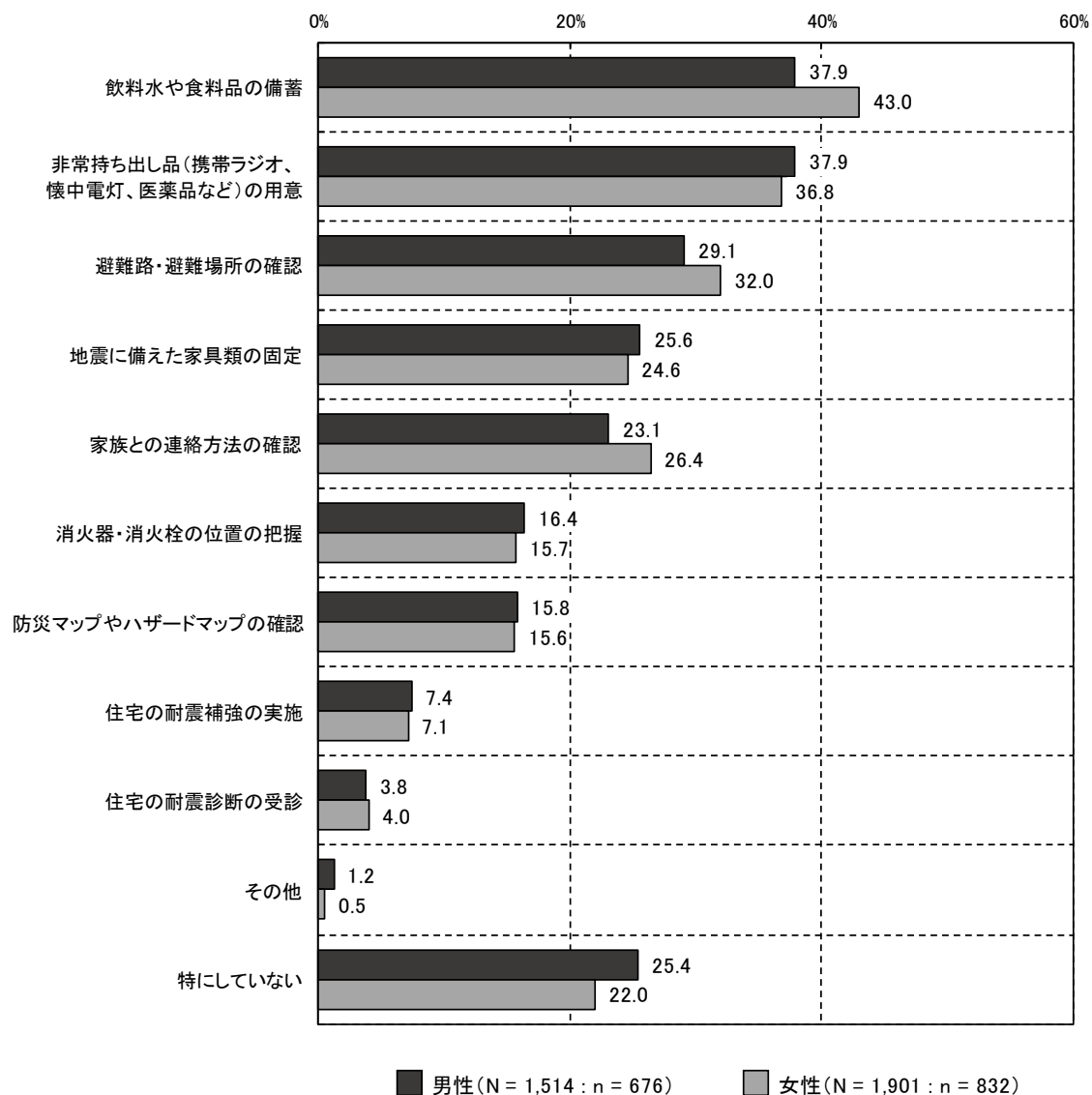
前々回・前回比較（図 24-2）でみると、今回は「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、前回と比べて 2.5 ポイント増加している。「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」は、前回と比べて 2.4 ポイント、「避難路・避難場所の確認」では、前回と比べて 2.4 ポイント、「家族との連絡方法の確認」では、前回と比べて 2.7 ポイント、それぞれ減少している。

図 24-2 【前々回・前回比較】 災害や緊急時の現在できている備え



性別(図 24-3)でみると、男女ともに「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、男性が 37.9%、女性が 43.0%と、女性が男性より 5.1 ポイント高くなっている。男性は「非常持ち出し品(携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の用意」でも 37.9%となっている。

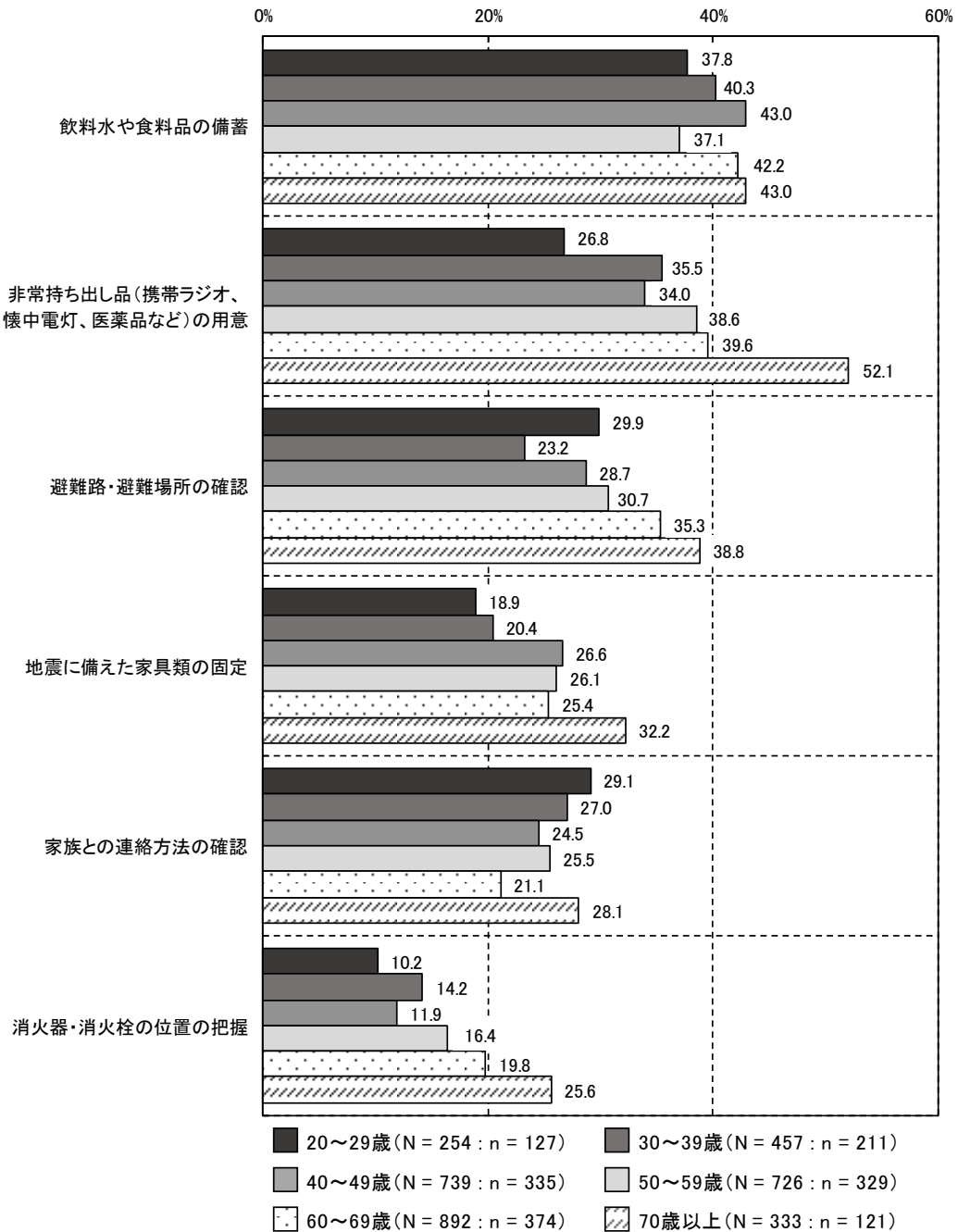
図 24-3 【性別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 24-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、60 歳代では「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、そのうち 40 歳代が 43.0%と最も高くなっている。50 歳代、70 歳以上では「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 52.1%と最も高くなっている。

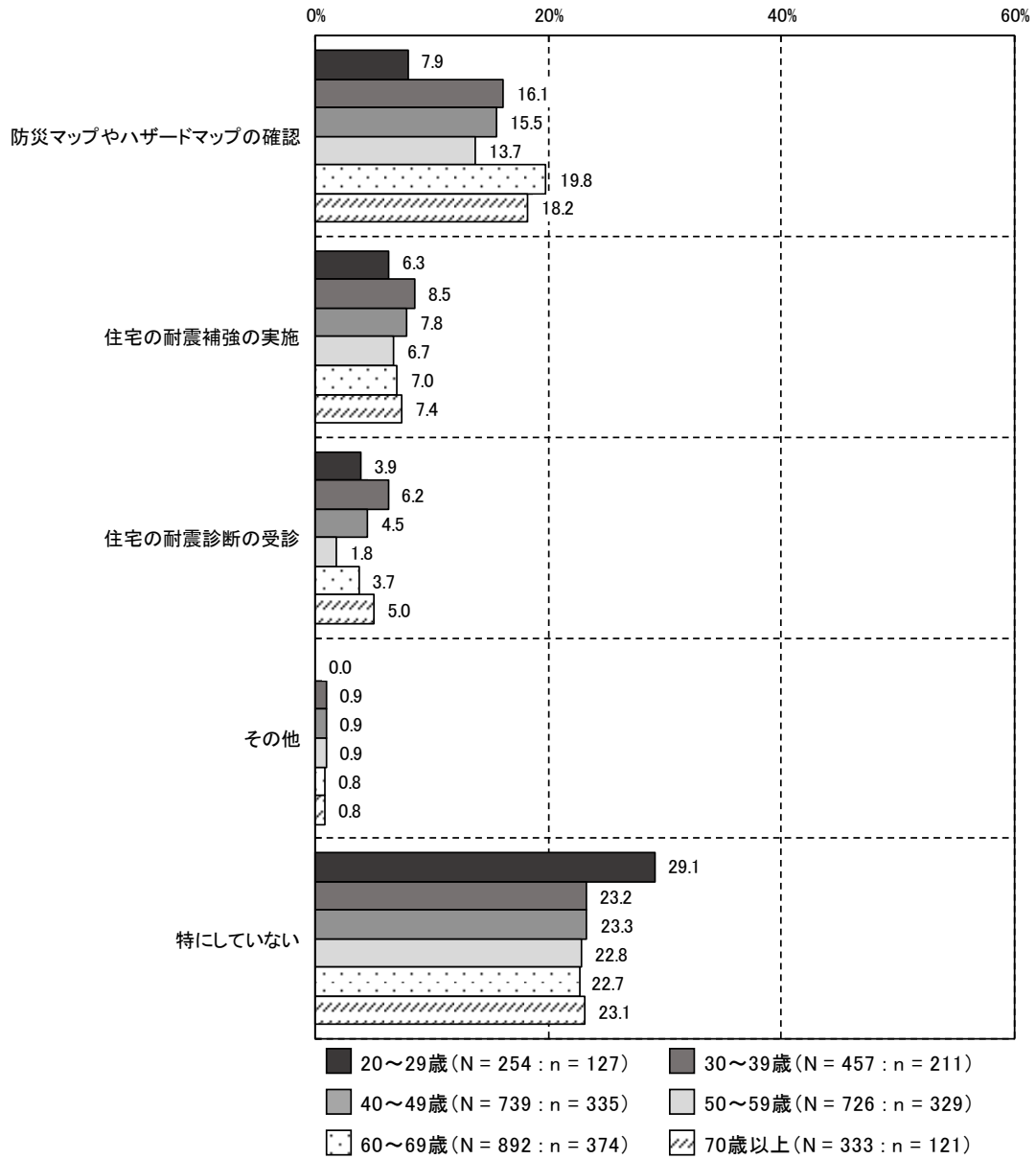
図 24-4 【年代別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N=総回答数 n=回答者数



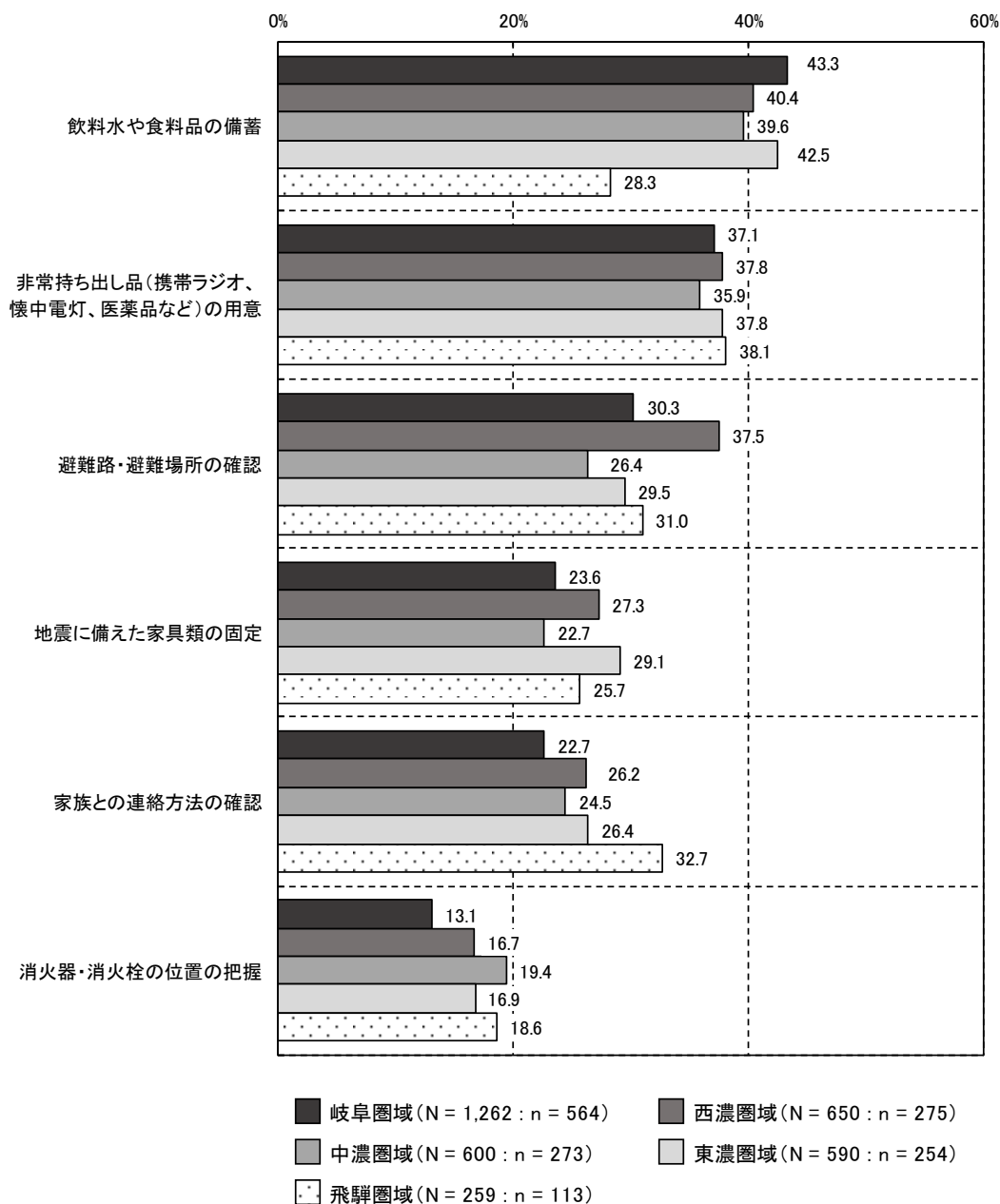
図 24-4 【年代別】 災害や緊急時の現在できている備え（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

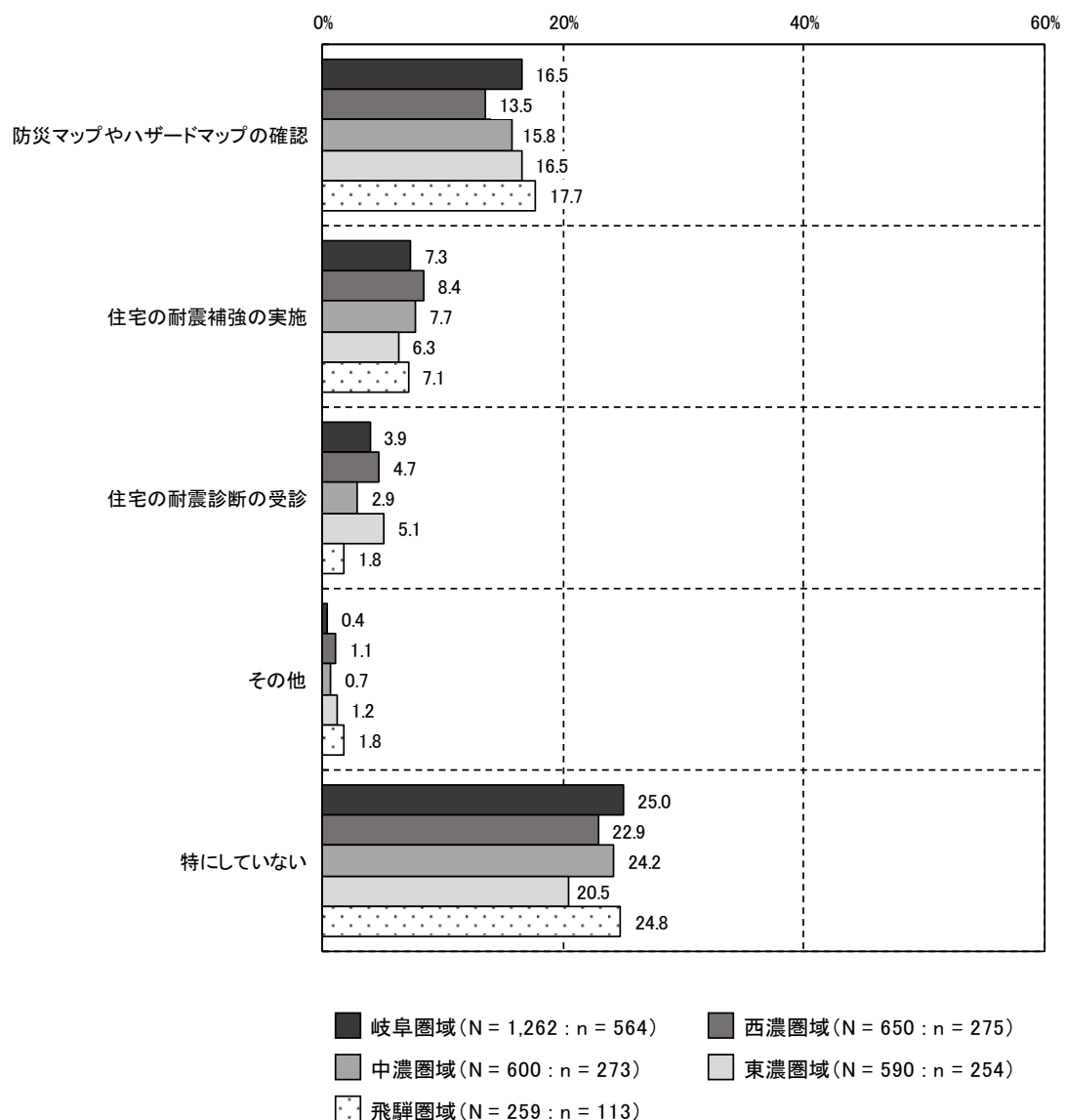
居住圏域別（図 24-5）で見ると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 43.3%と最も高くなっている。飛騨圏域では「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が 38.1%と最も高くなっている。

図 24-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N=総回答数 n=回答者数

図 24-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の現在できている備え（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数